

2026 年度

教 育 要 項

(シラバス)

第 3 学年



岩手医科大学医学部

目 次

医学部第3学年

教育要項（シラバス）の利用の仕方	1
医学部における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
医学部における教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	3
医学部における入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	5
医学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）	7
学生心得	9
岩手医科大学医学部学生 行動規範	16
岩手医科大学医学部卒業時コンピテンシー	20
医学部コンピテンス達成ロードマップ・マトリックス	33
医学部履修系統図	34
医学部カリキュラムマップ	39
年間行事予定	40
カリキュラムカレンダー	41
授業科目のコマ数・時間数	42
授業時間割	43
矢巾キャンパス平面図	47
講座・分野名の省略記載について	53

履修科目

器官病理学	55
疫学・環境医学	75
チーム医療リテラシー	91
基礎病態・社会医学演習	101
消化器病学	107
内分泌・代謝病学	119
循環器病学	128
呼吸器病学	137
神経病学	147
産婦人科学	158
免疫病学	169
血液病学	175
小児科学	182
腎臓病学	189
臨床検査医学	197
臨床医学演習	204

症例基盤・問題解決型学修（発展）	210
医学研究リテラシー I	215
医学研究リテラシー II（研究室配属）	219
地域医療学 II	226
医療プロフェッショナルリズム III	229
基本的医療手技 II	235
医学英語	241

自由科目

海外英語演習	252
地域医療課題解決演習	254

諸規則

岩手医科大学学則	258
岩手医科大学における各学部等の人材養成および 教育研究上の目的と使命に関する規程	276
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程	278
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程	282
岩手医科大学医学部試験規程	284
成績評価に関する異議申し立て制度について	288
第3学年進級試験・進級判定基準	289
追・再試験願・再試験仮受験願	290
岩手医科大学における人体標本取扱指針	293
岩手医科大学生命倫理規範	294
GPA制度について	295
CAP制度について	296
学生の教育成果物の利用について	297
本学医学部学生の大学院授業科目の先行履修に関する取扱い	298
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領	300

附图

医学部医学科教育課程ナンバリング表	302
学生健康診断規程	304
学生健康診断等実施要領	306
オフィスアワー一覧	308

教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学医学部の授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における医学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

授業計画、授業内容について

科目ごとに学習方針、教育成果(アウトカム)、到達目標(SBOs)、その日の授業内容を掲げています。

教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識・技能・態度が将来どのように利用されるかが分かります。

到達目標 —— 学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

すなわち、学生諸君は各回の授業で何を理解し、何が出来るようになればよいかを示されているわけですから、日々の予習復習の目安にもなると思います。各授業に対する事前学習の時間は最低 30 分は要することになります。

なお、医学部第1～4学年の専門科目の授業ごとの到達目標については、WebClass に掲載していますので、本教育要項と併せて必ず確認するようにしてください。

教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自準備・購入してください。

成績評価方法について

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「医学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間である。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

授業時間について

授業時間は1時限を90分とし、次のとおり授業を行います。

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目
8 : 50～10 : 20	10 : 30～12 : 00	13 : 00～14 : 30	14 : 40～16 : 10	16 : 20～17 : 50

医学部における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる医師として以下のような能力などを身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して、学士（医学）の学位を授与します。

1. 医療倫理：全人的人間性を持ち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができること。
2. プロフェッショナリズム：豊かな教養と幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続ける責務と後進育成の使命を自覚すること。
3. 医療安全：安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知恵を身につけ、自己の身体的および精神的健康にも気を配りつつ、医療の質の向上に努めることができること。
4. 医学的知識・医学研究：臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な基礎生命科学、臨床医学、行動科学、社会医学および医学英語の知識と科学的思考方法を有しており、疾患の予防、診断と治療、あるいは研究に活用できること。
5. 診療技術・患者ケア：的確な医療情報を収集し、それをもとに適確な診断を下し、プライマリケアを実践して記録する、という基本的な課程を「誠の医師」として患者に真摯に向き合っておこなえること。
6. コミュニケーション・チーム医療：「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族および医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができること。
7. 医療の社会性：「厚生済民」の建学の精神に基づき、社会保障制度および法律に関する知識を修得し、国内外の保健医療に貢献する意志を有すること。
8. 地域医療：本学は医療の偏在化を是正するために作られた医育機関であることをわきまえ、地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学、あるいは災害医療に貢献するという将来ビジョンを描き、地域医療で果たすべき責任を自覚していること。

以上の内容は、卒業時に達成していなければならない能力として、卒業時コンピテンシーに盛り込まれています。これらの教育成果を達成することができるよう六年一貫で順次性をもったカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第2条に定める期間を在学し、かつ第6条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得することが要件となります。

医学部における教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医師として必要な知識・技能・態度を修得したものに、医学士の学位を与えます。そこに至るため、六年一貫の教育カリキュラムが作られています。

1. 実社会における複雑な事象に余裕を持って対応するためには、医学以外の領域にも幅広い知識を有していることが大事です。そのため、初年次からさまざまな教養科目を選択で学びます。法や倫理に関しては、医学専門課程を学びながら4年生で履修できるようにしています。
2. 入学直後から、地域医療あるいは研究の場で活用できる知識・技能と、前向きな姿勢を持てるようにするため、1年生より地域保健介護福祉見学研修、地域医療体験実習、看護・介護体験実習、初年次ゼミナールをおこないます。初年次ゼミナールでは、おもに基礎医学系の研究室で専門的な学問に触れることができます。
3. 社会正義と患者の福祉優先原則のもとに行動し、倫理的態度を自分のものとするため、倫理教育やプロフェッショナルリズム教育を1年生から受けるとともに、医療現場における見学と研修では行動と言動の是非を指導されます。
4. 入試形態の相違によるハンディキャップを解消して、無理なく医学専門課程が履修できるような橋渡し教育を1年生でおこないます。また、習熟度に応じた正規、あるいは課外の授業をおこないます。
5. 1～4年生では、基礎生命科学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を修得し、常に自分を振り返る謙虚な態度をもてるようにするため、レポートやポートフォリオによる学修記録や小テスト、定期試験を実施します。臨床現場に出て診療活動に Student Doctor として参加するだけの知識・技能・態度が身についているかどうかは、4年生の共用試験（CBT と OSCE）で判断するため、共用試験前に基礎生命科学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識の定着を確認する演習や基本的臨床技能実習を実施します。
6. 医療・医学の進歩に遅れることなく、最新かつ最善の知識と技能を修得し、科学的思考方法を身につけるため、初年次にゼミナールに参加し、医学英語を2・3年生で学び、3年生で各講座・部門にて研究室配属をおこないます。図書館や教養教育センターあるいは学部専門講座の教員が、科学的リテラシーを教育する支援体制を構築しています。
7. 臨床医として、地域医療の現場で働く将来ビジョンを描き、コミュニティーで果たすべき責任を自覚するため、4・5・6年生は大学附属病院と地域医療機関で Student Doctor という立場で、見学型から実際の診療チームに加わる診療参加型の実習へ進むように実習を整備しています。
8. 人間関係を良好に保つことは、医療プロフェッショナルとして必要な資質です。そのため、1年生は全員が寮に入り、グループで生活する場に慣れるような環境を整備しています。初年次ゼミナールや3年生の研究室配属、あるいは各学年で配されているさ

まざまな実習は、少人数によるグループワークが基本になっています。臨床現場での診療参加型実習は、医療従事者、患者、家族などの質問や助言に真摯に耳を傾ける姿勢を身につける場となっています。

9. 医療現場で求められている多職種連携をスムーズにできるようになるため、他の学部の学生と一緒に作業をおこなうプログラムを複数学年に設けています。
10. 学位授与方針に述べている卒業時学修成果を達成できるように、カリキュラムは段階的に順次性をもって構築されております。各課程では、知識・態度・技能の面で所定の目標に到達したかどうかをアセスメント・ポリシーに則って多面的に評価し、学年ごとに進級判定をします。卒業前には、医学知識と問題解決能力を総合的に判定する試験と、技能・態度を評価する臨床実習後客観的臨床能力試験を実施しています。

医学部における入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、十分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。医学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

医学部では、次のような人材を求めています。

1. 生命倫理を尊重し、医学を修得し実践するための知性と科学的論理性を有している。
2. 広い視野でものごとを捉え、自律的かつ積極的に課題を発見し、解決することができる旺盛な探求心を有している。
3. 病む人・悩める人の体と心を理解し、彼らに向きあう強い意志と情熱を有している。
4. 世界的視野から医学の進歩と発展に貢献するという向上心を有している。
5. さまざまな地域において、医療に誠意をもって貢献しようとする利他精神を有している。
6. 生涯にわたる継続的な学修をするため、自ら学ぶ意欲と積極性を有している。
7. 自己の身体的および精神的健康に気を配る実績を有している。

これらの資質を備えた人材であるか否かを判断するために、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜および歯科医師学士編入学者選抜を行い、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価します。

一般選抜では、学力試験として数学と理科（物理、化学、生物のうち2科目）と英語の筆記試験を行います。大学での学びに必要な基礎的な知識と論理的思考能力を備えているかどうか、また、最新の医学知識の学修や収集、研究成果の発信に必要な英語力を備えているかどうかを評価します。

学校推薦型選抜および総合型選抜では、基礎学力試験と調査書により大学での学びに必要な知識を備えているかどうかを評価します。基礎学力試験として、数学と理科（物理、化学、生物のうちから2科目）と英語の筆記試験を行います。また、前者では志望理由書によって将来医師となるための熱意や自覚を持っているかどうかを評価し、後者では自己推薦書によって本学の建学の精神を理解し地域医療に貢献する医師としての意欲・適性を評価します。

学士編入学者選抜では、既に生命科学の基礎的な知識を有する歯科医師を対象とし、学力試験を行い生命科学の基礎知識や一般教養を評価します。

以上に加え、上記いずれの入試区分においても面接を行い、人格的資質や基本的なコミュ

コミュニケーション能力、地域医療と研究にかける意欲、自己管理能力を評価します。選抜以前の学修態度、課外活動などについては面接の際に調査書に基づいて評価します（学士編入学者選抜を除く）。また、課題を抽出して解決する能力および論理展開能力を評価するために、学士編入学者選抜では小論文を課し、学校推薦型選抜および総合型選抜では Multiple Mini Interview (MMI) を行います。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。一方、大学設立使命に則って、地域医療の維持および促進を考慮した人材育成のための入試区分の枠を設けます。

医学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

本学医学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定めて、それに沿ってカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部の理念に立脚し、以下の指針に則って、学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

- 講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケーション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
- 知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的スキル・行動表と業務現場評価法、および自己進捗度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
- 筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を客観的に査定します。
- 評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて年度ごとに見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
- 医学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの総括評価（進級判定あるいは卒業判定）をおこないます。
- 科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定にもちいる総括評価に加え、形成的評価を適宜おこなうことで、到達目標に至る道程を明らかにします。
- 総括評価の試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験をおこないます。また総括試験を何らかの事情で受験できなかった場合は、追試験をおこなうことがあります（獲得した点数の9割に減じられたのが、最終評価になります）。
- 総括評価では、被評価者が不利益を被らないように客観性と公平性を保証するため、教務委員会と教授会の2段階で、追試験・再試験の結果判定も加えて2回おこないます。
- 総括評価にあたっては、被評価者と評価者に利益相反がないことを確認します。
- 評価結果は被評価者と学費負担者に開示し、疑義があった場合は応じます。
- 科目（講義・演習・実習）を 1/3 以上欠席した学生は、原則として評価対象から外れます（欠点となります）。また、科目履修は出席することが前提ですので、出席することで総括評価に点数が加点されることはありません（いわゆる「出席点」は、ありません）。

- 各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。
- 各科目の査定をもとにGrade Point Average; GPAを算出し、進路に対する助言をします。
- 被評価者からの照会に応じる体制を整備します（総括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等）。
- 何らかの障がいにより通常の試験を受けることが出来なくなった場合は、学修支援の一環として補助を提供します。

注

- 大学入学者選抜時の評価指針は、学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に含めます。
- 「誠の医療人」にふさわしくない行動をとった学生は、他に定める処罰規定によって、罰します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第1章第1条）。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

1. 本学学生としての心構え

- (1) 医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。
- (2) 学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。
- (3) 学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。
- (4) 講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

○アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第1章第1条）。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

(1) 不適切な態度・行動の繰り返し

- ・ 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- ・ 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- ・ 時間管理ができない
- ・ 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- ・ 患者や同僚などへの無礼
- ・ 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- ・ 学修環境や臨床現場を混乱させる
- ・ 教員へ挑戦的行動をとる
- ・ 教員からの指摘を受け入れない

(2) 不正行為

- ・ 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- ・ 講義、実習での出席届の不正
- ・ 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- ・ 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- ・ 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- ・ レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

- (3) 職務上の役割以外の不正行為または詐欺
- ・ 研究でのデータ捏造
 - ・ 金銭的詐欺
 - ・ 経歴詐欺、書類偽造
 - ・ 資格詐称
 - ・ ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
 - ・ 不正行為や健康問題の大学への未申告
 - ・ 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽
- (4) 医療人を指す者としての不適切な行動
- ・ ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
 - ・ 守秘義務の不履行
 - ・ ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
 - ・ 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
 - ・ 性的、人種的およびその他のハラスメント
 - ・ 不適切な診察や一線を越えた行動
 - ・ 不当な差別
- (5) 攻撃的な暴力や脅し
- ・ 暴行、身体的暴力
 - ・ いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
 - ・ ハラスメント
 - ・ ストーカー行為
- (6) 薬物またはアルコールの誤用や濫用
- ・ 飲酒運転
 - ・ 処方薬の乱用
 - ・ 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
 - ・ 薬物の不適切使用
 - ・ 不適切な過度の飲酒
- (7) その他の不適切行動または犯罪行為
- ・ 違法薬物の所持、取り扱い、提供
 - ・ 窃盗
 - ・ 無賃乗車
 - ・ 金融詐欺
 - ・ 児童ポルノ
 - ・ 児童虐待またはその他の虐待
 - ・ 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

2. 伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないように必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

3. 学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続きをする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

4. ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

5. ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

6. 授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

7. 自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合のみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

登録料	2,000 円 (年間)
有効期限	申請年度内に限り有効 ※年度毎に更新申請が必要
通学許可基準	大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること
申請に必要なもの	① 自動車通学許可申請書 ②登録料 ③免許証
登録証の発行	申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、許可された場合のみ発行

8. 自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

登録料	バイク 1,000 円 自転車 500 円
有効期限	在籍中有効
申請に必要なもの	② 登録申請書 ②登録料 ③免許証 (バイクのみ)
登録証の発行	申請後、即日ステッカーを発行

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

9. 自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

交通事故・道路交通法違反の内容		酒酔い・酒気帯び運転	無免許運転	酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合
死亡事故又は重大な傷害事故	運転者	無期停学	無期停学	6 ヶ月以内の停学
	同乗者	6 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
傷害事故	運転者	無期停学	6 ヶ月以内の停学	戒告又は注意
	同乗者	3 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
上記以外の交通事故・道路交通法違反	運転者	無期停学	1 ヶ月以内の停学	注意
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分
死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合	運転者	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分

10. トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は1人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

内容	対応	日頃の注意点
【ワンクリック詐欺】 パソコンのWEBサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求	払わない 連絡しない	①知らないアドレスからのメールは見ない ②怪しいページは見に行かない ③利用規約は必ずチェックする
【悪質商法】 マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品を売り込む	クーリング・オフ 制度を利用する	①街頭で声をかけられても相手にしない ②契約（署名や押印）は慎重に ③入会等は即断せず家族や知人に相談する

11. 注意事項

(1) 飲酒

20歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

(2) 拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があつた場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

(3) 盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

- 1) 多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。
- 2) ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。
- 3) 自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。
- 4) 学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあつた時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届けてください。
- 5) 学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を經由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

(4) 校舎内、講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

(5) 喫煙

20歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってはけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

(6) 薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

1 2. 受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

【マナー違反】

- (1) 私語 (2) 居眠り (3) 途中入退室 (4) 携帯電話・スマートフォンの私的利用 (5) 食事や飲酒 (6) 受講中の化粧
- (7) 服装の乱れ

1 3. 日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

【マナー違反】

(1) ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方を考えましょう。

(2) タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

(3) 言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

(4) 駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない止め方はやめましょう。

岩手医科大学医学部学生 行動規範

【序文】

医学部で学ぶすべての学生は、将来、生命と尊厳を守る医療人として社会から高い倫理性・専門性・人間性を求められる存在である。医学部での学びは、知識や技術の習得だけでなく、医師としてのプロフェッショナリズム (Professionalism) を身につけ、生涯にわたり体現する姿勢を育む過程である。プロフェッショナリズムは、誠実さ、謙虚さ、利他的精神、説明責任、倫理的判断、多職種協働、能力向上への不断の努力など、多面的な価値から成り立つ。

本行動規範は、低学年の講義・演習から 早期臨床体験、高学年の臨床実習に至るまで、医学部 6 年間を通じて学生が信頼される医療者へ成長するための指針として策定する。

【1. 医療人を志す者としての自覚とプロフェッショナリズム】

- ・ 医師を志す者としての誇りと責任を持ち、学内外で模範となる行動をとる。
- ・ 「学ばせていただいている」という感謝の気持ちを忘れずに、患者さん・地域住民・医療スタッフへ敬意を払う。
- ・ 誠実さ、謙虚さ、倫理性を重んじ、医療者としてふさわしい人格を日々涵養する。
- ・ 自身の行動が医師全体の信頼に影響することを認識し、公共性のある行動をとる。
- ・ 医療者に不可欠な倫理観と人間性（誠実・謙虚・礼節）を日常生活から養い、「誠の人間」へと成長する。

【2. 基本的マナー・態度】

- ・ 礼儀・挨拶を徹底し、丁寧な言葉遣いを心がけ、周囲への敬意を示す。
- ・ 立場や背景の異なる人々を尊重し、多様性と協調性を重んじる。
- ・ 不適切な態度を指摘された場合は謙虚に受け入れ、改善する。

【3. 清潔で適切な身だしなみ】

- ・ 髪型・爪・衣服を清潔に整え、髪色は華美な染色を避け自然な色合いを保つなど、周囲に安心感を与える身だしなみを心がける。
- ・ 白衣やスクラブは院内のみで使用し、衛生的に管理する。
- ・ 実習施設・地域活動では、各施設の規定に従い、プロフェッショナルとしての外見を保つ。

【4. 講義・演習・実習における学修姿勢】

- ・ 遅刻・欠席を避け、主体的かつ積極的な姿勢で学修に取り組む。
- ・ スマートフォン操作、居眠り、飲食などのマナー違反を行わない。
- ・ 私語・失笑・無断離席など、周囲の学修環境を乱す行為を禁ずる。
- ・ 疑問点は積極的に質問し、学びの深化につなげる。
- ・ 建設的なフィードバックを謙虚に受け入れ、自己改善に活かす。
- ・ 医師として求められる能力(コンピテンス)を高めるため、継続的に学び続ける (Lifelong Learning)。

【5. 守秘義務の絶対遵守】

- ・実習・講義で知り得た患者さん、利用者、地域住民およびご検体などの個人情報を第三者に漏らしてはならない。
- ・学生同士の会話であっても、周囲に聞こえる場所で個人情報を話すことを厳に禁ずる (Professional Secret)。
- ・SNS を含むいかなる媒体においても、医療現場を想起させる情報を一切投稿しない。
- ・守秘義務は「卒業後も継続する」。これは医療者の基本倫理である。
- ・誘惑や不正の機会に直面しても、誠実で公平な判断を貫く姿勢を保つ。

【6. 情報の適切な取り扱い】

- ・カルテ、画像検査、介護記録などの資料を施設外へ持ち出したり、複写したりしてはならない。
- ・配布資料やレポート等は丁寧に管理し、紛失・破損を起こさない。
- ・電子記録（カルテ等）へのアクセスは、学修目的に必要な範囲に限って行う。
- ・情報セキュリティに対する自覚を持ち、医療機関のルールに従う。

【7. 早期臨床体験での姿勢】

- ・初めて医療・介護・地域の現場に触れる者として、謙虚で誠実な姿勢を保つ。
- ・地域住民や医療・介護スタッフの協力に感謝し、学びの機会を大切にする。
- ・私語や失笑を慎み、対象者の背景や価値観を尊重した、思いやりのある態度を身につける。
- ・観察・体験を通じて、医療の社会的役割や医師としての責務を理解する。

【8. 高学年臨床実習での責任ある行動】

- ・医師法による Student Doctor である自覚をもって実習に臨む。
- ・実習施設の一員としての自覚を持ち、医療安全と院内感染防止を最優先に行動する。特に、手指消毒を妨げる物品 (iPad 等) を手に持ったまま病棟に入らないなど、基本的感染対策を徹底する。指導医の指示を遵守し、不明な点は必ず確認・報告する。
- ・指導医の指示を遵守し、不明な点は必ず確認・報告する。
- ・診断名や医療内容などを学生単独で患者・家族へ説明してはならない。
- ・患者さんの情報の記録・取り扱いを適切に行い、情報漏洩を防ぐ。
- ・ICU・PICU・HCU・SCU・手術室等の特殊エリアの規則を厳守し、清潔操作を徹底する。
- ・臨床現場での経験を通じ、患者中心の視点と倫理的判断力を育む。

【9. 多職種への敬意と協働】

- ・医師のみならず、歯科医師、薬剤師、看護師、検査技師、放射線技師、リハビリ職、管理栄養師・調理師、臨床工学技士、介護職、事務職、物品管理員、清掃員など、すべての職種を尊重する。
- ・各職種の専門性と意見を尊重し、協調性と柔軟性をもってチーム医療の一員として協働する。
- ・他職種の意見に耳を傾け、協調性と柔軟性を持って行動する。
- ・多様な価値観を尊重し、相互の信頼を醸成するコミュニケーションを行う。

【10. 時間管理と責任ある行動】

- ・時間厳守は、患者さんの安全確保とチームからの信頼を支える基盤である。
- ・集合時間を厳守し、遅刻や欠席が避けられない場合は、必ず速やかに指定された公式の連絡先（教務課、実習担当科、教育担当など）へ直接連絡し、必要な手続きを確実に行うこと。友人を介した連絡や、独自の判断で連絡先を選ぶことは認められない。
- ・欠席の際には速やかに連絡し、必要な手続きを確実に行う。
- ・約束を守り、説明責任（Accountability）を果たす態度を大切にする。

【11. 望ましい医学部学生像】

- ・時間管理や学修態度が安定し、主体的に学びに取り組む。
- ・仲間と協力し、建設的な意見交換やフィードバックを活かせる。
- ・穏やかで誠実なコミュニケーションができ、周囲に配慮した言動がとれる。
- ・不正・暴言・ハラスメントなどプロフェッショナリズムに反する行為を行わない。
- ・医療者として求められる倫理観、責任感、利他的姿勢を備えている。

【結語】

医学を学ぶ 6 年間は、知識と技術を習得するだけでなく、医療人としての人格とプロフェッショナルリズムを確立する重要な時期である。

本行動規範を日々の生活・講義・実習の中で体現し、誠実で信頼される医師として社会に貢献することを心より期待する。

行動規範の目標

1. 医療人を志す者としての自覚とプロフェッショナリズム

誠実さと倫理性を持ち、公共性を自覚し、社会の信頼に応える行動をとる。

2. 基本的マナー・態度

丁寧な言葉遣いと協調性で周囲へ敬意を払い、謙虚に学び多様な価値観を尊重する。

3. 清潔で適切な身だしなみ

清潔で整った身だしなみを徹底し、患者さんに安心感を与える外見を保つ。

4. 講義・演習・実習における学修姿勢

周囲の学修環境を尊重しながら、積極的な学修姿勢で生涯学習の基盤を築く。

5. 守秘義務の絶対遵守

患者さんの尊厳とプライバシーを厳格に保護し、生涯にわたる医療倫理の根幹を実践する。

6. 情報の適切な取り扱い

医療情報を適切に管理し、紛失・漏洩を防ぐ。

7. Early Exposure (低学年実習) での姿勢

初学者として謙虚に学び、感謝と誠実さをもって現場に触れ、思いやりのある態度を身につける。

8. 高学年臨床実習での責任ある行動

Student Doctor として医療安全を徹底し、患者さん中心の視点を養いながら、チームの一員として責任ある行動をとる。

9. 他職種への敬意と協働

多職種の専門性を尊重し、信頼関係を築き、協働の姿勢でチーム医療に貢献する。

10. 時間管理と責任ある行動

時間を厳守し、適切な報告・連絡を通じて患者の安全とチームの信頼を支える。

11. 望ましい医学部学生像

主体的に学び、倫理観と責任感をもって医療者としての成長を続ける。

岩手医科大学 医学部 卒業時コンピテンシー

「誠の人間を育成する」という本学の理念を達成するために

本学医学部では、ディプロマポリシーに掲げる、

学生が卒業時に習得すべき8つの能力（=コンピテンス）について

具体的な達成目標として次のとおりコンピテンシーを定めている。

I. 医療倫理

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に全人的人間性を持ち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができる。

III. 医療安全

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域に安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知識を身につけ、医療の質の向上に努めることができる。

V. 診療技術・患者ケア

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、誠の医師として患者に接し、的確な診療を実践できる。

VII. 社会における医療の実践

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に社会保障制度および法律に関する知識を有し、国内外の保健医療に貢献できる。

II. プロフェッショナリズム

岩手医科大学医学部の学生は、幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続けることができる。

IV. 医学的知識

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に診療の場において、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を習得し、疾患の予防、診断、治療に活用できる。


VI. コミュニケーションとチーム医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができる。

VIII. 地域医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学を実践できる。

I. 医療倫理

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
I-1 倫理観		医療倫理・研究倫理の原則を説明できる。	生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考について述べるができる。
I-2 利益相反		利益相反について説明できる。	利益相反となる問題点を列挙できる。
I-3 守秘義務		守秘義務と個人情報保護について説明できる。	

II. プロフェッショナリズム

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
II-1 謙虚な姿勢と 自己規制	a	医学生・医師として社会に信頼される行動について説明できる。	社会的立場をふまえ、常に自らを律し、傲ることなく、謙虚に行動できる。
	b	自身の抱える問題を列挙し、それらの問題に対し自身の能力で対処可能かどうかの判断ができる。	自己解決不可能な問題について、指導者や上級医に助言を求めることができる。
II-2 利他的・ 共感的態度		利他的・共感的な態度について説明できる。	患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できる。
II-3 臨床経験・ 研究成果の発表		与えられたテーマや模擬症例についてグループ内でディスカッションし、その結果をクラス内で発表できる。	経験した症例や研究について指導者と共に解析および考察し、学内でプレゼンテーションできる。
II-4 生涯学習		医学生として必要な最低限の常識を身につけ、継続して学習する姿勢を身につける。	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につける。
II-5 後進の育成		自ら学んだ知識を後輩へ伝えることができる。	自ら学んだ知識や技能を後輩へ伝えることができる。

卒業時コンピテンシー

レベル A

医療人として生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的方策を提案できる。

利益相反を開示できる。


守秘義務を順守し、個人情報を保護できる。

advanced

レベル S

医療人として生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考に基づいた診療・研究ができる。

利益相反を生じる可能性を認識し適切に対処できる。



卒業時コンピテンシー

レベル A

全人的人間性に基づき、自身を振り返ることにより行動改善ができる。

他者からの助言・指導を真摯に受け止め、受け入れることができ、後輩に対しては適切な助言ができる。

患者の苦痛・心情に配慮し、患者および家族に対し、利他的・共感的な態度で行動できる。




経験した症例や研究について指導医と共に解析および考察し、それらを社会に発信することができる。

医師として、進歩し続ける医療における最新の知識を収集することができる。

「誠の人間たる」態度を身につけることの必要性を後輩に説明できる。

advanced

レベル S






経験した症例や研究について指導医の下で自身が主体となり解析および考察し、それらを社会に発信することができる。

進歩し続ける医療において、最新・最善の医療を提供するために、継続して学習し続けることができる。

教育・研究・診療を次世代に受け継いで行く使命を認識し、後進の指導・育成を行うことができる。

Ⅲ. 医療安全

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
Ⅲ-1 感染対策		感染症と感染対策について説明できる。	指導のもとに、一般的な感染予防策を立案できる。
Ⅲ-2 安全管理	a	インシデント、アクシデントの違いを理解し、説明できる。	インシデント、アクシデント発生時の対応について説明できる。
	b	医療事故調査制度を説明できる。	事例から医療事故のレベルを判断できる。
	c	医療安全規範について説明できる。	医療安全規範に基づき、状況に応じた行動方法を提示できる。
Ⅲ-3 医療の質		診療技能や安全管理について振り返ることの重要性を説明できる。	

卒業時コンピテンシー

レベル A

感染対策について理解し、予防策を実践できる。

岩手医科大学の医療安全マニュアルを理解し、実践できる。

医療事故を認識し、発生時に必要な対応を列挙できる。

医療安全規範についての知識を持ち、患者・医療スタッフの安全を守るための対応ができる。

自らが実施している診療技能や安全管理について振り返り、改善に努めることができる。

advanced

レベル S

感染対策の重要性を理解し、着実に予防策を実践し、指導することができる。

インシデント、アクシデントレポートを適切にかつ速やかに報告でき、今後の対策に活用することができる。

医療事故発生時の対応を理解し、指導医のもと実践できる。

医療安全規範について深く理解し、地域の医療現場において反映できる。

組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、改善・向上を図ることができる。

IV. 医学的知識

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
IV-1 基礎医学	a	人体の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる機構を説明できる。	基礎医学の知識を主要な疾患の病因・病態・症候の理解に応用できる。
	b	病気の発症と進展に関わる因子・機構を説明できる。	
	c	ライフサイクル（発達、成長、加齢、死）を説明できる。	
IV-2 社会医学	a	疾病予防、健康増進の重要性、健康行動に関する理論について説明できる。	社会医学に関する理論を活用し、個人・集団を対象とした予防活動・健康増進について立案できる。
	b	保健・医療・福祉・介護の関連法規・制度・組織・専門職について概説できる。	モデル事例を用いた行動立案演習において、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を考慮できる。
IV-3 疫学、統計学		医学に必要な疫学、統計学の基礎を説明できる。	疫学や生物統計学の知識を応用して、実習・実験データを評価することができる。
IV-4 行動科学		精神機能と行動、人間関係、社会との関わりを説明できる。	基礎科学や行動科学に裏付けられた知識から、人の心理と行動について考察できる。
IV-5 医学英語		医学英単語を用いて簡単なコミュニケーションができる。	指導の下に、英字の医学書・論文を読み、内容を概説することができる。
IV-6 臨床医学		高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後を説明できる。	高頻度または重要な疾患について、知識を用いて、臨床推論に基づく適切な診断ができる。
IV-7 リサーチ マインド		疑問点や問題点をピックアップすることができる。	疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集できる。

卒業時コンピテンシー

レベル A

基礎医学の知識を基盤に、疾患の病因、病態、症候を説明し、診断、治療に活用できる。

指導の下で個人・集団を対象とした予防活動に参加できる。

医療の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を意識して行動できる。

生物統計学や疫学に関する基本的知識を用いて、医学情報を説明できる。

人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応ができる。

英語の医療文書や医学論文を読み、その内容を概説できる。

適切に診察を行い、臨床推論に基づく適切な診断ができ、治療方針を提案できる。

疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集し、それを基に論理的・批判的に思考できる。

advanced

レベル S

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を、診断や治療へ応用することができる。

地域のニーズと特性を考慮し、個人・集団を対象とした予防活動を実践できる。

医療の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を考慮した活動を提案できる。

診療データや研究データを整理・統合し、生物統計学や疫学に関する基本的知識を論文や学会発表の形で発信できる。

人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。

英語を用いて患者とコミュニケーションをとり、症例サマリーなどを適切に英文で記載できる。

高頻度または重要な疾患について、知識や臨床推論を用いて、診断を適切に行い、初期治療ができる。



V. 診療技術・患者ケア

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
V-1 医療面接		聴取すべき項目について説明できる。	病歴を正確に聴取することができる。
V-2 臨床技能		基本的身体診察や臨床手技について概説できる。	模擬患者やシミュレータに対して基本的身体診察や臨床手技を実践できる。
V-3 問題解決		重要な症候について鑑別すべき疾患を挙げることができる。	与えられた医療情報から異常所見について基礎医学を用いて概説し、鑑別疾患を列挙し、検査計画を立案できる。
V-4 文書作成	a	医療文書、問題志向型診療記録について概説できる。	模擬症例の情報を問題志向型診療記録形式で模擬診療録に記載し、問題リストを作成できる。
	b	診断書、処方箋について概説できる。	模擬書類を用いて診断書、各種処方箋を記載できる。
V-5 プレゼンテーション	a	相手にわかりやすく、簡潔なプレゼンテーションの作成方法を説明できる。	模擬症例について、病態・診断・検査・治療などのプレゼンテーションができる。
	b	病状説明や患者教育の手法について概説できる。	模擬患者に対して、病状説明や患者教育を行うことができる。
V-6 救急医療		緊急を要する疾患や救急医療体制の概要を説明できる。	シミュレーターで、緊急性の高い状況を判断でき、一次救命処置を行うことができる。
V-7 患者への配慮		患者や家族の精神的・身体的苦痛に配慮できる。	日常において、障害を持った人に対して、誠実で適切な支援を行うことができる。

卒業時コンピテンシー

レベル A

病歴を聴取し、情報を取捨選択し、整理できる。

患者に対して、診断に必要な基本的身体診察や基本的臨床手技を安全に実践できる。

収集した病歴・身体所見より臨床推論ができ、頻度の高い、または、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断を行い、治療計画を立案できる。

問題志向型診療記録形式で電子カルテを正確に記載できる。

診断書・各種処方箋を計画できる。

病歴についての要約を作成し、プレゼンテーションができる。

病状説明や患者教育に参加できる。

緊急を要する疾患・外傷の病態を理解し、医療チームの一員として救急医療の場で介助できる。

患者の苦痛・心情に配慮し、患者や家族に対する誠実で適切な支援を行うことができる。

advanced

レベル S

病歴を要領よく正確に聴取し、診断に役立てることができる。

日常診療に用いる臨床手技を安全に実施できる。

収集した医学情報から鑑別診断を行い、診断・治療に必要な検査計画を立案した上で、指導医のもとで治療を実施できる。

問題志向型診療記録形式で診療録に必要十分な内容を記載できる。

指導医のもとで診断書・各種処方箋を記載できる。


目的に応じた内容で、情報共有に役立つわかり易いプレゼンテーションができる。

指導医のもとで患者、家族の個別性やニーズを考慮して適切な病状説明や患者教育を行うことができる。

救急医療の場で医療チームの一員として、指導医のもと適切な医療を行うことができる。

患者の苦痛・心情に配慮し、患者や家族に対する誠実で適切な支援と助言を行うことができる。

VI. コミュニケーションとチーム医療

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
VI-1	患者医師関係	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を列挙できる。	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景を理解し、問題点を提示することができる。
VI-2	コミュニケーション スキル	a コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を説明することができる。	
		b 病状説明の要点項目を述べるができる。	
VI-3	インフォームド コンセント	インフォームドコンセントの概要を説明できる。	模擬患者に対してインフォームドコンセントを実践することができる。
VI-4	チーム医療	a 歯・薬・看護学部の学生との演習において、適切な関係を築くことができる。	他学部の学生とで構成されたグループやチーム間で協力して、課題から問題点を抽出し、解決法を提示することができる。
		b 同級生やグループ間で、お互いに協力しながら学びあうことができる。	同級生やグループ間で協力して、課題から問題点を抽出することができる。
		c 他の職種の専門性を理解し、チーム医療の必要性と構成員の役割分担を説明できる。	同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファランスにおいて、担当患者の要約を作成できる。
		d チーム間における情報交換の重要性について説明できる。	同級生や他学部の学生とで構成されたグループやチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。

卒業時コンピテンシー

レベル A

患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を理解し、良好な人間関係を築くことができる。

コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を理解し、実践できる。

指導医・医療スタッフに対し、患者への説明を想定したわかりやすい病状説明を行うことができる。

インフォームド・コンセントの必要性を理解した上で、参加もしくは一部実践できる。

医師としての誠実さや公正性を示し、患者・家族を含めた医療チームの一員であることを自覚し、診療に参加できる。

上級医、同級生や医療スタッフ間で、抽出された問題点について話し合い、共に学び合うことができる。

多職種で構成されるカンファレンスに参加し、担当患者の要約を報告できる。

医療チーム内で情報交換を行い、情報の共有や説明、伝達ができる。

advanced

レベル S

患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を理解し、確たる信頼関係を築くことができる。



病状をわかりやすく説明した上で、指導医のもと患者や家族の意向を尊重した方針の決定ができる。

指導医のもと、患者に適切なインフォームド・コンセントを実施できる。

医師としての誠実さや公正性を備え、患者・家族を含めた円滑なチーム医療を実践できる。

提供する医療の向上のために、医師や医療スタッフ間で、建設的なフィードバックを行い、協力して学び合うことができる。

患者・家族を含めたチーム医療に参加し、積極的な情報交換を行える環境を作り、自ら意見を述べることができる。

医療チームの一員として組織内外の改善案を提案すると共に、チーム内で情報交換を行い、患者やその家族、および医療スタッフからのアドバイスを真摯に受けることができる。

VII. 社会における医療の実践

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
VII-1 社会保障	a	社会保障の理念および制度とそれに携わる職種について説明できる。	社会保障に携わる各専門職と連携した医療を体験し、連携の必要性を説明できる。
	b	医療関連法規を概説し、医師の義務を列挙できる。	
VII-2 国際貢献		医療に関わる国際協力の重要性・仕組みを説明できる。	保健・医療に関する国際的課題を説明できる。
VII-3 保険診療・ 医療経済		各種保険診療と診療報酬制度を説明できる。	各種保険診療と診療報酬制度の問題点を抽出できる。

VIII. 地域医療

		マイルストーン	
		レベル C	レベル B
VIII-1 地域医療		地域包括ケアの概念および地域医療および医師偏在の現況を概説できる。	地域医療を体験し、地域包括ケアにおけるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。
VIII-2 健康増進と 予防医学	a	社会と健康・疾病の関係および予防医学の概念を説明できる。	地域医療を体験し、健康に関する地域の特性と医学的な問題点を説明できる。
	b	健康増進に係る各機関の役割を説明できる。	
VIII-3 災害医療		大規模災害での医療の特殊性とそれに関与する組織（DMAT 等）について説明できる。	岩手県の被災地の特性や災害から災害後に必要な医療と公衆衛生を説明できる。

卒業時コンピテンシー	
レベル A	
<p>● 社会保障制度を理解し、その知識を臨床の場で活用できる。</p>	
<p>● 国際社会の一員として、文化・社会・環境に配慮した医療活動に参画できる。</p>	
<p>● 保険診療・医療経済の問題を考慮した診療を提示できる。</p>	

advanced	
レベル S	
<p>● 医療・社会問題について関心をもち、対策を立案できる。</p>	
<p>● 医療チームに加え、行政、福祉および介護施設、その他関連機関と連携できる。</p>	
<p>● 国内外で医師として医療・保健・研究等の活動を通じて国際社会に貢献できる。</p>	
<p>● 保険診療・医療経済の問題を考慮した診療を実践できる。</p>	

卒業時コンピテンシー	
レベル A	
<p>● 疾病予防・包括ケア・救急医療・在宅医療・慢性期医療の地域における問題点を抽出し、医療チームの一員として参画できる。</p>	
<p>● 地域医療に参画し、予防医学や健康増進を推進できる。</p>	
<p>● 災害の各時期に必要とされる組織および多職種連携を理解した行動ができる。</p>	

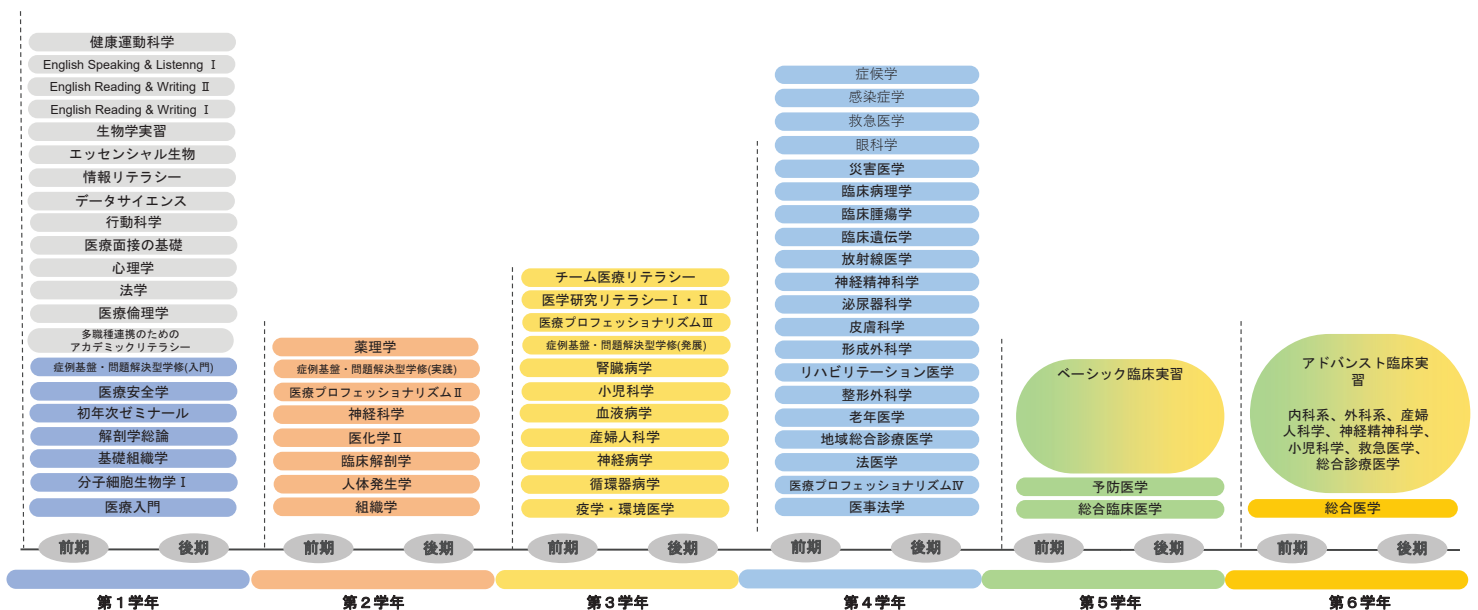
advanced	
レベル S	
<p>● 地域の特性を考慮して、地域包括ケアと連携した医療を実践し、指導医のもと、地域コミュニティの発展に向けて提言ができる。</p>	
<p>● 健康に関する地域の特性と医学的な問題点を把握し、地域のニーズに応じた医療を実践することで地域の予防医学・健康増進の推進に貢献できる。</p>	
<p>● 国内外の大規模災害の実態を理解し、指導医のもと、医療と公衆衛生を実践できる。</p>	

令和8年度岩手医科大学 医学部第1～6学年教育要項

履修系統図（必修科目のみ掲載）

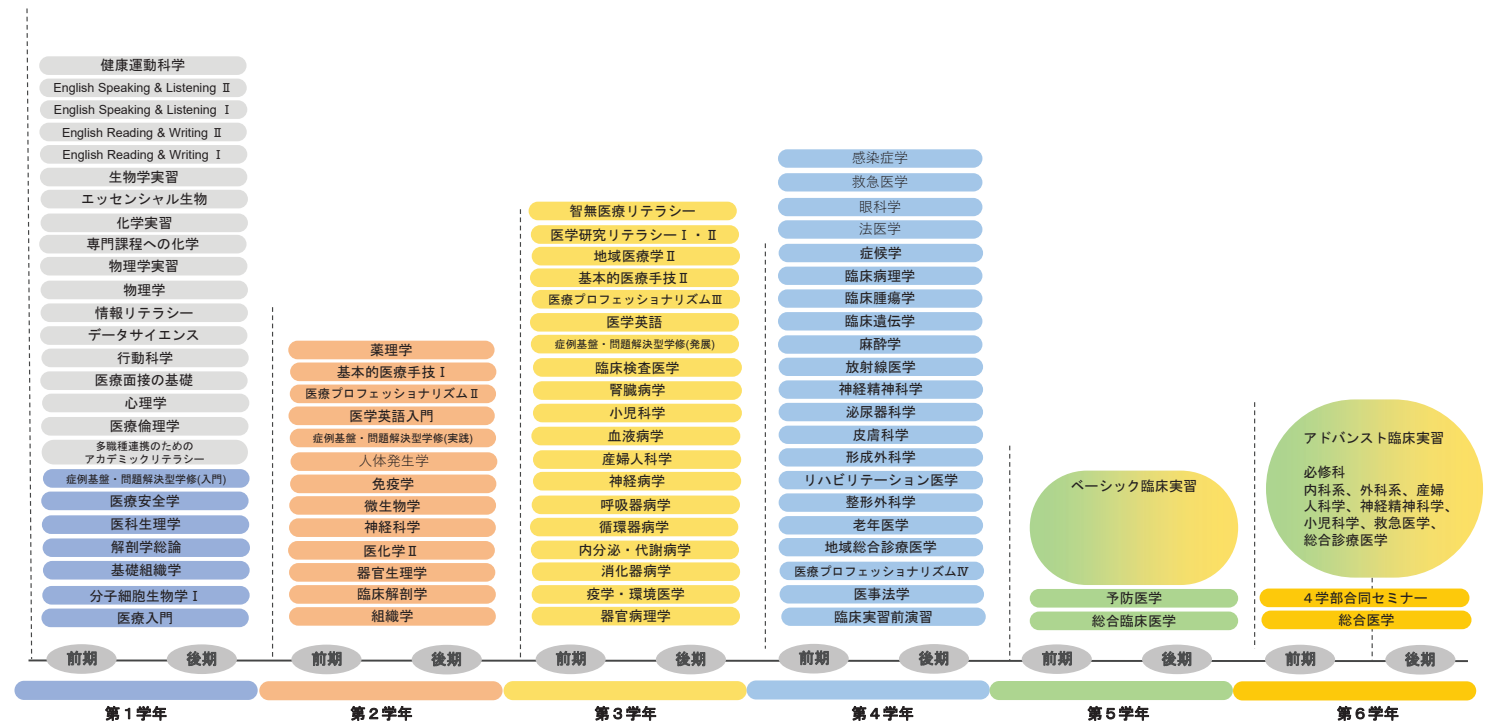
DP1：医療倫理

全人的人間性をもち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができること。



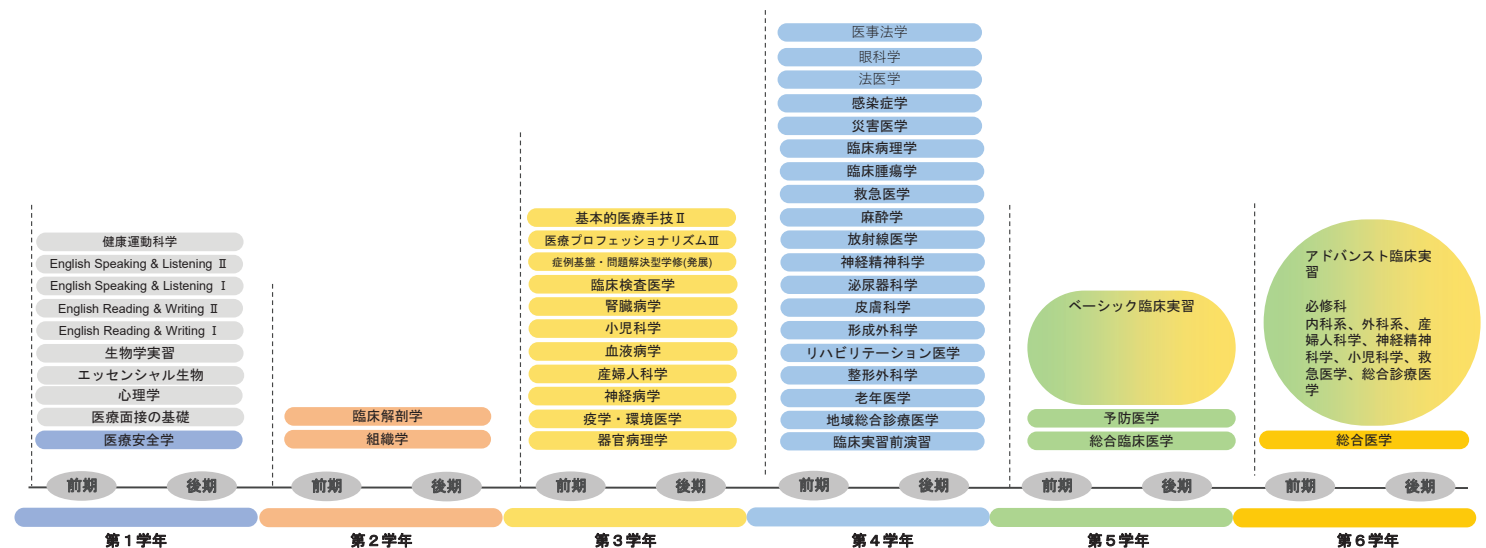
DP2：プロフェッショナリズム

豊かな教養と幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続ける責務と後進育成の使命を自覚すること。



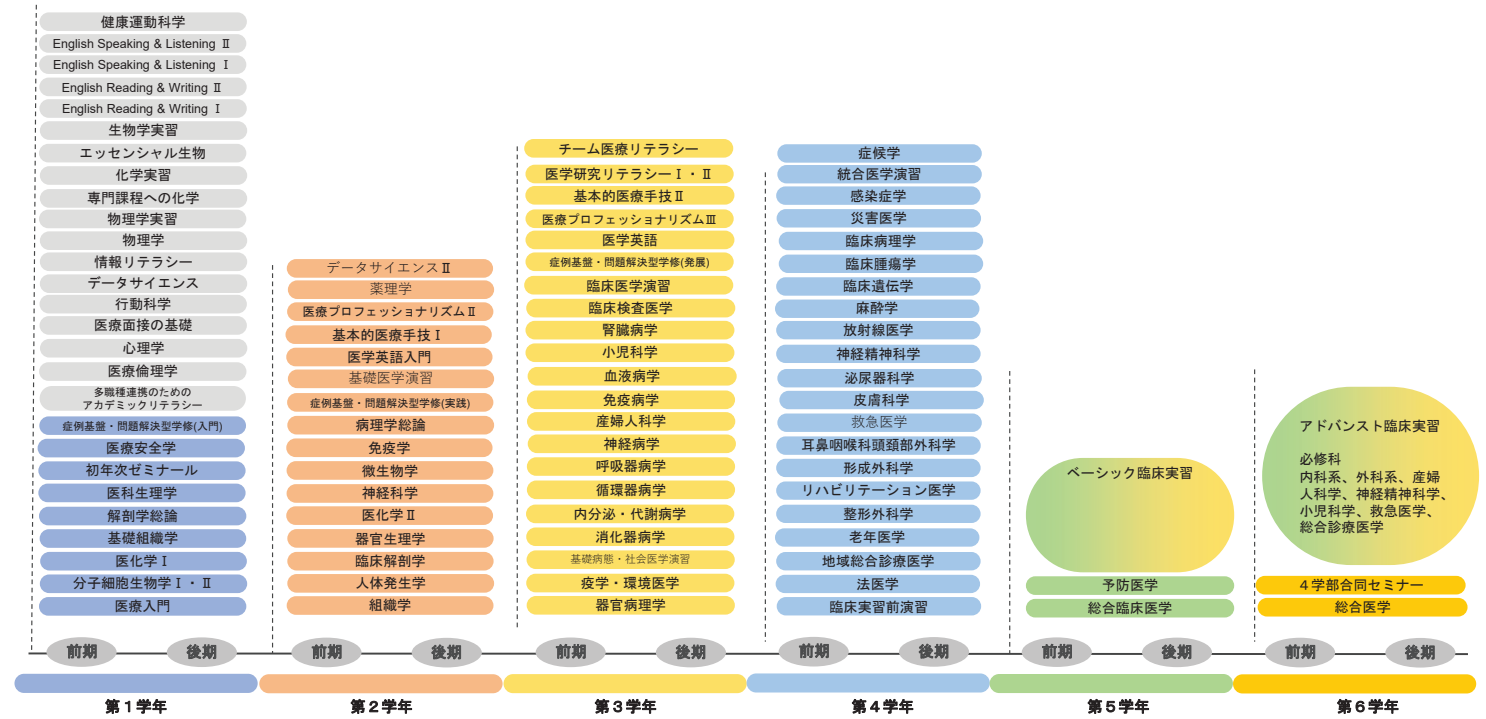
DP3：医療安全

安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知恵を身につけ、自己の身体的および精神的健康にも気を配りつつ、医療の質の向上に努めることができること。



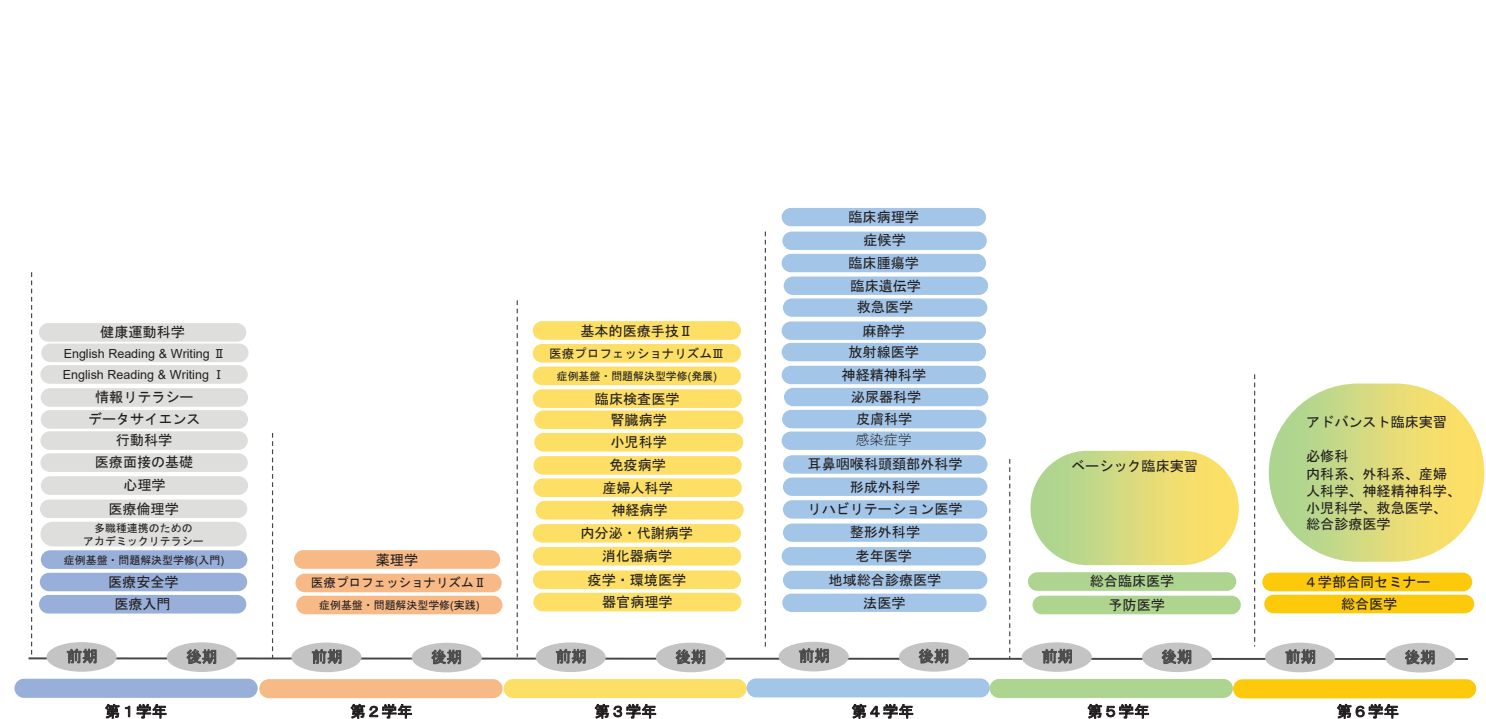
DP4：医学的知識

初期臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な基礎生命科学、臨床医学、行動科学、社会医学および医学英語の、知識と科学的思考方法を有しており、疾患の予防、診断と治療、あるいは研究に活用できること。



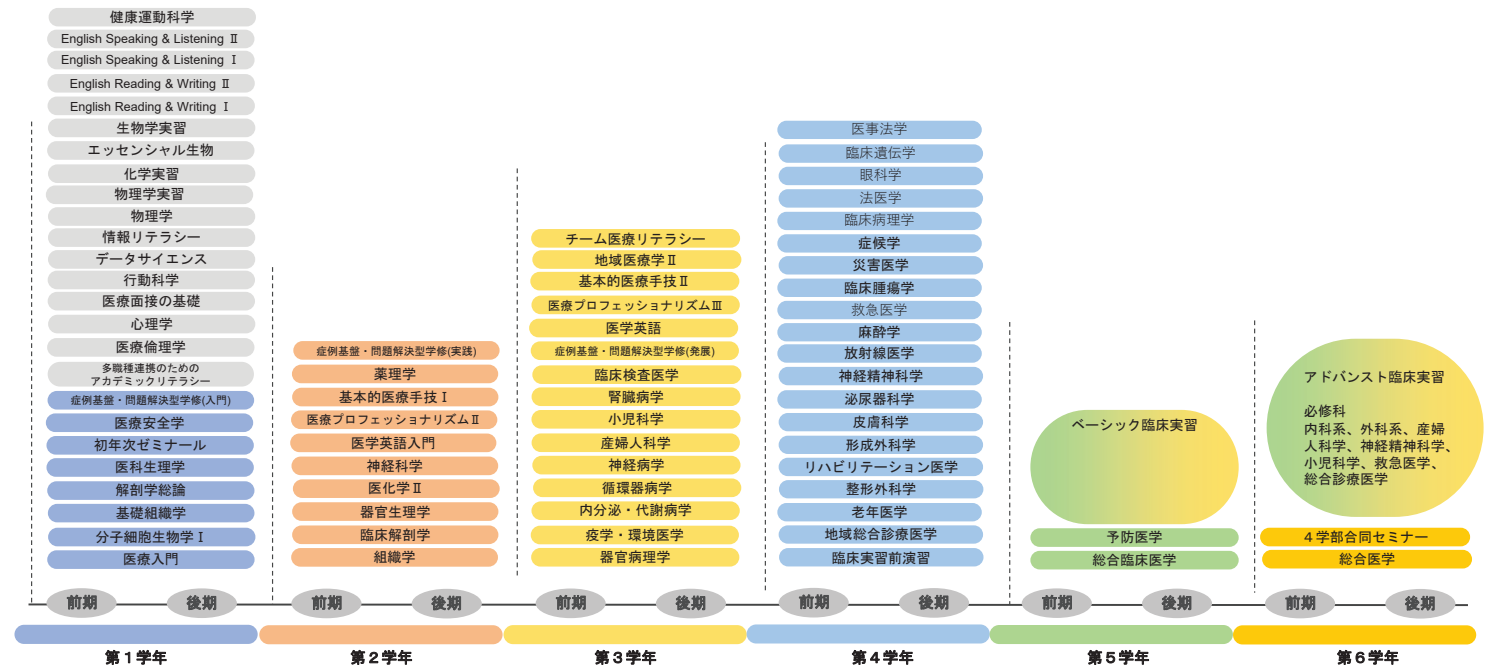
DP5：診療技術・患者ケア

的確な医療情報を収集し、それをもとに適確な診断を下し、プライマリケアを実践して記録する、という基本的な課程を「誠の医師」として患者に真摯に向き合っておこなえること。



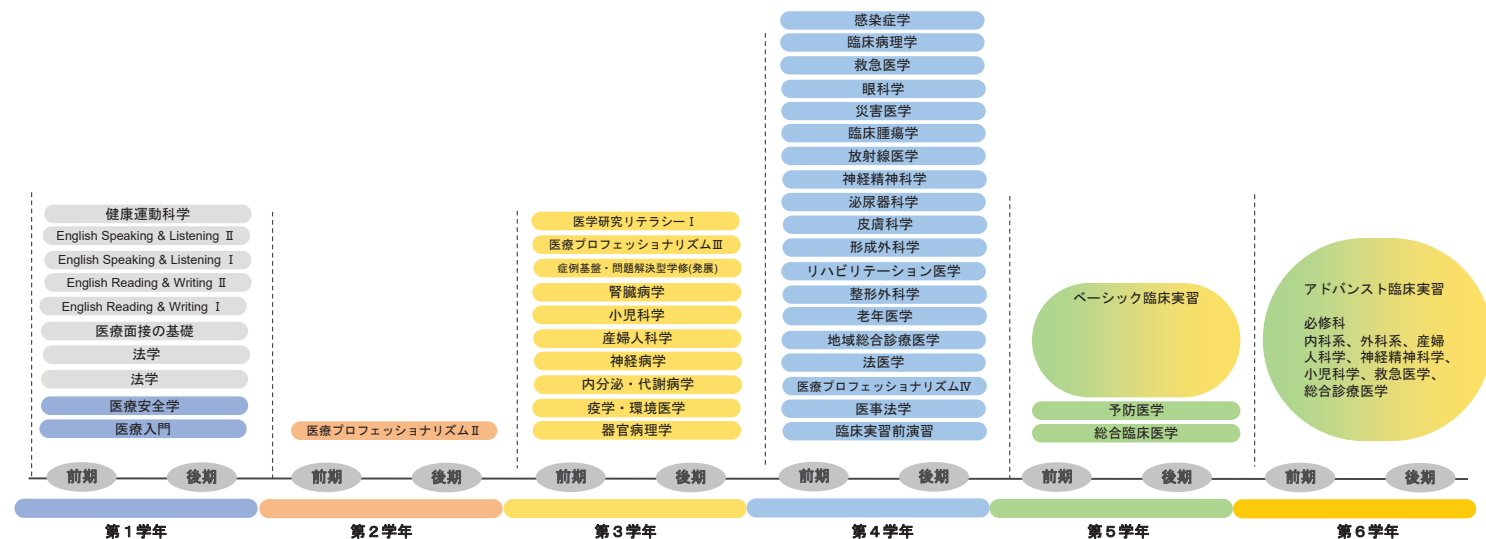
DP6：コミュニケーションとチーム医療

「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族および医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができること。



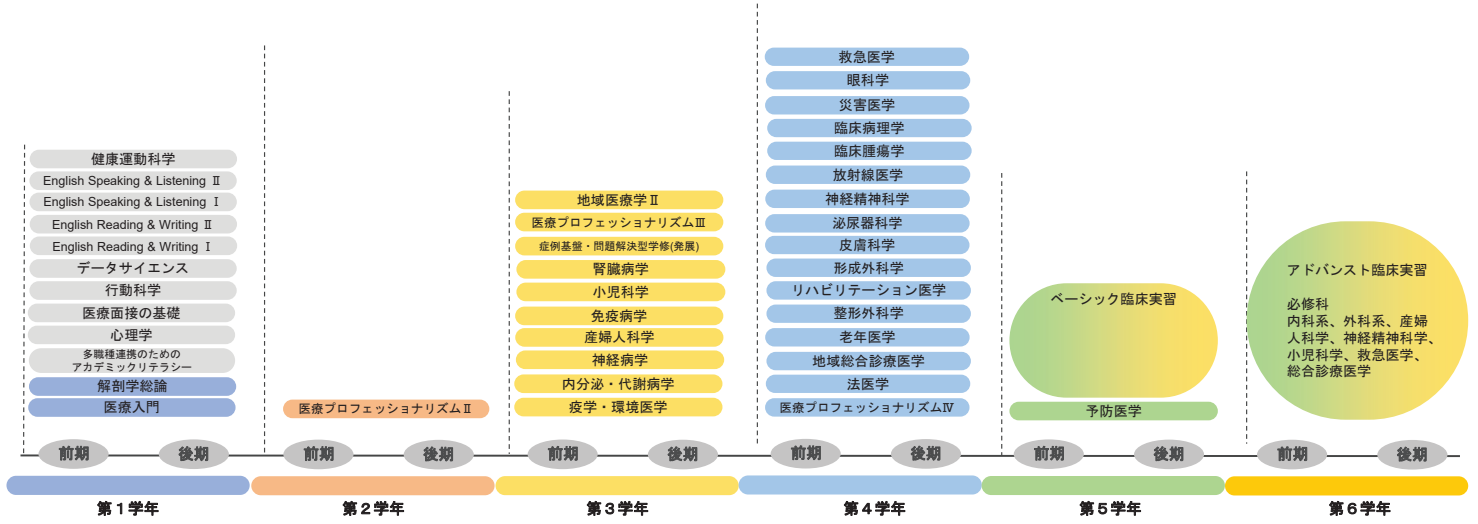
DP7：医療の社会性

「厚生済民」の建学の精神に基づき、社会保障制度および法律に関する知識を修得し、国内外の保健医療に貢献する意志を有すること。



DP8：地域医療

本学は医療の偏在化を是正するために作られた医育機関であることをわきまえ、地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学、あるいは災害医療に貢献するという将来ビジョンを描き、地域医療で果たすべき責任を自覚していること。



医学部医学科カリキュラムマップ 2026

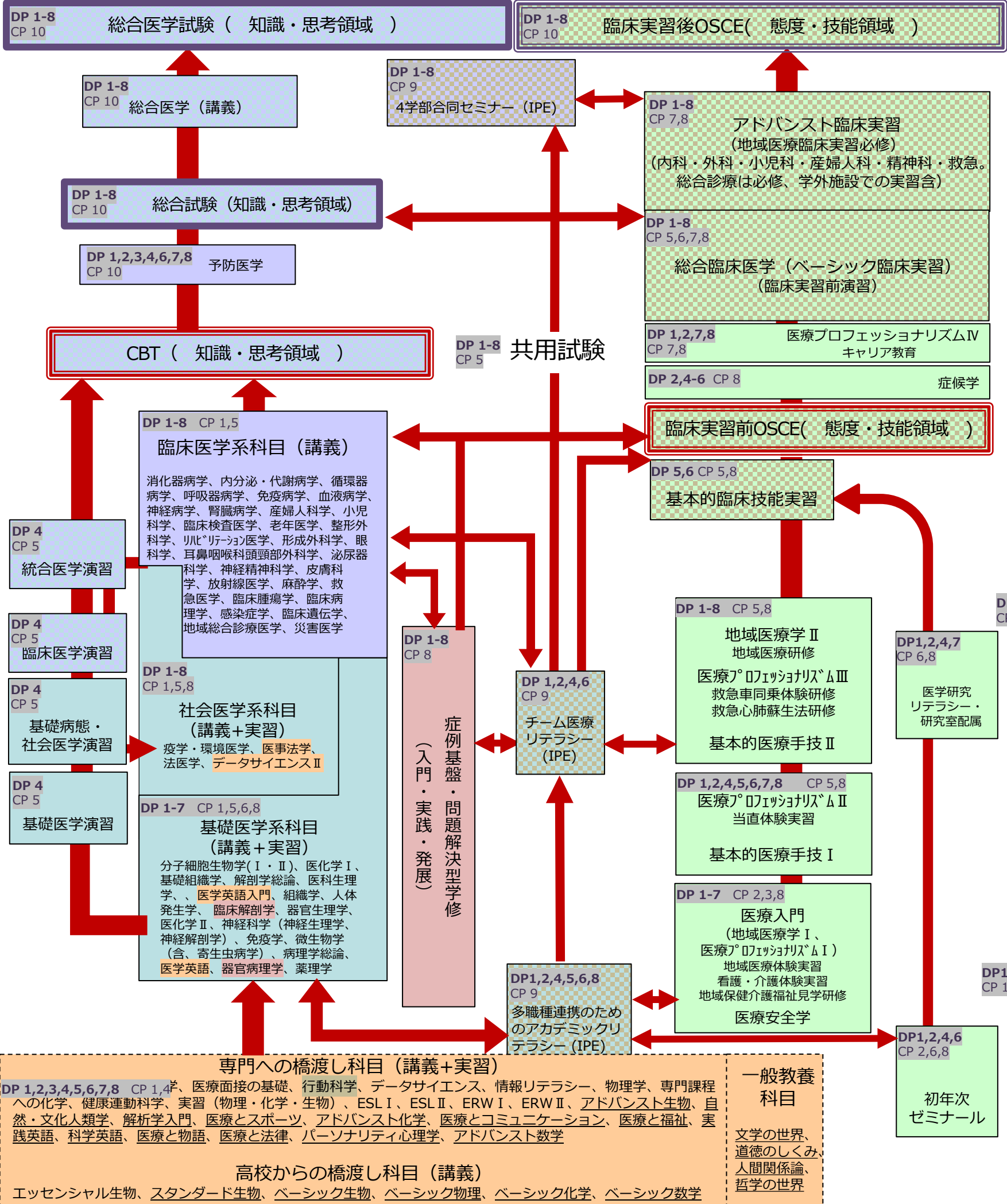
医師国家試験

臨床研修

ディプロマ・ポリシー (DP)

- DP1 医療倫理
- DP2 プロフェSSIONナリズム
- DP3 医療安全
- DP4 医学的知識
- DP5 診療技術・患者ケア
- DP6 コミュニケーションとチーム医療
- DP7 医療の社会性
- DP8 地域医療

CP10
6年次
5年次
4年次
3年次
2年次
1年次



(自由科目) 海外英語演習 1～6年次の3月
地域医療課題解決演習 1～6年次の5～12月

知識・思考領域 (臨床医学)	知識・思考領域 (基礎医学・社会医学)	知識・思考領域 (教養科目・橋渡し教育) アンダーラインは選択必修
態度・技能領域 (基礎医学・社会医学・臨床医学)	知識・思考領域 (基礎医学・臨床医学統合)	知識・思考・技能・態度 (行動科学)
ディプロマ・ポリシー (DP: 1~8)、カリキュラム・ポリシー (CP: 1~10)		

2026年度 第3学年 年間行事予定

予 定	期 間
ガイダンス	4月1日(水)
前期授業	4月1日(水)～ 7月10日(金)
中間試験①	5月18日(月)
講演会	6月2日(火)
中間試験②	6月12日(金)
解剖体慰霊祭	6月27日(土)
基本的医療手技Ⅱ (シミュレーション実習)	6月29日(月)～ 7月3日(金)
前期進級試験	7月15日(水)～ 7月29日(水) 11科目 消化器病学、循環器病学、呼吸器病学、産婦人科学、神経病学、 内分泌・代謝病学、器官病理学、疫学・環境医学、 基礎病態・社会医学演習、医学英語、症例基盤・問題解決型学修(発展)
夏休み	7月30日(木)～ 8月14日(金)
医学研究リテラシーⅡ (研究室配属)①	8月17日(月)～ 8月28日(金)
地域医療学Ⅱ (地域医療研修)	8月31日(月)～ 9月4日(金)もしくは 9月7日(月)～ 9月11日(金)
医学研究リテラシーⅡ (研究室配属)②	9月14日(月)～ 9月25日(金)
医療安全シンポジウム	9月26日(土)
後期授業	9月28日(月)～ 12月18日(金)
CBT学内模試	10月9日(金)
研究室配属報告会	11月25日(水)
冬休み	12月21日(月)～ 1月1日(金)
試験前休み	1月4日(月)～ 1月6日(水)
後期進級試験	1月7日(木)～ 1月28日(木) 12科目 消化器病学、循環器病学、呼吸器病学、免疫病学、神経病学、 内分泌・代謝病学、血液病学、産婦人科学、小児科学、腎臓病学、 臨床検査医学、臨床医学演習
判定Ⅰ	2月10日(水)
再試験	2月17日(水)～ 2月22日(月)
判定Ⅱ	3月3日(水)
春休み	3月4日(木)～

2026年度第3学年カリキュラムカレンダー

4月	5月	6月
<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4</p> <p>ガイダンス</p> <p>5 6 7 8 9 10 11</p> <p>前期授業 (~7/10)</p> <p>12 13 14 15 16 17 18</p> <p>19 20 21 22 23 24 25</p> <p>26 27 28 29 30</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>中間試験①</p> <p>24 25 26 27 28 29 30</p> <p>31</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4 5 6</p> <p>講演会</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>中間試験②</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>解剖体慰霊祭</p> <p>28 29 30</p> <p>基本的医療手技 I</p>
7月	8月	9月
<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4</p> <p>基本的医療手技 II</p> <p>5 6 7 8 9 10 11</p> <p>12 13 14 15 16 17 18</p> <p>試験前休み 前期進級試験 (~7/29)</p> <p>19 20 21 22 23 24 25</p> <p>26 27 28 29 30 31</p> <p>夏休み (~8/14)</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1</p> <p>2 3 4 5 6 7 8</p> <p>9 10 11 12 13 14 15</p> <p>16 17 18 19 20 21 22</p> <p>研究室配属① (~8/28)</p> <p>23 24 25 26 27 28 29</p> <p>30 31</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>地域医療研修</p> <p>6 7 8 9 10 11 12</p> <p>地域医療研修</p> <p>13 14 15 16 17 18 19</p> <p>研究室配属② (~9/25)</p> <p>20 21 22 23 24 25 26</p> <p>医療安全シンポジウム</p> <p>27 28 29 30</p> <p>後期授業 (~12/18)</p>
10月	11月	12月
<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3</p> <p>4 5 6 7 8 9 10</p> <p>CBT模試</p> <p>11 12 13 14 15 16 17</p> <p>18 19 20 21 22 23 24</p> <p>25 26 27 28 29 30 31</p> <p>医療プロフェッショナルリズムⅢ</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4 5 6 7</p> <p>8 9 10 11 12 13 14</p> <p>15 16 17 18 19 20 21</p> <p>22 23 24 25 26 27 28</p> <p>研究室配属報告会</p> <p>29 30</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>6 7 8 9 10 11 12</p> <p>13 14 15 16 17 18 19</p> <p>20 21 22 23 24 25 26</p> <p>冬休み (~1/1)</p> <p>27 28 29 30 31</p>
【2027年】1月	2月	3月
<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>試験前休み (~1/6)</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>後期進級試験 (~1/28)</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>24 25 26 27 28 29 30</p> <p>31</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4 5 6</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>判定 I</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>再試験</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>28</p>	<p>日 月 火 水 木 金 土</p> <p>1 2 3 4 5 6</p> <p>判定 II</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>28 29 30 31</p>

： 休日

2026年度 第3学年 授業科目のコマ数と時間数

科目名	区分	前期		後期		合計		
		コマ数	時間数	コマ数	時間数	コマ数	時間数	単位数
器官病理学	講義	36	72			48	96	5
	実習	12	24					
疫学・環境医学	講義	22	44			54	108	5
	実習	32	64					
チーム医療リテラシー	演習	12	24			12	24	1
基礎病態・社会医学演習	演習	12	24			12	24	1
基礎科目計		126	252			126	252	12
消化器病学	講義	12	24	24	48	36	72	4
内分泌・代謝病学	講義	13	26	10	20	23	46	3
循環器病学	講義	10	20	17	34	27	54	3
呼吸器病学	講義	10	20	19	38	29	58	3
神経病学	講義	18	36	18	36	36	72	4
産婦人科学	講義	11	22	24	48	35	70	4
免疫病学	講義			13	26	13	26	1
血液病学	講義			20	40	20	40	2
小児科学	講義			14	28	14	28	1
腎臓病学	講義			19	38	19	38	2
臨床検査医学	講義			12	24	12	24	1
臨床医学演習	演習			13	26	13	26	1
症例基盤・問題解決型学修(発展)	講義	8	16			8	16	1
医療プロフェッショナリズムⅢ	講義	7	14			14	28	1
	実習	7	14					
基本的医療手技Ⅱ	実習	20	40			20	40	1
地域医療学Ⅱ	実習			20	40	20	40	1
医学研究リテラシーⅠ	講義	6	12			8	16	1
	実習	2	4					
医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	実習	40	40	32	32	72	72	2
臨床科目計		164	328	255	510	419	766	36
医学英語	講義	14	28			14	28	1
教養科目計		14	28			14	28	1
合計		304	608	255	510	559	1046	49

※1コマ2時間計算 一部科目除く

総合
総合臨床

令和8年度 第3学年 時間割

週数	月日	曜日	1	2	3	4	5	
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	
1		火						
	4月1日	水			ガイダンス			
	4月2日	木	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学		
	4月3日	金	器官病理学実習	医学英語	器官病理学	器官病理学		
2	4月6日	月	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学	器官病理学実習	
	4月7日	火	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学実習		
	4月8日	水			器官病理学	器官病理学		
	4月9日	木	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学実習	器官病理学実習	
	4月10日	金	医学研究リテラシーⅠ	医学英語	器官病理学	器官病理学		
3	4月13日	月	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学実習		
	4月14日	火	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学		
	4月15日	水	疫学・環境医学	疫学・環境医学				
	4月16日	木	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習				
	4月17日	金	医学研究リテラシーⅠ	医学英語				
4	4月20日	月	健康診断		器官病理学	器官病理学		
	4月21日	火	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学		
	4月22日	水	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学		
	4月23日	木	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学	講演会	
	4月24日	金	医学研究リテラシーⅠ	医学英語	器官病理学	器官病理学		
	4月27日	月	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	器官病理学	器官病理学実習		
5	4月28日	火	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	器官病理学	器官病理学		
	4月29日	水	祝日					
	4月30日	木	疫学・環境医学	疫学・環境医学	器官病理学	器官病理学	器官病理学	
	5月1日	金	医学研究リテラシーⅠ	医学英語	器官病理学	器官病理学		
	5月4日	月	祝日					
6	5月5日	火	祝日					
	5月6日	水	祝日					
	5月7日	木	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習		
	5月8日	金	医学研究リテラシーⅠ	医学英語	器官病理学実習	器官病理学		
	5月11日	月	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	器官病理学実習	器官病理学実習	神経病学	
	5月12日	火	医学研究リテラシーⅠ		チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー	
7	5月13日	水	神経病学	神経病学	器官病理学	器官病理学実習		
	5月14日	木	消化器病学	消化器病学	器官病理学	器官病理学実習		
	5月15日	金	医学研究リテラシーⅠ	医学英語	症例基盤・問題解決型学修(発展)	症例基盤・問題解決型学修(発展)		
	5月18日	月	中間試験①	内分泌・代謝病学	医学研究リテラシーⅠ	産婦人科学	神経病学	
8	5月19日	火		神経病学	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー	
	5月20日	水		神経病学	循環器病学	循環器病学	呼吸器病学	
	5月21日	木	消化器病学	消化器病学	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習		
	5月22日	金		医学英語	B型肝炎ワクチン接種1回目			

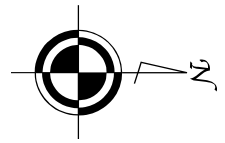
週数	月日	曜日	1	2	3	4	5
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
9	5月25日	月	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	産婦人科学	産婦人科学	消化器病学
	5月26日	火	呼吸器病学	神経病学	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー
	5月27日	水	神経病学	神経病学	循環器病学	循環器病学	
	5月28日	木	消化器病学	消化器病学	症例基盤・問題解決型学修(発展)	症例基盤・問題解決型学修(発展)	
	5月29日	金	医療プロフェッショナリズムⅢ	医学英語		呼吸器病学	
10	6月1日	月	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	産婦人科学	産婦人科学	消化器病学
	6月2日	火	呼吸器病学	神経病学	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー	チーム医療リテラシー
	6月3日	水	神経病学	神経病学	循環器病学	循環器病学	
	6月4日	木	消化器病学	消化器病学	症例基盤・問題解決型学修(発展)	症例基盤・問題解決型学修(発展)	
	6月5日	金	医療プロフェッショナリズムⅢ	医学英語			
11	6月8日	月	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	産婦人科学	産婦人科学	呼吸器病学
	6月9日	火		地域ガイダンス	基礎演習	基礎演習	呼吸器病学
	6月10日	水	神経病学	神経病学	循環器病学	循環器病学	
	6月11日	木	消化器病学		症例基盤・問題解決型学修(発展)	症例基盤・問題解決型学修(発展)	
	6月12日	金	医療プロフェッショナリズムⅢ	医学英語	中間試験②		
12	6月15日	月	内分泌・代謝病学		産婦人科学	産婦人科学	消化器病学
	6月16日	火	基礎演習	基礎演習	医療プロフェッショナリズムⅢ	医療プロフェッショナリズムⅢ	内分泌・代謝病学
	6月17日	水	神経病学	神経病学	基礎演習	基礎演習	
	6月18日	木			呼吸器病学	呼吸器病学	
	6月19日	金	基礎演習	医学英語	B型肝炎ワクチン接種2回目		
13	6月22日	月	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	産婦人科学	産婦人科学	
	6月23日	火	基礎演習	基礎演習	医療プロフェッショナリズムⅢ	医療プロフェッショナリズムⅢ	
	6月24日	水	神経病学	神経病学	循環器病学	循環器病学	
	6月25日	木		基礎演習	基礎演習	基礎演習	
	6月26日	金	医学英語	医学英語		呼吸器病学	呼吸器病学
	6月27日	土			解剖体慰霊祭		
14	6月29日	月	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	
	6月30日	火	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	
	7月1日	水	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	
	7月2日	木	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	
	7月3日	金	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	基本的医療手技Ⅱ	
15	7月6日	月	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	
	7月7日	火	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	
	7月8日	水	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	
	7月9日	木	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	
	7月10日	金	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	疫学・環境医学実習	
試験前休み(7月13日~7月14日)							
前期進級試験(7月15日~7月29日)							
夏休み(7月30日~8月14日)							
16	8月17日	月	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月18日	火	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月19日	水	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月20日	木	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月21日	金	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
17	8月24日	月	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月25日	火	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月26日	水	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月27日	木	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	
	8月28日	金	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	

週数	月日	曜日	1	2	3	4	5	
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	
1	8月31日	月	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月1日	火	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月2日	水	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月3日	木	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月4日	金	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
2	9月7日	月	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月8日	火	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月9日	水	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月10日	木	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
	9月11日	金	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ	地域医療学Ⅱ		
3	9月14日	月	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
	9月15日	火	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
	9月16日	水	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
	9月17日	木	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
	9月18日	金	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
4	9月21日	月	祝日					
	9月22日	火	祝日					
	9月23日	水	祝日					
	9月24日	木	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
	9月25日	金	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)		
	9月26日	土	医療安全シンポジウム					
5	9月28日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学		
	9月29日	火	腎臓病学	腎臓病学	血液病学	血液病学		
	9月30日	水	神経病学	神経病学	臨床検査医学	臨床検査医学		
	10月1日	木	消化器病学	消化器病学	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学		
	10月2日	金	産婦人科学	産婦人科学	呼吸器病学	呼吸器病学		
6	10月5日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学		
	10月6日	火	腎臓病学	腎臓病学	地域医療発表会	地域医療発表会	地域医療発表会	
	10月7日	水	神経病学	神経病学	臨床検査医学	臨床検査医学		
	10月8日	木	消化器病学	消化器病学	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学		
	10月9日	金	CBT学内模試					
7	10月12日	月	祝日					
	10月13日	火	腎臓病学	腎臓病学	血液病学	血液病学		
	10月14日	水	神経病学	神経病学	臨床検査医学	臨床検査医学		
	10月15日	木	消化器病学	消化器病学	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	動物慰霊祭	
	10月16日	金	産婦人科学	産婦人科学	呼吸器病学	呼吸器病学		
8	10月19日	月	産婦人科学	産婦人科学	インフルエンザワクチン接種			
	10月20日	火	腎臓病学	腎臓病学	血液病学	血液病学		
	10月21日	水	神経病学	神経病学	臨床検査医学	臨床検査医学		
	10月22日	木	消化器病学	消化器病学	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学		
	10月23日	金	小児科学			呼吸器病学		
9	10月26日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学	呼吸器病学	
	10月27日	火	腎臓病学	腎臓病学	医療プロフェッショナルリズムⅢ(BLS)			
	10月28日	水	神経病学	神経病学	臨床検査医学	臨床検査医学		
	10月29日	木	消化器病学	消化器病学	内分泌・代謝病学	内分泌・代謝病学	血液病学	
	10月30日	金	小児科学			呼吸器病学		
10	11月2日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学	呼吸器病学	
	11月3日	火	祝日					
	11月4日	水	神経病学	神経病学	臨床検査医学	臨床検査医学		
	11月5日	木	消化器病学	消化器病学	血液病学	血液病学		
	11月6日	金	小児科学	小児科学	B型肝炎ワクチン接種3回目			

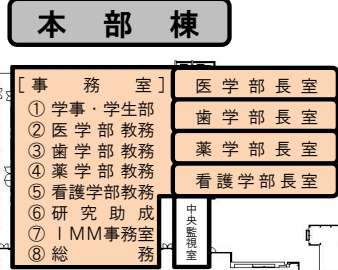
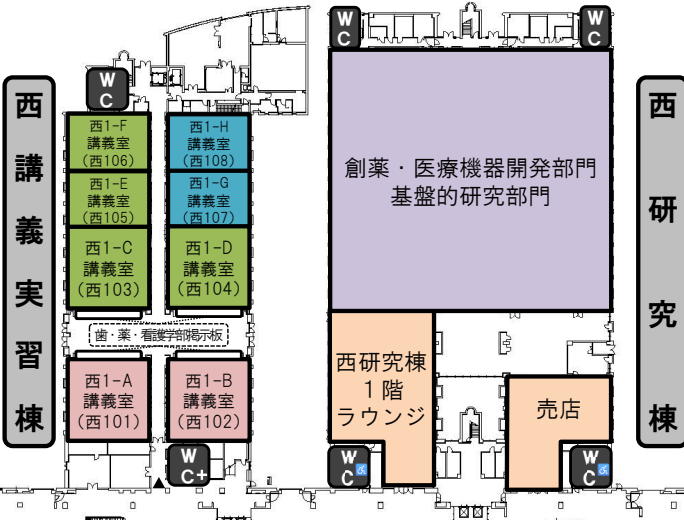
週数	月日	曜日	1	2	3	4	5	
			8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	
11	11月9日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学	免疫病学	
	11月10日	火	腎臓病学	腎臓病学	血液病学	血液病学		
	11月11日	水	神経病学	神経病学	免疫病学	呼吸器病学	呼吸器病学	
	11月12日	木	消化器病学	消化器病学	免疫病学	免疫病学		
	11月13日	金		小児科学	呼吸器病学	呼吸器病学		
12	11月16日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学	免疫病学	
	11月17日	火	腎臓病学	腎臓病学	血液病学	血液病学	免疫病学	
	11月18日	水	神経病学	神経病学		免疫病学		
	11月19日	木	消化器病学	消化器病学	小児科学	呼吸器病学		
	11月20日	金	小児科学			呼吸器病学	呼吸器病学	
13	11月23日	月	祝日					
	11月24日	火	腎臓病学	腎臓病学	血液病学	血液病学	免疫病学	
	11月25日	水	医学研究リテラシー・研究室配属（研究室配属報告会）					
	11月26日	木	消化器病学	消化器病学	臨床医学演習	臨床医学演習	免疫病学	
	11月27日	金	小児科学	小児科学		呼吸器病学		
14	11月30日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学		
	12月1日	火	腎臓病学	腎臓病学		血液病学	免疫病学	
	12月2日	水	神経病学	神経病学	小児科学	臨床医学演習		
	12月3日	木	消化器病学	消化器病学	臨床医学演習	臨床医学演習		
	12月4日	金			B型肝炎接種後採血			
15	12月7日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	循環器病学		
	12月8日	火	腎臓病学	小児科学	血液病学	血液病学		
	12月9日	水	小児科学		臨床医学演習	臨床医学演習		
	12月10日	木	消化器病学	消化器病学	臨床医学演習	臨床医学演習		
	12月11日	金			呼吸器病学	呼吸器病学	呼吸器病学	
16	12月14日	月	産婦人科学	産婦人科学	循環器病学	免疫病学		
	12月15日	火	小児科学	臨床医学演習	血液病学	血液病学		
	12月16日	水	小児科学	臨床医学演習	免疫病学	免疫病学		
	12月17日	木	消化器病学	消化器病学	臨床医学演習	臨床医学演習		
	12月18日	金						
冬休み（12月18日～1月3日）								
後期進級試験（1月7日～1月28日）								
B型肝炎ワクチン追加接種（1月7日午後）								
次年度医学研究リテラシーⅡ（研究室配属）ガイダンス（2月2日）								
B型肝炎ワクチン接種後採血（2月4日）								
進級判定Ⅰ（2月10日）								
再試験（2月17日～2月22日）								
進級判定Ⅱ（3月3日）								

1F

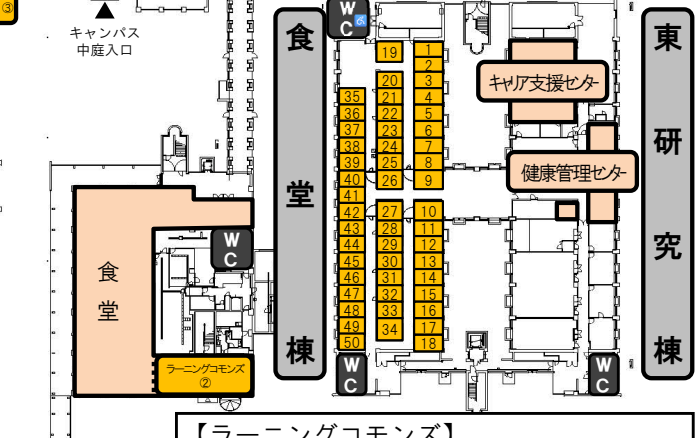
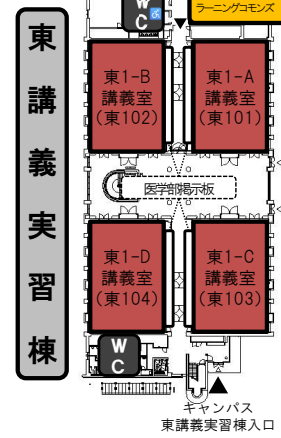
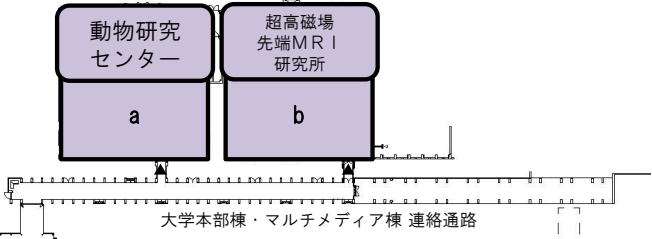
矢巾キャンパス平面図



- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他主要施設



【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】
a, b : 歯薬薬総合研究所・基盤的研究部門

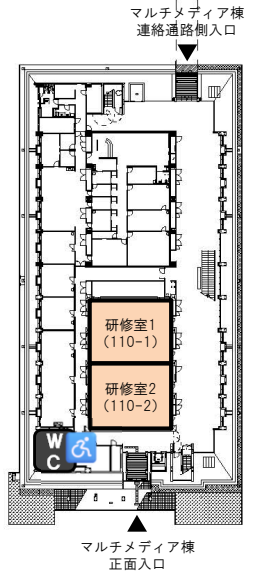


- 【ラーニングcommons】
- ① プレゼンテーションエリア (丸善隣)
 - ② コラボレーションエリア (食堂奥)
 - ③ アレンジメントエリア (東講義実習棟1階)
- 【体育館棟】
- a : 人間科学科 (体育学分野)

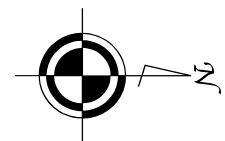


- ♥ : AED (自動体外式除細動器)
- WC : トイレ (♿ : 多目的付, + : オストメイト対応)

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



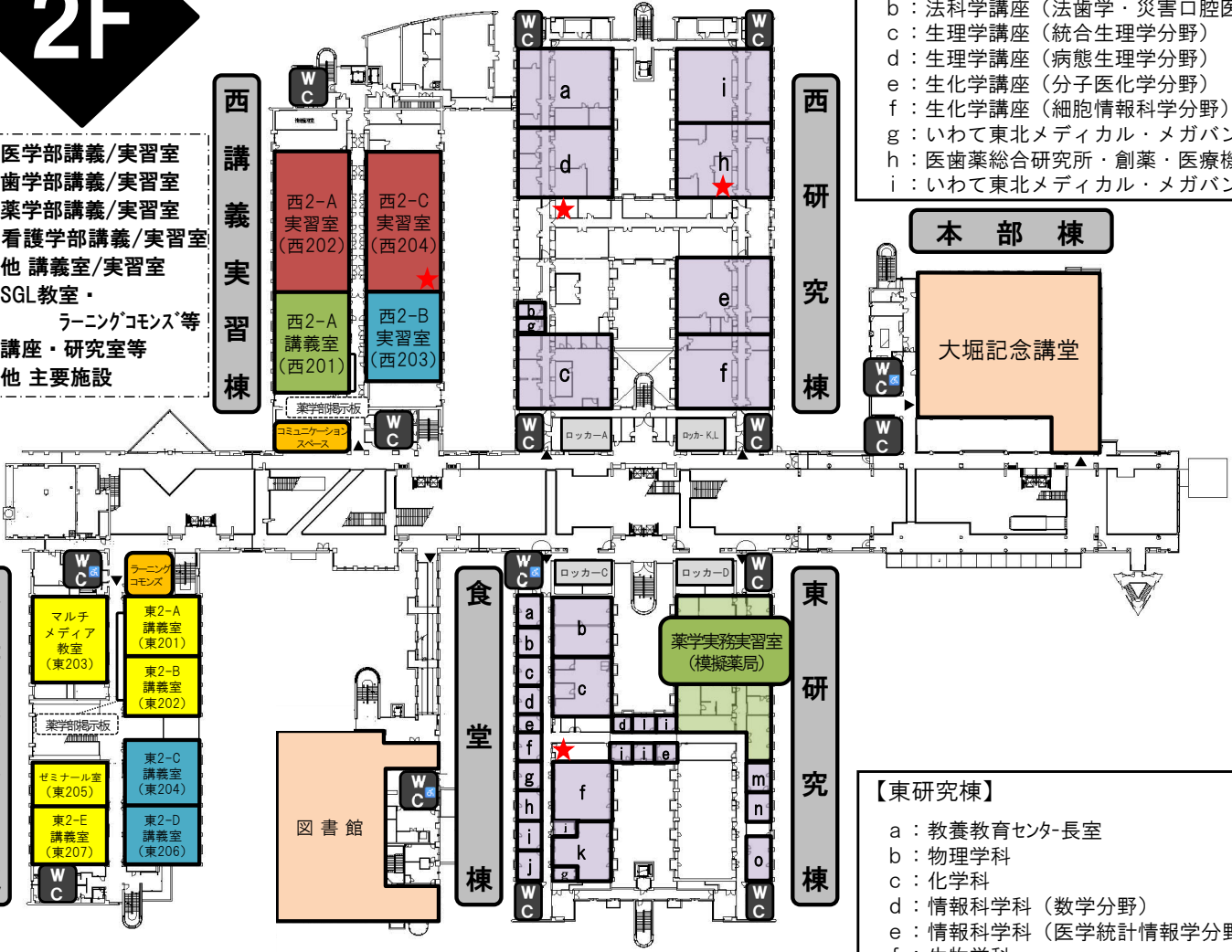
2F



- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他 講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他 主要施設

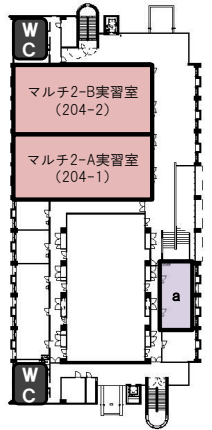
- 【西研究棟】
- a : 法科学講座 (法医学分野)
 - b : 法科学講座 (法歯学・災害口腔医学分野)
 - c : 生理学講座 (統合生理学分野)
 - d : 生理学講座 (病態生理学分野)
 - e : 生化学講座 (分子医化学分野)
 - f : 生化学講座 (細胞情報科学分野)
 - g : いわて東北メディカル・メガバンク機構
 - h : 医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
 - i : いわて東北メディカル・メガバンク機構

- 動物研究センター
- 超高磁場先端MRI研究所



- 【東研究棟】
- a : 教養教育センター-長室
 - b : 物理学科
 - c : 化学科
 - d : 情報科学科 (数学分野)
 - e : 情報科学科 (医学統計情報学分野)
 - f : 生物学科
 - g : 人間科学科 (心理学・行動科学分野)
 - h : 人間科学科 (文学分野)
 - i : 外国語学科 (英語分野)
 - j : 人間科学科 (哲学分野)
 - k : 人文社会語学系研究室
 - l : 人間科学科 (法学分野)
 - m : 全学教育推進機構長室
 - n : 口腔医学講座 (歯科医学教育学分野)
 - o : 看護専門基礎講座

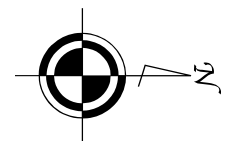
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



- 【災害時地域医療支援教育センター】
- a : 救急・災害医学講座

- ★ : 緊急時用シャワー
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

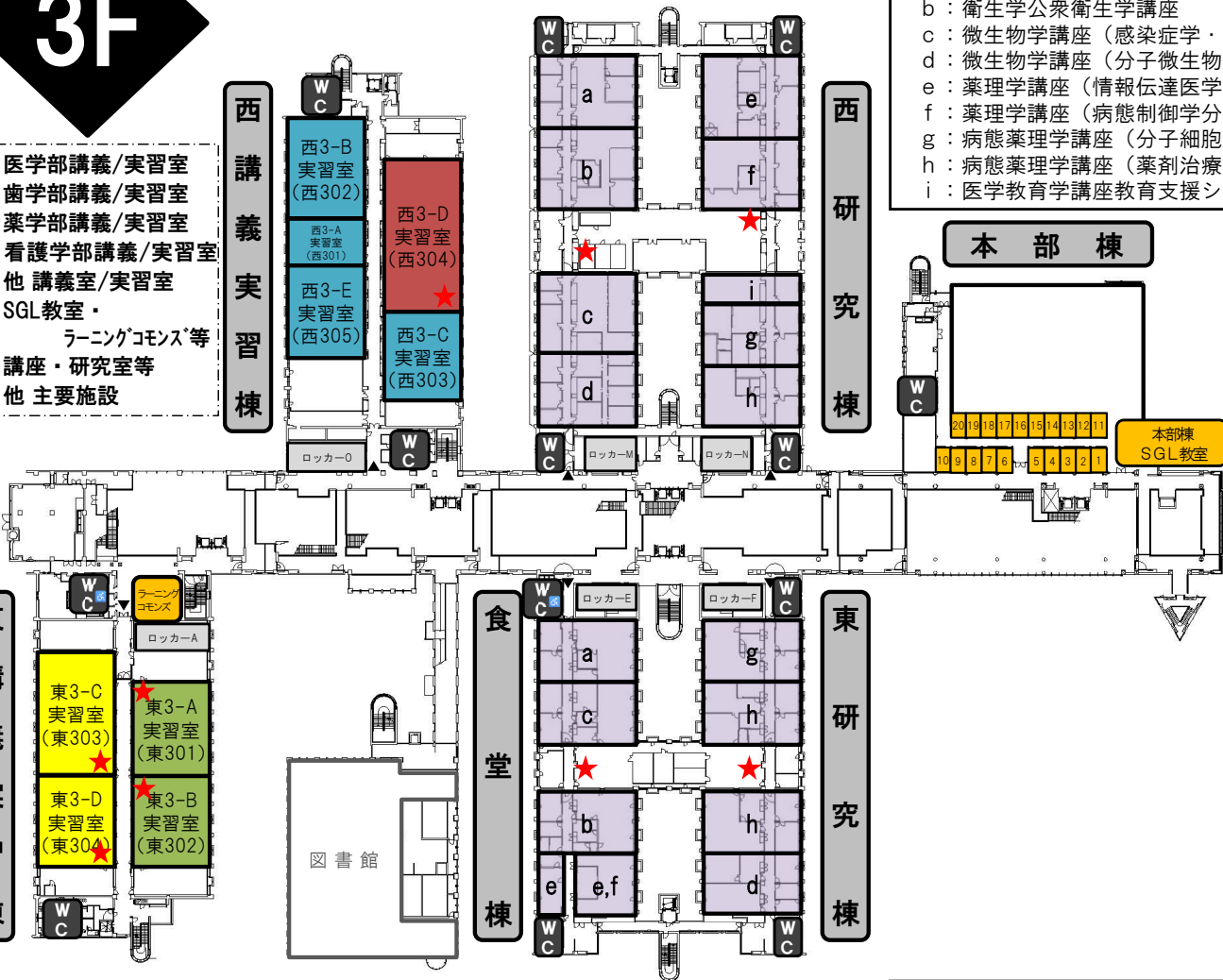
3F



- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他主要施設

【西研究棟】

- a : 医療工学講座
- b : 衛生学公衆衛生学講座
- c : 微生物学講座 (感染症学・免疫学分野)
- d : 微生物学講座 (分子微生物学分野)
- e : 薬理学講座 (情報伝達医学分野)
- f : 薬理学講座 (病態制御学分野)
- g : 病態薬理学講座 (分子細胞薬理学分野)
- h : 病態薬理学講座 (薬剤治療学分野)
- i : 医学教育学講座教育支援システム開発分野



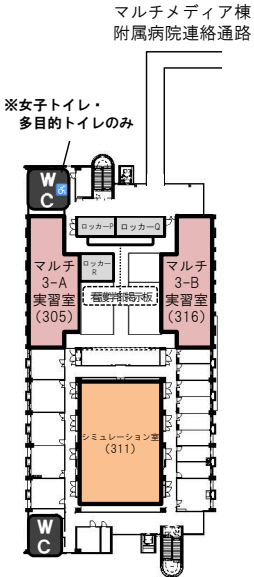
本部棟

動物研究センター

【東研究棟】

- a : 生物薬学講座 (生体防御学分野)
- b : 生物薬学講座 (機能生化学分野)
- c : 臨床薬学講座 (情報薬科学分野)
- d : 臨床薬学講座 (臨床薬剤学分野)
- e : 臨床薬学講座 (地域医療薬学分野)
- f : 臨床薬学講座 (薬学教育学分野)
- g : 病態薬理学講座 (臨床医化学分野)
- h : いわて東北メディカル・メガバンク機構

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



東講義実習棟

食堂

東研究棟

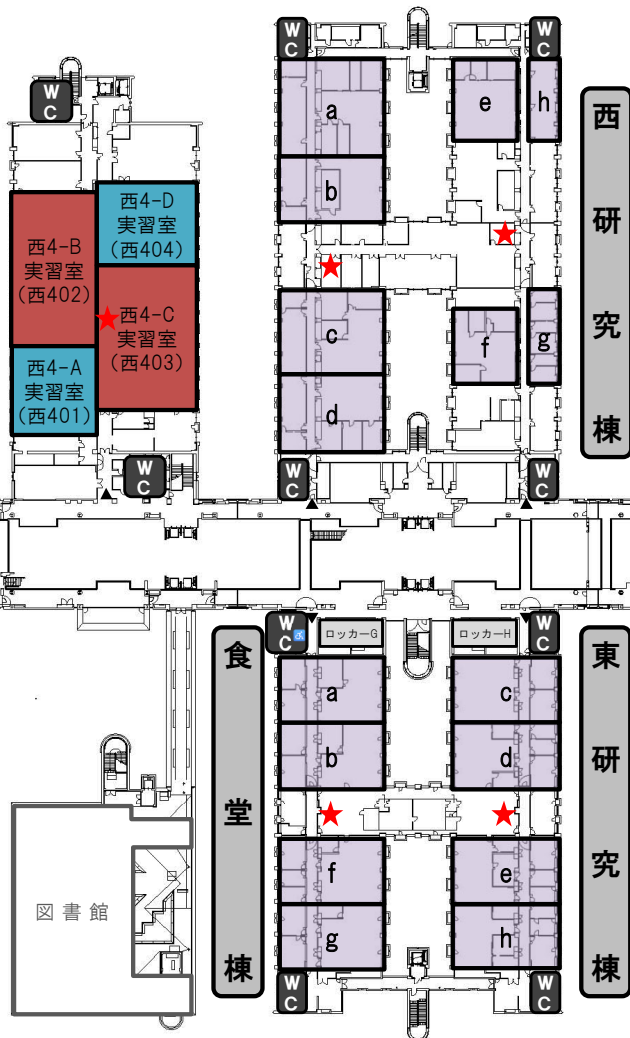
体育館棟

- ★ : 緊急時用シャワー
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

4F

- : 医学部講義/実習室
- : 歯学部講義/実習室
- : 薬学部講義/実習室
- : 看護学部講義/実習室
- : 他 講義室/実習室
- : SGL教室・ラーニングcommons等
- : 講座・研究室等
- : 他 主要施設

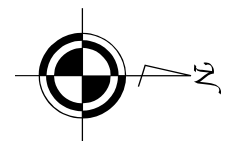
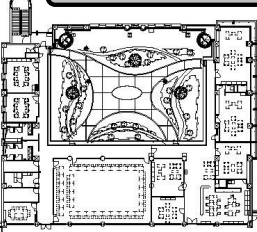
西講義実習棟



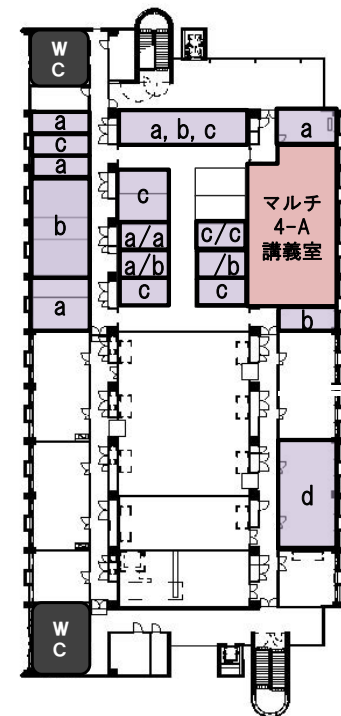
【西研究棟】

- a : 解剖学講座 (人体発生学分野)
- b : 解剖学講座 (機能形態学分野)
- c : 解剖学講座 (細胞生物学分野)
- d : 解剖学講座 (発生生物・再生医学分野)
- e : 病理学講座 (機能病態学分野)
- f : 病理学講座 (病態解析学分野)
- g : 病理学講座 教授室
- h : 病理学講座 スタッフルーム

本部棟



災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



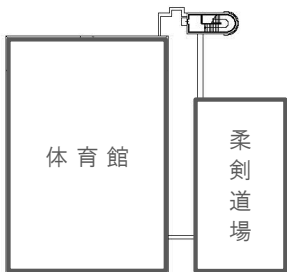
【東研究棟】

- a : 生物薬学講座 (神経科学分野)
- b : 薬科学講座 (分析化学分野)
- c : 薬科学講座 (天然物化学分野)
- d : 薬科学講座 (創薬有機化学分野)
- e : 薬科学講座 (構造生物薬学分野)
- f : 医療薬科学講座 (薬物代謝動態学分野)
- g : 医療薬科学講座 (創剤学分野)
- h : 医療薬科学講座 (衛生化学分野)

【マルチメディア教育研究棟】

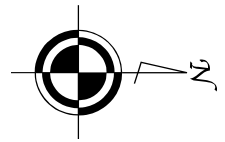
- a : 共通基盤看護学講座
- b : 地域包括ケア講座
- c : 成育看護学講座
- d : 医学教育学講座

体育館棟



- ★ : 緊急時用シャワー
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

トクタヴェール
(店 舗 棟)



2F

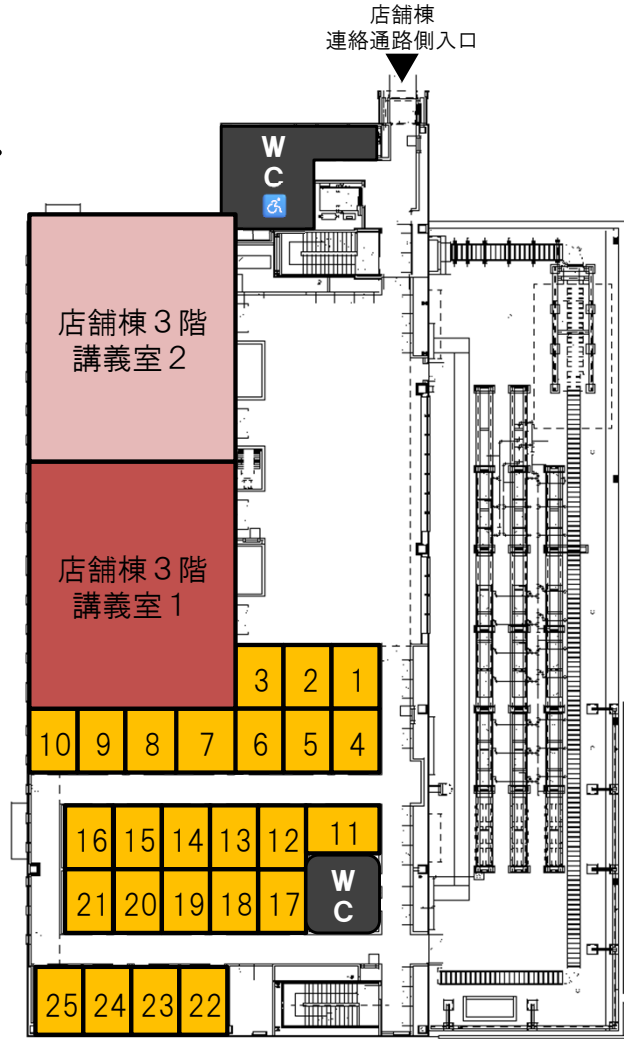
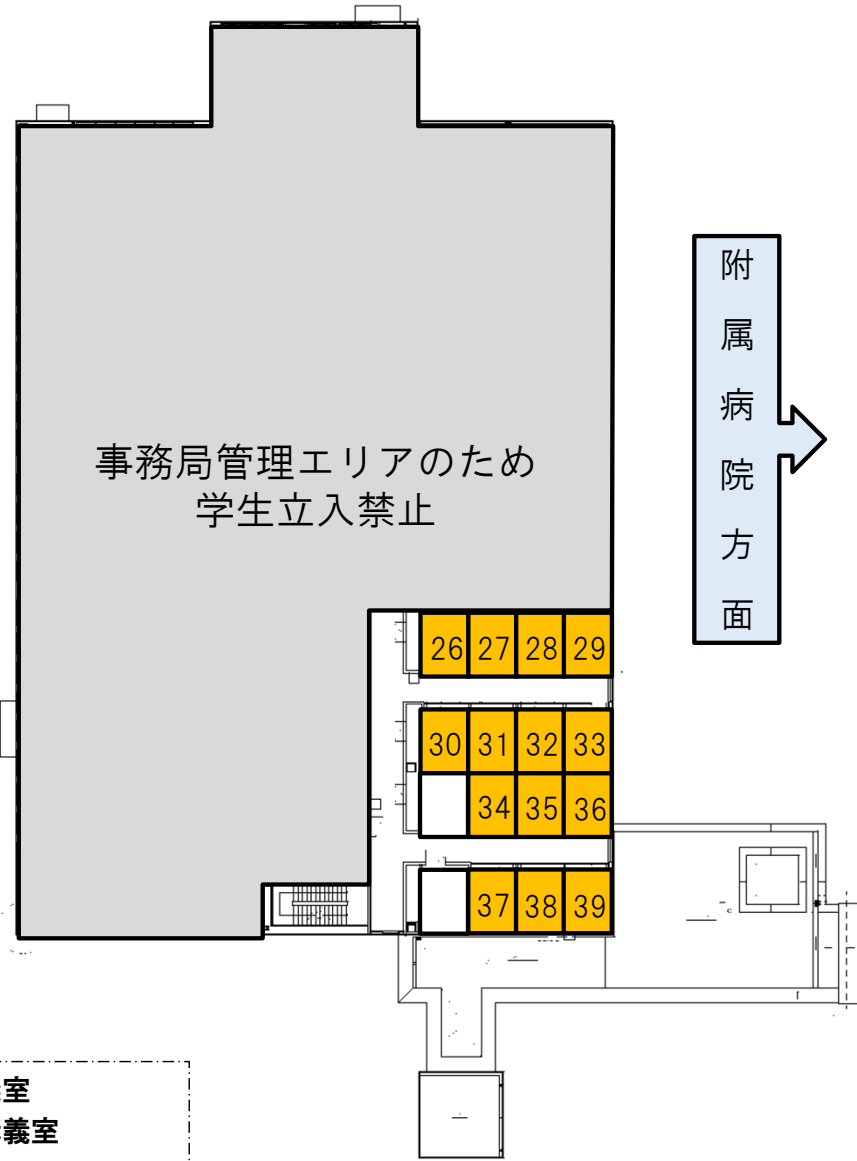
3F

大学本部棟方面

附属病院方面

大学本部棟方面

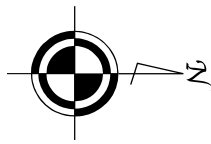
附属病院方面



- : 医学部講義室
- : 看護学部講義室
- : SGL教室
- WC : トイレ (♿ : 多目的付)

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

附属病院



5F



: SGL教室
WC : トイレ (: 多目的付)

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

講座・分野名の省略記載について

※教育要項（シラバス）に講座・分野名を記載するにあたり、下記のとおり名称を省略して記載する。

<u>正式名称</u>	<u>省略名称</u>
解剖学講座 人体発生学分野	人体発生学分野
解剖学講座 細胞生物学分野	細胞生物学分野
解剖学講座 機能形態学分野 ※歯学部	機能形態学分野
解剖学講座 発生生物・再生医学分野 ※歯学部	発生生物・再生医学分野
生理学講座 統合生理学分野	統合生理学分野
生理学講座 病態生理学分野 ※歯学部	病態生理学分野
生化学講座 分子医化学分野	分子医化学分野
生化学講座 細胞情報科学分野 ※歯学部	細胞情報科学分野
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	感染症学・免疫学分野
微生物学講座 分子微生物学分野 ※歯学部	分子微生物学分野
薬理学講座 情報伝達医学分野	情報伝達医学分野
薬理学講座 病態制御学分野 ※歯学部	病態制御学分野
病理学講座 機能病態学分野	機能病態学分野
病理学講座 病態解析学分野 ※歯学部	病態解析学分野
法科学講座 法医学分野	法医学分野
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野 ※歯学部	法歯学・災害口腔医学分野
医学教育学講座 医学教育学分野	医学教育学分野
医学教育学講座 地域医療学分野	地域医療学分野
内科学講座 消化器内科分野	消化器内科分野
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	糖・代・内分泌内科分野
内科学講座 腎・高血圧内科分野	腎・高血圧内科分野
内科学講座 循環器内科分野	循環器内科分野
内科学講座 呼吸器内科分野	呼吸器内科分野
内科学講座 リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野
内科学講座 血液腫瘍内科分野	血液腫瘍内科分野
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	脳神経内科・老年科分野
医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門	創薬・医療機器開発部門
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	基盤的研究部門
医歯薬総合研究所創薬支援リソース部門	創薬支援リソース部門
医歯薬総合研究所生命科学研究技術支援センター	生命科学研究技術支援センター
医歯薬総合研究所動物研究センター	動物研究センター
医歯薬総合研究所超高磁場先端MR I 研究センター	超高磁場先端MR I 研究センター
医歯薬総合研究所アイソトープ研究室	アイソトープ研究室
いわて東北メディカル・メガバンク機構生体情報解析部門	メガバンク生体情報解析部門

※教養教育センターについては、学科名・分野名のみの記載とする。

履 修 科 目

器官病理学

ナンバリング M3-S1-E04

責任者・コーディネーター	病理診断学講座 柳川 直樹 教授		
担当講座・学科（分野）	病理診断学講座、教育支援システム開発分野、病態解析学分野、創薬・医療機器開発部門		
担当教員	柳川 直樹 教授、前沢 千早 教授、入江 太郎 教授、菅井 有 名誉教授、佐藤 孝 名誉教授、木原 美和 客員教授、刑部 光正 准教授、杉本 亮 講師、阿保 亜紀子 講師、加藤 良平 非常勤講師、上杉 憲幸 非常勤講師、石田 和之 非常勤講師、若林 孝一 非常勤講師、黒瀬 顕 非常勤講師、西谷 匡央 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 36コマ 72.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 12コマ 24.0時間

・学習方針（講義概要等）

病理学は生理的状态の各臓器の構造、機能を理解すると共に病的状態での各臓器の変化、原因、経過、転帰あるいは死因を明らかにする学問である。
病理学各論では、疾病を臓器ごとにとらえ、個々の臓器における特定の疾病について学ぶ。個々の疾病は、総論で述べられた一つあるいは幾つかの病的異常によって成立している。即ち、各論では総論で学んだ異常についての意義を各個別の疾病について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

各臓器に生じる疾病の発生機序と病態、転機を理解することで、病理学の基礎的知識を正しく説明でき、問題解決能力を示すことができるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 2,3,4,5,6,7)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	病理学を学ぶ意義を説明できる。
2	各臓器で生じる共通の変化と特定の臓器のみに生じる固有の変化を指摘できる。
3	臓器ごとに生じる疾患を列挙し、代表的な疾患の病態を説明できる。

・講義場所

講義・実習：東1-0講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/2(木)	3	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	病理診断学入門	1,2,3	<p>【事前学修】 患者診療における病理診断の過程、重要性について Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ病理診断の具体的な方法と意義についてまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/2(木)	4	病理診断学講座	杉本 亮 講師	上部消化管の病理1 (食道)	1,2,3	<p>【事前学修】 食道の臨床解剖所見, 食道疾患の臨床病理像について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ食道の腫瘍, 非腫瘍性疾患における疫学, 臨床像, 病理像について, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	4/3(金)	1	病理診断学講座	杉本 亮 講師	上部消化管の病理1 (食道)	1,2,3	<p>【事前学修】 食道の組織所見, 食道疾患の組織像について, webclass上のvirtual slideを参照し, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 実習で学んだ食道の腫瘍, 非腫瘍性疾患における組織像について, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>

講義	4/3(金)	3	病理診断学講座	加藤 良平 非常勤講師	甲状腺の病理	1,2,3	<p>【事前学修】 甲状腺の臨床解剖所見，甲状腺の機能，甲状腺の代表的疾患の組織像について，Robbins Basic Pathology，カラールービン病理学，標準病理学などの教科書や参考書を読んで，自分なりにまとめのノートを作成する．所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ甲状腺疾患における疫学，臨床像，病理像について，それぞれまとめること．所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/3(金)	4	医学部	菅井 有名教授	下部消化管の病理1 (大腸腫瘍①)	1,2,3	<p>【事前学修】 大腸の臨床解剖所見，大腸ポリープや大腸癌の臨床病理像について，Robbins Basic Pathology，カラールービン病理学，標準病理学などの教科書や参考書を読んで，自分なりにまとめのノートを作成する．所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ大腸ポリープや大腸癌における疫学，臨床像，病理像について，それぞれまとめること．所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/6(月)	3	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器の病理1 (腫瘍①)	1,2,3	<p>【事前学修】 肺の解剖と肺癌の臨床病理像、鑑別について Robbins Basic Pathology，カラールービン病理学，標準病理学などの教科書や参考書を読んで，自分なりにまとめのノートを作成する．所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肺の解剖、肺癌の臨床病理学的特徴について講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる．所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/6(月)	4	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器の病理2 (腫瘍②)	1,2,3	<p>【事前学修】 転移性肺腫瘍、肺陽性腫瘍、悪性中皮腫の臨床病理像、癌との鑑別について、および縦隔の解剖、縦隔腫瘍の臨床病理像について Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ悪性中皮腫の臨床病理学的特徴、縦隔腫瘍の臨床病理学的特徴について、講義内容を踏まえて事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	4/6(月)	5	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器1 (腫瘍)	1,2,3	<p>【事前学修】 肺癌および悪性中皮腫の組織学的特徴について Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 実習で学んだ肺癌および悪性中皮腫の組織学的特徴を、実習内容を踏まえて、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/7(火)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	腎腫瘍・嚢胞、尿路腫瘍	1,2,3	<p>【事前学修】 必要な予備知識：以下の講義内容を振り返り知識を整理しておく。 ①2M分子生物学での血管新生。 ② 2M臨床解剖学、器官解剖学での腎・膀胱の解剖と正常組織の構成。 ③2M器官生理学での腎に於ける循環、体液。 上記①～③に関してプリントをwebclassにアップロードするので知識を整理しておく（所要時間 60分以上）</p> <p>【事後学修】 講義のまとめプリントを用意するので、理解出来なかった部分に関しては、自己学習ノートを作成する。更に疑問な点があれば、オフィスアワーを活用して質問する事で理解を深化させる（所要時間30分以上）。</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	4/7(火)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	腎腫瘍・嚢胞、尿路腫瘍	1,2,3	<p>【事前学修】 病理切片を観察して3限にスケッチする為に必要な基礎知識を整理しておく。プリントをwebclassにアップロードした資料を活用して、知識を整理しておく（所要時間 60分以上）。</p> <p>【事後学修】 実習時に配布する解説を熟読し、実習時に観察した組織像と照らし合わせ、疾患時に組織にどんな変化が生じるのかを言葉で書き表してみる。帰宅後でもWebClassにより実習標本の観察は可能なので、復習に用いる（所要時間 30分以上）</p> <p>【ICT】 実習時にはガラス標本を用いた顕微鏡実習を行うが、実習後自宅学習用にNZConnect経由でvirtual Slideを観察する。</p>

講義	4/8(水)	3	病理診断学講座	杉本 亮 講師	上部消化管の病理2 (非腫瘍性疾患, 特 に胃炎)	1,2,3	<p>【事前学修】 胃の臨床解剖所見, 非腫瘍性疾患の臨床病理像について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ胃の非腫瘍性疾患における疫学, 臨床像, 病理像について, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/8(水)	4	病理診断学講座	杉本 亮 講師	上部消化管の病理3 (胃腫瘍の病理, 特 に胃癌)	1,2,3	<p>【事前学修】 胃の上皮性腫瘍性疾患(特に胃癌)の臨床病理像について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ胃の腫瘍性疾患(特に胃癌)における疫学, 臨床像, 病理像について, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/9(木)	3	病態解析学分野	入江 太郎 教授	唾液腺の病変	1,2,3	<p>【事前学修】 唾液腺腫瘍について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ唾液腺腫瘍の種類と病理組織像について, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>

実習	4/9(木)	4	病態解析学分野	入江 太郎 教授	唾液腺の病変	1,2,3	<p>【事前学修】 唾液腺腫瘍について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 実習で学んだ唾液腺腫瘍の病理組織像の特徴について、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>
実習	4/9(木)	5	病理診断学講座	杉本 亮 講師	上部消化管2 (非腫瘍性疾患, 胃炎, 腫瘍性疾患, 胃癌, GIST)	1,2,3	<p>【事前学修】 胃の組織所見, 食道疾患の組織像, 腫瘍性疾患の組織像について、webclass上のvirtual slideを参照し、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 実習で学んだ胃の組織所見および非腫瘍性疾患, 腫瘍性疾患における組織像について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>
講義	4/10(金)	3	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	骨・関節・軟部腫瘍	1,2,3	<p>【事前学修】 骨・関節・軟部腫瘍の病理について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ骨腫瘍, 関節疾患, 軟部腫瘍の疫学, 臨床像, 病理像について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/10(金)	4	病理診断学講座	上杉 憲幸 非常勤講師	乳腺の病理	1,2,3	<p>【事前学修】 乳腺の疾患の組織像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ乳腺の疾患における疫学, 臨床像, 病理像について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/13(月)	3	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器の病理3 (非腫瘍性肺疾患)	1,2,3	<p>【事前学修】 肺の臨床解剖所見, 肺の機能, 肺の代表的疾患 (特に肺炎, 間質性肺炎) の組織像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肺疾患における疫学, 臨床像, 病理像について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	4/13(月)	4	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器2 (非腫瘍性肺疾患)	1,2,3	<p>【事前学修】 肺の解剖、代表的非腫瘍性疾患の組織学的特徴についてRobbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 実習で学んだ肺の正常構造、非腫瘍性疾患の組織学的特徴を実習内容を踏まえて、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>

講義	4/14(火)	3	病理診断学講座	木原 美和 客員 教授	循環器(弁膜症,心内膜炎,心筋炎)	1,2,3	<p>【事前学修】 弁膜症, 心内膜炎, 心筋炎について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ, 弁膜症, 心内膜炎, 心筋炎の病理についてそれぞれまとめる. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/14(火)	4	病理診断学講座	木原 美和 客員 教授	循環器 (心肥大,心筋症,心外膜炎,先天性心奇形)	1,2,3	<p>【事前学修】 心肥大, 心筋症, 心外膜炎, 先天性心奇形について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ, 心肥大, 心筋症, 心外膜炎, 先天性心奇形の病理についてそれぞれまとめる. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/20(月)	3	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	腎(糸球体、尿細管間質、腎血管の非腫瘍性疾患)	1,2,3	<p>【事前学修】 腎臓の解剖、正常組織像の復習を行うと共に、主な糸球体疾患について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ非腫瘍性腎疾患の種類と病理組織像について, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/20(月)	4	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	男性生殖器(精巣、精巣上体、前立腺、陰嚢、陰茎の疾患)	1,2,3	<p>【事前学修】 男性生殖器の解剖、正常組織像の復習を行うとともに、主な男性生殖器疾患について教科書や参考書を読んで、自分でまとめる。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ男性生殖器疾患の種類と病理組織像について、自分でまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/21(火)	3	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	貧血	1,2,3	<p>【事前学修】 骨髄の解剖、貧血の病理について、Robbins Basic Pathology, カラールービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめたノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ貧血の病態について復習し、貧血の種類、鑑別診断についてまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/21(火)	4	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	白血病	1,2,3	<p>【事前学修】 白血病について、Robbins Basic Pathology, カラールービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめたノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ白血病の病態について復習し、遺伝子異常や、分子標的治療についてまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/22(水)	3	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	反応性リンパ節病変	1,2,3	<p>【事前学修】 リンパ節の正常構造と対比し、非腫瘍性リンパ節症の病理について、Robbins Basic Pathology、カラールービン病理学、標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ非腫瘍性リンパ節症の特異的な病理組織像の特徴について、それぞれまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/22(水)	4	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	悪性リンパ腫	1,2,3	<p>【事前学修】 悪性リンパ腫の病理について、Robbins Basic Pathology、カラールービン病理学、標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ悪性リンパ腫の臨床的特徴ならびに病理組織像について、それぞれまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/23(木)	3	病理診断学講座	石田 和之 非常勤講師	肝(代謝障害・炎症性疾患・原発性肝腫瘍) ¹	1,2,3	<p>【事前学修】 肝の代謝障害、炎症性疾患、原発性肝腫瘍について該当する範囲を指定教科書や参考図書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で配布するレジメを熟読し、関係する教科書や参考書を参照して自分なりのノートを作成する。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/23(木)	4	病理診断学講座	石田 和之 非常勤講師	肝(代謝障害・炎症性疾患・原発性肝腫瘍)2	1,2,3	<p>【事前学修】 肝の代謝障害、炎症性疾患、原発性肝腫瘍について該当する範囲を指定教科書や参考図書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で配布するレジメを熟読し、関係する教科書や参考書を参照して自分なりのノートを作成する。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/24(金)	3	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	卵巣の病理 1	1,2,3	<p>【事前学修】 卵巣の解剖、生理と卵巣上皮性腫瘍の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 卵巣の解剖と卵巣上皮性腫瘍の臨床病理像について、講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/24(金)	4	医学部	菅井 有 名誉教授	下部消化管の病理 2 (大腸腫瘍②)	1,2,3	<p>【事前学修】 大腸の臨床解剖所見, 大腸ポリープや大腸癌の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ大腸ポリープや大腸癌における疫学, 臨床像, 病理像について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/27(月)	3	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	卵巢の病理 2	1,2,3	<p>【事前学修】 卵巢の解剖、生理と卵巣性索間質性腫瘍と胚細胞腫瘍の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 卵巢の解剖、卵巣性索間質性腫瘍と胚細胞腫瘍の臨床病理像について、講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	4/27(月)	4	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	卵巢	1,2,3	<p>【事前学修】 卵巢の解剖、生理と卵巣性索間質性腫瘍と胚細胞腫瘍の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 卵巢上皮性腫瘍、卵巣性索間質性腫瘍、胚細胞腫瘍の臨床病理像について、講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>
講義	4/28(火)	3	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	子宮頸部の病理	1,2,3	<p>【事前学修】 子宮頸部の解剖と子宮頸部疾患の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 子宮頸部の解剖と子宮頸部疾患の臨床病理像について、講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/28(火)	4	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	子宮体部の病理	1,2,3	<p>【事前学修】 子宮体部の解剖、生理と子宮体部疾患の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 子宮体部の解剖と子宮体部疾患の臨床病理像について、講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/30(木)	3	病理診断学講座	若林 孝一 非常勤講師	神経変性疾患と脱髄性疾患	1,2,3	<p>【事前学修】 神経変性疾患, 脱髄性疾患について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ多発性硬化症, 筋委縮性硬化症の病理についてまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	4/30(木)	4	医学部	佐藤 孝 名誉教授	脾臓	1,2,3	<p>【事前学修】 脾臓の解剖、病理について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ脾臓の構造、機能について復習するとともに、脾臓が関係する疾患について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	4/30(木)	5	病理診断学講座	黒瀬 頤 非常勤講師	神経系の病理	1,2,3	<p>【事前学修】 脳腫瘍について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ脳腫瘍の病理組織分類や遺伝子異常についてまとめる. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	5/1(金)	3	病理診断学講座	上杉 憲幸 非常勤講師	胆道・膵臓の病理 1	1,2,3	<p>【事前学修】 胆嚢, 肝外胆管の解剖と胆道疾患の臨床病理像について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ胆道領域の腫瘍, 非腫瘍性疾患における疫学, 臨床像, 病理像について, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	5/1(金)	4	病理診断学講座	上杉 憲幸 非常勤講師	胆道・膵臓の病理 2	1,2,3	<p>【事前学修】 膵臓の解剖と膵疾患の臨床病理像について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ膵臓領域の腫瘍, 非腫瘍性疾患における疫学, 臨床像, 病理像について, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

実習	5/8(金)	3	病理診断学講座	刑部 光正 准教授	子宮頸部・体部	1,2,3	<p>【事前学修】 子宮頸部・体部の解剖と子宮頸部疾患・体部疾患の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラールービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 子宮頸部・体部の解剖と子宮頸部疾患・体部疾患の臨床病理像について、講義内容を踏まえ、事前学習したノートをさらに深くまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>
講義	5/8(金)	4	医学部	菅井 有 名誉教授	下部消化管の病理3 (炎症性腸疾患)	1,2,3	<p>【事前学修】 大腸の炎症性腸疾患, 代表的な腸炎(偽膜性腸炎, 虚血性腸炎, アメーバ赤痢), 大腸憩室症の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラールービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ大腸の炎症性腸疾患, 代表的な腸炎(偽膜性腸炎, 虚血性腸炎, アメーバ赤痢), 大腸憩室症における疫学, 臨床像, 病理像について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	5/11(月)	3	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	貧血、白血病	1,2,3	<p>【事前学修】 貧血、白血病について、Robbins Basic Pathology, カラールービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 貧血、白血病の骨髄病理組織像についてまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>

実習	5/11(月)	4	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	リンパ節	1,2,3	<p>【事前学修】 反応性リンパ節疾患, 悪性リンパ腫について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 反応性リンパ節疾患, 悪性リンパ腫の組織像についてまとめる. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>
講義	5/13(水)	3	創薬・医療機器開発部門	阿保 亜紀子 講師	皮膚の病変	1,2,3	<p>【事前学修】 皮膚病変の病理について, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ皮膚の炎症性疾患ならびに腫瘍性病変の病理組織像の特徴について, それぞれまとめる. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	5/13(水)	4	病理診断学講座	杉本 亮 講師	下部消化管 (大腸腫瘍・炎症性腸疾患)	1,2,3	<p>【事前学修】 大腸ポリープおよび, 炎症性腸疾患, 代表的な腸炎 (偽膜性腸炎, 虚血性腸炎, アメーバ赤痢), 大腸憩室症の臨床病理像についてについて, Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで, 自分なりにまとめのノートを作成する. 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ大腸ポリープや炎症性腸疾患, 代表的な腸炎 (偽膜性腸炎, 虚血性腸炎, アメーバ赤痢), 大腸憩室症における疫学, 臨床像, 病理像についてについて, それぞれまとめること. 所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>

講義	5/14(木)	3	病理診断学講座	西谷 匡央 非常勤講師	下垂体と副腎	1,2,3	<p>【事前学修】 下垂体、副腎の正常構造と機能および下垂体疾患、副腎疾患の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ下垂体、副腎の正常構造と機能について復習するとともに、機能亢進および機能低下を来す疾患について、それぞれまとめること。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
実習	5/14(木)	4	病理診断学講座	西谷 匡央 非常勤講師	下垂体と副腎	1,2,3	<p>【事前学修】 下垂体、副腎の正常構造と機能および下垂体疾患、副腎疾患の臨床病理像について、Robbins Basic Pathology, カラー ルービン病理学, 標準病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 実習で学んだ、下垂体と副腎の正常構造や、下垂体腺腫、副腎皮質腺腫、神経芽腫、褐色細胞腫の病理組織像の特徴についてそれぞれまとめる。所要時間 120分以上</p> <p>【ICT】 NZConnectに事前資料 (virtual Slide)をアップする</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準病理学 第7版	北川昌伸監修	医学書院	2023
教科書	NEWエッセンシャル病理学 6版	長村義之ほか編	医歯薬出版	2009
参考書	カラーアトラス基礎組織病理学 第4版	A. スティーヴンスほか著 今井 大ほか監訳	西村書店	2004
参考書	カラーアトラスマクロ病理学 第3版	Robin A. Cooke, Brian Stewart 著、山川光徳ほか 訳	西村書店	2005
参考書	解明 病理学：病気のメカニズムを解く 第4版	青笹克之 編	医歯薬出版	2021
推薦図書	Robbins Basic Pathology, 11e (Robbins Pathology)	V. Kumar, et al	Elsevier	2022
推薦図書	ロビンス基礎病理学 原書11版	V. Kumar, 他	丸善出版	2025
推薦図書	カラー ルービン病理学—臨床医学への基盤 改訂版	ラファエル・ルービン, 他	西村書店	2017

・成績評価方法

【総括評価】

中間試験（50%）、進級試験（50%）で評価し、100点満点に換算して60点以上を合格とする。
 中間試験範囲：食道、甲状腺、呼吸器、腎嚢胞尿路腫瘍、胃、唾液腺、骨・関節・軟部腫瘍、乳腺、循環器、腎、男性生殖器、貧血、白血病
 進級試験範囲：リンパ節疾患、肝臓、卵巣、子宮頸部、子宮体部、神経変性疾患、神経系腫瘍、脾臓、大腸、胆膵、皮膚、下垂体・副腎

【形成的評価】

実習時の出欠はスケッチやポートフォリオの提出をもってこれに変える。
 講義終了時、小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。
 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～3	2～7	50			50			100
合計		50			50			100

・特記事項・その他

NZConnectにアクセスして実習を行うので、各自のPCおよびLANコードを必ず持参すること。
 シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低60分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。
 講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、バーチャルスライド、PC、インターネット環境、コンピュー

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	A3カラーレーザービームプリンター	1	講義資料印刷で使用
実習	実習用生物顕微鏡	100	組織実習
実習	ディスカッション用顕微鏡	1	組織実習、講義
実習	顕微鏡撮像カメラ	1	組織実習、講義
実習	顕微鏡像モニターテレビ	4	組織実習、講義
実習	顕微鏡像投影大型映写システム	1	組織実習、講義
実習	組織真空パック包装機	1	肉眼標本作製
実習	液晶モニター	4	組織実習、講義
実習	バーチャルスライド作成装置一式	1	実習用
実習	カラー複合機（RC2880F）	1	講義・実習用教材作成
実習	HXシステムディスクバリー一式	1	講義・実習用教材作成
実習	パソコン一式（PC-MY18RBSJ5XS3）	1	講義・実習用教材作成
実習	バーチャルスライド画像解析システム	1	供覧標本への活用
講義	クールスキャン（LS5000）	1	講義資料作成
講義	パソコン（Vostrp1200）	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン（iBook12G/12.1COMBO）	1	講義時のスライド投影
講義	ノートパソコン（VersaProYV13M/EDX）	1	講義・実習用教材作成
講義	ノートパソコン（CF-W4GW9AXS）	1	講義・実習用教材作成
講義	レーザープリンター一式	1	講義資料作成
実習	サーマルサイクラー	2	実習用

実習	研究用保冷庫	2	実習用
実習	バイオマルチクーラー一式	1	実習用
講義	ノートパソコン (matePC-MY32EM)	1	講義用
講義	ノートパソコン (FM-BIBLOLOOKT70S)	1	講義用
講義	ノートパソコン (dx7300MT/CT)	1	講義用
実習	AppliedBiosystem7500リアルタイムPCR	1	実習用
実習	ペンタナHXシステムディスクバリー	1	実習用
実習	純水製造装置	1	実習用
講義	正立顕微鏡 Ci-L 一式	1	講義用
講義	ノートパソコン MacBook Pro 13インチ	1	講義用
講義	デスクトップパソコン XPS(8940)	1	講義用
講義	オリンパス製コンパクトデジカメ顕微鏡撮影システム TG-6 スーパーシステム 一式	1	講義用
講義	高解像高感度4KコンパクトカラーCMOSカメラ	1	講義用
講義	ノートパソコン VAIO Z VJZ1411/SIGMA TURE EDITION	1	講義用
講義	レーザービームプリンター	1	講義用
講義	デスクトップパソコン 24インチ iMac Retina 4.5Kディスプレイモデル ブルー	1	講義用

疫学・環境医学

ナンバリング M3-S1-C03

責任者・コーディネーター		衛生学公衆衛生学講座 丹野 高三 教授	
担当講座・学科（分野）		衛生学公衆衛生学講座、総合診療医学講座	
担当教員		丹野 高三 教授、小野田 敏行 客員教授、赤坂 憲准教授、事崎 由佳 講師、田鎖 愛理 講師、下田 陽樹 助教、高梨 信之 助教(任期付)	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 22コマ 44.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 32コマ 64.0時間

・学習方針（講義概要等）

疫学は公衆衛生の基礎をなし、集団における健康上の障害となっている問題点を明らかにして、効果的な疾病予防と健康増進対策の科学的根拠を提供する。また、臨床をはじめ様々な分野に応用されている実践の学問分野である。疫学の基礎知識と多くの分野へ応用できる能力の獲得を目指す。環境医学では環境と人間生活との関わりと人間の健康に及ぼす影響について学ぶ。講義は演習を含み講義時間内に基本的な知識・技術の獲得を目指す。学生実習では学生が個々の課題を選択あるいは自由課題によって取り組み、研究発表とレポート提出を行う。学生諸君の自主的な取り組みに期待したい。

・教育成果（アウトカム）

1. 疫学研究方法論を学ぶことにより環境と健康の相互関連を説明できる。
2. 人口統計や保健統計を学ぶことにより健康な生活を支えている社会の制度を説明できる。
3. 疫学研究成果を学ぶことにより生活習慣と健康の関連の重要性を説明できる。
4. 環境の測定方法と評価の基準を学ぶことにより健康維持に必要な環境の重要性を説明できる。
5. 人間社会を対象とした研究の実施方法と研究のまとめ方を学ぶことにより科学的証拠について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	疫学の目的と手法について概略を説明できる。
2	疫学に用いる指標について概略を説明できる。
3	人口統計と保健統計について概略を説明できる。
4	記述疫学について説明できる。
5	生態学的研究の基本的特徴について説明できる。
6	横断研究の基本的特徴を説明できる。
7	コホート研究の基本的特徴を説明できる。
8	症例対照研究の基本的特徴について説明できる。
9	介入研究の基本的特徴を説明できる。
10	バイアスや交絡について説明できる。
11	年齢調整を直接法・間接法を用いて行うことができる。
12	因果関係と疫学的手法の関連を説明できる。

13	スクリーニングの基本的概念を説明できる。
14	臨床疫学の概略について説明できる。
15	環境による健康リスクについて概略を説明できる。
16	室内の温熱要素・空気成分を健康との関連で説明できる。
17	住居、衣服の役割について説明できる。
18	音・電磁波などの物理的環境条件の健康影響について説明できる。
19	上下水道の仕組みと廃棄物処理の意義を説明できる。
20	社会が直面する地球環境の問題を説明できる。
21	環境の諸要素について測定し評価する技法を修得する。
22	公衆衛生学上の課題について調査研究し、学会形式で発表し、論文形式でレポートを作成できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室 実習：西2-A実習室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/2(木)	1	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	環境保健学概論	15	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで環境保健や化学物質の生体影響について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 環境基本法をはじめとする法体系、典型7公害に関する一般的事項、化学物質の生体影響について、列挙しまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/2(木)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	実習説明・実習班編成	22	<p>【事前学修】 教科書や参考書を概観し、学習範囲をよく確認する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 自身の興味のあるテーマを探しつつ、周囲と相談して実習班編成を進める。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 実習資料をWebClassに公開する。</p>

講義	4/6(月)	1	総合診療医学講座	田鎖 愛理 講師	温熱環境	15,16	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで温熱環境について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 温熱環境とその影響を列挙すること。環境保健実習で測定機器を用いて実際に測定するため、温熱指標の復習も行うこと。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/6(月)	2	総合診療医学講座	田鎖 愛理 講師	居住環境・空気	15,16,17	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで居住環境や空気質について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 居住環境における健康障害についてまとめること。環境保健実習で測定機器を用いて実際に環境測定するため、よく復習すること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/7(火)	1	総合診療医学講座	田鎖 愛理 講師	光線・電磁波	15,18	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで光線・電磁波について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 光線・電磁波とその影響を列挙すること。環境保健実習で測定機器を用いて実際に測定するためよく復習すること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/7(火)	2	総合診療医学講座	田鎖 愛理 講師	大気汚染・騒音・振動	15,18,20	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで大気汚染・騒音・振動について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 大気汚染の環境基準やその指標、公害のエピソードについてそれぞれまとめること。騒音・振動とその影響を列挙すること。環境保健実習で測定機器を用いて実際に測定するためよく復習すること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>

講義	4/9(木)	1	総合診療医学講座	田鎖 愛理 講師	上水道、下水道	15,19	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで上下水道について事前学習する。第2学年で履修した微生物学、組織学・臨床解剖学・器官生理学のうち消化器・呼吸器に関する内容の復習を行う。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 上下水道の意義や国際的課題・関連組織について100～200字で要約すること。水系伝染病の原因と特徴を列挙しまとめること。上水道の浄水法と水質基準について100～200字で要約すること。下水処理方式と水質の指標について100～200字で要約すること。ミニテストの内容について、講義資料を確認して復習すること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。WebClassのチャット機能を用いて双方向型のICT活用を導入する。</p>
講義	4/9(木)	2	総合診療医学講座	田鎖 愛理 講師	水質汚濁、土壌汚染	15,19	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで水質汚濁、土壌汚染について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 水質汚濁や土壌汚染の環境基準やその指標、公害のエピソードについてそれぞれまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/13(月)	1	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	地球環境問題	15,20	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで地球環境問題について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 様々な地球環境問題を列挙し、それぞれの要因および生体影響についてまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>

講義	4/13(月)	2	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	廃棄物・ダイオキシン	15,19,20	<p>【事前学修】 シンプル衛生公衆衛生学を読んで廃棄物やダイオキシンについて事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 廃棄物の種類とその処理、ダイオキシンの発生源や毒性、その基準値などをまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/14(火)	1	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	疫学総論	1	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで疫学研究法について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 疫学研究の5つのデザインとその特徴について簡潔にまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/14(火)	2	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	疫学指標	2	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで疫学指標について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 疫学指標の定義を簡潔に記載し、それぞれの指標について自身で計算できるようにすること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/15(水)	1	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	人口統計と保健統計	2,3	<p>【事前学修】 シンプル衛生学公衆衛生学を読んで人口統計と保健統計について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 人口動態統計と国勢調査の概要と両者の違い、歴史的経過と近年の傾向についてまとめること。国民生活基礎調査と患者調査の概要と両者の違い、近年の結果についてまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>

講義	4/15(水)	2	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	記述疫学、生態学的研究、横断研究	1,2,3,4,5,6	【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで記述疫学、生態学的研究と横断研究について事前学習する。所要時間 65分以上 【事後学修】 記述疫学、生態学的研究と横断研究の定義、研究に必要な資料、研究の利点と欠点についてまとめること。所要時間 65分以上 【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。
実習	4/16(木)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【ICT】 実習資料をWebClassに公開する。
実習	4/16(木)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【ICT】 実習資料をWebClassに公開する。
講義	4/21(火)	1	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	コホート研究	1,2,7	【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んでコホート研究について事前学習する。所要時間 65分以上 【事後学修】 コホート研究の定義、特徴、利点と欠点、測定できる疫学指標についてまとめること。所要時間 65分以上 【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。

講義	4/21(火)	2	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	症例対照研究	1,2,8	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで症例対照研究について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 症例対照研究の定義、特徴、利点と欠点、測定できる疫学指標についてまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/22(水)	1	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	介入研究	1,2,9	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで介入研究について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 介入研究の定義、特徴、利点と欠点、測定できる疫学指標とその計算方法についてまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/22(水)	2	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	バイアスと交絡	1,2,10	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで母集団と標本、バイアスについて事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 母集団と標本の相互関連、選択バイアス、情報バイアス、交絡因子について簡潔にまとめること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/23(木)	1	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	年齢調整	1,11	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んで年齢調整について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 年齢調整の意義、直接法と間接法の違いについて簡潔にまとめること。自身で直接法と間接法の計算が出来るようにすること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>

講義	4/23(木)	2	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	因果関係論	1,12	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学では信頼性と妥当性や因果関係論について事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 信頼性、妥当性について簡潔に記載し、因果関係判定の基準を列挙すること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
実習	4/27(月)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付)	環境保健実習1	15,21	<p>【事前学修】 実習内容を確認し、環境保健の講義内容を復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 温熱環境、騒音、照度、室内換気に関して、測定法や評価方法などを復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	4/27(月)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付)	環境保健実習1	15,21	<p>【事前学修】 実習内容を確認し、環境保健の講義内容を復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 温熱環境、騒音、照度、室内換気に関して、測定法や評価方法などを復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	4/28(火)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付)	環境保健実習2	15,21	<p>【事前学修】 実習内容を確認し、環境保健の講義内容を復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 温熱環境、騒音、照度、室内換気に関して、測定法や評価方法などを復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	4/28(火)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付)	環境保健実習2	15,21	<p>【事前学修】 実習内容を確認し、環境保健の講義内容を復習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 信頼性、妥当性について簡潔に記載し、因果関係判定の基準を列挙すること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>

講義	4/30(木)	1	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	スクリーニング	1,2,13	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んでスクリーニングについて事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 スクリーニングについて簡潔にまとめること。各指標について自身で計算できるようにすること。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
講義	4/30(木)	2	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	臨床疫学	1,2,14	<p>【事前学修】 はじめて学ぶやさしい疫学を読んでスクリーニングについて事前学習する。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 臨床疫学の定義、診断の一致性についてまとめること。また、検査や治療の評価指標について自身で計算できるようにすること。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 講義資料や小テストをWebClassに公開する。</p>
実習	5/7(木)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	5/7(木)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間 65分以上</p> <p>【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上</p> <p>【ICT】 実習資料をWebClassに公開する。</p>

実習	5/7(木)	3	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	5/7(木)	4	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	5/21(木)	3	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	5/21(木)	4	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/6(月)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。

実習	7/6(月)	2	<p>衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座</p>	<p>丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授</p>	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	7/6(月)	3	<p>衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座</p>	<p>丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授</p>	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	7/6(月)	4	<p>衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座</p>	<p>丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授</p>	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	7/7(火)	1	<p>衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座</p>	<p>丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授</p>	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>
実習	7/7(火)	2	<p>衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座</p>	<p>丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授</p>	公衆衛生学実習	22	<p>【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。</p>

実習	7/7(火)	3	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間60分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/7(火)	4	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/8(水)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/8(水)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/8(水)	3	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。

実習	7/8(水)	4	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/9(木)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 実習発表に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/9(木)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 実習発表に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/9(木)	3	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 実習発表に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/9(木)	4	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	公衆衛生学実習	22	【事前学修】 各班でテーマに沿った事前学習を分担内容に従って自主的に行うこと。所要時間65分以上 【事後学修】 次の実習に備えた準備を各班で自主的に行うこと。所要時間65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。

実習	7/10(金)	1	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	実習発表	22	【事前学修】 実習発表が円滑に進むよう、事前準備を自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【事後学修】 各発表の内容を復習すること。実習レポートの作成を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/10(金)	2	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	実習発表	22	【事前学修】 実習発表が円滑に進むよう、事前準備を自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【事後学修】 各発表の内容を復習すること。実習レポートの作成を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/10(金)	3	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	実習発表	22	【事前学修】 実習発表が円滑に進むよう、事前準備を自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【事後学修】 各発表の内容を復習すること。実習レポートの作成を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。
実習	7/10(金)	4	衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座 衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授 赤坂 憲 准教授 事崎 由佳 講師 下田 陽樹 助教 高梨 信之 助教 (任期付) 小野田 敏行 客員教授	実習発表	22	【事前学修】 実習発表が円滑に進むよう、事前準備を自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【事後学修】 各発表の内容を復習すること。実習レポートの作成を各班で自主的に行うこと。所要時間 65分以上 【ICT】実習資料をWebClassに公開する。

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	シンプル衛生公衆衛生学2026	辻一郎 監修、上島通浩、大久保孝義 編集	南江堂	2026
参考書	はじめて学ぶやさしい疫学 第4版	日本疫学会	南江堂	2024
参考書	国民衛生の動向2025/2026 (「厚生 の指標」臨時増刊号)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2025
参考書	健康と環境の科学	川添禎浩 編	講談社	2014
推薦図書	基礎から学ぶ楽しい疫学 第5版	中村一好	医学書院	2026

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（MCQ式、90%）と実習レポート（10%）で評価し、100点満点に換算して60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオ、実習発表内容やディスカッションの内容を評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～20	1～8				90			90
21,22	1～8		10					10
合計			10		90			100

・特記事項・その他

講義 22回（疫学研究方法論 12回、人口統計・保健統計 1回、環境保健学 9回）
実習 32回（選択課題実習 28回、環境保健実習 4回）

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本科目では、事前事後学修以外に4時間の自己学修を要す。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

病院や職域等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を行う。行政等の地域資源と連携したフィールドワークを通じて、地域の課題解決の方法について学ぶ。

・教育資源

教科書・参考書・講義室・実習室・PC・インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	1点式皮膚温度計	1	身体表面の温度測定
実習	振動覚計	1	指先振動感覚閾値の測定
実習	定量式痛覚計	2	痛覚閾値の測定
実習	紫外・可視分光光度計	1	河川水等に含まれる金属の測定
実習	ガス検知管	6	有機溶剤等のガス濃度測定
実習	騒音計	10	騒音レベルの測定
実習	高速度レベル記録計	1	騒音等の記録計
実習	公害用振動計	2	建設工事等の振動公害測定
実習	手持工具用振動レベル	2	振動工具等の振動レベル測定
実習	照度計	6	照度測定
実習	紫外線計	1	紫外線量の測定
実習	紫外線ランプ	1	蛍光物質の検出
実習	アスマン通風乾湿計	2	気温・気湿の測定
実習	アネモマスター	1	気温・気湿および気流の測定
実習	粉じん計	2	気中粉じん量の測定
実習	熱線微風計	1	微気流の測定
講義	パーソナルコンピュータ（PowerMac G5）	1	講義用
講義	液晶モニター（Flex Scan L767）	1	講義用
講義	ノート型パソコン（PCGX505cp）	1	講義時のプレゼンテーション用

実習	ノート型パソコン (PC-LW43H23D6)	2	公衆衛生学実習における解析用
実習	ノート型パソコン (PS18512C5612)	1	公衆衛生学実習における解析用
実習	LCDプロジェクタ (ELP-730)	2	公衆衛生学実習におけるグループワーク お井田
実習	熱中症指標計 (BGT-113)	1	環境保健実習測定用
実習	スモーカーライザー (MICROⅢ)	5	公衆衛生学実習測定用
実習	スモークテスト500	1	公衆衛生学実習測定用
実習	グローブサーメーター	1	環境保健実習測定用
実習	デジタル温度湿度気流計	2	環境保健実習測定用
実習	デジタル粉塵計 (P-5)	1	環境保健実習測定用
講義	パソコン一式 (Let's note CF-W8EWJAAS)	1	講義資料作成
実習	アスマン通風乾湿計 (080310-061)	1	疫学環境医学実習測定用
実習	乾湿球グローブ温度指示計 (WBGT型 080330-04)	1	疫学環境医学実習測定用
講義	パソコン (CF-W8GWDAAS)	1	講義資料作成
講義	モノクロページプリンター (LP-S3000R)	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン (R632)	1	講義時のプレゼンテーション用
講義	ノートパソコン (CF-LX3YEABR)	1	講義時のプレゼンテーション用
講義	カラー複合機 (MP C4503 SPF)	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン (Optiplex 3020)	2	講義資料作成
講義	レーザープリンター 一式 (IPSIO SP C830)	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン MacBook Air 13inch 一式 (ZOPO)	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン ENVY700-270jp/CT (G1W55AV-AHBY)	1	講義資料作成
講義	プリンター IPSIO SPC830 一式 (308993)	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン 一式 Pro SFF 400 G9	2	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン Elite SFF 800 G9/CT	1	講義資料作成
講義	デスクトップパソコン Pro SFF 400 G9/CT NEW#14スタンダードモデル	1	講義資料作成
講義	ポータブルSSD SDSSDE81-4T00-J25	1	講義資料作成
講義	ポータブルSSD 4TB SDSSDE81-4T00-J25	2	講義資料作成
実習	ナトカリ計 HEU-001F	3	実習での測定用

チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	医学教育学講座 医学教育学分野 高田 亮 教授		
担当講座・学科(分野)	全学教育推進機構、医学教育学講座医学教育学分野、緩和医療学科、内科学講座消化器内科分野、口腔医学講座関連医学分野、生理学講座病態生理学分野、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野、看護専門基礎講座、人間科学科体育学分野、人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	高田亮教授、相澤文恵非常勤講師、木村祐輔教授、柿坂啓介准教授、千葉俊美教授、黒瀬雅之教授、奈良場博昭教授、白石博久特任教授、遠藤龍人教授、佐々木亮平助教、香川由美助教、医学部教員、歯学部教員、薬学部教員、看護学部教員、教養教育センター教員		
対象学年	3 学年（全学部）	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	演習 24 時間（12 コマ）
期 間	前期	単位数	1 単位

・学修方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次に実施した「多職種連携のためのアカデミックリテラシー（問題解決型学習を含む）」での経験を踏まえ、3 年次では全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性を理解することを目的とする。これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かし、患者の健康段階に応じたサポート体制がどのような職種によるチームによって形成されるのか、また、緩和ケアにおいて患者の痛みを全人的に理解するためにどのような検討が必要なのかを、講義と医学・歯学・薬学・看護学・歯科衛生学の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて、一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮したうえで自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。

・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに多様な場面に応じた多職種の役割について学び、討議することで、全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性に気付く。緩和医療における患者の全人的苦痛とそれに対応する医療職を知ることによって、命を預かる医療人としての高いモラルと患者や他の職種を尊重する意識を身につける。これらのことにより、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。アクティブラーニングを通して、立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明することを学修し、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたってコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

(ディプロマ・ポリシー 医学部：1,2,4,6 歯学部：1,2,3,4 薬学部：1,3 看護学部：1,2,4,7)

・到達目標 (SBOs)

1. 各専門職の視点から、チーム医療の重要性とその実践方法を説明できる。
2. 各医療専門職の名称と役割を理解し、問題解決に関わる適切な医療チームを構築することができる。
3. 行動科学的アプローチの意義とその具体的な応用方法を説明できる。
4. 各専門職の視点から、多様な医療場面や緩和ケアの問題を分析し、全人的医療を実現するために必要な具体的な行動を提案できる。
5. 災害医療や地域医療における多職種連携の重要性を説明できる。
6. 自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を尊重しながら、異なる視点を取り入れた意思決定ができる。
7. グループでの意思決定プロセスを理解し、グループダイナミクスを活用できる。

・授業日程

(矢) 大堀記念講堂他

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
5/12	火	3	全学教育推進機構	高田 亮 全学教育推進機構長	多職種連携教育について 1.我々の目指すチーム医療について説明できる。 <特別講演> 多職種連携 ～患者さんの視点から～ (佐藤彰治氏) 1. 臨床現場におけるチーム医療の必要性を説明できる。 2. チーム医療における自・他職種の役割を概説できる。 事前学修：医療現場における多職種連携チームについて調べる。 事後学修：講演内容についてふりかえり、自らの考えをまとめる。
			医学教育学分野 人間科学科心理学・行動科学分野	高田 亮 教授 香川 由美 助教	
			医学教育学分野	高田 亮 教授	カリキュラム説明 1. カリキュラムの目的と受講方法を説明できる。

					事前学修：シラバスをよく読み、本科目の到達目標と講義内容を確認する。
		4 ～ 5	<p>医学教育学分野 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター</p>	<p>高田 亮 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部テューター (※1) 歯学部テューター (※2) 薬学部テューター (※3) 看護学部テューター (※4) 教養教育センターテューター (※5)</p>	<p>アイスブレイク ワークショップ1 (多様な場 面に関わる専門医療職の名 称、役割と多職種連携の理 解) 【双方向授業とグループワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に関わる多職種の名称とその役割の概要を説明することができる。 2. 様々な場面において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。 3. 2 であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。 4. 事例に関わる多職種の役割と職種間の関係をマインドマップにまとめることができる。 5. グループワークの結果を発表し、他グループのメンバーと討議できる。 6. ファシリテーター、テューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 <p>事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。 事後学修：医療に関わる多職種が、多様な場面において患者、家族に果たす役割を確認する。</p>
5/19	火	3	<p>医学教育学分野</p>	<p>相澤 文恵 非常勤講師 高田 亮 教授</p>	<p>医療における行動科学について 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に行動科学が応用される意義について説明できる。 2. 全人的医療の実現に果たす行動科学の役割について説明できる。

				<p>3. 医療者・患者関係について説明できる。</p> <p>4. 解釈モデルについて説明できる。</p> <p>事前学修：教科書該当箇所を熟読し、初年次科目「医療における社会・行動科学」、「医療面接の基礎」で学んだことを確認する。</p> <p>事後学修：医療において行動科学的アプローチが重要であることについて確認する。</p>
	4 5	<p>医学教育学分野</p> <p>消化器内科分野</p> <p>関連医学分野</p> <p>病態生理学分野</p> <p>分子細胞薬理学分野</p> <p>薬学教育学分野</p> <p>看護専門基礎講座</p> <p>人間科学科体育学分野</p> <p>医学部</p> <p>歯学部</p> <p>薬学部</p> <p>看護学部</p> <p>教養教育センター</p>	<p>高田 亮 教授</p> <p>相澤 文恵 非常勤講師</p> <p>柿坂 啓介 准教授</p> <p>千葉 俊美 教授</p> <p>黒瀬 雅之 教授</p> <p>奈良場 博昭 教授</p> <p>白石 博久 特任教授</p> <p>遠藤 龍人 教授</p> <p>佐々木 亮平 助教</p> <p>医学部チューター（※1）</p> <p>歯学部チューター（※2）</p> <p>薬学部チューター（※3）</p> <p>看護学部チューター（※4）</p> <p>教養教育センターチューター（※5）</p>	<p>ワークショップ2（健康段階に応じた多職種の役割）</p> <p>【双方向授業とグループワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例に示された患者の健康段階において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。 2. 1であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。 3. 健康段階に応じて、患者・家族に対する全人的に関わり（身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側）を述べることができる。 4. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 5. チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 <p>事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。事後学修：医療に関わる多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の職種）が、患者の解釈モデルを理解したうえで患者の健康段階に応じて患者、家族に果たす役割を確認する。</p>

5/26	火	3	緩和医療学科 医学教育学分野	木村 祐輔 教授 高田 亮 教授	<p>緩和医療論について 【ICT(WebClass)】</p> <p>1. 緩和ケアについて、歴史、理念、意義について説明できる。 2. 全人的な“痛み”を理解し説明することができる。 3. がん治療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW, 臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し説明することができる。</p> <p>事前学修：緩和ケアについて、教科書該当箇所を熟読する。 事後学修：生命を脅かす疾患に罹患した患者や家族が抱える全人的苦痛を理解し、チーム医療で支援することの重要性を確認する。</p>
		4 ～ 5	医学教育学分野 緩和医療学科 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 木村 祐輔 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター (※1) 歯学部チューター (※2) 薬学部チューター (※3) 看護学部チューター (※4) 教養教育センターチューター (※5)	<p>ワークショップ3（緩和医療における多職種の役割） 【双方授業とグループワーク】</p> <p>1. 記述されている内容から類推される患者・家族の苦痛を想像し、患者の“全人的苦痛”（身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルペイン）を列挙することができる。 2. 1にて列挙した苦痛（つらさ）への対応方法をグループで話し合い、主体的に関わる専門職を列挙し、チームとしての対応方法を述べることができる。 3. 自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師）を基盤とした“苦痛（つらさ）”への関り、他の医療職との連携による対応方法を述べることができる。 4. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 5. テacherからのフィードバックを受け、医療における多</p>

					<p>職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。</p> <p>事前学修：緩和ケアについて、該当箇所を熟読する。 事後学修：全人的苦痛を抱えた患者やその家族への支援を行う際の、医療者連携のあり方について、自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師、看護師）を中心に多職種連携の重要性を確認する。</p>
6/2	火	3 ┆ 4	<p>医学教育学分野</p> <p>緩和医療学科 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター</p>	<p>高田 亮 教授 相澤 文恵 非常勤講師 木村 祐輔 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター（※1） 歯学部チューター（※2） 薬学部チューター（※3） 看護学部チューター（※4） 教養教育センターチューター（※5）</p>	<p>代表者発表会 【双方向授業とプレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 各会場から選出されたチームの発表を聞き、その内容について討議することができる。 討議に参加することにより、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 <p>事前学修：発表会の討論に参加できるようにワークショップで取り上げた事例について復習しておく。 事後学修：患者が家族とともにその人らしく生きるために、医療チームを構成するメンバーそれぞれがどのような役割を果たし、協働すべきかについて確認する。</p>
		5	<p>医学教育学分野</p>	<p>高田 亮 教授</p>	<p><特別講演> 「多職種連携」～医療の現場から～ （村上雅彦先生・大船渡病院） 【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療現場における多職種連携の現状を説明できる。

					<p>事前学修：医療現場における多職種連携チームについて調べる。</p> <p>事後学修：講演内容についてふりかえり、自らの考えをまとめる。</p>
--	--	--	--	--	--

※1 医学部テューター

所属	担当教員
整形外科科学講座	大竹 伸平 講師
形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授
小児科学講座	石川 健 特任教授
皮膚科学講座	角田 加奈子 講師
細胞生物学分野	成田 啓之 准教授
情報伝達医学分野	小原 真美 助教
教育支援システム開発分野	柴崎 晶彦 助教

※2 歯学部テューター

所属	担当教員
発生物・再生医学分野	大津 圭史 特任教授
細胞情報科学分野	石崎 明 教授
分子微生物学分野	三浦 利貴 助教
病態制御学分野	中村 正帆 教授
歯科放射線学分野	金森 尚城 助教
口腔外科学分野	野宮 孝之 助教
法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子 特任教授

※3 薬学部テューター

所属	担当教員
薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授
創薬有機化学分野	辻原 哲也 准教授
分析化学分野	藤本 康之 准教授
分子細胞薬理学分野	藤原 俊朗 講師
薬物代謝動態学分野	寺島 潤 講師
分子細胞薬理学分野	高橋 巖 特任講師
情報薬科学分野	佐京 智子 助教

※4 看護学部テューター

所属	担当教員
共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 准教授
共通基盤看護学講座	伊藤 奈央 准教授
看護専門基礎講座	塚本 恭正 准教授
看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師
成育看護学講座	伊東 佐由美 講師
成育看護学講座	高橋 淳美 講師
地域包括ケア講座	館向 真紀 講師

※5 教養教育センターテューター

所属	担当教員
法学分野	廣瀬 清英 講師
心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授
心理学・行動科学分野	香川 由美 助教
哲学分野	林 研 准教授
物理学科	小松 真 講師
数学分野	江尻 正一 教授
数学分野	長谷川 大 准教授

※6 附属医療専門学校歯科衛生学科テューター

所属	担当教員
医療専門学校	鈴木 奈津子 教務主任

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教※	チーム医療リテラシー 2026	全学教育推進機構		2026

・ 成績評価方法

総括評価：

提出物とワークショップの参加態度で総合的に評価する。具体的には「各ワークショップのプロダクト」、「各ワークショップの提出レポート」、「講演会の提出レポート」、「グループワーク」、「発表会の内容」を、全てルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は事前に学生に提示する。プロダクトと提出レポートの評価は各課題責任者が行い、グループワークはチューターが評価する。また発表会の内容はファシリテーターが評価する。

以下に示す評価が全てルーブリック評価B以上であれば合格とする。1つでもC評価があった場合は到達目標未到達として不合格とする。

- (1) 1-3 日目に行うワークショップの「プロダクト評価」、「提出レポート評価」
- (2) 3 日目に実施する「グループワーク評価」、「発表会の内容観察評価」
- (3) 4 日目に行う「講演会の提出レポート評価」

点数は、全ての評価がBであった場合を60点とし、AやSがあった場合は、その数に合わせて加点を行う。また発表会で合理的な質問をした学生には加点をおこなう。最高点は100点とする。

形成評価：

各講義終了後に理解度を確認する小テストを行い、即時にフィードバックする。満点を取るまで何度でも受験可とし、ワークショップ参加のための前提知識を完全に修得できるようにする。

1・2日目に実施する「チューターによるグループワークの観察評価」と、「ファシリテーターによる発表会の観察評価」は、形成評価として2・3日目のワークショップ前に学生へ返却し、学修のガイドとする。AやSの項目があった場合は、総括評価に加点を行う。

各ワークショップ終了後にWebClassでふりかえりを実施し、理解度、到達度を確認する。ふりかえりの結果は成績には反映しない。

到達目標	DP				中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
	医	歯	薬	看							
1	2, 6	1, 2	1, 3	1, 2, 7						20	20
2	2, 6	1, 2	1, 3	1, 2, 7						20	20
3	4	4		4						5	5
4	1, 2, 4, 6	1, 3, 4	1, 3	1, 2, 4, 7						20	20
5	2, 4, 6	1, 3, 4	1, 3	1, 2, 4, 7						5	5
6	2, 6	1, 3	1, 3	1, 2, 7						20	20
7	2, 6	1, 3	1, 3	1, 2, 7						10	10
合計										100	100

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて4学部混成のグループによるワークショップ（以下WS）を実施する。WSの課題達成プロセスについての評価は時間内にフィードバックする。提出物は、各WSのプロダクトとレポート、最終日講演レポートとし、期日までにWebClassに提出する。

事前学修：シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、取り上げる内容に関わるキーワードについて科目開講時に配布された教科書等を用いて調べまとめておく。

事後学修：講義内容を復習したうえでWebClassの確認問題を行い、理解が不十分であった事項については教科書等を用いて理解を深める。

各コマに対して、事前学修に40分・事後学修に30分、各回WSレポートおよび講演ふりかえりレポート作成のためにそれぞれ2時間以上を要する。

多職種連携に関する意識と社会的スキルの変化を評価するため、アンケート調査を科目の開始時と終了時の2回実施する。

本科目は附属医療専門学校歯科衛生学科3学年も履修する。

※の教科書は講義の初日に配布する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC	1	講義資料の提示
講義	書画カメラ・DVDプレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示

基礎病態・社会医学演習

ナンバリング M3-S1-B17

責任者・コーディネーター	教育支援システム開発分野 前沢 千早 教授		
担当講座・学科（分野）	教育支援システム開発分野、感染症学・免疫学分野、衛生学公衆衛生学講座、情報伝達医学分野、放射線医学講座、病理診断学講座、人体発生学分野		
担当教員	前沢 千早 教授、村木 靖 教授、丹野 高三 教授、柳川 直樹 教授、平 英一 教授、海部 知則 准教授、鈴木 智大 講師、杉本 亮 講師、勝本 恵一 助教		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 12コマ 24.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。そのためには、生命科学や衛生・環境を含む基礎医学と各種疾病の病因、病態に関する知識を統合する能力が要求される。本演習では、2学年で学んだ基礎医科学の知識と2/3学年前期で学んだ疾病の病因・病態生理、診断に関する基盤知識を統合・整理する能力を演習形式で涵養する。

・教育成果（アウトカム）

診断・治療の実践に必要な、基礎医科学（基礎医学・生命科学）と疾病の病因・病態に関する基盤知識を統合して、病態生理を理解し問題を解決した結果を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 4)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	演習問題の関連知識を説明できる。
2	正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・ 講義場所

東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
演習	6/9(火)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】 授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/9(火)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	分子生物学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】 授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/16(火)	1	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	微生物学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 ウイルス、細菌、真菌について2年次の配布資料やシンブル微生物学などの教科書を読んで説明文を作成する。所要時間 53分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容をまとめること。 演習問題を復習すること。所要時間 53分以上</p> <p>【ICT】 授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>

演習	6/16(火)	2	放射線医学講座	鈴木 智大 講師	【特別講義】正常画像について	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/17(水)	3	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	疫学・環境医学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/17(水)	4	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/19(金)	1	情報伝達医学分野	平 英一 教授	薬理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 ウイルス、細菌、真菌について2年次の配布資料やシンプル微生物学などの教科書を読んで説明文を作成する。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容をまとめること。 演習問題を復習すること。 所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>

演習	6/23(火)	1	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/23(火)	2	感染症学・免疫学分野	海部 知則 准教授	2Mの免疫学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/25(木)	2	人体発生学分野	勝本 恵一 助教	臨床解剖学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/25(木)	3	人体発生学分野	勝本 恵一 助教	臨床解剖学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>

演習	6/25(木)	4	病理診断学講座	杉本 亮 講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
----	---------	---	---------	---------	-----------------------	-----	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	カラー図解 これならわかる薬理学 第2版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein著、佐藤俊明訳	メディカルサイエンスインターナショナル	2012
教科書	クエスチョンバンク 医学共用試験 CBT		MediLink store	2026

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（MCQ）100%で評価し、100点満点の68点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 演習テストを実施し、終了後に問題と解答についての解説を行い、学生自身の理解度を確認できるようにする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、2	4				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>

・教育資源

CBT-QB（演習課題の解説が掲載されている）・参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC画面投影装置	1	問題演習・解説
講義	ノートパソコン	1	問題演習・解説

実習	クリッカー	130	問題演習
----	-------	-----	------

消化器病学

ナンバリング M3-S1-D01

責任者・コーディネーター	消化器内科消化管分野 松本 主之 教授		
担当講座・学科（分野）	消化器内科分野、外科学講座、放射線医学講座、病理診断学講座、歯学部口腔医学講座関連医学分野、小児科学講座、臨床腫瘍学講座、緩和医療学科		
担当教員	松本 主之 教授、佐々木 章 教授、新田 浩幸 教授、木村 祐輔 教授、千葉 俊美 教授、黒田 英克 特任教授、岩谷 岳 特任教授、梁井 俊一 准教授、柿坂 啓介 准教授、鈴木 信 准教授、梅邑 晃 准教授、加藤 健一 准教授、鳥谷 洋右 特任准教授、馬場 誠朗 講師、八重樫 瑞典 講師、杉本 亮 講師、吉田 雄一 特任講師、遠藤 啓 特任講師、阿部 珠美 助教、中村 春香 助教、佐々木 登希夫 助教、田金星都 助教、河田 孝彦 非常勤講師、村上 晶彦 非常勤講師、大森 浩明 非常勤講師、廣田 茂 非常勤講師、加藤 智恵子 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 36コマ 72.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

小児および成人における消化管、肝・胆・膵疾患の病因、病理・病態生理、症候、画像、臨床検査、診断・鑑別診断、内科的・外科的治療および予後などについて総合的かつ系統的に学習し、消化器病学全体の診断と治療に関する思考能力を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

1. 小児消化器病学
 新生児（胎児）から思春期までに見られる消化器疾患について学ぶことで、各発育期（新生児、乳児、幼児、学童、思春期）に特有の疾患や成人と異なった特徴を有する疾患について、その原因、病態生理、症候、診断・鑑別診断、治療、合併症、予防法を説明できる。

2. 小児消化器外科学
 小児の消化管、肝・胆・膵ならびに横隔膜・腹膜・腹壁などにおける外科的疾患について学ぶことで、病因、病態、治療方針、治療成績、予後を理解し説明できる。

3. 成人消化器内科学、消化器外科学、消化器放射線学、分子診断病理学
 成人における消化器疾患について学ぶことで、疾患概念、病因、臨床徴候、臨床検査所見、画像所見、診断・鑑別診断および治療法（内科的、外科的）、予後を説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 2,4,5 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	正常新生児における消化器の発達生理を説明できる。
2	小児にみられる消化器症状から鑑別診断を挙げることができる。
3	小児期に特有な先天性疾患、後天性疾患について病態と病因を説明できる。

4	先天性食道閉鎖症、食道狭窄症、乳児肥厚性幽門狭窄症、先天性腸閉鎖・狭窄症、腸回転異常症、腸管重複症、Hirschsprung病、直腸肛門奇形臍帯ヘルニア、腹壁破裂などを説明できる。
5	虫垂炎、腸重積症、鼠径ヘルニアなどを説明できる。
6	胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症などを説明できる。
7	食道、胃、小腸・大腸の正常および異常病理組織・画像所見を説明できる。
8	食道、胃、小腸・大腸疾患の病態生理、治療法および予後を説明できる。
9	肝臓、胆道、膵臓の正常および異常病理組織・画像所見を説明できる。
10	肝臓、胆道、膵臓疾患の病態生理、治療法および予後を説明できる。
11	緩和医療を定義できる。
12	がん性疼痛の種類と病態について説明できる。
13	WHO方式がん疼痛治療法を説明できる。
14	鎮痛薬の種類・投与方法・代表的な副作用とその対策を説明できる。
15	小児の悪性固形腫瘍について説明できる。
16	肝炎ウイルスの基本構造と病原性を説明できる。
17	肝細胞障害の基本的機序を説明できる。
18	肝の臨床検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
19	超音波診断機器の画像構成原理とそれによる診断の基本を理解できる。
20	薬物代謝の基本を説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/14(木)	1	消化器内科分野	松本 主之 教授	消化器内科学総論	7,8	<p>【事前学修】 消化器疾患の代表的な臨床症状を列挙し、それぞれの症状の説明文を作成する。 所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ消化器症状を発生機序別に分類してまとめること。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	5/14(木)	2	外科学講座	佐々木 章 教授	消化器外科学総論	7,8,9	<p>【事前学修】 本講義の理解を深めるため、基本的手術手技（結紮・縫合等）、内視鏡外科手術、臓器移植について、配布資料および参考図書（標準外科学）を用いて事前に学習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義内容を振り返り、基本的手術手技、内視鏡外科手術（低侵襲性、開腹手術に比較した利点）、臓器移植の現状と課題についてまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	5/21(木)	1	病理診断学講座	杉本 亮 講師	消化管の基本構造と病理組織学、腫瘍総論	7,8	<p>【事前学修】 消化管の解剖、消化管腫瘍の臨床病理学的特徴を教科書を読んで予習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ消化管腫瘍の臨床病理学的特徴についてまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	5/21(木)	2	歯学部口腔医学講座関連医学分野	千葉 俊美 教授	消化管の生理と機能性疾患（過敏性腸症候群：IBS、機能性ディスぺプシア：FD）	7,8	<p>【事前学修】 消化管における消化、吸収、消化管運動、消化管ホルモン、機能性疾患についてまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ機能性消化管疾患（過敏性腸症候群、機能性ディスぺプシアなど）、消化管ホルモン産生腫瘍についてまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	5/25(月)	5	外科学講座	二階 春香 助教	外科的治療に必要な胃の局所解剖、胃切除後の合併症	7,8	<p>【事前学修】 胃の解剖、機能について、教科書などで整理しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ胃の局所解剖、胃切除後障害について、箇条書きでまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	5/28(木)	1	消化器内科分野	廣田 茂 非常勤講師	消化管の良性器質性疾患	7,8	【事前学修】 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸の基本的な構造・機能を予習しておくこと。所要時間30分程度 【事後学修】 消化管の良性器質性疾患の代表的な疾患の内視鏡画像や造影画像および病態生理を復習すること。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する
講義	5/28(木)	2	放射線医学講座	加藤 健一 准教授	腹部画像診断1	7,8	【事前学修】 腹部臓器の内眼解剖を復習する。腹膜腔と後腹膜について予習する。所要時間30分以上 【事後学修】 講義で学んだ腸閉塞、腹腔内遊離ガス、腹水の単純X線所見についてまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する
講義	6/1(月)	5	外科学講座	馬場 誠朗 講師	胃腫瘍の外科治療	7,8	【事前学修】 胃の血管解剖、病理に関して復習しておく。所要時間30分以上 【事後学修】 胃癌の進展様式に関して整理する。胃癌の手術法の適応と術式を整理する。所要時間 30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する
講義	6/4(木)	1	消化器内科分野	鳥谷 洋右 特任准教授	消化器内視鏡総論	7,8	【事前学修】 臨床における消化器内視鏡検査の位置づけを予習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ各種内視鏡検査について理解を深める。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する
講義	6/4(木)	2	消化器内科分野	加藤 智恵子 非常勤講師	胃悪性腫瘍の診断と治療	7,8	【事前学修】 胃の解剖、病理について予習しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 胃悪性腫瘍の診断・治療について復習する。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する

講義	6/11(木)	1	外科学講座	佐々木 章 教授	食道外科学（局所解剖と良性疾患）	7,8	<p>【事前学修】 本講義の理解を深めるため、食道解剖、噴門括約筋機構（LES）、食道アカラシア、胃食道逆流症（GERD）について、配布資料および参考図書（標準外科学）を用いて事前に学習しておく。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義内容を振り返り、食道解剖、噴門括約筋機構（LES）の構成と役割、食道アカラシアの病態と治療、胃食道逆流症（GERD）の診断と治療についてまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	6/15(月)	5	外科学講座	馬場 誠朗 講師	食道癌の外科治療	7,8	<p>【事前学修】 胃の解剖と組織、胃腺の構成細胞と機能について復習しておく。</p> <p>【事後学修】 1) 胃悪性腫瘍の診断と治療について整理する、2) 各H. pylori感染診断法の利点・欠点、除菌治療法について整理する。</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	10/1(木)	1	消化器内科分野	松本 主之 教授	炎症性腸疾患	7,8	<p>【事前学修】 クローン病、潰瘍性大腸炎について予習しておく。30分以上</p> <p>【事後学修】 小腸・大腸の炎症性疾患の鑑別診断を復習する。30分以上。</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	10/1(木)	2	消化器内科分野	梁井 俊一 准教授	腫瘍性腸疾患の診断と治療（大腸癌、大腸ポリープ、消化管ポリポーシス）	7,8	<p>【事前学修】 大腸腫瘍に関して内科学の教科書を読み学習すること。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ大腸腫瘍にの診断と治療に関してまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	10/8(木)	1	外科学講座	八重樫 瑞典 講師	外科的治療に必要な大腸の局所解剖、大腸癌の外科治療	7,8	<p>【事前学修】 大腸癌の外科治療について、手術に必要な解剖、手術適応、術式、手術のアプローチ法、手術に伴う合併症などを教科書や事前資料を読み学習する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 大腸癌の治療について、講義で学んだ特徴と治療法を復習しまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	10/8(木)	2	消化器内科分野	吉田 雄一 特任講師	肝の構造と生理機能およびその評価法、肝障害の機序	9,10,16,17	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について基礎医学の教科書で知識を確認しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 肝の生理機能をリストアップし、それぞれに対応する肝検査を分類してまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに基礎知識確認試験および確認試験を掲載し、それぞれ事前、事後学習の目安とする。講義資料は事前にWebClassに掲載する。</p>
講義	10/15(木)	1	消化器内科分野	黒田 英克 特任教授	肝腫瘍の疫学・診断・治療	9,10,17,18,19	<p>【事前学修】 肝腫瘍に関して内科学の教科書を読み学習すること。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肝腫瘍の疫学、診断、治療に関してまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	10/15(木)	2	消化器内科分野	柿坂 啓介 准教授	急性肝炎、劇症肝炎	7,8	<p>【事前学修】 急性肝炎・劇症肝炎について成書を読んで自分の言葉でまとめること。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 疾患の定義、急性肝炎の特徴、成因、診断、治療についてまとめる。所要時間30-60分</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料を提示する。双方向アプリを授業中に併用することを予定している。積極的に回答する努力をすること。</p>

講義	10/22(木)	1	消化器内科分野	吉田 雄一 特任講師	ウイルス性慢性肝疾患	9,10,16,17,18	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について内科学の教科書を読み事前に確認しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肝炎ウイルスの種類、特徴、疫学、病態、ウイルスマーカー、診断、治療、感染予防についてまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料を提示する。講義中に設問を用いて理解度を確認する。</p>
講義	10/22(木)	2	消化器内科分野	遠藤 啓 特任講師	肝硬変の病因、病理、症候、診断と門脈圧亢進症	9,10,16	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」を内科学の教科書（もしくはstep内科、新・病態生理できた内科学、イヤernote等）で確認しておく。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肝炎ウイルスの種類、特徴、疫学、病態、ウイルスマーカー、診断、治療、感染予防についてまとめる。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 Webclassに事前資料を提示する。講義中に設問を用いて理解度を確認する。</p>
講義	10/29(木)	1	消化器内科分野	佐々木 登希夫 助教	自己免疫性肝疾患・薬物性肝障害	9,10	<p>【事前学修】 自己免疫性肝炎，原発性胆汁性胆管炎，原発性硬化性胆管炎について疾患の特徴や特徴的な検査結果を箇条書きできるようにする。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 免疫を介した肝炎の機序の復習，AIH，PBC，PSCの病態と病理所見，特徴的検査所見，治療薬の復習．薬物性肝障害の分類と診断方法について復習．所要時間30分</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	10/29(木)	2	消化器内科分野	阿部 珠美 助教	脂肪性肝疾患,アルコール性肝疾患	9,10	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について基礎医学の教科書で知識を確認しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 脂肪性肝疾患について、過栄養性とアルコール性の共通点と相違点を自分でまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	11/5(木)	1	外科学講座	大森 浩明 非常勤講師	腹部救急疾患	5,7,8,9,10	<p>【事前学修】 食道から直腸までを、肝胆膵脾との位置関係に照らして図示できるようにしておく。所要時間30分以内</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ腹痛の種類を原因疾患と関係づける。虫垂炎の症状と発生する順番について覚える。腸閉塞の病態と種類について覚える。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	11/5(木)	2	放射線医学講座	加藤 健一 准教授	腹部画像診断2	7,9	<p>【事前学修】 代表的な消化器腫瘍（食道がん、胃がん、大腸がん）、膵臓腫瘍について概略を学習する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 FDG-PET/CTの集積機序と読影を理解する。代表的な急性腹症について画像所見を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	11/12(木)	1	消化器内科分野	河田 孝彦 非常勤講師	膵疾患の診断と治療（膵癌・浸潤性膵管癌、膵神経内分泌腫瘍、嚢胞性膵疾患）	9,10	<p>【事前学修】 膵の発生と膵動脈・門脈の解剖、膵内分泌腺の構造・生理作用について教科書を読んで説明文を作成する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 膵腫瘍の特徴、嚢胞性膵疾患の特徴をまとめること。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	11/12(木)	2	消化器内科分野	河田 孝彦 非常勤講師	胆道・膵疾患の診断と治療（胆道癌、先天性胆道拡張症と膵・胆管合流異常、急性膵炎、慢性膵炎）	9,10	<p>【事前学修】 胆嚢収縮機序、胆道の壁構造、膵外分泌腺の生理作用について教科書を読んで説明文を作成する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 胆嚢収縮機序、胆道壁の特徴、肝門部領域と遠位の境界、胆道拡張症と膵・胆管合流異常の病態、膵炎の原因をまとめること。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	11/19(木)	1	消化器内科分野	村上 晶彦 非常勤講師	膵胆道疾患の主要症状と病態生理	9,10	<p>【事前学修】 胆 膵の解剖、生理を教科書を用いて学習しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 膵がんのリスク 急性膵炎 慢性膵炎 自己免疫性膵炎 総胆管結石の標準治療 胆のう結石の画像 膵胆管合流異常を知識としてまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	11/19(木)	2	外科学講座	梅邑 晃 准教授	外科侵襲学・周術期の栄養管理	7,8,9,10,20	<p>【事前学修】 事前にweb classにアップロードした講義資料に目を通し、理解が難しい部分について確認しておく。特に、SIRS、NST、栄養管理、サルコペニアなどについて。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 外科侵襲が生体においてどのような影響を及ぼすか、低栄養が様々な病態においてどのような影響をもたらすのかを確認し、その治療や支持療法としての栄養管理について回答できるようにしておく。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	11/26(木)	1	外科学講座	新田 浩幸 教授	外科的治療に必要な肝の局所解剖、肝腫瘍の外科治療	1,2,3,8,9	<p>【事前学修】 膵、胆道の解剖、生理、外科治療について標準外科学などを参考に学習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 手術法など、図にかける様にイメージする。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	11/26(木)	2	外科学講座	新田 浩幸 教授	外科的治療に必要な 膵胆道の局所解剖、 膵胆道の外科治療	1,2,3,7,8 ,9,10,15	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について事前に調べておく。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 消化器発生の異常から生じる病態を理解しまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	12/3(木)	1	臨床腫瘍学講座	岩谷 岳 特任教授	消化器癌と化学療法	7,8,10	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について基礎・基礎医学の教科書で知識を確認しておく。所要時間 30-45分</p> <p>【事後学修】 代表的な抗がん剤の作用機序についてまとめる。各消化管臓器における化学療法を対比してまとめておく。所要時間 30-60分</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	12/3(木)	2	緩和医療学科	木村 祐輔 教授	緩和ケア総論	11,12,1 3,14	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について標準外科学等で予習すること。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ「緩和ケアの定義」「全人的苦痛」「WHO方式がん疼痛治療法」について整理しておく。所要時間30分以上。</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>
講義	12/10(木)	1	小児科学講座	田金 星都 助教	小児消化器疾患	1,2,3,4,5 ,6,7,8,9, 10	<p>【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について参考書で知識を確認しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 消化器の発生や小児の特性を理解し、各疾患の病態、症状、診断、治療、予防について整理する。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料を提示する</p>

講義	12/10(木)	2	小児科学講座	田金 星都 助教	小児消化器疾患	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10	【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について参考書で知識を確認しておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 消化器の発生や小児の特性を理解し、各疾患の病態、症状、診断、治療、予防について整理する。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する
講義	12/17(木)	1	外科学講座	鈴木 信 准教授	小児消化器外科疾患 ①	1,2,3,4,5,7,8,19	【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について標準小児外科学等で予習すること。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ小児消化器外科疾患に関して病態・診断・治療について理解し、人体発生学との関連を整理しておく。所要時間 30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する
講義	12/17(木)	2	外科学講座	鈴木 信 准教授	小児消化器外科疾患 ②	1,2,3,6,9,10,15,17,18,19	【事前学修】 講義内容の項に記した「必要な予備知識」について標準小児外科学等で予習すること。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ小児消化器外科疾患に関して病態・診断・治療について理解し、人体発生学との関連を整理しておく。所要時間 30分以上 【ICT】WebClassに事前資料を提示する

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	標準外科学 第17版	池田徳彦・大木隆生・猪股雅史・篠原 尚 編集	医学書院	2025
推薦図書	標準小児科学 第9版	原 寿郎 監修	医学書院	2022
推薦図書	標準小児外科学 第8版	上野滋 監修、仁尾正記・奥山宏臣・田尻達郎 編集	医学書院	2022
推薦図書	ステップアップ 内視鏡外科手術	佐々木章 編集	医学書院	2012
推薦図書	内科学第11版	矢崎義雄総編集	朝倉書店	2017
参考書	臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを考える会編	青海社	2013
推薦図書	新臨床内科学 第9版	高久史麿他監修	医学書院	2019
参考書	急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン2018	急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン改訂出版委員会	医学図書出版	2018

参考書	急性肺炎診療ガイドライン2021 第5版	急性肺炎診療ガイドライン2021第5版改訂出版委員会	金原出版	2021
-----	----------------------	----------------------------	------	------

・成績評価方法

<p>【総括評価】 中間試験（前期進級試験）25%、進級試験成績（後期進級試験）75%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 なお、後期進級試験範囲には前期進級試験範囲を含む。</p> <p>【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～20	2、4、5	25			75			100
合計		25			75			100

・特記事項・その他

<p>1. 小児消化器病学 消化管の発生と発達から、疾患の病態生理を講義する。また、小児消化器疾患の“common diseases”を中心にその基本的知識について、その要点を記載したプリント（A4）を用いて解説する。</p> <p>2. 小児消化器外科学 スライド、プリントなどを用いて小児消化器外科疾患の病態生理、診断、治療などを中心に解説する。</p> <p>3. 成人消化器内科学・消化器外科学・消化器放射線学、分子診断病理学 スライド、プリントなどを用いて消化器疾患の病態生理、診断、治療などを中心として講義する。</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本科目では、事前事後学修以外に各回2時間の自己学修を要す。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>

・教育資源

教科書・参考書・講義室・PC

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン MacBook Pro 一式	1	講義にて使用
講義	デスクトップパソコン iMac Retina	1	学生講義・スライド作成のため
講義	Mac mini	1	講義にて使用
講義	ノートパソコン MacBook Air 一式	1	講義にて使用
講義	ノートパソコン iMac 一式	1	講義にて使用
講義	ノートパソコン MacBook Air 一式	1	講義にて使用
講義	ノートパソコン Spectre x360 16-aa0002TX	3	講義にて使用

内分泌・代謝病学

ナンバリング M3-S1-D02

責任者・コーディネーター		糖・代・内分泌内科分野 石垣 泰 教授	
担当講座・学科(分野)		糖・代・内分泌内科分野、小児科学講座、消化器内科分野、脳神経外科学講座、外科学講座、泌尿器科学講座、産婦人科学講座	
担当教員		石垣 泰 教授、加藤 章信 客員教授、高橋 義彦 准教授、長谷川 豊 准教授、武部 典子 講師、佐浦 宏明 講師、石田 和茂 講師、瀬川 利恵 講師、兼平 貢 講師、小田 知靖 特任講師、尾上 洋樹 助教、和田 泰格 非常勤講師、富澤 勇貴 非常勤講師	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 23コマ 46.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針(講義概要等)

内分泌・代謝病学は生体の内分泌代謝系の調節機構の解明と、その異常によっておこる疾患の診断・治療を取り扱う領域である。大きくは内分泌疾患を主とする内分泌学と、糖尿病を主とする代謝学に分かれるが実際の診療現場では両者を並行して診療する機会が多いことから、統合された形で系統的講義を行う意義がある。内分泌・代謝病学では各疾患の概念、病態生理、症候、臨床検査、画像、診断、内科的・外科的治療および予後について総合的に学習する。内分泌・代謝疾患における小児と成人の違いや特徴、また性差についても理解を深めることができるよう、各領域の講義を系統的に配置した。

・教育成果(アウトカム)

1. 内分泌・代謝疾患の疾患概念、病因、臨床徴候、検査所見および治療法の基礎的知識を習得することで、生体の恒常性について理解を深めることができる。
2. 第1, 2学年で学習した蛋白質・アミノ酸・核酸などの代謝メカニズムの異常が、様々な疾患の原因になることを理解できるようになる。
3. 視床下部-下垂体-副腎系の役割とその異常に伴う病態を理解することで、各疾患の症候や検査結果を説明でき、診断につなげることができるようになる。
4. 下垂体-副腎系の腫瘍性病変のもたらす病態について理解を深めることで、その外科的治療について説明できるようになる。
5. 糖尿病・脂質代謝異常・肥満症・メタボリックシンドロームの病因・病態を理解することで、各疾患における特徴的な臨床症状、糖尿病合併症・検査所見および治療法の基本的知識を習得し、それらを説明できるようになる。
6. 甲状腺、副甲状腺および乳腺疾患について、局所解剖を復習し、病態生理や診断の方法、治療とくに外科治療について説明できるようになる。
7. 水・電解質代謝やビタミン代謝の基礎を理解することで、生体の恒常性の維持について説明できるようになる。
8. 小児の内分泌異常では、成長発達、成熟の異常が主症候であることを理解し、その所見や治療法について説明できるようになる。
9. 先天代謝異常では中枢神経症状が主とした様々な症候がみられることを理解し、診断のための新生児マススクリーニングの重要性についても説明できるようになる。
10. 性腺ホルモンが影響・調節しあい周期性変化をもたらすという女性内分泌調節機構の概念とそのメカニズムの基本知識を整理・確認し、性腺機能異常を中心とした各種疾患の病態を理解することで、それらについて説明できる。
11. 男性不妊症・精巣障害の病態や診断、治療を理解することで、それらについて説明できるようになる。
12. 蛋白質、アミノ酸、ポルフィリン、重金属などの代謝異常とその異常に基づく疾患を説明できる。
13. 乳房の構造、機能、疾患とその治療について説明できる。
14. クラインフェルター症候群、ターナー症候群などの原発性性腺機能低下症、多発性内分泌腫瘍症Ⅰ型、Ⅱ型、隣神経内分泌腫瘍の病因、症状、診断に必要な検査、検査結果、治療について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 2,4,5,6,7,8)

・到達目標 (SBOs)

No.	項目
1	内分泌・代謝疾患の疾患概念、病因、臨床徴候、検査所見および治療法の説明できる。
2	視床下部-下垂体-副腎系の異常に伴う病態を理解することで、各疾患の診断ができる。
3	糖尿病の病因・病態を理解し、臨床症状、合併症・検査所見および治療法の説明できる。
4	脂質異常症の病因・病態を理解し、検査所見や治療法について説明できる。
5	肥満症・メタボリックシンドロームの病因・病態を理解し、検査所見や治療法について説明できる。
6	甲状腺、副甲状腺および乳腺疾患について、病態生理や診断、治療について説明できる。
7	水・電解質代謝、ビタミン代謝について説明できる。
8	女性内分泌調節機構の概念とそのメカニズムについて説明できる。
9	性腺機能異常を中心とした各種疾患の病態について説明できる。
10	小児の内分泌異常や先天代謝異常の病因・病態について説明できる。
11	小児の内分泌異常や先天代謝異常の早期発見のための新生児マススクリーニングの重要性を説明できる。
12	下垂体-副腎系の腫瘍性病変に対する外科的治療について説明できる。
13	男性不妊症・精巣障害に対する原因疾患、診断治療の説明できる。
14	蛋白質、アミノ酸、ポルフィリン、重金属などの代謝異常とその異常に基づく疾患を説明できる。
15	乳房の構造、機能、疾患とその治療について説明できる。
16	原発性性腺機能低下症、内分泌腫瘍の診断と治療について説明できる。

・講義場所

講義：東1-0講義室

・講義日程 (各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載)

区分	月日	時限	講座 (学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/11(月)	1	小児科学講座	和田 泰格 非常勤講師	小児の内分泌疾患	1,2	<p>【事前学修】 病気が見えるvol.3の「内分泌の概念と作用機構」を読み、ホルモンの概念・ホルモン受容体・フィードバック調節・生体リズム、先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、神経性やせ症、下垂体前葉機能低下症の診断と治療について整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 下垂体ホルモンの生理作用と制御のメカニズム、正常下垂体および副腎の画像所見、多発性内分泌腫瘍症の構成疾患、下垂体前葉ホルモンの分泌過剰と低下がどのような症状、検査所見との関連についてまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	5/11(月)	2	小児科学講座	和田 泰格 非常勤講師	先天代謝異常	1,2,7	<p>【事前学修】 病気が見えるvol.3を読み、中枢性尿崩症、ADH分泌過剰症、低Na血症の診断と治療について整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 ADHの分泌過剰と分泌低下がどのような症状、検査所見と関連するかまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/18(月)	2	消化器内科分野	加藤 章信 客員教授	蛋白質・アミノ酸代謝、ポルフィリン代謝	1,2,3,10,11	<p>【事前学修】 病気が見える小児科と糖尿病・代謝・内分泌を参考に。成長ホルモン分泌不全性低身長症、先天性甲状腺機能低下症、先天性副腎過形成症を中心に予習する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ疾患を中心に臨床症状とホルモン作用についてまとめる。可能であれば国家試験の過去問を解いておく。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/25(月)	1	糖・代・内分泌内科分野	瀬川 利恵 講師	ホルモン総論、間脳下垂体(1)	1,2,14	<p>【事前学修】 病期が見えるVol.3のその他の代謝異常；先天性代謝異常の項を読んで知識を整理する。30分以上</p> <p>【事後学修】 アミノ酸代謝異常とポルフィリン代謝異常の成因・分類・治療について整理する。30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/25(月)	2	糖・代・内分泌内科分野	瀬川 利恵 講師	間脳下垂体(2)	1,2	<p>【事前学修】 例えば、病気が見える Vol.3のp276 - 283副腎総論を読み、解剖学的特徴やステロイドホルモンの合成経路・コルチゾールとアルドステロンの作用や制御について復習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだCushing症候群と原発性アルドステロン症について、それぞれ臨床症状とそれに対応するホルモン作用の異常について箇条書きにして整理すること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/1(月)	1	糖・代・内分泌内科分野	高橋 義彦 准教授	副腎 (1)	1,2	<p>【事前学修】 病気が見える Vol.3のp206のACTH関連総論、p276 - 283副腎総論、P306-307の副腎髄質総論を読み、それぞれのホルモンの生合成と代謝・薬理学的作用について復習しておく。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 原発性・続発性の副腎不全の病態の違い、臨床症状の違いを対比する形式で整理すること。褐色細胞腫・パラガングリオーマのホルモン異常の特徴と臨床症状、禁忌薬について整理すること。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/1(月)	2	糖・代・内分泌内科分野	高橋 義彦 准教授	副腎 (2)	1,2,3,10,11	<p>【事前学修】 病気が見える小児科と糖尿病・代謝・内分泌を参考に。思春期早発症や性腺機能低下症、1型糖尿病、ケトン性低血糖、くる病を中心に予習する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ疾患を中心に臨床症状とホルモン作用についてまとめる。可能であれば国家試験の過去問を解いておく。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/8(月)	1	糖・代・内分泌内科分野	瀬川 利恵 講師	性腺機能障害、内分泌腫瘍	9,13	<p>【事前学修】 標準泌尿器科学・泌尿器科における内分泌疾患を読んでおくことが望ましい。特に、原発性アルドステロン症、Cushing症候群、副腎皮質癌、褐色細胞腫、男性不妊症について。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ解剖、副腎の手術、男性不妊について整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/8(月)	2	糖・代・内分泌内科分野	瀬川 利恵 講師	骨代謝、カルシウム代謝	6	<p>【事前学修】 病気が見える糖尿病・代謝・内分泌の「視床下部一下垂体疾患」を確認する。病気が見える脳・神経の「腫瘍：下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫」の項目を学習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ解剖・機能・診断基準・画像特徴について、事前学習内容の理解との乖離を見出し復習して、正しい情報をまとめる。所要時間 30分</p> <p>【ICT】WebClass</p>
講義	6/15(月)	1	脳神経外科学講座	佐浦 宏明 講師	下垂体と腫瘍	1,2,10,1 1	<p>【事前学修】 新生児マスクリーニングを中心に、先天代謝異常の各疾患を予習しておいてください。インターネットを利用して良いです。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ疾患を中心に臨床症状とホルモン作用についてまとめる。可能であれば国家試験の過去問を解いておく。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】WebClass</p>
講義	6/16(火)	5	外科学講座	石田 和茂 講師	乳腺疾患	1,8,9	<p>【事前学修】 女性内分泌（視床下部一下垂体-卵巣系）について、病気が見える Vol.3等を参考に予習する。多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）についても予習をしておいていただきたい。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 女性正常内分泌については是非復習していただきたい。多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）も国家試験頻出疾患であり、検査、診断、治療法について再度確認して欲しい。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClass</p>
講義	6/22(月)	1	泌尿器科学講座	兼平 貢 講師	男性不妊症、精巣機能障害、副腎外科治療	1,15	<p>【事前学修】 「標準外科学」や「病気がみえる」の乳腺の項目を事前学習しまとめておく。特に、乳房の解剖と機能、異常所見、乳房腫瘍の診断方法について知識を整理する。所要時間 1時間以上</p> <p>【事後学修】 所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClass</p>

講義	6/22(月)	2	産婦人科学講座	尾上 洋樹 助教	性腺・機能異常	1,6	<p>【事前学修】 病気が見える vol.3を読み、 原発性副甲状腺機能亢進症、 副甲状腺機能低下症、 骨粗しょう症、骨軟化症、 クル病の診断と治療について整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 副甲状腺ホルモン過剰と低下がどのような症状、検査所見と関連するかまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/1(木)	3	糖・代・内分泌内科分野	石垣 泰 教授	糖尿病の総論	1,3	<p>【事前学修】 1, 2年生で学んだ糖代謝に関わる反応経路について復習しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 基礎医学で学んだ知識と臨床的な疾患概念のつながりを整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/1(木)	4	糖・代・内分泌内科分野	石垣 泰 教授	糖尿病の成因・分類・診断	1,3	<p>【事前学修】 「病気が見える vol.3」の糖尿病の総論の項を読んで、成因・分類・診断について知識を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 糖尿病の成因・分類・診断についてまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/8(木)	3	糖・代・内分泌内科分野	長谷川 豊 准教授	急性合併症の病態と治療法	1,3	<p>【事前学修】 「病気が見える vol.3」の糖尿病急性合併症の項を読んで、ケトアシドーシスやHHSについて知識を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 糖尿病急性合併症についてまとめる。 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/8(木)	4	糖・代・内分泌内科分野	長谷川 豊 准教授	慢性合併症の病態と治療法	1,3	<p>【事前学修】 「病気が見える vol.3」の糖尿病の合併症の項を読んで、知識を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 糖尿病三大合併症の病態と診断、治療についてまとめる。糖尿病三大合併症以外の関連する様々な慢性合併症についてまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	10/15(木)	3	糖・代・内分泌内科分野	武部 典子 講師	食事・運動療法、ミネラル・ビタミン代謝	1,4	<p>【事前学修】 「病気がみえる vol.3」の脂質代謝の項を読んで、正常と疾患について知識を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 脂質代謝異常を呈する各疾患の病態と治療法についてまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/15(木)	4	糖・代・内分泌内科分野	武部 典子 講師	肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症	1,3,5	<p>【事前学修】 「病気がみえる vol.3」の糖尿病の経口血糖降下薬、インクレチン関連薬、インスリン療法の記事を読んで、知識を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 糖尿病の薬物療法について、薬物ごとの特徴、適応、投与方法をまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/22(木)	3	糖・代・内分泌内科分野	石垣 泰 教授	脂質代謝異常	1,3,7	<p>【事前学修】 「病気がみえる vol.3」の糖尿病の食事・運動療法の項を読んで知識を整理する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 糖尿病の病態・合併症に応じた食事療法の設定の仕方、運動療法の種類や適応についてまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	10/22(木)	4	糖・代・内分泌内科分野	小田 知靖 特任講師	糖尿病の薬物療法	1,3,5,12	<p>【事前学修】 肥満症、メタボリックシンドロームについて、「病気がみえる vol. 3」を読んで、知識を整理する。</p> <p>【事後学修】 肥満症の診断・分類、疾病との関連、内臓脂肪とアディポサイトカイン、メタボリックシンドロームの診断基準について講義で学んだ事をまとめる。所要時間30分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	10/29(木)	3	外科学講座	富澤 勇貴 非常勤講師	甲状腺疾患	1,6,12	<p>【事前学修】 病期が見えるVol.3の甲状腺疾患の項を読んで知識を整理する。30分以上</p> <p>【事後学修】 甲状腺疾患について配布資料を見直し整理する。所要時間30分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	10/29(木)	4	外科学講座	富澤 勇貴 非常勤講師	水・電解質異常	1,7,9,12	<p>【事前学修】 電解質異常は幅広い分野にまたがるため、関連する1,2年生の授業資料や教科書の記載を見直しておく。所要時間30分</p> <p>【事後学修】 水・電解質異常について配布資料を見直し整理する。所要時間30分以上 【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	内科学 12版	矢崎義雄 総編集	朝倉書店	2022
教科書	標準外科学 15版	畠山勝義 監修、北野正剛、田邊稔、池田徳彦 編集	医学書院	2019
参考書	Williams Textbook of Endocrinology 13rd ed.	Shlomo, Melmedほか	Saunders Elsevier	2016
教科書	標準脳神経外科学 第14版	児玉南海雄、佐々木富男 監修	医学書院	2017
教科書	内分泌代謝科専門医研修ガイドブック	日本内分泌学会(編集)	診断と治療社	2018
参考書	プリンシプル産科婦人科学 第3版 全2巻	武谷雄二 ほか監修	メジカルビュー社	2014
教科書	標準小児科学 8版	内山 聖 監修	医学書院	2013
参考書	内分泌外科：標準手術アトラス 改訂版	日本内分泌外科学会 編	インターメルク	2003
教科書	標準泌尿器科学 10版	赤座英之 監修、並木幹夫 編	医学書院	2021

参考書	糖尿病専門医研修ガイドブック：日本糖尿病学会専門医取得のための研修必携ガイド 改訂第8版	日本糖尿病学会 編	診断と治療社	2020
参考書	ジョスリン糖尿病学 第2版	C. Ronald Kahnほか編、金澤康徳ほか監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2007
参考書	最新内分泌代謝学	中尾一和 編	診断と治療社	2013

・成績評価方法

<p>【総括評価】 中間試験（前期進級試験）30%、進級試験成績（後期進級試験）70%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 なお、後期進級試験範囲には前期進級試験範囲を含む。</p> <p>【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～16	2、4～8	30			70			100
合計		30			70			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信する。 本科目では、事前事後学修以外に各回3時間の自己学修を要す。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>

・教育資源

教科書・参考書・講義室・PC

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	講義
講義	デスクトップパソコン	2	講義
講義	A3カラーレーザープリンター 一式	3	講義

循環器病学

ナンバリング M3-S1-D03

責任者・コーディネーター	循環器内科分野 森野 禎浩 教授		
担当講座・学科(分野)	循環器内科分野、地域医療学分野、心臓血管外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、衛生学公衆衛生学講座、臨床検査医学・感染症学講座		
担当教員	森野 禎浩 教授、伊藤 智範 教授、金 一 教授、石田 大 准教授、大和田 真玄 准教授、小泉 淳一 准教授、齋木 宏文 准教授、赤坂 憲 准教授、房崎 哲也 特任准教授、肥田 頼彦 講師、那須 崇人 講師、二宮 亮 講師、折居 誠 講師、熊谷 亜希子 講師、芳沢 礼佑 助教、二宮 開 助教、松本 裕樹 助教、田林 東 助教		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 27コマ 54.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針(講義概要等)

心臓や脈管系の異常を中心とした循環器疾患は、患者の生死を直接左右する事が多く、その知識習得は重要である。将来医師として活躍するために必要な循環器領域全般の基本知識を習得させる。また、病態生理および心電図診断、超音波画像診断、胸部CTならびにMRI画像診断、核医学画像診断や外科的治療法ならびに小児循環器領域の最新話題も盛り込んで講義する。

・教育成果(アウトカム)

1. 学生が疾患項目ごとに循環器内科講座、高血圧・腎臓内科講座、心臓血管外科講座、小児科学講座、放射線医学講座、救急医学講座の講義を聴講し、自ら学修することで、循環器疾患の病態生理、診断、治療を包括的に説明できる。
2. 循環器領域では、「画像を目で見る」ことや「心音・呼吸音を聞く」ことが大切であり、授業にはコンピュータ画像やCDなどを用いた視聴覚情報を取り入れた学習をすることで、その知識を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,4,6)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	心臓を中心とした循環生理を説明できる。
2	血管疾患(大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈疾患)の理解とその内科的・外科的な治療法を説明できる。
3	心筋梗塞症や狭心症の病態と内科的・外科的な治療法を説明できる。
4	弁膜症の病態の理解や診断ができ、治療法を説明できる。
5	心不全の病態の理解や診断ができ、治療法を説明できる。
6	心筋症や心膜疾患の病態や治療法を説明できる。
7	胸痛などの救急疾患の鑑別を説明できる。
8	不整脈疾患の病態の理解や診断ができ、治療法を説明できる。
9	先天性心臓病の診断と外科的治療法が説明できる。
10	心臓や脈管の画像診断を説明できる。
11	心臓外科手術に必要な人工心肺装置、心筋保護液、医療材料を説明できる。
12	循環器疾患の治療に必要な薬剤の薬理作用ならびにその適応を説明できる。
13	循環器疾患の診断や治療に必要な医療機器を説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/20(水)	3	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	総論	1,13	<p>【事前学修】 Web classの授業スライドを事前に熟読し、解剖学生理学との関係を復習し、疾患と検査の概要とを調べ、自主ノートにまとめる。各疾患と必要な検査のカテゴリーについて100字程度。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 各循環器疾患を分類してそれぞれの疾患名と概要を述べるができるようにまとめる。その診断に必要な各種主な検査の概要を100字程度にまとめる。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/20(水)	4	循環器内科分野	石田 大 准教授	診察	1,3,4,5,6,7,8,9,10	<p>【事前学修】 循環器疾患の診察法について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 循環器疾患の診察法について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/27(水)	3	循環器内科分野	二宮 亮 講師	心臓弁膜症（内-I）	4,13	<p>【事前学修】 心臓弁膜症について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 心臓弁膜症について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/27(水)	4	心臓血管外科学講座	金 一 教授	心臓外科手術概要	1,4,11,13	<p>【事前学修】 心臓弁膜症・心臓腫瘍について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 心臓弁膜症・心臓腫瘍について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/3(水)	3	循環器内科分野	房崎 哲也 特任 准教授	心内膜・心外膜疾患 (内)	5,6,12	【事前学修】 心筋炎・心筋症について、 本学Web classの授業スライ ドを事前に熟読しその内容 を予習する。所要時間 30 分以上 【事後学修】 心筋炎・心筋症について、 講義で学んだ医学知識を理 解し、その内容を復習す る。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/3(水)	4	循環器内科分 野	森野 禎浩 教授	心臓弁膜症 (内-II)	4,13	【事前学修】 心臓弁膜症について、本学 Web classの授業スライドを 事前に熟読しその内容を予 習する。所要時間 30分以 上 【事後学修】 心臓弁膜症について、講義 で学んだ医学知識を理解 し、その内容を復習する。 所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/10(水)	3	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	心不全の診断と治療	5,12,13	【事前学修】 心不全について、Web class の授業スライドを事前に熟 読しその内容を自主ノート にまとめる。フランクス ターリングの法則を説明で きるようにする。所要時間 30分以上 【事後学修】 心不全について、講義で学 んだ医学知識を理解し、そ の内容を復習する。CBTと国 家試験で心不全に関連する 試験問題 (クエスチョンバ ンク)を確認する。所要時 間 150分以上。 【ICT】 WebClass
講義	6/10(水)	4	循環器内科分野	肥田 頼彦 講師	虚血性心疾患 (内)	3,7,10,1 2	【事前学修】 虚血性心疾患について、本 学Web classの授業スライ ドを事前に熟読しその内容 を予習する。所要時間 30分 以上 【事後学修】 虚血性心疾患について、講 義で学んだ医学知識を理解 し、その内容を復習する。 所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/24(水)	3	心臓血管外科学講座	小泉 淳一 准教授	先天性心疾患 (外)	1,9,11	【事前学修】 先天性心疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 先天性心疾患について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/24(水)	4	心臓血管外科学講座	田林 東 助教	末梢血管 (外)	2,10,11,13	【事前学修】 動脈・静脈疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 動脈・静脈疾患について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	9/28(月)	3	心臓血管外科学講座	金 一 教授	心臓弁膜症、心臓腫瘍 (外)	1,4,11,12	【事前学修】 心臓外科手術について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 心臓外科手術について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	9/28(月)	4	心臓血管外科学講座	金 一 教授	虚血性心疾患、感染性心内膜炎 (外)	1,3,13	【事前学修】 虚血性心疾患・感染性心内膜炎について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 虚血性心疾患・感染性心内膜炎について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/5(月)	3	循環器内科分野	大和田 真玄 准教授	基礎心電図学	8	【事前学修】 心電図学について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し、予め疑問点を自己ノートにまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 心電図学について、講義で学んだ重要点を整理して、提出されたレポートはコメント付きで返却する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass

講義	10/5(月)	4	小児科学講座	齋木 宏文 准教授	先天性心疾患(小-I)	1,5,9,12,13	<p>【事前学修】 小児先天性心疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し、その予習した内容をレポートにまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 先天性心疾患について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/26(月)	3	循環器内科分野	大和田 真玄 准教授	上室性不整脈	8,12,13	<p>【事前学修】 徐脈性不整脈について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し予め疑問点を自己ノートにまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 徐脈性不整脈について、講義で学んだ学んだ重要点を整理して、提出されたレポートはコメント付きで返却する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/26(月)	4	小児科学講座	齋木 宏文 准教授	先天性心疾患(小-II)	1,2,5,9,10,13	<p>【事前学修】 小児先天性心疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し、その予習した内容をレポートにまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 先天性心疾患について、講義での要点を復習し、提出されたレポートは解説付きで返却する。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/2(月)	3	放射線医学講座	折居 誠 講師	循環器の画像診断	1,9,11,13	<p>【事前学修】 循環器疾患の画像診断について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で使用した穴埋め式の小テストをもう一度解き、心臓と大血管の画像解剖を理解する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/2(月)	4	循環器内科分野	大和田 真玄 准教授	心室性不整脈	8,13	【事前学修】 心室性不整脈について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し、予め疑問点を自己ノートにまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 心室性不整脈について、講義で学んだ学んだ重要点を整理して、提出されたレポートはコメント付きで返却する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/9(月)	3	循環器内科分野	那須 崇人 講師	循環器薬と補助循環	1,3,5,11,12,13	【事前学修】 循環器薬・補助循環法について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 循環器薬・補助循環法について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/9(月)	4	心臓血管外科学講座	田林 東 助教	脈管（外）	1,9,11,13	【事前学修】 動脈・静脈疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 動脈・静脈疾患について、講義で学んだ内容を復習し、自己レポートにまとめる。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/16(月)	3	心臓血管外科学講座	田林 東 助教	脈管（外）	2,10,11,13	【事前学修】 動脈・静脈疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 動脈・静脈疾患について、講義で学んだ内容を復習し、自己レポートにまとめる。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/16(月)	4	心臓血管外科学講座	小泉 淳一 准教授	先天性心疾患（外）	2,9,10,11,13	【事前学修】 先天性心疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上 【事後学修】 先天性心疾患について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass

講義	11/30(月)	3	循環器内科分野	松本 裕樹 助教	脈管 (内)	2,10,13	<p>【事前学修】 心臓・大血管のマクロ解剖を解剖学で用いた教科書で復習し、その概要を理解しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 授業で行った疾患の疫学、病態生理、治療をまとめ、理解を深めること。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/30(月)	4	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	心肺蘇生法	8,12	<p>【事前学修】 心肺蘇生法について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 心肺蘇生法について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/7(月)	3	臨床検査医学・感染症学講座	熊谷 亜希子 講師	心筋症・心筋炎	6,7,10	<p>【事前学修】 心内膜・心外膜疾患について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を予習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 心内膜・心外膜疾患について、講義で学んだ医学知識を理解し、その内容を復習する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/7(月)	4	循環器内科分野	芳沢 礼佑 助教	徐脈性不整脈	1,8,12,13	<p>【事前学修】 徐脈性不整脈について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し、予め疑問点を自己ノートにまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 徐脈性不整脈について、講義で学んだ学んだ重要点を整理して、提出されたレポートはコメント付きで返却する。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	12/14(月)	3	循環器内科分野	二宮 開 助教	循環器領域のCBT・ 国試対策(内-I)	1,3,10,1 2	【事前学修】 これまでの講義の内容に関連した国試過去問題とCBTのQBを題材にして、本学Web classの授業スライドを事前に熟読しその内容を自主ノートにまとめる。所要時間 30分以上 【事後学修】 CBTと国試過去問題について、講義で学んだ医学知識を応用し、クエスチョンバンクを解いてみる。所要時間 150分以上 【ICT】 WebClass
----	----------	---	---------	---------	-------------------------	---------------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	内科学書 改訂第9版	南学正臣 編	中山書店	2019
参考書	ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 第4版	川名正敏 訳	メディカルサイエンス・インターナショナル	2019
参考書	病気がみえる vol.2 循環器 第5版	医療情報科学研究所	メディックメディア	2021
推薦図書	循環器内科専門医バイブル 全3冊	小室一成 編	中山書店	2018
推薦図書	先天性心疾患	中澤誠 編	メジカルビュー	2014
推薦図書	極論で語る循環器内科 第3版	香坂俊	丸善出版	2022
推薦図書	不整脈学	井上博 編	南江堂	2012

・成績評価方法

【総括評価】 中間試験（前期進級試験）30%、進級試験成績（後期進級試験）70%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 なお、後期進級試験範囲には前期進級試験範囲を含む。								
【形成的評価】 一部の講義では小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～13	1246	30			70			100
合計		30			70			100

・特記事項・その他

1. 血管疾患
大動脈瘤、解離性大動脈瘤の診断・治療、閉塞性動脈硬化症、Buerger病の治療、静脈疾患

2. 血圧異常
本態性高血圧症の定義、病因、病態生理、分類、治療

3. 不整脈
各不整脈疾患の分類・病因・機序・症候・診断・治療

4. 先天性疾患、小児の後天性心疾患
各疾患ごとの分類・病態生理・症候・診断・治療、手術適応・術式

5. 心臓弁膜症
各疾患の病因・病態生理・症候・診断・治療、手術適応・術式

6. 虚血性心疾患
狭心症、心筋梗塞症、無症候性心筋虚血の危険因子・病態生理・症候・診断・治療、手術適応・術式

7. 心膜・心筋疾患、心筋炎、心筋症、心不全の病因・分類・病態生理・診断・治療

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要し、事前学習の内容に関する小テストを行う。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設けかつグループワークによる十分なディスカッションを行い、講義冒頭で事前学習内容の発表時間を設ける。また、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業でその解説を行う。さらに、教科書の要点をレポートにまとめWeb classにその内容を報告する。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本内容は全授業に対して該当するものとする。講義資料はWebclassで配信する。本科目では、事前事後学修以外に5時間の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源
教科書・参考書、講義室、実習室、PC、推薦図書、コンピュータソフトウェア、インターネット

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコン NEC Mate タイプ	1	講義用
講義	ノートパソコン Let's note SV9	1	講義用
講義	iPad Pro 11インチ シルバー 一式	1	講義用
講義	iMac MWV13J/A	1	講義用

呼吸器病学

ナンバリング

M3-S1-D04

責任者・コーディネーター	内科学講座呼吸器内科分野 川田 一郎 教授		
担当講座・学科(分野)	呼吸器内科分野、放射線医学講座、小児科学講座、外科学講座、循環器内科分野、病理診断学講座、睡眠医療学科、呼吸器外科学講座		
担当教員	川田 一郎 教授、柳川 直樹 教授、西島 嗣生 教授、齊藤元 教授、鈴木 信 准教授、長島 広相 特任准教授、鈴木 智大 講師、秋山 真親 講師、内海 裕 特任講師、細川 敬輔 特任講師、曾根 美都 助教、松本 敦 助教、高橋 信 非常勤講師、鈴木 順 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 29コマ 58.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針(講義概要等)

肺の臓器としての機能は空気中の酸素を取り込み、体内で産生された炭酸ガスを排出することである。この目的を気道から肺胞に至る経路がどのような役割を果たしているかその構造と機能を十分に理解する必要がある。呼吸器疾患には、大きく病因として分けると炎症、感染、腫瘍に分類されるが、それぞれ密接に影響し合っている。気道、肺は、空気を通して外界と直接接する器官の一つであり、細菌・ウイルスや有害物質の暴露をより受けやすい臓器である。この臓器特性を通じた疾患理解が必要である。腫瘍についても喫煙など外界からの影響と遺伝子異常など内なる因子の両方が影響する。また、すべての血液は肺循環を経てガス交換が行われる。それ故、呼吸器疾患からの心循環器系への影響、心循環器疾患からの肺への影響も強く、両者を平行して考えていかなければならない臓器である。

・教育成果(アウトカム)

- 1) 肺の気道系及び肺胞構造を理解することによって、換気及びガス交換に関与する構造と生理機能について説明できる。そのガス交換の障害である呼吸不全について説明できる。
- 2) 肺の感染防御能を理解し、その防御システムの破たんによる肺感染症について知ること、各種感染症による病態の違いや治療法の違いについて説明できるようになる。
- 3) 気道傷害による閉塞性換気障害を主病態とする閉塞性肺疾患には、アレルギーが原因となる喘息と喫煙が原因となるCOPDがある。それぞれの病態の違いと治療について理解し、説明できる。
- 4) 様々な原因で肺実質に炎症、破壊が起こる間質性肺疾患の病態を説明できる。
- 5) 肺腫瘍については喫煙などの外界からの影響ばかりだけではなく、腫瘍細胞における特定の遺伝子変異により肺がんが起こることが判明した。これらの肺腫瘍発生のメカニズムを知ること、従来の肺がん治療と分子標的薬・免疫療法などの新たな治療について説明できるようになる。
- 6) 肺血栓塞栓症、肺高血圧など肺循環に関連する疾患を学習することで、肺循環と体循環との関連が説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 2,4)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	呼吸器の解剖と生理的機能について説明できる。
2	閉塞性肺疾患の診断と治療について説明できる。
3	呼吸器感染症の診断と治療について説明できる。
4	拘束性肺疾患の診断と治療について説明できる。
5	全身性疾患の肺病変について説明できる。
6	呼吸器心身症について説明できる。
7	肺の発育異常と形成不全について説明できる。
8	新生児および小児の呼吸器疾患について説明できる。

9	呼吸器疾患の画像診断について説明できる。
10	呼吸器外科学に必要な解剖学と生理学を説明できる。
11	外科手術法を説明できる。
12	胸膜疾患の診断と治療を説明できる。
13	縦隔腫瘍の治療法について説明できる。
14	肺腫瘍の診断と治療を説明できる。
15	肺循環への理解とその疾患について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/20(水)	5	呼吸器内科分野	川田 一郎 教授	呼吸器病学総論（構造と病態生理）	1,2,4,9,14,15	【事前学修】 肺の構造と主要症状の病態について呼吸器病学の成書を参考にまとめておく。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ、到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/26(火)	1	小児科学講座	松本 敦 助教	新生児の呼吸器疾患	1,3,9	【事前学修】 出生時の肺呼吸の確立と新生児仮死について事前に調べておく。所要時間60分以上 【事後学修】 新生児仮死に対応した蘇生法について100字程度でまとめる。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/29(金)	4	放射線医学講座	鈴木 智大 講師	胸部画像診断1（炎症性疾患の診断）	1,3,5,8,9,12	【事前学修】 胸部画像検査における正常所見について調べまとめる。所要時間60分以上 【事後学修】 胸部画像解剖を復習し炎症性病変の主座と画像所見の関連について整理する。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/2(火)	1	小児科学講座	松本 敦 助教	小児の呼吸器疾患 1	1,3,8,9	【事前学修】 小児における呼吸器の病態生理学的特徴について100字程度でまとめる。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容をまとめ、到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/8(月)	5	呼吸器内科分野	秋山 真親 講師	胸膜疾患(自然気胸, 胸膜中皮腫)	3,9	<p>【事前学修】 胸膜の正常構造、アスベスト関連疾患、胸水の種類、癌性胸膜炎、膿胸、結核性胸膜炎、気胸について、どのような疾患、特徴があるかについて教科書をみてまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義内容を見直し再度反復しまとめる。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/9(火)	5	小児科学講座	松本 敦 助教	小児の呼吸器疾患2	1,3,8	<p>【事前学修】 小児における代表的な下気道の感染症について事前に調べておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 小児における肺炎の病原体別の特徴を100字程度でまとめる。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/18(木)	3	外科学講座	鈴木 信 准教授	気道、肺の発育異常と形成不全	1,7,8,9,10,11	<p>【事前学修】 気道、肺の発育に関して発生学の成書を読みまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ、到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/18(木)	4	循環器内科分野	高橋 信 非常勤講師	肺循環異常1 (肺血栓塞栓症、肺動脈性肺高血圧症、肺動静脈瘻、肺性心)	1,5,9,15	<p>【事前学修】 肺血栓塞栓症、肺高血圧症について事前に調べまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ病態機序をまとめ理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/26(金)	4	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	感染症1 (上気道炎、気管支炎、肺炎、他)	1,3,9	<p>【事前学修】 市中肺炎、院内肺炎の特徴について事前に調べまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ感染症を起こす菌の特徴について表にまとめる。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/26(金)	5	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	感染症2 (肺結核、日和見感染、他)	1,4,5,9	【事前学修】 結核の感染と発症の違いについて調べまとめておく。所要時間60分以上 【事後学修】 結核治療の特徴 (抗菌薬の種類、副作用など) について説明できるようにしておく。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/2(金)	3	呼吸器内科分野	内海 裕 特任講師	気管・気管支病変1 (慢性気管支炎、肺炎腫、びまん性汎細気管支炎)	1,2,9	【事前学修】 原発性肺癌の分類、症状、診断について呼吸器病学の成書を参考にまとめておく。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ、到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/2(金)	4	呼吸器内科分野	川田 一郎 教授	腫瘍1	1,4,9,12	【事前学修】 慢性閉塞性肺疾患の病態について呼吸器学の成書を参考にまとめておく。また、気流制限における所見について気管支喘息との相違を事前に理解しておく。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容をまとめ COPDの病態、治療をまとめておく。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/16(金)	3	呼吸器内科分野	内海 裕 特任講師	気管・気管支病変2 (気管支喘息) 気管支喘息+アレルギー性気管支肺アスペルギルス症・その他の好酸球性疾患	1,2,6,9	【事前学修】 気管支喘息の病態について呼吸器学の成書を参考にまとめておく。また好酸球の関わる肺疾患についても学んでおく。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学んだ気管支喘息の病態、治療をまとめておく。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/16(金)	4	呼吸器内科分野	川田 一郎 教授	腫瘍2 (肺癌2、転移性腫瘍、肺良性腫瘍)	1,9,14	【事前学修】 肺癌の内科的治療、転移性肺腫瘍、肺良性肺腫瘍について呼吸器病学の成書を参考にまとめておく。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ、到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass

講義	10/23(金)	4	放射線医学講座	曾根 美都 助教	胸部画像診断2 (腫瘍性疾患の診断)	1,2,4,5	<p>【事前学修】 胸部画像検査における肺の腫瘍性疾患における所見について事前に調べまとめる。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 胸部画像解剖を復習し腫瘍性病変の所見について整理する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/26(月)	5	呼吸器内科分野	秋山 真親 講師	実質性・間質性肺障害1 (特発性間質性肺炎、肺線維症、じん肺)	1,9,13,14	<p>【事前学修】 特発性間質性肺炎、じん肺、肺胞蛋白症について呼吸器病学の成書を参考にまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/30(金)	4	呼吸器内科分野	内海 裕 特任講師	形態・機能異常 (気管支拡張症、のう胞性肺疾患、無気肺) + 肺循環異常2 (肺水腫、ARDS)	1,4,9	<p>【事前学修】 気管支拡張症、肺水腫、ARDSについて呼吸器病学の成書を参考にまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/2(月)	5	呼吸器内科分野	秋山 真親 講師	実質性・間質性肺障害2 (過敏性肺炎、サルコイドーシス、肺胞蛋白症、リポイド肺炎)	1,4,5,9	<p>【事前学修】 呼吸器病学の成書でサルコイドーシスの胸部画像写真の特徴、採血項目、出現臓器の種類、所見、また過敏性肺炎の種類についてまとめる。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ反復する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/11(水)	4	呼吸器外科学講座	齊藤 元 教授	胸壁・胸膜疾患	1,2,4,5,9	<p>【事前学修】 胸壁・胸膜疾患の外科的な対象について事前に調べまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/11(水)	5	呼吸器外科学講座	齊藤 元 教授	肺がん	1,2,4,5,9	<p>【事前学修】 肺癌の診断、治療について呼吸器病学の成書を参考にまとめておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/13(金)	3	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器疾患の臨床病理1 (非腫瘍性疾患)	1,4,5,9	<p>【事前学修】 基礎〔解剖、病理〕で学んだ呼吸器のマクロ、ミクロの名称を確認して、基礎の病理で学んだ様々な疾患についてその特徴を復習する。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 病理診断は臨床的には治療の確定診断になることが多いので、組織、細胞像を画像、血液学的検査など他の検査事項と関連づけられるようにする。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/13(金)	4	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	呼吸器疾患の臨床病理2 (腫瘍性疾患)	1,4,5,9,15	<p>【事前学修】 呼吸器の解剖、肺原発腫瘍(腺癌, 扁平上皮癌, 小細胞癌)と転移性腫瘍の臨床像と病理像について、Robbins Basic Pathology、カラー ルービン病理学などの教科書や参考書を読んで、自分なりにまとめのノートを作成する。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ肺腫瘍における臨床像、病理像、治療について臨床と病理の相関を意識してそれぞれまとめること。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/19(木)	4	睡眠医療学科	西島 嗣生 教授	換気障害 I	1,4,5,12	<p>【事前学修】 換気障害の代表的成因および呼吸器の検査の面から内科学の成書を読んで自分なりに比較表を作成する。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/20(金)	4	呼吸器内科分野	鈴木 順 非常勤講師	呼吸器心身症 1 心身医学総論	1,5,6,9,15	【事前学修】 心身症に関して事前に調べ まとめておく。所要時間60 分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまと め到達目標の説明ができる ように理解する。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/20(金)	5	呼吸器内科分野	鈴木 順 非常勤講師	呼吸器心身症 2	1,5,6,9,15	【事前学修】 心身症に関して事前に調べ まとめておく。所要時間60 分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまと め到達目標の説明ができる ように理解する。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/27(金)	4	睡眠医療学科	細川 敬輔 特任講師	換気障害 II	5	【事前学修】 呼吸調節に由来する換気障 害の病態についてまとめ る。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまと め到達目標の説明ができる ように理解する。 所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/11(金)	3	呼吸器外科学講座	齊藤 元 教授	転移性肺腫瘍, 良性 腫瘍, 先天性肺疾患	1,3,4,5,9,10,1 1,12	【事前学修】 転移性肺腫瘍、良性肺腫 瘍、先天性肺疾患につい て、呼吸器学の成書を参考 に自分なりにまとめてお く。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまと め到達目標の説明ができる ように理解する。 所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/11(金)	4	呼吸器外科学講座	齊藤 元 教授	縦隔腫瘍, 呼吸不全	1,2,5,9,10,11, 14,15	【事前学修】 縦隔腫瘍、呼吸不全につい て呼吸器学の成書を参考 にまとめておく。所要時間60 分以上 【事後学修】 講義で学習した内容をまと め到達目標の説明ができる ように理解する。 所要時間120分以上 【ICT】 WebClass

講義	12/11(金)	5	呼吸器内科分野	川田 一郎 教授	呼吸器病学のまとめ	1,2,3,4,5,9,10 ,11,12,13,15	<p>【事前学修】 これまでの講義内容を見直し学んだ内容を確認しておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学習した内容をまとめ、到達目標の説明ができるように理解する。所要時間120分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
----	----------	---	---------	----------	-----------	--------------------------------	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	スクワイヤ放射線診断学	Robert A. Novelline 著、藤原卓哉 訳	羊土社	2005
教科書	標準外科学 17版	田邊 稔 監修、池田徳彦、大木隆生、猪俣雅史、篠原尚編集	医学書院	2025
教科書	標準小児科学 9版	原 寿郎 監修	医学書院	2022
教科書	新臨床内科学 10版	矢崎 義雄 監修	医学書院	2020
教科書	内科学 12版	矢崎 義雄 総編集	朝倉書店	2022
教科書	フレイザー呼吸器病学エッセンス	フレイザーほか著、清水英治・藤田次郎監訳	西村書店	2009
教科書	ハリソン内科学 第5版	デニス L. カスパー著、福井次矢ほか監訳	メディカル・サイエンス・イン	2017
参考書	基本臨床技能修得マニュアル：OSCE対応：診察・検査・処置 2版	千田勝一、鈴木一幸、小川彰 編	医歯薬出版	2004
参考書	肺癌診療ガイドライン - 胸膜中皮腫・胸腺腫含む 2024年版（第8版）	日本肺癌学会 編	金原出版	2024
参考書	臨床・病理 肺癌取扱い規約 第9版	日本肺癌学会 編	金原出版	2025
教科書	心療内科学 ー診断から治療までー	日本心療内科学会 編	朝倉書店	2022
推薦図書	ガイトン生理学 原著13版	Arthur C. Guyton, John E. Hall 著、石川義弘ほか 監訳	エルゼビア・ジャパン	2018

・成績評価方法

【総括評価】

中間試験（前期進級試験）30%、進級試験成績（後期進級試験）70%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

なお、後期進級試験範囲には前期進級試験範囲を含む。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。

実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～15	2、4	30			70			100
合計		30			70			100

・特記事項・その他

<p>1. 呼吸器内科分野： 損傷：縦隔気腫、自然気胸、血胸 肺循環障害：肺血栓塞栓症、肺動脈性肺高血圧症、肺水腫、ARDS 感染症：急性気管支炎、肺炎、びまん性汎細気管支炎、肺結核、胸膜炎、膿胸、インフルエンザ 異物沈着：喫煙肺、COPD（慢性気管支炎、肺気腫）、塵肺 免疫アレルギー疾患：気管支喘息、過敏性肺臓炎、アレルギー性血管炎、肺好酸球症 肺実質再構築：肺線維症、特発性間質性肺炎 腫瘍：肺癌、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫 呼吸器心身症</p> <p>2. 呼吸器外科学講座：肺・気管支の外科、肺・気管支の腫瘍 3. 外科学講座（小児外科）：肺・横隔膜の発育異常と形成不全 4. 小児科学講座：新生児の呼吸器疾患と小児の呼吸器疾患 5. 睡眠医療学科：換気障害：睡眠時無呼吸症候群、胸郭変形、神経・筋疾患 6. 放射線医学講座：呼吸器疾患の画像診断 7. 病理診断学講座：呼吸器疾患の臨床病理（細胞診を含む）</p> <p>多くの講義については、講義内容をe-learningにて公開する予定である。学生は講義の予習・復習に活用すること。</p> <p>講義に関する質問や相談について 呼吸器内科分野は川田教授、呼吸器外科学講座は齋藤教授、外科学講座（小児外科）は鈴木信准教授、小児科学講座は松本助教、睡眠医療学科は西島教授、放射線医学講座は鈴木智大特任講師、病理診断学講座は医局が窓口。いずれも原則として、来訪前に e-mail で連絡を取り確認すること。</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>

・教育資源

教科書・参考書・講義室・PC

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	SpO2測定装置	5	酸素飽和度モニターを実測させる。
講義	ピークフローメーター	5	気管支喘息の自己管理の実際を学ぶ。
講義	スパイロメーター	1	肺機能検査の検査手技、評価を学ぶ。
講義	胸腔鏡	1	胸腔内病変の診察、治療に用いる。
実習	ポリソムノグラフ	1	睡眠時無呼吸症候群の検査に用いる。
講義	NOxアナライザーCLM-5000	1	NO産生量から肺、気道の炎症状態を測定する。
講義	NPPV呼吸装置	1	非侵襲的人工呼吸装置。適応を学ぶ。
講義	顕微鏡デジタルカメラDP70 (OLYMPUS)	1	組織標本をデジタル画像に取り込み資料とする。
講義	電動式鏡映描写器（竹井）	1	鏡面像のストレス負荷による自律神経反応を観察する。
講義	ノートパソコン ProBook430 一式	1	講義用
講義	ノートパソコン dynabook AZ/HRG	1	講義用
講義	ノートパソコン DAIV 4P（プレミアムモデル）	1	講義用

神経病学

ナンバリング M3-S1-D05

責任者・コーディネーター	脳神経内科・老年科分野 前田 哲也 教授		
担当講座・学科（分野）	脳神経内科・老年科分野、脳神経外科学講座、放射線医学講座		
担当教員	前田 哲也 教授、板橋 亮 教授、赤松 洋祐 教授、別府 高明 教授、石塚 直樹 講師、工藤 雅子 講師、高橋 真 講師、鈴木 真紗子 講師、佐浦 宏明 講師、鈴木 美知子 講師、鈴木 智大 講師、石垣 大哉 講師、石橋 靖宏 非常勤講師、米澤 久司 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 36コマ 72.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

日本の超高齢化社会からの神経学に対するニーズは増加の一途で、脳卒中やアルツハイマー病は介護を要する疾患の常に上位に位置する。かつて“治らない病気”の代表とされてきた脳神経疾患は“治せる病気”への変貌を遂げる分岐点に到達し、正しい神経学の習得は今後の充実した医療提供の使途となる医師には不可欠の学問である。ヒト神経系は、大脳など中枢神経と、骨格筋、内臓、皮膚に至る運動および感覚、さらに自律神経をも含めた末梢神経から構成され、ヒトがヒトとして生命活動を営むことに必要な全ての機能を制御する。神経学は神経系が司る意識や情緒、認知機能、運動、感覚、植物機能に関する解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学を統合した総合的学問であり、これらが侵される病態を対象とする全人的医学である。基礎医学に裏付けられた神経症候学を学習し、神経疾患に関する歴史を知り、最新のエビデンスを踏まえた各種疾患の診療について習得することが本講義の方針である。

・教育成果（アウトカム）

これまでに学んだ中枢神経、末梢神経、筋の解剖学、生理学、生化学、薬理学および病理学の基礎知識を土台にして神経疾患の歴史、病態、症候、検査および治療と予後について学ぶことで、神経学の基本を習得することができる。
本講義で身につけた学識、すなわちアウトカムは臨床実習に出てStudent Doctorとして診療を実践するために必要不可欠な素養でもあることを理解し講義に望む。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	基礎医学の知識の上に立って、脳、脊髄、末梢神経および筋の正常構造と機能を説明できる。
2	神経診断学の基本的知識である神経解剖学に基づいた神経症候学について、高位診断も含む病巣診断における病的意義およびその重要性を説明できる。
3	診断に必要な検査の基本的知識として、神経心理学的検査、神経生化学における脳脊髄液検査、神経電気生理学における脳波、末梢神経伝導検査、筋電図、誘発電位などの方法、重要性を説明できる。
4	X線CT、MRI、脳血管撮影、脳血流シンチグラフィなどの核医学検査に関する神経放射線学的基礎知識を習得した上で、各神経疾患に特徴的な画像所見を説明できる。
5	脳血管疾患、脳脊髄腫瘍、変性疾患、脱髄疾患、代謝性疾患、機能的疾患、感染症、中毒性疾患、外傷および奇形などの中枢性疾患について、内科的および外科的な基本的知識を説明できる。
6	脊髄疾患、末梢神経および筋疾患について基本知識を説明できる。
7	成人とは異なる小児に特有な神経学的所見、症状を良く理解し、小児神経疾患の基本的知識について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-0講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/11(月)	5	脳神経内科・老年科分野	板橋 亮 教授	脳血管障害（虚血性脳血管障害-脳卒中の概要，神経症候と脳血管解剖）	1,2,5	【事前学修】 推薦図書、参考書を読んで、脳卒中の概要，脳卒中の症候と脳血管の解剖について確認しておく。所要時間90分以上 【事後学修】 虚血性脳血管障害の症候と神経局在，脳血管解剖の関係に関して，講義資料で復習した上で推薦図書や参考書で知識を補完し，各自でまとめること。所要時間90分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/13(水)	1	脳神経内科・老年科分野	高橋 真 講師	神経変性疾患（パーキンソン病）	1,2,4	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて変性疾患、大脳基底核の機能解剖学、錐体外路症状について予習しておくこと。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間 120分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	5/13(水)	2	脳神経内科・老年科分野	高橋 真 講師	神経変性疾患（パーキンソン病関連疾患）	1,2,4	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いてパーキンソニズムを呈する疾患を可能な限り挙げて概要を予習しておくこと。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間 120分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	5/18(月)	5	脳神経内科・老年科分野	前田 哲也 教授	成人の筋疾患および神経筋接合部疾患（筋ジストロフィーなど）	1,4	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて骨格筋の解剖学および組織学、筋病理学をおさらいしておく。所要時間90分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間90分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass

講義	5/19(火)	2	脳神経内科・ 老年科分野	高橋 真 講師	自律神経疾患	1,2,3,4	<p>【事前学修】 自律神経系の神経解剖を推薦図書や参考書などを読んで予習しておく。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 自律神経系の機能解剖学と関連する神経疾患を、講義資料を用いて保管する。所要時間 120分以上 自身で作図票を行うなどしてまとめること。 【ICT】 WebClass</p>
講義	5/20(水)	2	脳神経外科学 講座	佐浦 宏明 講師	脳腫瘍（良性腫瘍： 間脳・下垂体腫瘍以外）	1,2,3,4	<p>【事前学修】 中枢神経解剖、生理について、病気が見える Vol.7などを参考にして、該当疾患と関連させつつ復習する。所要時間 90分以上</p> <p>【事後学修】 頭蓋内良性腫瘍、特に髄膜腫と神経鞘腫について、発生部位、症状、診断および治療までの一連を簡潔にまとめること。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	5/26(火)	2	脳神経外科学 講座	別府 高明 教授	脳腫瘍（悪性腫瘍： 神経膠腫・胚細胞性腫瘍・転移性脳腫瘍・その他）	1,2,4	<p>【事前学修】 各悪性脳腫瘍の病態や治療について教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。神経また、解剖学や神経生理学の基礎を教科書を用いて復習を行う。所要時間 90分以上</p> <p>【事後学修】 各悪性脳腫瘍の臨床的特徴をまとめる。発生部位による症状、診断、治療について整理する。また、医師国家試験でどのような形で出題されているかを確認する。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	5/27(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	工藤 雅子 講師	神経心理学	2,3	<p>【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて高次脳機能、大脳局在について勉強し概要を理解する。所要時間 90分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ失語、失行、失認、記憶障害の病巣と病態、主要症候について各自まとめる。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass</p>

講義	5/27(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	工藤 雅子 講師	一次性頭痛	1,4,5	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて 一次性頭痛の主要疾患、症 候について説明できるよう 予習をする。所要時間 90 分以上 【事後学修】 講義で学んだ一次性頭痛の 症候・治療および日常生活 支障度について各自説明で きるようにまとめること。 所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/2(火)	2	脳神経内科・ 老年科分野	石橋 靖宏 非常 勤講師	てんかん	1,2	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて 一次性頭痛の主要疾患、症 候について説明できるよう 予習をする。所要時間 90 分以上 【事後学修】 講義で学んだ一次性頭痛の 症候・治療および日常生活 支障度について各自説明で きるようにまとめること。 所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/3(水)	1	脳神経外科学 講座	赤松 洋祐 教授	脳血管障害（脳内出 血をきたす疾患）	1,2,3,4,5	【事前学修】 脳内出血をきたす疾患の病 態や治療について教科書を 読んで自分なりに説明文を 作成する。神経また、解剖 学や神経生理学の基礎を教 科書を用いて復習を行う。 所要時間 90分以上 【事後学修】 脳内出血をきたしうる疾患 をまとめる。特に高血圧性 脳出血や脳動静脈奇形の原因、 好発部位、症状、診 断、治療について整理す る。また、医師国家試験で どのような形で出題されて いるかを確認する。所要時 間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/3(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	前田 哲也 教授	神経変性疾患（運動 失調症）	1,2,3,4,5	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて 小脳の機能解剖学と症候学 について予習しておくこ と。所要時間90分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資 料を用いて復習し自身の予 習内容を補完する。所要時 間90分以上推薦図書や参考 書などを用いて自らの学識 を深める。 【ICT】 WebClass

講義	6/10(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	鈴木 真紗子 講師	神経感染症 1	1,2,3,4,5	<p>【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて神経に感染する細菌、真菌、原虫、寄生虫など基礎について予習しておくこと。所要時間90分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。国家試験問題集に掲載されている神経における細菌、真菌、原虫、寄生虫感染症の過去問の演習を行い出題されるポイントを把握しておくこと。所要時間 90分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/10(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	板橋 亮 教授	脳血管障害（虚血性 脳血管障害-脳梗塞の 病態と画像）	1,4,5	<p>【事前学修】 推薦図書、参考書を読んで、脳梗塞の分類や病態、脳の画像診断で用いる各モダリティの特徴に関して把握しておく事。所要時間90分以上</p> <p>【事後学修】 脳梗塞の分類や病態、画像診断に関して、講義資料で復習した上で推薦図書や参考書で知識を補完し、各自でまとめること。所要時間90分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/17(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	鈴木 真紗子 講師	神経感染症 2	1,2,3,4,5	<p>【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて神経ウイルス感染症について予習しておく。所要時間90分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ神経ウイルス感染症の病態や特徴を各自で簡潔にまとめる。国家試験問題集に掲載されている視神経脊髄炎の過去問の演習を行い出題されるポイントを把握しておくこと。所要時間 90分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/17(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	前田 哲也 教授	成人の筋疾患および 神経筋接合部疾患 (炎症性・代謝性など)	1,2,3,4,5	<p>【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて骨格筋の解剖学および組織学、筋病理学をおさらいしておく。所要時間90分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間90分以上</p> <p>推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/24(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	板橋 亮 教授	脳血管障害（虚血性 脳血管障害-脳梗塞の 急性期治療と予防）	1,4,5	【事前学修】 推薦図書、参考書を読ん で、脳梗塞の急性期治療と 予防に関して大まかに把握 しておく事。所要時間 90 分以上 【事後学修】 脳梗塞の治療および予防に 関して、講義資料で復習し た上で推薦図書や参考書で 知識を補完し、各自でまと めること。所要時間 90分 以上 【ICT】 WebClass
講義	6/24(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	前田 哲也 教授	成人の筋疾患および 神経筋接合部疾患 （重症筋無力症な ど）	1,2,3,4,5	【事前学修】 推薦図書、参考書などを用 いて神経筋接合部の神経伝 達機構について予習し神経 伝達物質の特徴を整理して おく。所要時間90分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資 料を用いて復習し自身の予 習内容を補完する。所要時 間90分以上 推薦図書や参考書などを用 いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	9/30(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	米澤 久司 非常 勤講師	神経疾患のケースス タディ	1,2,3,4	【事前学修】 神経内科の各論について、 Minimum Essenceを全体的に 予習する。所要時間60分以 上 【事後学修】 講義で取り上げたケースに ついて、検査・診断・治療 の要点を箇条書きでまとめ ること。所要時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	9/30(水)	2	脳神経外科学 講座	赤松 洋祐 教授	脳血管障害（閉塞性 疾患の外科的治療）	1,2,3,4,5 ,6	【事前学修】 虚血性脳血管障害をきたす 疾患の病態や治療について 教科書を読んで自分なりに 説明文を作成する。神経ま た、解剖学や神経生理学の 基礎を教科書を用いて復習 を行う。所要時間 90分以 上 【事後学修】 虚血性脳血管障害の臨臨床 特徴をまとめる。原因、脳 循環病態、症状、診断、治 療について整理する。ま た、医師国家試験でどのよ うな形で出題されているか を確認する。所要時間 90 分以上 【ICT】 WebClass

講義	10/7(水)	1	脳神経外科学講座	赤松 洋祐 教授	脳血管障害(クモ膜下出血をきたす疾患)	1,2,3,4,5	【事前学修】 中枢神経解剖及び神経放射線学的性状所見を復習する。所要時間 90分以上 【事後学修】 くも膜下出血の臨床各論を整理すると共に、医師国家試験でどのような形で出題されているか、オープン問題や解説本及びWebで確認する。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/7(水)	2	放射線医学講座	鈴木 美知子 講師	脳腫瘍の画像診断	1,3,4	【事前学修】 脳画像解剖について神経科学の講義資料などで復習する。所要時間90分以上 【事後学修】 脳腫瘍を好発部位と好発年齢で整理し、それぞれの画像所見を簡潔にまとめること。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/14(水)	1	脳神経外科学講座	佐浦 宏明 講師	先天異常・発生異常による疾患(先天奇形)／機能的脳外科(片側顔面けいれん、突発性三叉神経痛)	1,2,3,4,5,6,7	【事前学修】 小児奇形や機能的疾患の特徴について、病気が見えるVol.7などを参考に理解する。所要時間 90分以上 【事後学修】 各疾患の概念、病態機序、画像所見、治療法について簡潔にまとめること。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/14(水)	2	脳神経内科・老年科分野	前田 哲也 教授	先天異常・発生異常による疾患(母斑症)	1,4	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて基礎遺伝学について予習しておくこと。所要時間90分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間90分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	10/21(水)	1	脳神経内科・老年科分野	鈴木 真紗子 講師	脱髄性疾患(多発性硬化症)	1,2,3,4,5,6	【事前学修】 推薦図書、参考書などを用いて多発性硬化症と視神経脊髄炎について予習する。所要時間 90分以上 【事後学修】 講義内容に関して配布資料を中心に重要なポイントをまとめる。国家試験問題集に掲載されている多発性硬化症の過去問の演習を行い出題されるポイントを把握しておくこと。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass

講義	10/21(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	石塚 直樹 講師	代謝性疾患／中毒お よび欠乏性疾患	1,3,4,5	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて 代謝性神経疾患のアウトラ インについて予習しておく こと。所要時間60分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資 料を用いて復習し自身の予 習内容を補完する。所要時 間 120分以上 推薦図書や参考書などを用 いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	10/28(水)	1	放射線医学講 座	鈴木 美知子 講 師	脳血管障害（脳血管 障害の画像診断）	1,4,5	【事前学修】 脳血管解剖について神経科 学の講義資料などで復習す る。所要時間90分以上 【事後学修】 各疾患の画像所見を画像検 査法ごとに簡潔にまとめる こと。所要時間90分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/28(水)	2	放射線医学講 座	鈴木 智大 講師	頭蓋底・脊髄疾患の 画像診断	1,4,5	【事前学修】 頭蓋底・脊髄の解剖を復習 する。所要時間60分以上 【事後学修】 頭蓋底・脊髄の画像解剖の 要点をまとめておく。所要 時間120分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/4(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	工藤 雅子 講師	神経変性疾患（認知 症疾患）	2,4,5	【事前学修】 神経病学前期講義「神経心 理学」の配布資料を読み、 高次大脳機能障害（特に記 憶障害）について復習す る。所要時間 90分以上 【事後学修】 講義で学んだAlzheimer病お よびその他認知症の主要症 候と治療について各自まと める。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/4(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	石塚 直樹 講師	全身疾患における神 経障害	1,3,4,5	【事前学修】 糖のエネルギー産生の経路 について復習しまとめてお く。教科書、推薦図書、参 考書を読んで神経症状を生 じる内分泌系疾患について 予習しておく。所要時間60 分以上 【事後学修】 講義資料や参考書を読み、 ビタミン欠乏による神経障 害、内分泌系疾患、自己免 疫に異常を生じる疾患の病 態と症状を理解し説明がで きるよう復習すること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

講義	11/11(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	鈴木 真紗子 講師	脱髄性疾患（その他）	1,4	【事前学修】 推薦図書、参考書などを用いて視神経脊髄炎について予習する。所要時間 90分以上 【事後学修】 講義で学んだ疾患の病態や特徴を各自で簡潔にまとめる。国家試験問題集に掲載されている視神経脊髄炎の過去問の演習を行い出題されるポイントを把握しておくこと。所要時間90分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/11(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	前田 哲也 教授	脊髄・脊椎疾患（脊髄症候学など）	5	【事前学修】 頭蓋底・脊髄の解剖を復習する。所要時間 90分以上 【事後学修】 頭蓋底・脊髄の画像解剖の要点をまとめておく。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/18(水)	1	脳神経外科学 講座	石垣 大哉 講師	脊髄・脊椎疾患（脊髄腫瘍・脊髄空洞症など）	1,2,3,4,5,6	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて皮質脊髄路と脊髄視床路の解剖学を予習しておくこと。所要時間90分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間90分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	11/18(水)	2	脳神経内科・ 老年科分野	石塚 直樹 講師	神経変性疾患（運動ニューロン病・その他の脊髄疾患など）	1,2,5	【事前学修】 運動ニューロンの解剖学と組織学を予習しておくこと。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容に疾患を結びつけてを補完する。所要時間 150分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass
講義	12/2(水)	1	脳神経内科・ 老年科分野	前田 哲也 教授	末梢神経障害（検査）	1,4	【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて末梢神経障害の総論について予習しておく。所要時間 90分以上。 【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間90分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass

講義	12/2(水)	2	脳神経内科・老年科分野	前田 哲也 教授	末梢神経障害（遺伝性・炎症性など）	1,2,3,4,5	<p>【事前学修】 推薦図書や参考書を用いて末梢神経障害の総論について予習しておく。所要時間90分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容を講義資料を用いて復習し自身の予習内容を補完する。所要時間90分以上 推薦図書や参考書などを用いて自らの学識を深める。 【ICT】 WebClass</p>
----	---------	---	-------------	----------	-------------------	-----------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版	田崎義昭、斎藤佳雄 著	南山堂	2016
推薦図書	臨床のための神経機能解剖学	後藤文男、天野隆弘 著	中外医学社	1992
推薦図書	脳神経内科 改訂5版	神田隆 著	中外医学社	2024
推薦図書	神経内科ハンドブック 第5版 鑑別診断と治療	水野美邦 編	医学書院	2016
参考書	病気が見える vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所編集	メディックメディア	2017
推薦図書	ニュースタンダード脳神経外科学 第5版	生塩之敬ほか編	三輪書店	2024
推薦図書	標準脳神経外科学 第16版	冨永悌二 監修	医学書院	2024
参考書	神経症候学を学ぶ人のために	岩田誠 著	医学書院	1994
参考書	神経内科疾患の画像診断 第2版	柳下章 著	秀潤社	2019
推薦図書	脳卒中ビジュアルテキスト 第4版	荒木信夫、高木誠、厚東篤生 著	医学書院	2015

・成績評価方法

【総括評価】

中間試験（前期進級試験）30%、進級試験成績（後期進級試験）70%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。
なお、後期進級試験範囲には前期進級試験範囲を含む。

【形成的評価】

講義終了後に自由ディスカッションを設けて学生の事前学習度を評価し疑問を解決する。また前回講義の振り返り、実践的な試験問題の事後解説あるいは小テストなどを行い、講義内容の理解度を確認しその結果を学生にフィードバックする。
各講師が担当講義におけるルーブリックを設定し事前学習と事後学習の評価基準を示す。学習の見通しと学習成果の集約について、学生に目的および成果意識をもたせる。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～7	1～8	30			70			100
合計		30			70			100

・特記事項・その他

I. 脳神経系の検査

1. 神経生理検査
2. 神経放射線検査
3. 神経心理検査
4. 脳脊髄液検査

II. 脳神経疾患

1. 脳血管疾患
2. 脳脊髄腫瘍
3. 神経感染症
4. 神経変性疾患
5. 脱髄性神経疾患
6. てんかん
7. 頭痛
8. 代謝性神経疾患
9. 中毒および欠乏性神経疾患
10. 末梢神経疾患
11. 自律神経疾患
12. 筋疾患
13. 神経筋接合部疾患
14. 全身疾患に伴う神経障害
15. 先天異常・発生異常による疾患
16. 脊椎脊髄疾患
17. 機能外科的治療

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書を用いて学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	筋電計	1	実習用
講義	脳波計	1	実習用
講義	ノートパソコン レッツノートQV1	2	実習指導、データ解析・研究指導、試験
講義	デスクトップパソコン FMVF90H2B	1	講義用
講義	MacBook Pro	3	講義資料作成
講義	NAS	3	講義資料作成

産婦人科学

ナンバリング M3-S1-D06

責任者・コーディネーター	産婦人科学講座 馬場 長 教授		
担当講座・学科（分野）	産婦人科学講座、岩手県高度救命救急センター		
担当教員	馬場 長 教授、小山 理恵 特任教授、庄子 忠宏 特任教授、利部 正裕 准教授、永沢 崇幸 特任講師、岩動 ちず子 特任講師、川村 花恵 助教、佐々木 佳夏子 助教、羽場 巖 助教、高取 恵里子 助教、佐藤 翔 助教、海道 善隆 助教、佐藤 千絵 助教、村上 一行 助教(任期付)、黒川 絵里加 助教(任期付)、佐藤 貴紀 助教(任期付)、田付 駿介 助教(任期付)、近藤 英治 非常勤講師、畑山 伸弥 非常勤講師、三浦 史晴 非常勤講師、山田 重人 非常勤講師、小笠原 敏浩 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 35コマ 70.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

産科学は、妊娠・分娩・産褥・胎児および新生児の生理、疾患、病理を取り扱うものである。次世代を担う生命の創生に直接かかわる医学であることから、予防医学、社会医学的課題を重視する。

・教育成果（アウトカム）

産婦人科学の講義を通じて、将来医師として活躍する際に必要な女性医学の知識を習得することにより、それらの知識を説明できる。さらに、他の臨床各分野との関連を理解し、予防医学、社会医学への活用を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	正常な女性生殖器の構造・機能および内分泌との関連を説明できる。
2	ヒトの生殖の過程を説明できる。
3	正常な妊娠、分娩、産褥における形態学的、機能的、内分泌学的推移を説明できる。
4	胎児、新生児における形態学的、機能的、内分泌学的推移を説明できる。
5	母子保健・統計について説明できる。
6	不妊症・不育症の病態、診断、治療について説明できる。
7	女性生殖器の主な疾患について病態、診断、治療を説明できる。
8	思春期、更年期、老年期のヘルスケアと各年代に特徴的な疾患について説明できる。

・講義場所

講義：東1-C講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/18(月)	4	産婦人科学講座	馬場 長 教授	産婦人科学総論－4つの柱	1,2,3,5,7,8	【事前学修】 一年間の学修計画について事前資料を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ産婦人科学の概要を100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	5/25(月)	3	産婦人科学講座	利部 正裕 准教授	外性器・骨盤内臓器解剖、性器脱	1,2,7	【事前学修】 女性骨盤臓器の解剖について教科書・参考書を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ女性外性器骨盤の解剖と性器脱について100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	5/25(月)	4	産婦人科学講座	佐藤 千絵 助教	内分泌－ホルモン、多嚢胞性卵巣症候群、性分化疾患と形態異常	1,2,6,7,8	【事前学修】 性成熟期の内分泌について教科書・参考書を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ女性内分泌の概要を100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	6/1(月)	3	産婦人科学講座	岩動 ちず子 特任講師	女性ヘルスケア－月経の異常・思春期・アスリート	1,2,5,7,8	【事前学修】 女性アスリートの体重管理と月経の関係について教科書・参考書を読んで自分なりに予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ女性思春期アスリートの概要を100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

講義	6/1(月)	4	産婦人科学講座 産婦人科学講座	村上 一行 助教 (任期付) 馬場 長 教授	婦人科疾患－良性・ 筋腫、内膜症	1,7,8	【事前学修】 婦人科腫瘍について教科書・参考書と文献を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 子宮筋腫や内膜症の特徴と治療について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	6/8(月)	3	産婦人科学講座	川村 花恵 助教	産科－正常妊娠の経過：胎児発育と母体の変化	1,2,3,4,5	【事前学修】 妊娠の成立と生理について教科書・参考書と文献を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ妊娠の成立と生理について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	6/8(月)	4	産婦人科学講座	佐々木 佳夏子 助教	生殖補助医療－卵子と精子の発生・受精、妊娠の成立、胚の発育、PGT	2,3,4,6	【事前学修】 生殖補助療法を事前資料を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 生殖補助療法の治療法について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	6/15(月)	3	産婦人科学講座	小山 理恵 特任教授	女性ヘルスケア－更年期・骨代謝・ホルモン補充療法	1,2,4,7,8	【事前学修】 女性の更年期について教科書・参考書、または文献を読んで自分なりに予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ更年期障害の診断について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

講義	6/15(月)	4	産婦人科学講座	尾上 洋樹 助教	生殖補助療法－治療	1,2,6,7,8	<p>【事前学修】 生殖補助医療の意味について教科書・参考書、もしくは文献を読んで予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 生殖補助医療の意味・現状について100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/22(月)	3	産婦人科学講座	岩動 ちず子 特任講師	産科－正常分娩の経過：回旋、陣痛、産褥	1,2,3,4,5	<p>【事前学修】 正常分娩について教科書・参考書、または文献を読んで自分なりに予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 正常分娩の経過について100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	6/22(月)	4	産婦人科学講座	小山 理恵 特任教授	産科－母子保健・統計－1	3,4,5,8	<p>【事前学修】 母子保健法について教科書・参考書を読んで自分なりに予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ母子保健について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	9/28(月)	1	産婦人科学講座	黒川 絵里加 助教(任期付)	産科－NST、CTGの読み方、胎児機能不全	3,4,5	<p>【事前学修】 NST/CTGについて教科書・参考書を読んで自分なりに予習し、疑問点をまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだNST・CTGの基礎について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	9/28(月)	2	産婦人科学講座 産婦人科学講座	近藤 英治 非常 勤講師 馬場 長 教授	産科一救命救急	4,5,8	【事前学修】 産科救急について教科書や ウェブ動画を視聴して実際 の現場のイメージを具体化 しておく。所要時間 30分以 上 【事後学修】 実際に触れた産科救急への 印象と疑問について100文字 程度にまとめること。所要 時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/2(金)	1	産婦人科学講座	庄子 忠宏 特任 教授	婦人科疾患一悪性・ 卵巣がん・診断、分 類と治療	7,8	【事前学修】 卵巣がんについて教科書と 事前資料を読んで説明文を 作成する。所要時間 30分以 上 【事後学修】 講義で学んだ卵巣がんにつ いて100文字程度にまとめる こと。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/2(金)	2	産婦人科学講座	川村 花恵 助教	産科一誘発分娩、産 科麻酔、無痛分娩	1,3,7	【事前学修】 産科麻酔について教科書・ 参考書・ウェブ記事を読ん で自分なりに説明文を作成 する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ産科麻酔につ いて100文字程度にまとめる こと。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/5(月)	1	産婦人科学講座	利部 正裕 准教授	婦人科疾患一悪性・ 子宮頸癌/腔癌/外陰 癌・疫学、診断と治 療	7,8	【事前学修】 子宮頸がんについて教科 書・事前資料を読んで説明 文を作成する。所要時間 30 分以上 【事後学修】 講義で学んだ子宮頸がんに ついて100文字程度にまとめ ること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/5(月)	2	産婦人科学講座	黒川 絵里加 助 教(任期付)	産科一妊娠初期の異 常・流産、異所性妊 娠、不育症	2,3,4,5	【事前学修】 妊娠初期の異常について教 科書・事前資料を読んで説 明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ妊娠初期の異 常・異所性妊娠について100 文字程度にまとめること。 所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする

講義	10/16(金)	1	岩手県高度救命 救急センター 産婦人科学講座	佐藤 貴紀 助教 (任期付) 岩動 ちず子 特 任講師	産科一早産(切迫早 産・絨毛羊膜炎・ 頸管無力症・破 水)、母子感染	2,3,4,7	【事前学修】 早産のリスク、診断、治療 と前期破水、絨毛羊膜炎、 28週未満の早産児(早産児 の問題)について教科書・ 事前資料を読んで説明文を 作成する。所要時間 30分以 上 【事後学修】 早産・異常妊娠と産科超音 波画像について100字程度に まとめること。所要時間 30 分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/16(金)	2	産婦人科学講座 産婦人科学講座	永沢 崇幸 特任 講師 馬場 長 教授	婦人科疾患一悪性・ 子宮体がん・疫学、 診断、分類と治療	7,8	【事前学修】 婦人科悪性腫瘍のうち子宮 体がんについて教科書・事 前資料を読んで自分なりに 説明文を作成する。所要時 間 30分以上 【事後学修】 子宮体がんについて100文字 程度にまとめること。所要 時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/19(月)	1	産婦人科学講座	佐藤 翔 助教	婦人科悪性腫瘍治 療一化学療法、抗腫 瘍免疫治療、放射線 治療、治験倫理	7,8	【事前学修】 婦人科悪性腫瘍の治療と治 験について教科書・事前資 料、もしくは文献を読んで 説明文を作成する。所要時 間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ婦人科悪性腫 瘍の治療について100文字程 度にまとめること。所要時 間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする
講義	10/19(月)	2	産婦人科学講座	岩動 ちず子 特 任講師	産科一異常分娩：回 旋、陣痛、産褥	2,3,4,5	【事前学修】 異常分娩について教科書・ 事前資料と文献を読んで自 分なりに説明文を作成す る。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ異常分娩のう ち、特に回旋・陣痛・産褥 期の異常について100文字程 度にまとめること。所要時 間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料 をアップする

講義	10/26(月)	1	産婦人科学講座	畑山 伸弥 非常勤講師	産科一異常妊娠(多胎・羊水異常・血液型不適合など)	2,3,4,5	<p>【事前学修】 正常と異常な妊娠成立について教科書・事前資料と文献を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ異常妊娠のうち、特に多胎の診断・管理、異常妊娠について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	10/26(月)	2	産婦人科学講座	海道 善隆 助教	婦人科疾患一性感染症・梅毒、クラミジア、ヘルペス、HIV	1,7,8	<p>【事前学修】 性感染症について教科書・事前資料を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ性感染症について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	11/2(月)	1	産婦人科学講座	三浦 史晴 非常勤講師	女性ヘルスケアー婦人科腫瘍と臨床遺伝学	1,5,7,8	<p>【事前学修】 婦人科悪性腫瘍と遺伝について教科書・事前資料と文献を読んで説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ婦人科悪性腫瘍の治療と治験倫理について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	11/2(月)	2	産婦人科学講座 産婦人科学講座	山田 重人 非常勤講師 馬場 長 教授	産科一超音波診断(胎児計測、胎児奇形)、NIPT、羊水検査、PGT検査	3,4,5,6	<p>【事前学修】 胎児超音波検査と胎児異常、出生前診断について教科書・事前資料を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ胎児超音波検査と胎児異常、出生前診断について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>

講義	11/9(月)	1	産婦人科学講座 産婦人科学講座	小笠原 敏浩 非常勤講師 小山 理恵 特任教授	産科一母子保健・統計-2	5,8	【事前学修】 母子保健について教科書・事前資料を読んで説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ母子保健について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	11/9(月)	2	産婦人科学講座	川村 花恵 助教	産科一合併症妊娠 (耐糖能異常、内科合併症)	3,4,5	【事前学修】 異常妊娠、特に内科合併症妊娠について教科書・事前資料、または文献を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ異常妊娠、特に耐糖能異常妊娠について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	11/16(月)	1	産婦人科学講座	永沢 崇幸 特任講師	代替医療一漢方医学、緩和医療	1,7,8	【事前学修】 女性に用いる漢方と支持緩和医療について教科書・事前資料と文献を読んで説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ女性に用いる漢方と支持緩和医療について100文字程度でまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
講義	11/16(月)	2	産婦人科学講座	羽場 巖 助教	産科一妊娠高血圧症候群	3,4,5	【事前学修】 異常妊娠、特に妊娠高血圧症候群について教科書・事前資料、または文献を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ異常妊娠、特に妊娠高血圧症候群について100文字程度にまとめること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

講義	11/30(月)	1	産婦人科学講座	高取 恵里子 助教	婦人科疾患—悪性・絨毛性腫瘍・肉腫の診断、取扱い	7	【事前学修】 婦人科腫瘍のうち、絨毛性疾患と子宮肉腫について教科書・事前資料を読んで説明文を作成する。所要時間30分以上 【事後学修】 絨毛性疾患と子宮肉腫の診断と管理について100文字程度にまとめること。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
講義	11/30(月)	2	岩手県高度救命救急センター 産婦人科学講座	佐藤 貴紀 助教 (任期付) 羽場 徹 助教	産科—産科手術・産科災害医療・グレードAシュミレーション	4,5	【事前学修】 産科救急について教科書・事前資料を読んで説明文を作成する。所要時間30分以上 【事後学修】 女性について100文字程度にまとめること。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
講義	12/7(月)	1	産婦人科学講座	庄子 忠宏 特任教授	婦人科—その他（まとめ・問題演習の解き方）	7,8	【事前学修】 婦人科学のまとめとして教科書・事前資料を読んで自分なりに疑問点を抽出しておく。所要時間30分以上 【事後学修】 講義で学んだ婦人科学で覚えるべき事についてまとめ、試験に備えること。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
講義	12/7(月)	2	産婦人科学講座	羽場 徹 助教	産科—その他（まとめ・問題演習の解き方）	1,3,4,5,8	【事前学修】 産学のまとめとして教科書・事前資料を読んで自分なりに疑問点を抽出しておく。所要時間30分以上 【事後学修】 講義で学んだ産科学で覚えるべき事についてまとめ、試験に備えること。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
講義	12/14(月)	1	産婦人科学講座	馬場 長 教授	産婦人科総論—医療者が考えるべき女性の健康	2,7,8	【事前学修】 一年の講義を通して抱いてきた産婦人科学の課題について事前資料を読みつつまとめておく。所要時間30分以上 【事後学修】 女性の健康保全・促進について100文字程度にまとめること。所要時間30分以上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする

講義	12/14(月)	2	産婦人科学講座	田付 駿介 助教 (任期付) 馬場 長 教授	総まとめ—内分泌異常、女性ヘルスケアなど	1,2,7,8	【事前学修】 内外性器の発生異常とトランスジェンダーについて事前資料を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ発生異常をまとめ、試験に備えること。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
----	----------	---	---------	------------------------------	----------------------	---------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準産科婦人科学 第6版	監修：綾部琢哉、編集：板倉敦夫、高井泰	医学書院	2026
推薦図書	女性医学ガイドブック 思春期・性成熟期編	日本女性医学会	金原出版株式会社	2016
推薦図書	女性医学ガイドブック 更年期医療編	日本女性医学会	金原出版株式会社	2019
参考書	QBオンライン CBT Vol.1~5	国試対策問題編集委員会	MEDIC MEDIA	2025
参考書	レビューブック 産婦人科 2022-2023	医療情報科学研究所編	MEDIC MEDIA	2021
教科書	病気がみえる 産科 Vol.10 第4版	医療情報科学研究所編	MEDIC MEDIA	2018
教科書	病気がみえる 婦人科・乳腺外科 Vol.9 第4版	医療情報科学研究所編	MEDIC MEDIA	2018

・成績評価方法

【総括評価】

中間試験（前期進級試験）30%、進級試験成績（後期進級試験）70%で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。レポート提出者に加点をすることがある。
 なお、後期進級試験範囲には前期進級試験範囲を含む。

【形成的評価】

講義内レポート作成を実施して講義内容の理解度を確認すると共に、女性の健康増進について学生が自身の考えを醸成できるように促す。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～8	1～8	30	適宜		70			100
合計		30	適宜		70			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に各回2時間15分の自己学修を要す。
 講義資料はWebClassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医療行為の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書、参考書、PC、インターネット環境、コンピューターソフトウェア、シミュレーター

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	講義における症例提示
講義	ノートパソコン Lavie 一式	1	学生講義に使用のため
講義	ノートパソコン Corei5 13.3インチ	1	学生講義に使用のため
講義	Mac Book Pro	1	学生講義に使用のため

免疫病学

ナンバリング M3-S1-D07

責任者・コーディネーター	内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 藤本 穰 教授		
担当講座・学科(分野)	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野、小児科学講座、血液腫瘍内科分野、脳神経内科・老年科分野、皮膚科学講座		
担当教員	藤本 穰 教授、天野 博雄 教授、小宅 達郎 准教授、村田 興則 准教授、駒ヶ嶺 正嗣 特任講師、鈴木 真紗子 講師、三浦 翔子 講師、朝倉 賀子 助教、大河原 知治 助教		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 13コマ 26.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

膠原病の基本的な症状や、疾患概念について理解、診断、治療法について正しい知識を身に着ける。
 原発性免疫不全症の分類と発生機序を理解する。また診断のアプローチのしかたについて理解する。小児膠原病では成人との相違点、小児にのみみられる疾患発病原因、検査方法について理解する。

・教育成果（アウトカム）

膠原病を正しく理解することで、基本的な患者の診療に対処できるようになる。
 原発性免疫不全症の発病機序、発病時期、症状、治療法を理解することで、患者の診療に対処できる。
 小児の膠原病では、成人との違い、小児特有の疾患を理解することで、診療上の基本的な対処方法を理解する。

(ディプロマ・ポリシー: 4,5,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	基礎的な免疫のしくみについて説明できる。
2	アレルギーの概念とその特徴を説明できる。
3	膠原病の診断法について説明できる。
4	膠原病の病態を理解し説明できる。
5	免疫機能検査について説明できる。
6	自己免疫疾患の病理所見について説明できる。
7	小児アレルギー免疫疾患について説明できる。
8	免疫不全症候群について説明できる。
9	膠原病の皮膚病変について説明できる。
10	免疫疾患に伴う神経徴候について説明できる。
11	アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、自己免疫性水疱症について理解し、その特徴について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	11/9(月)	5	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	免疫不全症候群	1,8	<p>【事前学修】 免疫不全症候群、日和見感染症、について教科書で一度確認しておく。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で述べた重要なポイントについて、講義時の配布資料および教科書で再確認する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/11(水)	3	小児科学講座	朝倉 賀子 助教	原発性免疫不全	1,5	<p>【事前学修】 免疫学・感染症学で学んだ際の資料に目を通しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 資料や講義で、①検査の原理と方法、さらにそれで何がわかるか、を説明します。復習時には、それを見て、①の順番だけでなく、逆に②症状や現象から何を疑い、解明のためにどういう検査を行うか、を考えてください。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/12(木)	3	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	村田 興則 准教授	膠原病1 (SLE) 膠原病2(シェーグレン症候群、ベーチェット病)	3,4	<p>【事前学修】 膠原病(シェーグレン症候群、ベーチェット病)について、出現する症状、自己抗体、診断基準を教科書を読んで自分なりに理解しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で述べた重要なポイントについて、講義時の配布資料および教科書で再確認する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/12(木)	4	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	村田 興則 准教授	血管炎総論	3,4	<p>【事前学修】 ANCA関連血管炎について、出現する症状、自己抗体、診断基準等を教科書を読んで自分なりに理解しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で述べた重要なポイントについて、講義時の配布資料および教科書で再確認する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/16(月)	5	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	大河原 知治 助教	膠原病3（多発性筋炎、強皮症、MCTD、Overlap症候群）	3,4	<p>【事後学修】 講義で述べた重要なポイントについて、講義時の配布資料および教科書で再確認する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/17(火)	5	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	駒ヶ嶺 正嗣 特任講師	膠原病4（関節リウマチ）	3,4	<p>【事前学修】 講義資料を用いて予習を行うこと。</p> <p>【事後学修】 講義資料を用いて復習を行うこと。</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/18(水)	4	小児科学講座	三浦 翔子 講師	小児の膠原病、特発性若年性関節炎	3,4	<p>【事前学修】 SLEについて、出現する症状、自己抗体、診断基準等を教科書を読んで自分なりに理解しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で述べた重要なポイントについて、講義時の配布資料および教科書で再確認する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/24(火)	5	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本 穰 教授	膠原病学概論	3	<p>【事前学修】 講義資料を用いて予習を行うこと。</p> <p>【事後学修】 講義資料を用いて復習を行うこと。</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/26(木)	5	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	竹田 潔 非常勤講師	臨床免疫学における基礎1	1,2,5	<p>【事前学修】 免疫学の歴史について予習し、自然免疫と獲得免疫の異同の説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ自然免疫と獲得免疫について、関与する分子や細胞の背越名分を作成すること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/1(火)	5	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本 穰 教授	臨床免疫学における基礎2(含アナフィラキシー)	1,2,8	<p>【事前学修】 アレルギー反応の分類を教科書を読んで自分なりの説明文章を作成すること。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 アレルギー反応の分類に基づいて、代表的免疫疾患の説明文を作成すること。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/14(月)	4	脳神経内科・老年科分野	鈴木 真紗子 講師	免疫疾患に伴う神経徴候(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、サルコイドーシス、ベーチェット病、血管炎症候群など)	3,4,5,6,10	<p>【事前学修】 神経病学で学習した病巣診断に関連する知識の復習をしておく。また、各膠原病の神経症状を教科書で確認しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義資料で重要なポイントを述べるので膠原病関連疾患の各論を学ぶ際に再度確認する。国家試験過去問題集の演習を行う。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	12/16(水)	3	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	膠原病の皮膚病変	3,4,9	<p>【事前学修】 膠原病について、どのような皮疹が生じるか教科書を読んで膠原病の種類ごとに自分なりに列挙しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 膠原病の皮疹についてまとめ、診断における位置づけをまとめる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/16(水)	4	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	アトピー性皮膚炎（小児を含む）、蕁麻疹、薬疹、自己免疫性水疱症	1,2,5,6,7,11	<p>【事前学修】 アトピー性皮膚炎の診断基準、重症薬疹の診断基準、水疱症の自己抗体について教科書を読んでおく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 アトピー性皮膚炎の病勢マーカー、水疱症の自己抗体についてまとめる。重症薬疹を列挙できるようにしておく。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	新臨床内科学 10版	矢崎義雄	医学書院	2020
教科書	内科学 2版 2分冊	黒川清、松澤佑次 編	文光堂	2003
教科書	標準小児科学 8版	内山聖 監修	医学書院	2013
教科書	標準皮膚科学 11版	岩月啓氏 監修 照井正、石河晃 編	医学書院	2020
推薦図書	レジデントのためのアレルギー疾患診療マニュアル 第2版	岡田正人 著	医学書院	2014
推薦図書	リウマチ病診療ビジュアルテキスト 第3版	上野征夫	医学書院	2022
教科書	あたらしい皮膚科学 第3版	清水宏	中山書店	2018

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～11	4,5,8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>1. 膠原病・アレルギー内科分野：アレルギー疾患、膠原病 2. 血液腫瘍内科分野：免疫不全症 3. 脳神経内科・老年科分野：免疫疾患に伴う神経徴候 4. 小児科学講座：原発性免疫不全症、小児の膠原病、小児のアレルギー疾患 5. 皮膚科学講座：皮膚の免疫機構と皮膚病、皮膚科からみた膠原病 6. 臨床検査医学講座：免疫機能検査 7. 機能病態学分野：膠原病の病理</p> <p>講義に関する注意事項 授業で映写等により教示する画像、資料をカメラ・ビデオ撮影などにより記録する場合は、事前に担当教官の承諾を得てから行うこと。</p> <p>講義に関する質問や相談について 膠原病・アレルギー内科分野は大河原助教、血液腫瘍内科分野は小宅講師、脳神経内科・老年科分野は鈴木助教、小児科学講座は遠藤准教授、皮膚科学講座は天野教授、臨床検査医学講座は小笠原助教、機能病態学分野は医局が窓口。在室時には時間があればいつでも受け付けるが、待たされないためにも来訪直前に電話（内線）などで確認すること。</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebClassで配信する。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に450分の自己学修を要す。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>

・教育資源

教科書、参考書、講義室、PC

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	顕微鏡デジタルカメラDP70 (ORYMPUS)	1	組織標本をデジタル画像に取り込み検討会で拡大提示する。
講義	Noxアナライザ-CLM-5000	1	NO産生による肺、気道の炎症状態を測定する。
講義	ノートパソコン LAVIE Direct NEXTREME Carbo	1	講義に使用する。
講義	デスクトップパソコン LAVIE Direct A27	1	講義に使用する。
講義	ノートパソコン 13インチ MacBookAir	1	講義に使用する。
講義	デスクトップパソコン iMac4.5K Retinaディスプレイモデル	1	講義に使用する。

血液病学

ナンバリング M3-S1-D08

責任者・コーディネーター	血液腫瘍内科分野 伊藤 薫樹 教授		
担当講座・学科（分野）	血液腫瘍内科分野、小児科学講座		
担当教員	伊藤 薫樹 教授、小宅 達郎 准教授、古和田 周吾 講師、三浦 翔子 講師、岡野 良昭 助教、朝倉 賀子 助教、吉田 太郎 助教(任期付)、木村 晋也 非常勤講師、照井 康仁 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 20コマ 40.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

学生は血液学の基礎的事項を解剖学、組織学、生理学、生化学さらには病理学などですでに履修している。そこで第3学年においては、履修済みの基礎血液学とこれから新たに学習する臨床血液学とを一連の流れとして結び付け、まず基礎血液学に立脚した各種血液疾患の概念と病態生理を理解する。さらに個々の疾患に対して現在行われている治療法とそれに伴う疾患予後、そして治療に関する将来展望までを一貫して理解することで、血液疾患の病態と生理機構を有機的に理解できる。

・教育成果（アウトカム）

健常者における血液細胞の種類、機能、動態および病的状況下におけるそれらの変化に関する知識を説明できる。医師として必要な血液学の基本的知識、病態の把握、治療法などの理解を深め、それらに基づいて様々な応用できる思考能力を養う。これらを行う事で、応用可能な診療、つまり自覚症状、検査所見から病態を推察し、頻度の高い疾患の診断を行い、基本的治療方針について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	すでに学習している血液の組成とその生体作用、血液細胞の正常の産生ならびに分化・成熟過程とそのコントロール機構、各成熟段階の正常血液細胞形態を説明できる。
2	各血液細胞系の検査法とその病態解析への応用、ならびに血液凝固メカニズムを説明できる。
3	主要な血液疾患について自らが各疾患の発症パターン、診断の方法とその根拠を述べ、個々の症例に対する治療戦略を立てることができる。
4	小児と成人における血液疾患個々の概念、疫学、臨床病態、治療法、ならびに予後について疾患各論の立場から理論的に説明できる。
5	現在一般に行われている血液疾患の治療法の中で最も先進的である造血幹細胞移植についての説明ができる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	9/29(火)	3	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	血液病学総論、造血幹細胞分化	1,2,3	【事前学修】 「病気が見える」の血球分化図から各血球への分化過程とその過程に関与する代表的サイトカインを説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 各血球への分化過程とその過程に関与する代表的サイトカインおよび各血球の名称と機能を図示する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	9/29(火)	4	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	化学療法/治療	1,2,3,4	【事前学修】 抗癌剤の作用機序と副作用を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 分子標的薬の副作用について作用機序をまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/13(火)	3	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	悪性リンパ腫①	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の悪性リンパ腫の総論から、発生場所、自覚症状、検査値異常などを説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 悪性リンパ腫の症状と病態、DLBCLの治療方法について図示する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/13(火)	4	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	悪性リンパ腫②	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の悪性リンパ腫の総論から、発生場所、自覚症状、検査値異常などを説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 悪性リンパ腫の症状と病態、DLBCLの治療方法について図示する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass

講義	10/20(火)	3	小児科学講座	吉田 太郎 助教 (任期付)	小児血液総論	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」「標準小児科学」参照。先天性血液疾患と小児造血器悪性腫瘍を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 小児貧血の診断方法について100文字でまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/20(火)	4	小児科学講座	朝倉 賀子 助教	小児血液疾患①	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」「標準小児科学」参照。先天性血液疾患と小児造血器悪性腫瘍を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 先天性造血不全の診断方法について100文字でまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/29(木)	5	血液腫瘍内科分野	照井 康仁 非常 勤講師	多発性骨髄腫	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の急性白血病から、発症機序と病態、診断する場合の手順、治療方法を説明する。所要時間 30分以上 【事後学修】 急性骨髄性白血病の予後因子を説明できる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/5(木)	3	血液腫瘍内科分野	木村 晋也 非常 勤講師	慢性骨髄性白血病	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の慢性骨髄性白血病から、病態、診断する場合の手順、治療方法を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 CMLの診断と治療についてまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/5(木)	4	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	血液疾患に合併する 感染症・血球貪食症 候群	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の血球貪食症候群から、病態、診断する場合の手順、治療方法を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 血球貪食症候群の病態、診断、治療方法について説明する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass

講義	11/10(火)	3	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	赤血球造血と貧血	1,2,3,4,5	<p>【事前学修】 「病気が見える」の貧血総論から、代表的貧血の発症機序、貧血の原因を診断する場合の手順を説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 赤血球の分化成熟過程と、各段階での障害による疾病を図示できる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/10(火)	4	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	骨髄異形成症候群	1,2,3,4	<p>【事前学修】 「病気が見える」のMDSから、MDSの発症機序と病態、診断する場合の手順、治療方法を説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 MDSの症状と病態、治療方法について図示する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/17(火)	3	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	造血幹細胞移植	1,2,3,4	<p>【事前学修】 「病気が見える」の造血幹細胞移植から、適応疾患とGVHDの病態と症候、治療方法を説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 移植後に最も再活性化頻度の高いウイルスとその診断と治療方法を100文字で示す。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/17(火)	4	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	成人T細胞白血病リンパ腫・慢性リンパ増殖性疾患	1,2,3,4	<p>【事前学修】 「病気が見える」の成人T細胞性白血病から、発症機序と病態、診断場合の手順、治療方法を説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 ATLの病態と腫瘍細胞の形態を図示する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/24(火)	3	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	溶血性貧血と造血不全	1,2,3,4	<p>【事前学修】 「病気が見える」の貧血総論から、代表的貧血の発症機序、貧血の原因を診断する場合の手順を説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 赤血球の分化成熟過程と、各段階の障害による疾病を図示できる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/24(火)	4	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	急性リンパ性白血病	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の多発性骨髄腫から、病態、症候、検査所見、診断、を説明する。所要時間 30分以上 【事後学修】 骨髄腫のCRAB症状と病態を関連させて図示する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/1(火)	4	血液腫瘍内科分野	岡野 良昭 助教	急性骨髄性白血病	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」「標準小児科学」参照。先天性血液疾患と小児造血器悪性腫瘍を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 小児貧血の診断方法について100文字でまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/8(火)	3	小児科学講座	三浦 翔子 講師	小児の血液疾患②	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」「標準小児科学」参照。先天性血液疾患と小児造血器悪性腫瘍を説明できる。所要時間 30分以上 【事後学修】 小児と成人の後発疾病の違いについて100文字でまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/8(火)	4	小児科学講座	三浦 翔子 講師	小児の血液疾患③	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の血栓止血、血小板減少症から病態と症候、診断と治療方法を説明する。所要時間 30分以上 【事後学修】 ITPとTTPの病態と検査値の違いを表にまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/15(火)	3	血液腫瘍内科分野	古和田 周吾 講師	血小板減少症 (ITP/TTP)と機能異常症	1,2,3,4	【事前学修】 「病気が見える」の急性白血病から、発症機序と病態、診断する場合の手順、治療方法を説明する。所要時間 30分以上 【事後学修】 急性骨髄性とリンパ性の違いを説明できる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass

講義	12/15(火)	4	血液腫瘍内科分野	古和田 周吾 講師	先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群	<p>【事前学修】 「病気が見える」の血栓止血、血小板減少症から病態と症候、診断と治療方法を説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 止血機構を一時止血と二時止血機構の面から時間経過で説明する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
----	----------	---	----------	-----------	---------------------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	病気がみえる	黒田純也 編	Medic Media	2024
参考書	みんなの血液内科学	渡邊純一 著	中外医学社	2018

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 授業終了後の1分間ペーパーを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5	1～4				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

- ①. 血液病学総論
- ②. 小球性貧血
- ③. 正球性正色素性貧血
- ④. 大球性貧血
- ⑤. 急性白血病
- ⑥. 骨髄異形成症候群
- ⑦. 成人T細胞性リンパ腫・白血病、リンパ性増殖性疾患（慢性リンパ性白血病等）
- ⑧. 造血幹細胞移植・免疫療法
- ⑨. 悪性リンパ腫
- ⑩. 出血傾向（総論）
- ⑪. 血小板異常症
- ⑫. 凝固異常症（播種性血管内凝固症候群等）
- ⑬. 小児の血液疾患総論1（造血器と成長）
- ⑭. 小児の血液疾患総論2（造血器の先天異常）
- ⑮. 小児の血液疾患1（Rh不適合輸血など）
- ⑯. 小児の血液疾患2（先天性の貧血など）
- ⑰. 小児の血液疾患3（小児急性白血病など）
- ⑱. 小児の血液疾患4（先天性免疫不全など）
- ⑲. 多発性骨髄腫
- ⑳. 骨髄増殖性腫瘍（慢性骨髄性白血病を含む）
- ㉑. 赤血球疾患
- ㉒. その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に各回90分の自己学修を要す。講義資料はWebClassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書：標準血液病学、三輪血液病学、PC、プロジェクター

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピュータ	1	講義
講義	プロジェクター	1	講義（アトラス）
講義	デスクトップパソコン SENSE-SOP5-R75G-EZ	1	講義
講義	ノートパソコン レッツノートFV4	1	講義

小児科学

ナンバリング M3-S1-D09

責任者・コーディネーター	小児科学講座 赤坂 真奈美 教授		
担当講座・学科(分野)	小児科学講座		
担当教員	赤坂 真奈美 教授、石川 健 特任教授、外館 玄一朗 特任准教授、鳥谷 由貴子 講師、中野 智 講師、三浦 翔子 講師、田金 星都 助教、小野寺 千夏 助教、八鍬 瑛子 助教、松本 敦 助教、吉田 太郎 助教(任期付)、和田 泰格 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針(講義概要等)

小児科学は、成長と発達の過程にある小児を対象として、その身体と心の問題を扱うものです。従って、その領域はきわめて広く、胎児期、新生児期から思春期までのすべての医学領域の知識が求められます。学生は40分以上の事前学習と、60分以上の事後学習をすることで講義内容の定着を図り、臨床実習に備えます。

・教育成果(アウトカム)

学生は、自主学習と各専門医から講義を受けることで、胎児期から思春期にわたる様々な疾患について、概念と病歴、身体診察所見、検査所見の評価および診断過程、問題解決へのアプローチ、重症度の評価、治療法、起こりうる合併症を自ら考え述べるができるようになります。学生は、社会における日本の小児医療の特徴と問題点を述べるができるようになります。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	新生児疾患の要点を説明できる。
2	血液・免疫・感染症・腫瘍について鑑別し要点を説明できる。
3	成長や発達について説明できる。
4	先天性心疾患の心雑音や病態について説明ができる。
5	小児に多い先天性消化器疾患について説明できる。
6	腎・泌尿器疾患について説明できる。
7	小児のバイタルサインや救急疾患について説明できる。
8	神経発達症や神経筋疾患について説明できる。
9	小児の虐待について種類やその対応を説明できる。
10	染色体や遺伝子異常について理解し説明できる。
11	低身長や内分泌疾患を理解し説明できる。
12	アレルギー反応の分類ができる。
13	不整脈を理解し説明できる。
14	小児のてんかんについて分類し特徴を説明できる。
15	小児の消化器疾患の特徴を理解し説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	10/23(金)	1	小児科学講座	石川 健 特任教授	小児の診察法 ・ 系統的診察 ・ バイタルサイン ・ 成長発達総論 ・ 救急疾患	7	【事前学修】 重症例を見逃さなさいためのPediatric Assessment Triangleについて事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義の内容や資料を参考に小児のバイタルサインや重症例を見逃さないシステムについて復習しA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/30(金)	1	小児科学講座	鳥谷 由貴子 講師	新生児疾患 ・ 染色体異常 ・ 単一遺伝子病 ・ 片親性ダイソミー ・ 奇形症候群	1,3,10	【事前学修】 主な先天異常の原因について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義の内容や資料を参考に先天異常の原因を復習しA4版数枚程度にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/6(金)	1	小児科学講座	三浦 翔子 講師	アレルギー・免疫疾患・膠原病 ・ アレルギー反応の分類と疾患 ・ 生体防御 ・ 免疫の発達 ・ 膠原病の鑑別	2,12	【事前学修】 アレルギー反応の分類について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児の主なアレルギー疾患や免疫反応の診断と治療について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/6(金)	2	小児科学講座	中野 智 講師	循環器疾患 ・ 先天性心疾患 ・ 不整脈 ・ 管理	4,13	【事前学修】 小児の心電図・小児の適切な血圧・脈拍などバイタルサインについて事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義を参考に小児の心電図や血圧などをA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	11/13(金)	2	小児科学講座	中野 智 講師	循環器疾患 ・酸素飽和度異常 ・心雑音	1,4	【事前学修】 小児の循環器疾患の症状について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 チアノーゼ性心疾患の治療や心雑音について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/19(木)	3	小児科学講座	田金 星都 助教	消化器疾患 ・嘔吐、血便 ・発熱、腹痛	5	【事前学修】 小児の消化器疾患の症状と検査について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児の主な消化器疾患の治療について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/20(金)	1	小児科学講座	吉田 太郎 助教 (任期付)	血液・腫瘍性疾患 ・倦怠感 ・腰痛、疲労感 ・白血病、貧血、出血	2,7	【事前学修】 小児の血液・腫瘍疾患の症状について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児の貧血の鑑別診断や小児の白血病の治療について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/27(金)	1	小児科学講座	小野寺 千夏 助教	腎疾患 ・発熱、浮腫 ・浮腫 ・ネフローゼ症候群、腎炎 ・先天奇形	6,7	【事前学修】 小児の腎疾患の症状と検査について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児のネフローゼ症候群や腎疾患の治療について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	11/27(金)	2	小児科学講座	八鍬 瑛子 助教	精神・心身医学的疾患 ・発達と反射 ・神経発達症 ・てんかんと救急対応	3,8,14	【事前学修】 小児の精神・心身医学的疾患の症状について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児の精神・心身医学やてんかんについて講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	12/2(水)	3	小児科学講座	和田 泰格 非常勤講師	内分泌・代謝疾患 ・低身長・意識障害 ・マスクリーニングの異常 ・性分化疾患	1,3,7,11	【事前学修】 新生児マスクリーニングについて事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児の主な内分泌・代謝疾患の治療について講義の内容を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/8(火)	2	小児科学講座	外館 玄一朗 特任准教授	感染症1 ・発熱、嘔声、咳嗽 ・頸部腫瘍、咽頭痛	2,7	【事前学修】 小児の感染症の特徴について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児に特有の感染症や兆候について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/9(水)	1	小児科学講座	外館 玄一朗 特任准教授	感染症2 ・真菌、マイコプラズマなど下気道・肺炎 ・感染対策 ・予防接種	2,7	【事前学修】 小児の肺炎の特徴や予防接種について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 小児に特有の肺炎や予防接種について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	12/15(火)	1	小児科学講座	松本 敦 助教	新生児 ・成熟度 ・呼吸の特徴 ・低体重児 ・蘇生法	1,3,7	【事前学修】 早産児・LFD (SFD) 児の分類や病態生理的な特徴、新生児の呼吸循環障害、黄疸の原因について事前資料を予習する。所要時間 40分以上 【事後学修】 講義の内容や資料を参考に早産児・LFD (SFD) 児の急性期合併症、遠隔期の問題を復習しA4版数枚程度にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	12/16(水)	1	小児科学講座	赤坂 真奈美 教授	神経筋疾患 ・総論と各論 ・虐待	3,7,8,9	<p>【事前学修】 小児の神経筋疾患の事前資料を読み鑑別診断および診断のプロセスを考えてから講義に臨むこと。所要時間 40分以上</p> <p>【事後学修】 小児の神経・筋疾患や救急疾患について講義を参考にA4版数枚にまとめて保存しておくこと。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
----	----------	---	--------	-----------	------------------------	---------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準小児科学 9版	原 寿郎 監修	医学書院	2022
推薦図書	Nelson Textbook of Pediatrics, 21th ed.	Kliegman RM, et al.	Elsevier	2020
参考書	Case Files/小児科	大石公彦総監訳	診断と治療社	2022

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。再試の学生には試験に加えてレポートを課す場合がある。

【形成的評価】

講義において、担当者は講義の最後に小テストを実施し講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～15	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

診察法	1回	小児の診察法、小児期の呼吸数、脈拍数、血圧の基準値
新生児疾患	1回	新生児の分類・生理・蘇生法・管理法、成熟度評価法、呼吸窮迫の鑑別、低出生体重児、マイクロバブルテスト
先天異常	1回	単一遺伝子病の種類と特徴、染色体異常症、片親性ダイソミー、奇形症候群、light-for-dates児の分類と合併症
内分泌・代謝疾患	1回	低身長、内分泌疾患の症候と鑑別、意識障害の鑑別、マスキング、先天代謝異常症の症候と鑑別、性分化・成熟異常
アレルギー・免疫疾患	1回	生体防御機構、免疫系の発達分化、免疫学的検査、免疫疾患、アレルギー反応の分類、アレルギー疾患の診断と治療
膠原病等	1回	膠原病と類縁疾患の診断と治療
感染症	1回	発疹性疾患の鑑別と合併症、感染性疾患、予防接種、学校伝染病、リンパ
循環器疾患	1回	節腫脹、呼吸器疾患、呼吸困難の鑑別、酸素・人工換気の適応 動脈管依存性心疾患の分類と鑑別、心疾患の症候と鑑別、心不全の診断・治療、小児心電図の判読、不整脈
消化器疾患	1回	消化器疾患の症候と鑑別、緊急の診断・治療が必要な消化器疾患
血液・腫瘍性疾患	1回	血液疾患の症候と鑑別、貧血の鑑別、白血病・腫瘍性疾患の診断・治療
腎疾患	1回	腎機能検査、腎疾患の症候と鑑別
神経・筋疾患	1回	母子感染、年齢による細菌感染症の特徴、神経疾患の症候と鑑別
精神・心身医学的疾患	1回	小児の成長・発達・反射の評価と健診の月齢別重点項目、言語発達遅滞の
救急疾患	1回	鑑別、心身症、神経発達症、てんかん、けいれんの救急対応 小児の救急疾患、特に誤嚥、誤飲、薬物中毒、溺水、熱傷、熱中症、虐待の発生状況と治療方針、予防

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低40分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebClassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書、講義室、PC、シュミレータ

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	症例・スライド作成
講義	タブレット兼ノートパソコン Surface Go 一式	1	講義にて使用
講義	デスクトップパソコン 一式	1	講義にて使用

責任者・コーディネーター		腎・高血圧内科分野 旭 浩一 教授	
担当講座・学科（分野）		腎・高血圧内科分野、小児科学講座	
担当教員		旭 浩一 教授、石川 健 特任教授、吉川 和寛 特任准教授、河嶋 英里 講師、田中 文隆 非常勤講師	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 19コマ 38.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

腎臓は常に全身諸臓器と相互に関連しながら生体の恒常性を司る極めて重要な臓器である。近年の医療現場においては疾患に伴うもののみならず、加齢に伴う生理的なものも含む腎機能障害を有する患者に対応することが診療科の如何にかかわらず求められている。

腎臓病学は腎による生体の恒常性維持機構の破綻をもたらす全ての原因と結果に関する病態生理とそれらの診断・治療を扱う学問体系である。本講義では腎臓の構造と機能に関する基礎的な知識を整理したうえで、腎臓病学がカバーする領域（水電解質/酸塩基平衡異常、高血圧、急性/慢性腎不全、原発性並びに続発性の糸球体/尿細管間質性疾患、全身性疾患に伴う腎障害、腎代替療法（透析・腎移植）、保存的腎臓療法など）を俯瞰し、腎と全身諸臓器との関連の視点を持ちながら、それぞれの病態と症候、基本的な検査・診断法と治療法を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

腎臓の基礎的な解剖学的、生理学的知識を基盤として腎臓病学が扱う幅広い領域の疾患の病態生理や診断・治療の知識を系統的に理解することにより、臨床実習における実臨床に根ざした有機的な知識の習得や問題解決できるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	ネフロンの構造と機能及び腎の内分泌機能について説明できる。
2	腎疾患の主要症候と腎機能並びに腎障害に関する検査について説明できる。
3	体液分画並びに水・Naバランス/浸透圧維持機構とその異常の病態について説明できる。
4	電解質(K, Ca, P, Mg)調節機構とその異常の病態について説明できる。
5	酸塩基平衡の調節機構とその異常の病態について説明できる。
6	高血圧症（本態性、二次性）の病態と診断・治療について説明できる。

7	心腎連関の病態と診断・治療について説明できる。
8	急性腎不全/急性腎障害(AKI)の病態と鑑別・治療について理解し、多臓器連関の視点から説明できる。
9	慢性腎不全/慢性腎臓病(CKD)の病態と治療について説明できる。
10	腎疾患の臨床症候分類と病理組織学的分類について説明できる。
11	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療について説明できる。
12	糸球体腎炎症候群の病態と診断・治療について説明できる。
13	尿細管間質性疾患・腎血管系疾患の病態と診断・治療について説明できる。
14	全身性疾患（高血圧、糖尿病、膠原病、血管炎症候群、肝疾患、血液疾患、感染症、悪性腫瘍など）に伴う腎障害の病態と診断・治療について説明できる。
15	代表的な小児腎疾患と遺伝性腎疾患の病態と治療を説明できる。
16	各種血液浄化療法（血液透析、腹膜透析、各種アフェレーシス）の原理、適応、臨床応用及び合併症を説明できる。
17	腎移植について説明できる。
18	保存的腎臓療法について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	9/29(火)	1	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	総論：腎臓の構造と機能I	1	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	9/29(火)	2	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	腎臓の構造と機能II	1	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	10/6(火)	1	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	腎疾患の症候と検査	2	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/6(火)	2	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	水・電解質・酸塩基平衡I	3	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/13(火)	1	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	水・電解質・酸塩基平衡II	4	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/13(火)	2	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	水・電解質・酸塩基平衡III	5	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	10/20(火)	1	腎・高血圧内科分野	田中 文隆 非常勤講師	高血圧I	6	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/20(火)	2	腎・高血圧内科分野	田中 文隆 非常勤講師	高血圧II/心腎連関	6,7	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/27(火)	1	腎・高血圧内科分野	吉川 和寛 特任准教授	腎不全I	8	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	10/27(火)	2	腎・高血圧内科分野	吉川 和寛 特任准教授	腎不全II	9	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/10(火)	1	腎・高血圧内 科分野	河嶋 英里 講師	糸球体疾患I	10	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/10(火)	2	腎・高血圧内 科分野	河嶋 英里 講師	糸球体疾患II	11	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/17(火)	1	腎・高血圧内 科分野	河嶋 英里 講師	糸球体疾患III	12	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	11/17(火)	2	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	尿細管間質性疾患/腎血管系疾患	13	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/24(火)	1	腎・高血圧内科分野	旭 浩一 教授	全身性疾患と腎I	14	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	11/24(火)	2	腎・高血圧内科分野	吉川 和寛 特任准教授	全身性疾患と腎II	14	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/1(火)	1	小児科学講座	石川 健 特任教授	小児腎疾患・遺伝性腎疾患	15	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	12/1(火)	2	腎・高血圧内科分野	吉川 和寛 特任准教授	腎代替療法Ⅰ(透析療法)	16	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	12/8(火)	1	腎・高血圧内科分野	吉川 和寛 特任准教授	腎代替療法Ⅱ(腎移植) 保存的腎臓療法	17,18	<p>【事前学修】 講義内容の詳細に記された内容を中心に教科書並びに参考書で該当部分の要点を把握しておくこと。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義当日に講義内容のアウトラインと各項目の重要事項の要点を任意の形式と分量で簡潔にまとめておく。要点を臨床実習、定期試験、模試などの機会に参照し復習する。全て合わせて所要時間 135分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	内科学(第12版)	矢崎義雄・小室一成編	朝倉書店	2022
教科書	プロフェッショナル腎臓病学	南学正臣 編	中外医学社	2020
参考書	南学 腎臓病学	南学正臣 著	中山書店	2017
参考書	水・電解質と酸塩基平衡(改訂第2版)	黒川 清 著	南江堂	2004
参考書	改訂第2版 腎生検診断Navi	片淵律子 編著	メジカルビュー社	2016
参考書	小児腎臓病学(改訂第2版)	日本小児腎臓病学会編	診断と治療社	2017

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

講義内容により演習問題を提示し講義内容の理解度を確認し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～18	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

腎臓の構造と機能	2回
腎疾患の症候と検査	1回
水・電解質	2回
酸塩基平衡	1回
高血圧・心腎連関	2回
腎不全（急性・慢性）	2回
糸球体疾患（腎炎・ネフローゼ）	3回
尿細管間質性疾患・腎血管系疾患	1回
全身性疾患と腎	2回
小児腎疾患・遺伝性腎疾患	1回
腎代替療法（透析・腎移植）	2回

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書・講義室・PC

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			

責任者・コーディネーター	臨床検査医学・感染症学講座 仲村 究 教授		
担当講座・学科（分野）	臨床検査医学・感染症学講座、循環器内科分野、睡眠医療学科		
担当教員	仲村 究 教授、西島 嗣生 教授、義久 精臣 客員教授、藤原 亨 准教授、大和田 真玄 准教授、熊谷 亜希子 講師、日比谷 健司 助教、高橋 敬太 助教、豊川 真弘 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 12コマ 24.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

医学的診断は、1) 医療面接（問診）、2) 診察、および 3) 臨床検査（広義）の3つの手法によって得られる情報を総合的に判断して行われる。これらのうち臨床検査によって得られる情報をもっとも客観的（EBM）であり、しかも常に最新の医学進歩の導入が可能なものである。従って臨床検査医学の学習は現代における医学教育においてますます重要性を増しつつある。

この講義では、臨床検査全般に及ぶ基礎的内容について学び、輸血検査と密接に関連する輸血医療の実際と幹細胞移植、睡眠障害に関する検査についても学習する。

・教育成果（アウトカム）

1. 臨床検査に関する基本的知識を理解することで、患者の病態を把握し、疾病を適正に診断し、治療効果、経過および予後をより客観的に判断できるようになる。
 2. 輸血医療と造血幹細胞移植の基本を学ぶことで、適正な輸血・細胞療法を説明できる。
 3. 睡眠関連疾患診断に必要な検査法を理解することで、各診療科にまたがる睡眠関連疾患の適正な診断や鑑別方法について説明できる。
- （ディプロマ・ポリシー： 2,3,4,5,6 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	臨床検査の基準値・カットオフ値の意味が説明できる。
2	検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率、検査後確率、尤度比）を説明できる。
3	検査の誤差や生理的変動を説明できる。
4	小児・高齢者の検査値の特徴を説明できる。
5	正しい検体採取の方法が説明でき、不適切な採取を行ったときの検査値の異常を判断できる。
6	尿検査の目的、適応と異常所見を説明できる。
7	糞便検査の目的、適応と異常所見を説明できる。
8	髄液検査の目的、適応と異常所見を説明しできる。
9	一般細菌の塗抹・培養の目的、適応と異常所見を説明できる。
10	末梢血液検査の目的・適応と異常所見を説明できる。
11	血液生化学検査項目の目的、適応と異常所見を説明できる。
12	血清・免疫学的検査項目の目的、適応と異常所見を説明できる。

13	動脈血ガス分析の目的、適応と異常所見を説明できる。
14	心電図検査の目的、適応と異常所見を説明できる。
15	心臓超音波検査の目的、適応と異常所見を説明できる。
16	呼吸機能検査の目的、適応と異常所見を説明できる。
17	腹部超音波検査の目的、適応と異常所見を説明できる。
18	輸血療法の適応を説明できる。
19	輸血に必要な検査を説明できる。
20	交差適合試験を説明できる。
21	血液製剤の種類と適応を説明できる。
22	輸血の副作用とその対応を説明できる。
23	造血幹細胞移植の種類とその適応を説明できる。
24	遺伝子関連検査の種類とその適応を説明できる。
25	代表的睡眠関連疾患と他科疾患との関連を学び、必要な基本的診断検査について説明できる。
26	睡眠関連疾患の中でも頻度が高い、睡眠呼吸障害の適切な診断方法について説明できる。
27	簡易型睡眠呼吸検査装置*の役割について説明できる。 (*終夜パルスオキシメトリー、アクチグラム、簡易型呼吸記録装置、可搬型睡眠ポリグラフ装置など)
28	睡眠呼吸障害の確定診断検査である、終夜睡眠ポリグラフ検査について説明できる。
29	感染症の診断と治療に必要な病原微生物の知識と検査法、感染症予防・チーム医療について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	9/30(水)	3	睡眠医療学科	西島 嗣生 教授	睡眠検査(1)	16,25,26,27,28	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中の内容を整理し、単に正解を暗記するのではなく正解に至った理由が述べられるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。</p>

講義	9/30(水)	4	睡眠医療学科	義久 精臣 客員 教授	睡眠検査(2)	16,25,26,27,28	<p>【事前学修】 事前にwebclassで配布するハンドアウトを参考に、講義内容に関連する課題を行うこと。同課題はwebclassに掲載する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中の内容を整理し、単に正解を暗記するのではなく正解に至った理由が述べられるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。</p>
講義	10/7(水)	3	臨床検査医学・感染症学講座	高橋 敬太 助教	腹部超音波検査	17	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中に行うディスカッション等で知識を整理し、正解に至る考え方の道筋を説明出来る様にする。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。</p>
講義	10/7(水)	4	臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究 教授	呼吸機能検査・動脈血液ガス分析・感染制御総論	9,13,16,29	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中に行うディスカッション等で知識を整理し、正解に至る考え方の道筋を説明出来る様にする。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。</p>

講義	10/14(水)	3	臨床検査医学・感染症学講座	熊谷 亜希子 講師	心臓超音波検査	15	<p>【事前学修】 事前にWeb classで予習プリント、事前課題と考察問題を開示するので、プリントを参考にして回答しておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中に行ったディスカッション内容を整理し、単に正解を暗記するのではなく正解に至った理由が述べられるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。</p>
講義	10/14(水)	4	循環器内科分野	大和田 真玄 准教授	心電図検査	14,15	<p>【事前学修】 心電図学について、本学Web classの授業スライドを事前に熟読し、予め疑問点を自己ノートにまとめておく。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 資料の講義とともに設問の解説を行い、復習する事で知識を整理する。所要時間30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	10/21(水)	3	臨床検査医学・感染症学講座	藤原 亨 准教授	臨床検査総論(1)(2) 生化学検査(1)(2)	1,2,3,4,11	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中に行ったグループディスカッションの内容を整理し、単に正答例を暗記するのではなく正答例に至る理由が説明できるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに事前資料をアップする。</p>

講義	10/21(水)	4	臨床検査医学・感染症学講座	藤原 亨 准教授	輸血と遺伝子関連検査	18,19,20,21,22,23,24	<p>【事前学修】 事前にwebclassで配布するハンドアウトを参考に、講義内容に関連する課題を行うこと。同課題はwebclassに掲載する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 自らが参加したグループワークの内容および他グループの発表内容を整理し、正解に至る理由が述べられるようにすることで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする。</p>
講義	10/28(水)	3	臨床検査医学・感染症学講座	日比谷 健司 助教	検体採取法と保存法 末梢血液検査・凝固検査	5,10	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中の内容を整理し、単に正解を暗記するのではなく正解に至った理由が述べられるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする</p>
講義	10/28(水)	4	福島県立医科大学	豊川 真弘 非常勤講師	微生物検査の基本	9,29	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中の内容を整理し、単に正解を暗記するのではなく正解に至った理由が述べられるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする。</p>

講義	11/4(水)	3	臨床検査医学・感染症学講座	高橋 敬太 助教	一般検査 髄液検査・尿検査・便検査	6,7,8	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義中の内容を整理し、単に正解を暗記するのではなく正解に至った理由が述べられるように整理することで、学習内容を記憶に定着させる。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする。</p>
講義	11/4(水)	4	臨床検査医学・感染症学講座	高橋 敬太 助教	免疫血清検査（主に免疫学的測定法）	12	<p>【事前学修】 事前に配布する予習課題について、事前配布資料とWebにアップロードした資料を参考に回答し講義開始前に提出する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 心電図学について、講義で学んだ重要点を整理して、提出されたレポートはコメント付きで返却する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】WebClassに事前資料をアップする。 ・ウェブ検索を駆使してディスカッションに活かす。</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準臨床検査医学 4版	高木康、山田俊幸 編	医学書院	2013
参考書	最新臨床検査のABC	橋本信也 監修・編集	医学書院	2007
推薦図書	実践臨床検査医学	大久保昭行ほか編	文光堂	1998
推薦図書	一目でわかる臨床検査 第2版	松野一彦、新倉春男、前川真人 著	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2011
推薦図書	臨床検査のガイドライン JSLM2018 —検査値アプローチ・症候・疾患—	日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会 編	日本臨床検査医学会	2018
推薦図書	よくわかる輸血学 第3版	大久保光夫、前田平生 著	羊土社	2018
推薦図書	睡眠呼吸障害 update 2011	井上雄一、山城義広 編著	ライフ・サイエンス	2011
推薦図書	Electrocardiography A to Z ～心電図のリズムと波を見極める～	磯部光章、奥村謙 監修	日本医師会	2015
推薦図書	不整脈診療クリニカルクエスション 200	平尾見三 編	診断と治療社	2015
推薦図書	不整脈概論—専門医になるためのエッセンシャルブッカー—	池田隆徳、山下武志 編	メジカルビュー社	2013
推薦図書	疾患と異常像がわかる！エコーの撮り方 完全マスター	種村 正 編	医学書院	2015
推薦図書	解剖と正常像がわかる！エコーの撮り方 完全マスター 第2版	種村 正 編	医学書院	2022

・成績評価方法

【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。								
【形成的評価】 講義中に小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。授業参加態度についても評価する。								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～29	2～6				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、授業中に事前学修内容の発表時間を設け、また授業中に小テストを課す場合は授業終了までに解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に540分の自己学修を要す。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>

・教育資源

教科書・参考書、講義室、黒板、パソコン、パワーポイント

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン SurfacePro	1	講義スライド作成用
講義	ノートパソコン Surface Pro7 VDX-00014	1	講義スライド作成用
講義	ノートパソコン Surface Pro9 一式	1	講義スライド作成用
講義	デスクトップパソコン LAVIE A23	1	講義スライド作成用
講義	複合機	1	講義スライド作成用

臨床医学演習

ナンバリング M3-S1-D12

責任者・コーディネーター	教育支援システム開発分野 前沢 千早 教授		
担当講座・学科（分野）	教育支援システム開発分野、糖・代・内分泌内科分野、臨床検査医学・感染症学講座、衛生学公衆衛生学講座、小児科学講座、消化器内科分野、血液腫瘍内科分野		
担当教員	前沢 千早 教授、石垣 泰 教授、藤原 亨 准教授、柿坂 啓介 准教授、赤坂 憲 准教授、外館 玄一郎 特任准教授、古和田 周吾 講師、永塚 真 特任講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	後期		演習 13コマ 26.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、膨大な医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。本演習では、これまで学んだ基礎医学の知識に加え、3学年後期に学んだ臨床医学の基盤知識を統合活用し、鑑別診断、治療方針の決定に結び付く分析力・問題解決能力を演習形式で涵養する。

・教育成果（アウトカム）

各種疾病の鑑別診断・治療の実践に必要な病態生理・診察に係る基盤知識を統合し、問題を解決できる。

(ディプロマ・ポリシー： 4)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	演習問題の関連知識を説明できる。
2	正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・講義場所

講義：東1-C講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
演習	11/26(木)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	ガイダンス	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	11/26(木)	4	消化器内科分野	永塚 真 特任講師	消化器病学（消化管分野）で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/2(水)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	主に呼吸器病学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>

演習	12/3(木)	3	糖・代・内分泌内科分野	石垣 泰 教授	内分泌・代謝病学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 Webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/3(木)	4	小児科学講座	外館 玄一郎 特任准教授	小児科学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 Webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/9(水)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	主に免疫病学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 Webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>

演習	12/9(水)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	主に産婦人科学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/10(木)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	主に神経病学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/10(木)	4	臨床検査医学・感染症学講座	藤原 亨 准教授	臨床検査医学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>

演習	12/15(火)	2	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	履修内容のうち、予防医学的に重要な内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/16(水)	2	消化器内科分野	柿坂 啓介 准教授	消化器病学（肝臓分野）で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
演習	12/17(木)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	主に腎臓病学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>

演習	12/17(木)	4	血液腫瘍内科分野	古和田 周吾 講師	血液病学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 45分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 45分以上</p> <p>【ICT】 WebClassに演習問題・正答をアップするので、確認すること。</p>
----	----------	---	----------	-----------	----------------	-----	---

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	クエスチョンバンク 医学共用試験 CBT		MediLink store	2026

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の68点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1, 2	4				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
--

・教育資源

CBT-QB（試験範囲の演習問題の解説が記載されている）、講義室、図書館、PC、インターネット

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	講義資料・試験問題作成

責任者・コーディネーター		総合診療医学講座 下沖 収 教授	
担当講座・学科（分野）		総合診療医学講座、医学教育学分野、地域医療学分野、教育支援システム開発分野	
担当教員		下沖 収 教授、伊藤 智範 教授、前沢 千早 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、米田 真也 講師、相澤 純 特任講師、山田 哲也 助教	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

模擬症例を対象に、症候や病態について基礎医学ならびに臨床医学の知識を基に論理的に考え、診断にいたるプロセスを学ぶ。疾患の病態生理のみならず、症例情報から得られる心理社会的背景を理解する。各治療の効果発現機序、有害事象、QOLへの影響と症例個々の生物心理社会的問題とを総合的に判断し、治療や診療方針を考察する。疾病予防や社会復帰、在宅復帰のために必要な条件や社会資源についても知り、それをもとに患者中心の医療についても理解を深める。小人数グループで調べて、プレゼンテーション資料を作成、発表と討議を行うコースである。

・教育成果（アウトカム）

症例をととして、症候から診断治療、さらには社会（在宅）復帰や地域での医療連携、緩和ケアも含めた診療をトレースして考察することで、疾患の理解に留まらず、生物心理社会（BPS）モデルで捉えて社会の中の人間（全人的視点）を診ることができるようになる。また、小人数グループ作業によるPBLを行うことで、適切な役割分担と責任感、コミュニケーション能力、協調的態度を向上させ、チームの一員として役割を担うことができるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	与えられた症例の症候について、解剖・生理学等に基づく病態生理を説明できる。
2	病歴、身体所見から鑑別診断を挙げることができる。
3	診断プロセスの中で必要な検査を挙げることができる。
4	与えられた臨床データ（検体検査、生理検査、画像検査、特殊検査）を解釈し診断に到ることができる。
5	治療法について、病態生理に対しての作用機序、薬理作用を基に説明できる。
6	病態生理、薬理作用を基に、治療法を選択し、考えられる有害事象やQOLへの影響を説明できる。
7	疾病予防や再発予防、社会復帰や在宅復帰のために必要な条件や社会資源を述べるることができる。
8	心理社会的背景や倫理的視点も踏まえた方針について検討して述べるることができる。

9	チーム作業で自分の役割を果たし、自らの意見と同様に相手の意見を尊重する態度、論理的思考力と伝達能力、伝えるためのプレゼンテーション技法を身につけることができる。
10	振り返りの習慣を身につけ、自己学修を自律的に行なうことができる。

・ 講義場所

東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/15(金)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	コースオリエンテーション（講義スタイル）	1,2,3,4,5,6,7,8,9	【事後学修】 症例から問題を同定して解決をチームで討議することの意義、チームビルディングについての学習、統合的な学習の意義、グループで症例のグループ討議を通しての学習、成果物作成。所要時間120分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。
講義	5/15(金)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	【事後学修】 グループ学習計画をもとに、自己学習の計画を立てる。 症例について自己学習を深める。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。
講義	5/28(木)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	【事前学修】 成果物発表のための課題症例について与えられた課題に対する回答をグループ討議を通じて検討し、スライド・動画を作成する。発表の練習を繰り返し行い、聴衆が分かりやすいように練習を行う。グループワークにはZoomなどのICTを適宜活用する。所要時間 120分以上 【事後学修】 症例の病態生理を復習、全人的包括的医療を行うために必要な考え方やリソースを復習し、他人へ説明できるようにする。所要時間60分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。

講義	5/28(木)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開 発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5 ,6,7,8,9	【事前学修】 成果物発表のための課題症例について与えられた課題に対する回答をグループ討議を通じて検討し、スライド・動画を作成する。発表の練習を繰り返し行い、聴衆が分かりやすいように練習を行う。グループワークにはZoomなどのICTを適宜活用する。所要時間 120分以上 【事後学修】 症例の病態生理を復習、全人的包括的医療を行うために必要な考え方やリソースを復習し、他人へ説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。
講義	6/4(木)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開 発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	個人学習	1,2,3,4,5 ,6,7,8,9, 10	【事前学修】 他グループが作成した動画を視聴し、それに対する評価、感想、質問を記載する。所要時間 120分以上 【事後学修】 症例の病態生理を復習、全人的包括的医療を行うために必要な考え方やリソースを復習し、他人へ説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。
講義	6/4(木)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開 発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	個人学習	1,2,3,4,5 ,6,7,8,9, 10	【事前学修】 他グループが作成した動画を視聴し、それに対する評価、感想、質問を記載する。所要時間 120分以上 【事後学修】 症例の病態生理を復習、全人的包括的医療を行うために必要な考え方やリソースを復習し、他人へ説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。

講義	6/11(木)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5 ,6,7,8,9, 10	【事前学修】 動画に対する評価、感想、質問に対する回答をグループ討議を通じて検討し、文章で作成する。グループワークにはZoomなどのICTを適宜活用する。所要時間 120分以上 【事後学修】 症例の病態生理を復習、全人的包括的医療を行うために必要な考え方やリソースを復習し、他人へ説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。
講義	6/11(木)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 教育支援システム開発分野	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 田鎖 愛理 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5 ,6,7,8,9, 10	【事前学修】 動画に対する評価、感想、質問に対する回答をグループ討議を通じて検討し、文章で作成する。グループワークにはZoomなどのICTを適宜活用する。所要時間 120分以上 【事後学修】 症例の病態生理を復習、全人的包括的医療を行うために必要な考え方やリソースを復習し、他人へ説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClassに当日資料を公開する。設問への回答例、症例解説をWebClassに公開する。グループワークへのZoomなどICTの活用。

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	診察ができる vol 2 鑑別診断 第1版	野口 義令ら	medic media	2024
参考書	ジェネラリストのための内科外来マニュアル 第3版	金城光代、金城紀与史、岸田直樹	医学書院	2023
参考書	内科診断学 第4版	福井 次矢、奈良 信雄 編集	医学書院	2024
参考書	診察ができる vol 1 身体診察 第1版	竹村 洋典ら	medic media	2023
参考書	地域医療テキスト	自治医科大学	医学書院	
参考書	へき地・離島医療マニュアル(web) (https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/05/tp0524-1.html)	地域医療振興協会	厚生労働省	2021
推薦図書	日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック 改訂3版	日本プライマリ・ケア連合学会	南山堂	2021
推薦図書	ジェネラリストのための内科診断リファレンス 第2版	上田剛士	医学書院	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験 MCQ (50点満点)、成果物評価 (30点満点)、レポート評価 (10点満点)、ピア評価 (10点満点) を加えて最終成績とします。最終成績が60点以上で合格とします。最終成績が60点に満たない場合は、再試験対象となります。再試験はMCQ単独、またはMCQに口頭試問を加えた形式で行います。

【形成的評価】

講義内で発表された成果物に対して形成的評価を行いフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	成果物	ピア評価	合計
1～8	1～8				50			50
9	1～8					30		30
9～10	1～8		10					10
9	6						10	10
合計			10		50	30	10	100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業における事前学修と成果物の作成には最低120分を要する。また授業後の復習には60分以上が必要である。本内容は全授業に対して該当するものとする。講義・実習内で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、解答例を含む解説書を配布する。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果、実際の医療の状況を教示する。確認テストは、事前学習と成果物作成への取組み、講義内での理解度を評価するものとして活用する。また、復習にも活用することで一層の理解度向上を図る。講義資料はWebclassで配信する。

本科目では、事前事後学修以外に420分の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、PC、インターネット環境、プロジェクター、マイク、教科書、参考書等

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません。			

医学研究リテラシー I

ナンバリング	M3-S1-G02
--------	-----------

責任者・コーディネーター		医学教育学講座地域医療学分野 伊藤 智範 教授	
担当講座・学科（分野）		地域医療学分野、医学教育学分野、リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野、基盤的研究部門、看護学部看護専門基礎講座	
担当教員		伊藤 智範 教授、遠藤 龍人 教授、佐藤 洋一 名誉教授、鈴木 悠地 特任准教授、若井 淳 講師	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 6コマ 12.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 2コマ 4.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師に求められる研究力を育むためのリテラシー科目である。座学と基礎実験の手ほどきで構成される。①初年次ゼミ、②情報リテラシーおよび③多職種連携のためのアカデミックリテラシーのコースで会得した知識と技能をもとに、研究に特化したリテラシーの基礎を学ぶ。座学は、研究リテラシーII（研究室配属）の事前講義に該当する。実験の基本事項を学び、臨床研究法を理解し、医学研究を進めるために必要な事項を習得する。

・教育成果（アウトカム）

医学研究リテラシー概要と医学研究の歴史を講義で学ぶことで、基礎実験・臨床研究の適切な方法を説明できるようになる。
 基礎実験の手法を実習することで、動物の取り扱い方法とルールを説明できるようになる。
 倫理審査の必要性和研究計画書作成方法を理解することで、倫理申請と利益相反開示を説明できるようになる。
 医学研究倫理と歴史を学ぶことで、医学生として社会に信頼される行動・研究をする意義や重要性について説明できるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,7 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医療倫理・研究倫理の原則を説明できる。
2	文献検索の方法を説明できる。
3	医学研究英文論文で記述されている内容を説明できる。
4	研究手法を学び、その適応と要約を説明できる。
5	基礎実験に必要なルールと動物の取り扱いについて説明できる。
6	研究者の基本的責任と行動規範・研究活動への姿勢等を説明できる。
7	研究分野の特性に応じた、研究データとなる実験・観察ノート等の記録媒体の作成（作成方法等含む）・保管や実験試料・試薬の保存について説明できる。
8	論文作成の基礎を学び、論文作成の際の各研究者間における役割分担・責任関係の明確化について説明できる。
9	利益相反の考え方や個人情報保護・守秘義務について説明できる。
10	臨床研究の研究計画書と、倫理申請・利益相反開示について説明できる。

11	医学研究の歴史と研究不正について説明し、医学生・医師として社会に信頼される行動について説明できる。
12	動物実験倫理について自分の意見を述べるができる。
13	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につけることができる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/10(金)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	研究室配属総論：学生が研究をする意義と求められるリテラシー	1,2,4,7,8,13	【事前学修】webclassへアップしたスライドを読み込んでくる（30分以上） 【事後学修】当該部分の過去試験問題への回答をwebclassで行う。この問題について、事後学習を行う。 【ICT】WebClassで確認問題を回答する
講義	4/17(金)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	医学研究における倫理申請	1,6,8,9,10	【事前学修】webclassへアップしたスライドを読み込んでくる（30分以上）
講義	4/24(金)	1	基盤的研究部門	若井 淳 講師	実験動物学1「実験動物学総論」	5,12	【事前学修】webclassへアップしたスライドを読み込んでくる（30分以上） 【事後学修】動物実験について、肯定的な意見と否定的な意見の両方を検索し、自分の考えを述べられるようにする（30分以上）

実習	5/1(金)	1	基盤的研究部門	若井 淳 講師	実験動物学2 「ラットの取扱い」	5	【事前学修】 実験動物学1の時に配布する資料を読み込んでくる(30分以上) 【事後学修】 実習で学んだ動物の取扱い方法について、様々な要点をノートにまとめて記録しておく(30分以上)
実習	5/8(金)	1	基盤的研究部門	若井 淳 講師	実験動物学3 「動物実験倫理」	12	【事前学修】 実験動物学1の時に配布する資料を読み込んでくる(30分以上) 【事後学修】 実習中にグループ内でディスカッションした内容について400字程度でまとめて提出する(60分以上)
講義	5/12(火)	1	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	鈴木 悠地 特任准教授	EBMの手法 基礎研究・医学研究 を実行することの意義	2,3,4,13	【事前学修】 webclassへアップしたスライドを読み込んでくる(30分以上) 【事後学修】 EBMの概念について、講義資料または参考図書で確認する(30分以上)。
講義	5/15(金)	1	看護学部看護専門基礎講座	遠藤 龍人 教授	臨床研究特論	3,4,10	【事前学修】 データサイエンスⅡで履修した「交絡とバイアス」、「回帰分析法を用いた交絡因子の調整解析」について復習する(60分以上) 【事後学修】 回帰モデル・傾向スコアを用いた交絡の調整、解析対象集団、ITT解析が必要な理由について要点をまとめる(60分以上) 【ICT】WebClassに講義資料をアップする

講義	5/18(月)	3	医学教育学分野	佐藤 洋一 名誉教授	医学研究の歴史	2,11	
----	---------	---	---------	------------	---------	------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	医学的研究のデザイン 第5版	Browner WS (木原雅子訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2024
参考書	「医療統計力」を鍛える!	千葉康敬	総合医学社	2015

・成績評価方法

【総括評価】
 中間試験：MCQによる試験（7割）を行う（到達目標1～5,7～11）。ほか、レポート作成（3割）を行う。合計100点を満点とする。
 レポートは、①実験実習後レポート（400字以上（1割）：到達目標12）②科目レポート（1000字以上（2割）：到達目標6,11～13）で評価する。

【形成的評価】
 講義後にミニテストを行う。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5、7～11	1、2、4、7	70						70
6、11～13	1、2、4、7		30					30
合計		70	30					100

・特記事項・その他

配属前に、研究倫理に関するe-learningを指定する期間内に完了すること。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本科目では、事前事後学修以外に各回3時間の自己学修を要す。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

医学研究リテラシーⅡ（研究室配属）

ナンバリング M3-S1-G03

責任者・コーディネーター		医学教育学講座地域医療学分野 伊藤 智範 教授		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	0コマ 0.0時間
期間	通期		演習	0コマ 0.0時間
			実習	72コマ 144.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師に求められる研究力を育む医学研究リテラシーの一環として、研究室配属による実習を行う。リテラシーⅠに引き続き、リテラシーⅡである研究室配属では、座学では得られない科学的思考能力と解析検証能力の涵養を目的に、医学研究の現場を体験し、自ら研究課題の選択と問題解決の手法を学び、実践する。また、自身の将来像の明確化、研究の必要性について動機づけを行う。

・教育成果（アウトカム）

研究室の教員と全人的に付き合うことにより、医療者に必要な研究マインドを醸成できるようになる。
 疑問に思ったことを自ら調べ研究することで、知的好奇心・探求心を涵養できるようになる。
 教員から研究や発表の指導を受けることにより、科学的・医学的思考を身につけることができるようになる。
 報告会にて自らの研究活動報告を他学年の医学生に見聞してもらうことで、自らの研究を後人に伝えることができるようになる。
 研究の真理探究に臨む、誠の人間たる態度を身につけることができるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,4)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	研究室のスタッフと良好な関係を築くことができる。
2	文献検索ができる。
3	関連の学術論文が読める。
4	研究テーマを策定して、研究計画書作成にかかわることができる。
5	研究手法を説明・実践できる。
6	研究結果を説明・評価できる。
7	研究成果をまとめ、適切に発表し、十分な質疑応答ができる。
8	臨床研究を行う場合、倫理申請にかかわることができる。
9	利益相反を開示できる。
10	守秘義務を順守して、個人情報を守ることができる。
11	生物統計学や疫学に関する基本的知識を用いて、医学情報を説明できる。
12	疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集し、それを基に論理的・批判的に思考できる。
13	研究成果物について適切でわかりやすいポスターを作成できる。
14	同級生やグループ間で、お互いに協力しながら学びあうことができる。
15	生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考について述べることができる。
16	研究を通じて、医学生・医師として社会に信頼される行動について説明できる。

17	自己解決不可能な問題について、指導者や上級医に助言を求めることができる。
18	研究について指導医と共に解析および考察できる。
19	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につけることができる。

・講義場所

配属先の指導教員が指定する場所

・講義指導教員一覧

	講座	氏名
1	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	武部 典子
2	内科学講座循環器内科分野	肥田 頼彦
3	内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	大河原 知治
4	内科学講座血液腫瘍内科分野	古和田 周吾
5	内科学講座脳神経内科・老年科分野	板橋 亮
6	脳神経外科学講座	吉田 純
7	呼吸器外科学講座	兼古 由香
8	整形外科科学講座	高橋 裕孝
9	形成外科学講座	山崎 友和
10	産婦人科学講座	小山 理恵 庄子 忠宏
11	小児科学講座（血液）	三浦 翔子
12	小児科学講座（総合）	石川 健
13	小児科学講座（腎）	石川 健
14	小児科学講座（新生児）	千葉 智子
15	小児科学講座（循環器）	齋木 宏文
16	小児科学講座（神経）	浅見 麻耶
17	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座（耳鼻咽喉科）	中西 啓
18	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座（頭頸部外科）	片桐 克則
19	眼科学講座	橋爪 公平
20	泌尿器科学講座	五十嵐 大樹
21	神経精神科学講座	赤平 美津子
22	放射線医学講座	田村 明生
23	麻酔学講座	鈴木 健二
24	総合診療医学講座	高橋 智弘
25	病理診断学講座	杉本 亮
26	臨床腫瘍学講座	岩谷 岳
27	リハビリテーション医学講座	西山 一成
28	睡眠医療学科	細川 敬輔
29	放射線腫瘍学科	菊池 光洋
30	解剖学講座人体発生学分野	木村 英二 勝本 恵一 足立 礼孝 及川 里百合
31	解剖学講座細胞生物学分野	齋野 朝幸 成田 啓之
32	生理学講座統合生理学分野	駒切 洋

33	薬理学講座情報伝達医学分野	ハサン アリフ ウル
34	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲
35	医学教育学講座医学教育学分野	伊藤 智範
36	医学教育学講座教育支援システム開発分野（安平先生）	安平 進士
37	創薬・医療機器開発部門（旧 分子病態解析部門）	世良田 聡
38	創薬・医療機器開発部門（旧 医療開発研究部門）	阿保 亜紀子 開 勇人
39	創薬・医療機器開発部門（旧 神経科学研究部門）	真柳 平
40	基盤的研究部門（旧 超高磁場MRI診断・病態研究部門）	山下 典生
41	人間科学科体育学分野	佐々木 亮平

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

前期：	8月17日（月）～8月28日（金） 10日間	1～19
後期：	9月14日（月）～9月25日（月） 7日間	
報告会：	11月25日（水）	

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
登録済みの教科書はありません。				

・成績評価方法

<p>【総括評価】</p> <p>①配属研究室の指導教員による評価を行う。（65点）</p> <p>②学生による本科目の到達目標が達成されているかを自己評価を行う。（5点）</p> <p>③報告会の発表を報告会座長による評価を行う(30点)※座長は発表内容、発表態度、インパクト等を総合的に判断して評価する。</p> <p>報告会に欠席した場合や、報告会前後提出物の提出がない場合、期限を守らないものには③の得点を与えない。</p> <p>【形成的評価】</p> <p>研究室に配属して指導教員のもつ行う研究活動の全てにおいて、随時教員によりフィードバックを行い、学習を促す。とくに、学内発表用抄録作成にあたって、指導教育から適宜フィードバックを受けて修正作業を行う。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～6,8, 10～12, 14～19	1,2,4						70	70
7,9,13	1,2					30		30
合計						30	70	100

・特記事項・その他

研究室配属期間では、研究室という社会的な場所に入出入りすることになる。
 社会人としての礼儀を要求される。(礼儀・時間の厳守など)
 医学生らしい髪型・服装をすること。
 (君たちは社会から見られており、常に評価されている)

開催時間・回数は教員の予定により運用されるため、教員との連絡手段を確立し、情報共有を行うこと。

全員配属前に、研究倫理に関するe-learningを、指定する期間内に完了すること (e-learningを完了していないものは総括評価の対象としない)。

研究室の指示に従い、1日あたり120分の事前・事後学修 (予習・復習) を行うこと。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	顕微鏡デジタルカメラ	1	研究室配属
実習	ファイバー照明装置	1	研究室配属
実習	パソコン	2	標本データ化、画像解析
実習	定量送液ポンプ	1	研究室配属
実習	卓上小型振とう機	1	研究室配属
実習	Endeavor (タワー型パソコン一式)	1	研究室配属
実習	実態顕微鏡	1	研究室配属
実習	アルミブロック恒温槽 (CB-100A)	1	研究室配属
実習	ラビダス・ミニスラブ電気泳動装置	1	研究室配属
実習	卓上微量高速遠心機	1	研究室配属
実習	テーブルトップ遠心機	1	研究室配属
実習	光ファイバー照明装置	1	研究室配属
実習	コンパクトフィルム乾燥機	1	研究室配属
実習	インキュベーターボックス	2	研究室配属
実習	テーブルトップ遠心機	1	研究室配属
実習	H-7650形透過電子顕微鏡用真空計	1	研究室配属
実習	RAID0対応NAS	1	研究室配属
実習	液晶モニター	1	研究室配属
実習	パソコン (Let's Note)	1	研究室配属
実習	ユニバーサル冷却遠心機	1	研究室配属
実習	ノートパソコン (Mac Book Air)	1	研究室配属
実習	マイクロプレートリーダー	1	研究室配属
実習	紫外可視分光光度計	1	研究室配属
実習	分析天秤	1	研究室配属
実習	インキュベーター	1	研究室配属
実習	乾熱滅菌器	1	研究室配属
実習	小型高圧蒸気滅菌器	1	研究室配属
実習	ゲル撮影装置	1	研究室配属
実習	恒温式2連ミニゲルスラブ電気泳動装置	1	研究室配属
実習	薬用冷蔵ショーケース	2	研究室配属
実習	レーザービームプリンター	1	研究室配属
実習	ザイオステーション2	2	研究室配属
実習	画像判定装置 一式	1	研究室配属
実習	パワープロジェクター	1	研究室配属
実習	大判プリンター	1	研究室配属
実習	画像解析 表示用パソコン	1	研究室配属
実習	ネットワーク対応HDD	1	研究室配属

実習	高速共焦点顕微鏡システム	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン	2	研究室配属
実習	ドライグシェルフ DS-C	1	研究室配属
実習	倒立顕微鏡	1	研究室配属
実習	環境放射線モニタ	1	研究室配属
実習	卓上pHメーター	1	研究室配属
実習	デジタルホットプレートスターラー	1	研究室配属
実習	バキュームポータブルアスピレーター	1	研究室配属
実習	実態顕微鏡 一式	1	研究室配属
実習	高感度化学発光検出装置	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン	2	研究室配属
実習	スキャナー	1	研究室配属
実習	アルミブロック恒温槽	1	研究室配属
実習	超低温フリーザー	1	研究室配属
実習	冷蔵庫	1	研究室配属
実習	pHメーター	1	研究室配属
実習	シリンジポンプ	1	研究室配属
実習	卓上微量高速遠心機	1	研究室配属
実習	ホモジナイザー	1	研究室配属
実習	gentleMACS Octo Dissociator	1	研究室配属
実習	MACSmix Tube Rotator	1	研究室配属
実習	超純水製造装置一式	1	研究室配属
実習	複合機 image RUNNER ADVANCE	1	研究室配属
実習	ペン型電動ピベット	1	研究室配属
実習	パワーバックBASIC	1	研究室配属
実習	超音波ホモジナイザー	1	研究室配属
実習	ミニトランスプロットセル	2	研究室配属
実習	画像保存用装置	1	研究室配属
実習	7T-MRI対応聴覚刺激装置	1	研究室配属
実習	ノートパソコン一式 (CF-MX 3 KEHBP)	1	研究室配属
実習	プロジェクター一式 (EBX24)	1	研究室配属
実習	テラステーション(TS5200D0202)	1	研究室配属
実習	ラベルプリンタ	1	研究室配属
実習	ノートパソコン ラベル発行端末一式	1	研究室配属
実習	デジタル超音波診断装置(Aplio500 Platinum)	1	研究室配属
実習	ポータブルハードディスク	3	研究室配属
実習	ノートパソコン (VAIO Z) 一式	1	研究室配属
実習	スキャナー (Scan Snap) 一式	1	研究室配属
実習	マイルドミキサー	1	研究室配属
実習	生物顕微鏡	1	研究室配属
実習	ノートパソコン (Surface PRO3) 一式	1	研究室配属
実習	画像保存用サーバ装置一式	1	研究室配属
実習	MR コンパチブルカメラ一式	1	研究室配属
実習	ポータブルSSD	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Pavilion 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Pavilion 一式	1	研究室配属
実習	カラー液晶モニター Flex Scan	1	研究室配属
実習	QNAP メモリ 単体モデル	1	研究室配属
実習	QNAP TS-231P HDD搭載モデル	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Workstation 一式	1	研究室配属
実習	QNAP 単体モデル メモリ 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Pavilion 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Pavilion 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Workstation 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Workstation 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン ProDesk400 一式	1	研究室配属
実習	液晶モニター	1	研究室配属
実習	液晶モニター	1	研究室配属
実習	給排気式クリーンラック 一式	1	研究室配属
実習	陰陽圧飼育ラック	1	研究室配属

実習	顕微鏡用フィルター励起システム 一式	1	研究室配属
実習	インビトロシェーカー	1	研究室配属
実習	リニコンポンプ	1	研究室配属
実習	インテリミキサー RM-2M	1	研究室配属
実習	移動式免疫発光装置パスファースト	1	研究室配属
実習	フローサイトメーター on-chip Flow MS5	1	研究室配属
実習	液晶モニター	1	研究室配属
実習	ラボ用オートクレーブ	1	研究室配属
実習	パワーバック	1	研究室配属
実習	ハンドピース スタンダード ロータリー	1	研究室配属
実習	冷蔵庫	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコンInspiron24 一式	1	研究室配属
実習	ノートパソコン ProBook 450	1	研究室配属
実習	T100サーマルサイクラー	1	研究室配属
実習	薬用冷蔵ショーケース 一式	1	研究室配属
実習	移動式免疫発光測定装置 PATHFAST 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン EliteDesk800 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン EliteDesk800 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン EliteDesk800 一式	1	研究室配属
実習	液晶ディスプレイ FlexScan 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Workstation 一式	1	研究室配属
実習	QNAP 単体モデル メモリ 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン Mate MB 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン EliteOne1000 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップ カスタマイズパソコン UNIV 一式	1	研究室配属
実習	QNAP TurboNAS 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン HP Z2 SFF G4 WorkStation 一式	1	研究室配属
実習	QNAP NAS 単体モデル メモリー2GB 一式	1	研究室配属
実習	システム生物顕微鏡 一式	1	研究室配属
実習	リニコン真空ポンプ	1	研究室配属
実習	スタンダードホットプレート	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン 7PRO/i5/500G/2016HB	1	研究室配属
実習	自動染色装置 ティッシュ・テックDRS2000	1	研究室配属
実習	StepOne リアルタイムPCRシステム	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン iMac 21.5インチ 一式	1	研究室配属
実習	27.0型カラー液晶モニター FlexScan 一式	1	研究室配属
実習	スリムタワーワークステーション Express5800/Y53Xj 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン EliteDesk800 G5 TW/CT 一式	1	研究室配属
実習	サクシオンポンプ	1	研究室配属
実習	微量高速冷却遠心機	1	研究室配属
実習	研究用保冷库	1	研究室配属
実習	ビジネスプロジェクター	1	研究室配属
実習	80型ワイドスクリーン	1	研究室配属
実習	ミドルタワーパソコン (第9世代インテル Core i7搭載) 一式	1	研究室配属
実習	ノートパソコン ProBook650 G4	2	研究室配属
実習	タブレット兼ノートパソコン Surface Pro6 一式	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン (BTOパソコン)	1	研究室配属
実習	顕微鏡用デジタルカメラ一式	1	研究室配属
実習	蛍光顕微鏡用高感度カメラ AdvanCam	1	研究室配属
実習	ノートパソコン HP Elite Dragonfly/CT Notebook PC	1	研究室配属

実習	トランスプロットTurbo with PVDF (ミニ)	1	研究室配属
実習	卓上型振とう恒温槽 パーソナル-11-SDN セット	1	研究室配属
実習	倒立顕微鏡IX70用 蛍光光源装置一式	1	研究室配属
実習	液晶ディスプレイ FlexScan	1	研究室配属
実習	カラー液晶モニター FlexScan	1	研究室配属
実習	31.5型液晶ディスプレイ	1	研究室配属
実習	実体顕微鏡 一式	1	研究室配属
実習	マイクロインジェクションセット 一式	1	研究室配属
実習	ノート型パソコン HP Probook 450 G8	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン ESPRIMO FH70/F3	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン uniV UNI-i7HC	1	研究室配属
実習	液晶ディスプレイ31.5型	1	研究室配属
実習	StepOne リアルタイムPCRシステム 一式	1	研究室配属
実習	超低温フリーザー 一式	1	研究室配属
実習	全自動電気泳動装置 4150 Tape Stationシス テム	1	研究室配属
実習	両袖デスク W1600	1	研究室配属
実習	ノートパソコン Yoga 7i Gen8 タイダル ティール	1	研究室配属
実習	カラーレーザービームプリンター複合機 Satera MF753Cdw	1	研究室配属
実習	ノートパソコン SX14	1	研究室配属
実習	39.7インチ曲面型ウルトラワイドモニター	1	研究室配属
実習	ノートパソコン MacBookPro	1	研究室配属
実習	ノートパソコン MacBookPro 14インチ ス ペースブラック	1	研究室配属
実習	ノートパソコン MacBookAir	1	研究室配属
実習	デスクトップパソコン	1	研究室配属
実習	デスクトップPC Elite Mini 800 G9/CT NEW#14 一式	1	研究室配属
実習	ドキュメントスキャナー	1	研究室配属

責任者・コーディネーター		地域医療学分野 伊藤 智範 教授	
担当講座・学科（分野）		地域医療学分野	
担当教員		伊藤 智範 教授、地域医療機関指導者	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 20コマ 40.0時間

・学習方針（講義概要等）

将来、医師として働く場所には必ず地域がある。医療はその地域の一部であり、地域全体を理解することがリーダーたる医師が社会人として働くために重要である。1年次には、医療入門で医療機関と保健介護福祉施設を分けて研修を行ったが、3年次では1週間地域に滞在して、そのエリア全体を意識して、医療機関と保健介護福祉施設を含めた地域包括ケアの基礎を理解することが本科目の目的である。その中で医師が果たすべき役割・社会から医療に求められていることはなにかを学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

そのエリア全体を意識して、医療機関と保健介護福祉施設を含めた地域医療・地域包括ケアを理解することで、地域医療機関で働く医師になる者としての自覚を高めるとともに、地域内で医師が果たすべき役割を習得できるようになる。また、本実習を経験することで、5年次の長期地域医療実習の基礎を会得できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 2,6,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	地域医療に含まれる内容の概要を説明できる。
2	保健組織活動上の行政の役割を説明できる(各種検診、健康教育：健康増進に係る各機関の役割を説明できる)。
3	介護保健施設の役割と行政上の位置づけを説明できる。
4	在宅医療(訪問診療)の概要を説明できる。
5	医療機関相互の連携(病診連携)と各施設の役割を説明できる。
6	実習医療施設内で、地域での救急医療、休日・夜間医療(宿直)を経験して、ほかの職種の役割とその概要を説明し、地域医療に関わる医療スタッフと円滑にコミュニケーションできる(コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を理解することができる)。
7	学生自身、患者、他の医療スタッフの安全に配慮できる(医療安全規範について説明できる)。
8	地域医療に必要な医学知識・身体診察技術を明確にし、実習で求められる医療者援助と見学を適切に行うことができる。
9	実習医療施設外では、在宅医療(訪問診療)、へき地医療(巡回診療)など院外での医療・保険・福祉・介護活動に参加し、それぞれのスタッフの介助を行うことができる(他の職種の専門性を理解し、チーム医療の必要性と構成員の役割分担を説明できる)。

10	地域で受け入れられる全人的総合医療を實踐できる人間性豊かな医師になるために、必要なことを考察して、レポートにまとめて、今後医師になるための抱負を論じることができる。
11	地域包括ケアの概念および地域医療および医師偏在の現況を概説できる。

・ 講義場所

各 地域医療機関

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
実習	8/31~9/4 又は 9/7~9/11	1 ~ 4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療研修	1~11	<p>【事前学修】 実習に行く施設の情報収集とその地域の医療状況を調べておくこと。所要時間 60分</p> <p>【事後学修】 シラバス記載（成績評価方法欄）のとおりレポートを提出する。所要時間 60分</p> <p>【ICT】 レポートをWebClassに提出する</p>

・ 教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	地域医療学入門	藤実彰一	株式会社 診断と治療社	2019

・ 成績評価方法

<p>【総括評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設指導者による研修態度評価：60% 実習施設でのグループ発表会の内容・態度：20% レポート（1000字以上：①到達目標9と11について論じる、②実習を通して医師となる抱負、③医師になるためにこれから必要なことを考察して記載する）の内容・提出：20% <p>※レポート未提出の場合、総括評価の対象としない</p> <p>【形成的評価】 実習先施設からの評価表をもとに、助言等、個別にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1~8	2,3,6,7,8					20	60	80
9~11	6,8		20					20
合計			20			20	60	100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各実習に対する事前・事後学修の時間は毎日最低60分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

学内講義室、地域の医療施設と周辺施設

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 高田 亮 教授		
担当講座・学科（分野）	医学教育学分野、呼吸器内科分野、衛生学公衆衛生学講座、医療安全学講座		
担当教員	高田 亮 教授、肥田 圭介 教授、佐藤 洋一 名誉教授、長島 広相 特任准教授、田鎖 愛理 講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 7コマ 14.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 7コマ 14.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師法改正に伴い、student doctorの立ち位置が明確になり、認定された医学生は指導医の監視の下、患者に対し医行為を行うことが認められることとなった。患者に医行為を行うにあたっては、疾患に対する知識や技能を身につけるのみではなく、医療者としての社会的責任を自覚すること、すなわち医療プロフェッショナルとしての行動・態度が求められる。本科目では、医療安全、医療関連感染症対策、保健医療、診療報酬制度など、多岐にわたる医療現場の現実を理解し、医療者としての役割と責任を自覚する。また医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について省察することを目的として、医療プロフェッショナリズムに関する講義を行うと共に、救急車同乗体験研修、救急心肺蘇生法実習を行う。

・教育成果（アウトカム）

臨床現場に対応した医療安全や医療関連感染症対策を理解することで、医療者としての役割と責任を自覚できる。診療報酬制度を理解することで、将来的に医師として診療を行う際に必要な知識とスキルを身につける事ができる。保健医療の概念と政策を理解することで、地域医療に関する理解を深め、地域医療研修を充実したものに行うことができる。救急心肺蘇生法実習においては、医師に求められる最も基本的な技能を身に付けるとともに、医師としてのプロフェッショナリズムに照らし合わせて、自らの行動を省察できる。当直体験実習においては、消防士や医療スタッフの行動を観察することで、医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度に照らし合わせて、自らの行動を省察するとともに、社会生活における初期治療・救急医療の重要性を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医療関連感染制御における標準予防策、経路別感染対策、医療従事者の感染予防について説明できる。
2	社会保障の概要と医師の果たすべき役割を説明できる。
3	疾病予防に関する枠組み（一次予防、二次予防、三次予防）を説明できる。
4	地域保健医療の現状と課題を説明できる。
5	診療報酬制度の目的を説明できる。

6	診療報酬点数の算定方法を説明できる。
7	診療報酬に関する具体的な問題に対して、適切な解決策を提案できる。
8	医療安全とは何か、その意義を理解し説明できる。
9	マインドフルネスの概念、歴史、様々な実践方法を説明できる。
10	医療現場でマインドフルネスを活かす具体的な方法を説明できる。
11	医療者、医師に必要なプロフェッショナリズムに照らし合わせて、自らの行動を省察できる。
12	救急蘇生法を学び、実践できる。
13	初期治療・救急医療について現場を見聞し、その重要性を説明できる。
14	消防士や医療従事者の動きを学び、今の自分に何が必要か省察できる。
15	同僚・医療スタッフ・消防士と良好なコミュニケーションをとることができる。
16	チーム医療の重要性を学び、Team STEPPS、心理的安全性を理解し実践できる。

・ 講義場所

講義：東1-0講義室 実習：災害時地域医療支援教育センター、盛岡市内消防署

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/29(金)	1	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	医療関連感染制御について1	1,14	【事前学修】 事前に講義内容について確認し、ネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義の内容をまとめる（所要時間 60分） 【ICT】小テストをWebClassに公開する
講義	6/5(金)	1	衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師	保健医療概論	2,3,4	【事前学修】 事前に社会保障制度・岩手県保健医療計画・健康いわて21プラン（第三次）について確認し、ネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上 【事後学修】 社会保障における医師の役割を列挙する。一次予防、二次予防、三次予防について要約する。岩手県保健医療計画と健康いわて21プラン（第三次）について要約する。（所要時間 60分） 【ICT】WebClassに講義資料をアップする 事後学習レポートはWebClassの書式を活用する

講義	6/12(金)	1	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	医療関連感染制御について2	1	【事前学修】 事前に講義内容について確認し、ネットや文献を用いて基礎学修を行う。所要時間 60分以上 【事後学修】 講義の内容をまとめる(所要時間 60分) 【ICT】小テストをWebClassに公開する
講義	6/16(火)	3	医学教育学分野	佐藤 洋一 名誉教授	診療報酬制度について1	5,6	【事前学修】 診療報酬制度の目的と診療報酬点数の算定方法を調べる(所要時間30分) 【事後学修】 講義の内容をまとめる(所要時間 60分) 【ICT】WebClassに提出物の書式をアップする
講義	6/16(火)	4	医学教育学分野	佐藤 洋一 名誉教授	診療報酬制度について2	5,6,7	【事前学修】 診療報酬制度の目的と診療報酬点数の算定方法を調べる(所要時間30分) 【事後学修】 講義の内容をまとめる(所要時間 60分) 【ICT】WebClassに提出物の書式をアップする
講義	6/23(火)	3	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全について	1,8,11,16	【事前学修】 最近の医療事件事例について調査する(所要時間30分) 【事後学修】 現場で行われている医療安全対策を学び、その目的を理解する(所要時間30分) 【ICT】小テストをWebClassに公開する
講義	6/23(火)	4	医学教育学分野	高田 亮 教授	プロフェッショナルリズム講義	9,10,11	【事前学修】 事前に講義内容について確認し、ネットや文献を用いて基礎学修を行う(所要時間 60分) 【事後学修】 講義の内容をまとめる(所要時間 60分) 【ICT】WebClassに提出物の書式をアップする

実習	10/27(火)	3			心肺蘇生法実習	11,12	【事前学修】 手技の再確認を行うこと (所要時間 60分) 【事後学修】 実技実習での手技のポイント をノートにまとめておく こと(所要時間 60分) 【ICT】WebClassに提出物の 書式をアップする
実習	10/27(火)	4			心肺蘇生法実習	11,12	【事前学修】 手技の再確認を行うこと (所要時間 60分) 【事後学修】 実技実習での手技のポイント をノートにまとめておく こと(所要時間 60分) 【ICT】WebClassに提出物の 書式をアップする
実習					救急車同乗体験実習	11,13,1 4,15	【事前学修】 救急救命士の業務と、救急 活動の流れについて調べて まとめておくこと(所要時 間60分) 【事後学修】 提出物をまとめ、提出す る。所要時間90分 【ICT】WebClassに提出物の 書式をアップする

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	診療参加型臨床実習に必要とされる 技能と態度についての学修・評価項 目(1.1版)	医療系大学間共用試験 実施評価機構	医療系大学 間共用試験 実施評価機 構	
参考書	診察ができるVol.1 身体診察		MEDIC MEDIA	2023
参考書	医学教育モデル・コア・カリキュラ ム令和4年度改訂版	モデル・コア・カリ キュラム改訂に関する 連絡調整委員会	文部科学省	2022
参考書	岩手県保健医療計画	岩手県	岩手県	2024
参考書	健康いわて21プラン(第三次)	岩手県	岩手県	2024

参考書	シンプル衛生公衆衛生学2025	辻一郎 監修、上島通浩、大久保孝義 編集	南江堂	2025
参考書	ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版	2013
参考書	感染制御標準ガイド	小林 寛伊	じほう	2014

・成績評価方法

【総括評価】

講義・実習後の小テストとレポートで総括評価を行う。前期・後期進級試験では評価を行わない。

講義・実習を欠席した場合は、正当な理由を記載した欠席届が提出されているときのみ代替の評価を行う。

100点満点のうち60点以上を合格とする。各講義・実習の評価方法と配点は以下の通りである。

◎感染制御・医療安全講義（30点）

・講義終了時に行う小テストで評価を行う

◎社会保障制度（地域保健医療、診療報酬制度）講義（30点）

・講義終了時に行う小テストで評価を行う

・グループワークのプロダクトと講義後のレポートで評価を行う

◎プロフェッショナリズム講義（10点）

・講義後に提出するレポートで評価を行う

◎救急心肺蘇生法実習（10点）

・救急心肺蘇生用SEAレポートで評価を行う

◎救急車同乗体験実習（20点）

・救急車同乗体験用SEAレポートで評価を行う（10点）

・救急車同乗体験を通して医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について考察し、今の自分が改善していきべき行動・態度について省察したレポート（800～1200字）で評価を行う（10点）

※ レポートは実習終了後2週間以内に提出すること。遅れた場合には採点后0.6をかけた点数を評価とする。ただし、1か月以上遅れた場合には評価をしない（0点）。

【形成的評価】

十分な考察あるいは省察がなされておらず、到達目標に未到達であると判断した小テストやレポートに対してはフィードバックし、再提出もしくは別課題の提出を求める。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1	3			20				20
2,3,4	4,7,8		7	3				10
5,6,7	1,4,7		20					20
8,16	3			10				10
9,10,11	2		10					10
11,12	2,5		10					10
13,14,15	2,3,4,5,6		20					20
合計			67	33				100

・特記事項・その他

【救急車同乗体験研修】

日時： [男子] 令和8年5月～7月 金・土曜日 17時～翌朝8時
[女子] 令和8年5月～7月 土曜日 9時～17時

場所：盛岡地区広域消防組合（令和5年度実績 盛岡中央消防署、盛岡中央消防署上田出張所、盛岡西消防署、盛岡西消防署城西出張所、盛岡南消防署、紫波消防署）

【救急心肺蘇生法研修】

日時：令和8年10月27日 火曜日 3～5時限（クラスを3グループに分けて実施）

場所：災害時地域医療教育センター

講義資料はWebclassで配信する。

本科目では、事前事後学修以外に450分の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室、シミュレーター、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			

基本的医療手技Ⅱ

ナンバリング

M3-S1-H02

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 高田 亮 教授、実践教育部門長、OSCE委員長		
担当講座・学科（分野）	医学教育学分野、産婦人科学講座、呼吸器内科分野、脳神経内科・老年科分野、看護学部共通基盤看護学講座		
担当教員	高田 亮 教授、相澤 純 特任講師、鈴木 真沙子 講師、内海 裕 特任講師、羽場 徹 助教、各診療科指導医		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 20コマ 40.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師という職業は、知識があることを求められているのではなく、目の前にいる患者さんの問題を解決するために知識を活用できることを求められる職業である。さらに、問題解決のためには医行為を正確に、安全に行えることが必須となる。令和5年度からは医師法改正に伴い、Student Doctorの立ち位置が明確になり、指導医の監視の下、患者さんに対し医療手技を行うことが法的に認められることとなった。患者さんに医療手技を行うにあたっては、事前の十分なトレーニングと医療プロフェッショナルとしての行動・態度が求められている。本科目においては、これまでの学びで得た知識を融合しながら、基本的な医療手技の修得を目指すとともに、これからの学びで必要なことを考える。

・教育成果（アウトカム）

客観的臨床能力試験（OSCE）に即した実践的な実習を行うことで、医師としてプロフェッショナルな態度で、3学年時で修得しておくべきレベルの基本的医療手技ができる。また、実習前後に自己省察を行うことで、今までの学びを振り返り、これからの学びで自分自身で必要なことが何かを考えられる。

（ディプロマ・ポリシー： 2,3,4,5,6 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	3学年時で修得しておくべきレベルの基本的医療手技ができる。
2	医師としてのプロフェッショナルな態度で行動ができる。
3	実習前後に自らの行動を省察できる。

・ 講義場所

本部棟SGL、西講義実習棟実習室、災害時地域医療支援教育センター

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
実習	6/29(月)	1	医学教育学分野 医学教育学分野	高田 亮 教授 相澤 純 特任講師	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 医療面接手技についてまとめ、評価に備えて練習を行っておくこと（所要時間 60分）。 【事後学修】 医療面接シーンを録画したビデオを視聴し、その内容を評価すると共に、面接手技についての省察をおこなうこと（所要時間 60分）。 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	6/29(月)	2		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	6/29(月)	3		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	6/29(月)	4		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

実習	6/30(火)	1		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 実技実習の前に与えられた課題（ビデオ視聴）を必ず行うこと（所要時間 60分） 【事後学修】 実技実習での手技のポイントをノートにまとめておくこと（所要時間 60分） 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	6/30(火)	2		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	6/30(火)	3		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	6/30(火)	4		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	7/1(水)	1		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 実技実習の前に与えられた課題（ビデオ視聴）を必ず行うこと（所要時間 60分） 【事後学修】 実技実習での手技のポイントをノートにまとめておくこと（所要時間 60分） 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする
実習	7/1(水)	2		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事前資料をアップする

実習	7/1(水)	3		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
実習	7/1(水)	4		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
実習	7/2(木)	1		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 各手技の臨床実習前 OSCE教育・学修用動画と同じ手技ができるように、ペアでトレーニングを行うこと（所要時間60分） 【事後学修】 評価結果を基に各手技のポイントをノートに再度まとめておくこと。また各手技について、ペアで復習を行うこと。（所要時間60分） 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
実習	7/2(木)	2		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
実習	7/2(木)	3		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする
実習	7/2(木)	4		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】WebClassに事前資料をアップする

実習	7/3(金)	1		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 各手技の臨床実習前 OSCE教育・学修用動 画と同じ手技ができる ように、ペアでトレ ーニングを行うこと（所 要時間60分） 【事後学修】 評価結果を基に各手技 のポイントをノートに 再度まとめておくこ と。また各手技につい て、ペアで復習を行う こと。（所要時間 60 分） 【ICT】 WebClassに事 前資料をアップする
実習	7/3(金)	2		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事 前資料をアップする
実習	7/3(金)	3		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事 前資料をアップする
実習	7/3(金)	4		各診療科指導医	基本的医療手技実習	1,2,3	【事前学修】 同上 【事後学修】 同上 【ICT】 WebClassに事 前資料をアップする

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度についての学修・評価項目（1.0版）	医療系大学間共用試験実施評価機構	左記ホームページ内医学系OSCE公開資料より	
参考書	診察ができるVol.1 身体診察		MEDIC MEDIA	2023
参考書	医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版	モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会	文部科学省ホームページより入手	2022

・成績評価方法

【総括評価】

- ・医療面接・胸部診察・腹部診察・神経診察の各々について、技能と態度を評価票で評価する。全ての手技を個別必須条件とし、1つでも不合格の場合は（不合格の手技についてのみ）再試験を行う。
- ・各手技について100点満点換算し、60点以上を合格とする。総合評価は、全ての手技の平均点を用いるが、60点以下の手技があった場合は、その点数（複数ある場合は最低点）を総合評価とする。
- ・欠席で評価を受けなかった学生については、正当な事由で欠席届が提出された場合のみ、個別に別日程で評価をおこなう。それ以外の場合は評価を行わない。
- ・基本的臨床手技（心電図と静脈採血）は、形成的評価のみで総括評価を行わない。

<医療面接>

2年生と3年生がペアを組み、医療面接手技の技能・態度評価をおこなう。具体的には、まず学生は事前に提示された課題と内容を学修する。当日は2年生が医療面接模擬患者、3年生が医療面接医師役として医療面接を行う。評価は、評価員によって行われる。

<胸部診察・腹部診察・神経診察>

同学年でペアを組み、各診察手技の技能・態度評価をおこなう。具体的には、まず学生は各診察手技について、動画と実習で学修を行う。当日は、患者役と医師役に分かれて、各診察手技を行う。手技は前半と後半に分けて、後半は医師役と患者役を交代する。評価は医師役として行った診察手技の内容で、評価者が評価をおこなう。前半を担当するか、後半を担当するかは、評価時にランダムに指定する。

【形成的評価】

各手技の実習時に、観察とフィードバックを行う。
胸部診察・腹部診察・神経診察の総括評価時に、評価結果のフィードバックを行う。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1,2,3	2,3,4,6						100	100
合計							100	100

・特記事項・その他

実技実習の前に与えられた課題（ビデオ視聴）を必ず行うこと（予習時間目安：60分）。
実技実習での手技のポイントをノートにまとめておくこと（復習時間目安：60分）。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室、インターネット環境、シミュレーター

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

医学英語

ナンバリング M3-L1-Z32

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野 柳谷 千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担当教員	柳谷 千枝子 准教授、レヴィン小倉 ジョナサン 助教		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針(講義概要等)

本講義は前期14コマから成り、英語分野の教員2名が各7コマ担当する。

柳谷:
本科目では、医療コミュニケーションのためのさらなる読解スキルの向上および医学用語・表現の応用的活用を目指し、医学論文のアブストラクトや原著論文、短い症例報告等を取り上げる。講義では、医療トピックをもとに、本文内の医学用語や英文構造、一般的な英語表現に注目しながら、書かれている内容を正確に把握し、その要点を説明する能力の育成に重きを置く。

レヴィン小倉:
This course, 医学英語 (Medical English), is designed to help Japanese medical students develop the essential skills needed to understand and use English in clinical settings. Students will learn how to read and interpret English medical case reports, break down complex medical terminology into simpler explanations, and transform these reports into clear and empathetic doctor-patient conversations. Through lectures, interactive learning, and role-playing exercises, the course emphasizes practical communication strategies, active listening, and empathy to ensure students can convey medical information effectively to English-speaking patients or colleagues.

・教育成果(アウトカム)

医学論文の構成や頻用される文法や語彙、応用的な医学用語を修得することで、自身で研究論文のアブストラクトや本文を書くだけでなく、様々な医学分野の原著論文を正確に読んで理解する実践的な技能を身につけることができる。

By completing this course, students will achieve several key outcomes. They will be able to read and analyze English medical case reports with a clear understanding of the structure and terminology. Students will develop the ability to simplify complex medical terms and explain them in patient-friendly language, fostering effective communication in clinical settings. They will also acquire practical skills in transforming written medical information into empathetic and clear doctor-patient conversations, demonstrating active listening and responsiveness to patient needs. Furthermore, students will build confidence in their ability to use English in medical contexts, preparing them for interactions with international patients or colleagues in their future medical careers.

(ディプロマ・ポリシー: 2,4,6)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	応用的な医学用語を学修し、その定義を英語で理解できる。
2	これまで学修した語根、接頭辞、接尾辞の知識を用いて、幅広い英語の医学用語を構成できる。
3	医学論文や研究論文で頻用される品詞や文法、基本表現を理解し、応用できる。
4	医学論文のアブストラクトの構成を学修し、各項目の概要を説明できる。
5	医療をテーマにした文章の構造を理解し、その内容を論理的に説明できる。
6	医療関連トピックを読んで課題を抽出し、自分の意見を述べるができる。
7	Students will become able to read and understand complex medical case reports in English, gaining familiarity with professional terminology and structure.

8	Students will become able to simplify difficult medical terms and effectively explain them in patient-friendly language.
9	Students will become able to transform written case reports into clear and empathetic doctor-patient conversations.
10	Students will become able to practice active listening and respond to patient questions and concerns with professionalism and empathy.

・ 講義場所

講義：柳谷准教授：東1-C講義室 レヴィン小倉助教：東2-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

クラス	区分	月日	時間	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
D1	講義	4/3(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Course introduction / Structure of scientific papers (1)	1,2,3	【事前学修】自由になんらかの論文を検索し、その構成や頻用される語句のパターンを把握する。1,2年次で学修した医学関連の表現を復習する。(40分) 【事後学修】講義資料を復習する。医学論文の構成について英語と日本語で説明できるようにする。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。
D1	講義	4/10(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Structure of scientific papers (2)	1,2,3	【事前学修】医学論文でよく使用される英語表現や文法を確認する。(40分) 【事後学修】講義資料を復習し、研究目的や方法、結果について英語でまとめる。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。
D1	講義	4/17(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Abstract of scientific papers	3,4	【事前学修】医学論文のアブストラクトの基本的な形式やスタイルについて調べる。(40分) 【事後学修】アブストラクトを辞書を使わずに読めるようにする。講義で指摘した重要表現やキーワードを確認する。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。
D1	講義	4/24(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Medical topic reading	1,2,3,5,6	【事前学修】指定された医療、医学、倫理に関する課題について調べる。(40分) 【事後学修】学修したメディカル・トピックのサマリーを英語で書く。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。
D1	講義	5/1(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	JAMA: Abstract / Introduction	3,4	【事前学修】JAMA(配布資料)のアブストラクトに目を通し、研究背景や目的について理解する。(40分) 【事後学修】研究背景や目的について要点をまとめる。講義で指摘した重要表現やキーワードを確認する。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。
D1	講義	5/8(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	JAMA: Methods / Results	3	【事前学修】JAMA(配布資料)の方法と結果の内容を理解する。(40分) 【事後学修】調査方法や手順について、要点を説明できるようにする。図表が示す結果を説明できるようにする。講義で指摘した重要表現を確認する。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。
D1	講義	5/15(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	JAMA: Discussion / Conclusions	3	【事前学修】JAMA(配布資料)の考察と結論の内容を理解する。(40分) 【事後学修】考察の論理展開に沿って内容を箇条書きでまとめる。本研究論文の重要性について自分の見解をまとめる。(40分) 【ICT】WebClassに資料をアップする。

D1	講義	5/22(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 サン 助教	ジョナ	I. Introduction to Medical Case Reports and Terminology	7	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the basic structure of a medical case report (introduction, patient history, examination findings, diagnosis, and discussion). Familiarize yourself with common medical abbreviations. Review the basic structure of medical terminology Reflect on how medical information is organized and written in English. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Re-read the sample case report analyzed in class and highlight any challenging sections or terms. Summarize the key points of the case report in your own words, using simpler language. Create a short list of 5–10 new medical terms you learned during the lesson and write their definitions in English. Prepare questions or observations about the case report to discuss in the next class. <p>【ICT】 Pre-class preparation: Download relevant study resource materials from WebClass or Google Classroom.</p>
D1	講義	5/29(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 サン 助教	ジョナ	II. Simplifying Medical Terms for Patient Communication	7,8	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the medical terms introduced in Class 1, focusing on their meanings and how to use them in sentences. Read a short case report and identify terms that may be difficult for patients to understand. Reflect on how you would explain one or two medical terms (e.g., “hypertension” or “anemia”) to someone with no medical background. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Rewrite key medical terms discussed in class into patient-friendly language. Practice explaining a diagnosis or treatment plan to a friend or family member in simple terms. Select one of the simplified explanations created during the lesson and expand it into a short dialogue, imagining how you would explain the term to a patient. Review feedback and refine your explanations based on it. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>
D1	講義	6/5(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 サン 助教	ジョナ	III. Case Report Transformation Workshop	7,8,9	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the structure of a patient conversation from the materials provided in the previous class. Reflect on how to begin and guide a medical conversation with a patient, keeping it clear and empathetic. Identify three common medical terms or conditions (e.g., diabetes, fever, or hypertension) and think about how you would explain them to a patient. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Rewrite the dialogue you created in class, focusing on improving clarity and tone. Practice reading your dialogue aloud to check for natural flow and patient-friendly language. Research one medical condition discussed in class and write a short explanation as if you were explaining it to a patient. Reflect on the conversation techniques introduced in class and identify one skill (e.g., empathy, active listening, simplifying terms) to focus on improving in the next session. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>

D1	講義	6/12(金)	2	外国語学科英語分野	レイン小倉 ジョナサン 助教	IV. Empathy and Active Listening in Patient Communication	8,9,10	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the concept of empathy in medical communication and its role in building trust with patients. Research active listening techniques and how they are used in medical contexts (e.g., reflective listening, paraphrasing, asking open-ended questions). Reflect on a recent conversation you had and think about whether you actively listened and showed empathy. Consider how you could have improved that conversation. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Practice active listening by having a conversation with a peer or family member, focusing on paraphrasing and reflecting their thoughts and feelings. Write a brief reflection on your experience using active listening in the conversation. Review the case report from Class 3 and identify parts where active listening and empathy could improve patient communication. Prepare a list of 3–5 phrases that show empathy in doctor–patient conversations and practice using them in different contexts. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>
D1	講義	6/19(金)	2	外国語学科英語分野	レイン小倉 ジョナサン 助教	V. Advanced Role-Playing and Feedback	8,9,10	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the concepts of handling difficult or complex medical scenarios discussed in previous classes. Reflect on how to communicate bad news or manage challenging patient emotions (e.g., anxiety, denial, anger). Practice responding to one of the following situations in your own words: I) Explaining a diagnosis of a chronic illness (e.g., diabetes). II) Addressing a patient’s fear about side effects of a prescribed medication. Prepare a short list of strategies you think could help when communicating difficult news or handling patient emotions. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Write a dialogue between a doctor and patient involving a difficult conversation (e.g., chronic illness diagnosis, lifestyle changes). Reflect on the role-play activity in class: Which techniques worked well, and which parts of the conversation were challenging? Practice the difficult conversations with a peer or family member, focusing on the strategies discussed in class (e.g., clear communication, empathy, addressing emotions). Review the feedback from the role-play activity and refine your communication techniques for future practice. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>

D1	講義	6/26(金)	1	外国語学科英語分野	レウイン小倉 ジョナサン 助教	VI. Integrating Communication Skills	7,8,9,10	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the key communication skills learned in the previous classes, including simplifying medical terminology, empathy, and active listening. Analyze a new sample case report provided by the instructor and highlight any medical terms that might need to be simplified or explained to a patient. Reflect on the challenges you've faced in translating medical information into patient-friendly language and think of ways to address these challenges. Prepare to work collaboratively with peers in the group activity by considering how to integrate all learned skills into one cohesive patient conversation. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Revisit the group dialogue you created in class and refine it, focusing on improving clarity and empathy. Write a summary of the key communication strategies you used during the group activity and reflect on how you balanced medical accuracy with patient understanding. Choose one of the scenarios you practiced in class and write a brief reflection on how you could improve your communication in a real-life clinical setting. Identify any areas of difficulty in integrating the skills and plan how to continue practicing these techniques outside of class. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>
D1	講義	6/26(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 ジョナサン 助教	VII. Case Review and Practical Applications	7,8,9,10	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Review the case reports and dialogues created in previous classes, paying attention to how medical information was communicated to patients. Familiarize yourself with new or unfamiliar medical terms from the final case report. Reflect on how you can integrate all the communication skills learned throughout the course (simplifying terms, empathy, active listening, etc.) into a single cohesive dialogue. Prepare to collaborate with peers in the group activity and actively engage in discussions during the class. <p>【事後学修】 (120-180 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Review the feedback you received during the group activity and identify areas where you can improve. Write a detailed reflection on the entire course, focusing on your personal growth in medical communication. Create a new case dialogue for exam review using all of the communication strategies learned throughout the course, and practice presenting it in a clear, empathetic, and professional manner. Plan how to continue refining your communication skills in real-world clinical settings and prepare for future medical English interactions. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the final exam on WebClass or Google Classroom.</p>

クラス	区分	月日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
D2	講義	4/3(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 サン 助教	シヨナ I. Introduction to Medical Case Reports and Terminology	7	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the basic structure of a medical case report (introduction, patient history, examination findings, diagnosis, and discussion). Familiarize yourself with common medical abbreviations. Review the basic structure of medical terminology Reflect on how medical information is organized and written in English. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Re-read the sample case report analyzed in class and highlight any challenging sections or terms. Summarize the key points of the case report in your own words, using simpler language. Create a short list of 5–10 new medical terms you learned during the lesson and write their definitions in English. Prepare questions or observations about the case report to discuss in the next class. <p>【ICT】 Pre-class preparation: Download relevant study resource materials from WebClass or Google Classroom.</p>
D2	講義	4/10(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 サン 助教	シヨナ II. Simplifying Medical Terms for Patient Communication	7,8	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the medical terms introduced in Class 1, focusing on their meanings and how to use them in sentences. Read a short case report and identify terms that may be difficult for patients to understand. Reflect on how you would explain one or two medical terms (e.g., “hypertension” or “anemia”) to someone with no medical background. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Rewrite key medical terms discussed in class into patient-friendly language. Practice explaining a diagnosis or treatment plan to a friend or family member in simple terms. Select one of the simplified explanations created during the lesson and expand it into a short dialogue, imagining how you would explain the term to a patient. Review feedback and refine your explanations based on it. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>
D2	講義	4/17(金)	2	外国語学科英語分野	レウイン小倉 サン 助教	シヨナ III. Case Report Transformation Workshop	7,8,9	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the structure of a patient conversation from the materials provided in the previous class. Reflect on how to begin and guide a medical conversation with a patient, keeping it clear and empathetic. Identify three common medical terms or conditions (e.g., diabetes, fever, or hypertension) and think about how you would explain them to a patient. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Rewrite the dialogue you created in class, focusing on improving clarity and tone. Practice reading your dialogue aloud to check for natural flow and patient-friendly language. Research one medical condition discussed in class and write a short explanation as if you were explaining it to a patient. Reflect on the conversation techniques introduced in class and identify one skill (e.g., empathy, active listening, simplifying terms) to focus on improving in the next session. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>

D2	講義	4/24(金)	2	外国語学科英語分野	レイン小倉 ジョナサン 助教	IV. Empathy and Active Listening in Patient Communication	8,9,10	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the concept of empathy in medical communication and its role in building trust with patients. Research active listening techniques and how they are used in medical contexts (e.g., reflective listening, paraphrasing, asking open-ended questions). Reflect on a recent conversation you had and think about whether you actively listened and showed empathy. Consider how you could have improved that conversation. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Practice active listening by having a conversation with a peer or family member, focusing on paraphrasing and reflecting their thoughts and feelings. Write a brief reflection on your experience using active listening in the conversation. Review the case report from Class 3 and identify parts where active listening and empathy could improve patient communication. Prepare a list of 3–5 phrases that show empathy in doctor–patient conversations and practice using them in different contexts. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>
D2	講義	5/1(金)	2	外国語学科英語分野	レイン小倉 ジョナサン 助教	V. Advanced Role-Playing and Feedback	8,9,10	<p>【事前学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the concepts of handling difficult or complex medical scenarios discussed in previous classes. Reflect on how to communicate bad news or manage challenging patient emotions (e.g., anxiety, denial, anger). Practice responding to one of the following situations in your own words: <ul style="list-style-type: none"> I) Explaining a diagnosis of a chronic illness (e.g., diabetes). II) Addressing a patient’s fear about side effects of a prescribed medication. Prepare a short list of strategies you think could help when communicating difficult news or handling patient emotions. <p>【事後学修】 (60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Write a dialogue between a doctor and patient involving a difficult conversation (e.g., chronic illness diagnosis, lifestyle changes). Reflect on the role-play activity in class: Which techniques worked well, and which parts of the conversation were challenging? Practice the difficult conversations with a peer or family member, focusing on the strategies discussed in class (e.g., clear communication, empathy, addressing emotions). Review the feedback from the role-play activity and refine your communication techniques for future practice. <p>【ICT】 Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>

D2	講義	5/8(金)	2	外国語学科英語分野	レヴィン小倉 ジョナサン 助教	VI. Integrating Communication Skills	7,8,9,10	<p>【事前学修】(60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the key communication skills learned in the previous classes, including simplifying medical terminology, empathy, and active listening. Analyze a new sample case report provided by the instructor and highlight any medical terms that might need to be simplified or explained to a patient. Reflect on the challenges you've faced in translating medical information into patient-friendly language and think of ways to address these challenges. Prepare to work collaboratively with peers in the group activity by considering how to integrate all learned skills into one cohesive patient conversation. <p>【事後学修】(60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Revisit the group dialogue you created in class and refine it, focusing on improving clarity and empathy. Write a summary of the key communication strategies you used during the group activity and reflect on how you balanced medical accuracy with patient understanding. Choose one of the scenarios you practiced in class and write a brief reflection on how you could improve your communication in a real-life clinical setting. Identify any areas of difficulty in integrating the skills and plan how to continue practicing these techniques outside of class. <p>【ICT】Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the next lesson on WebClass or Google Classroom.</p>
D2	講義	5/15(金)	2	外国語学科英語分野	レヴィン小倉 ジョナサン 助教	VII. Case Review and Practical Applications	7,8,9,10	<p>【事前学修】(60 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Review the case reports and dialogues created in previous classes, paying attention to how medical information was communicated to patients. Familiarize yourself with new or unfamiliar medical terms from the final case report. Reflect on how you can integrate all the communication skills learned throughout the course (simplifying terms, empathy, active listening, etc.) into a single cohesive dialogue. Prepare to collaborate with peers in the group activity and actively engage in discussions during the class. <p>【事後学修】(120-180 minutes)</p> <ul style="list-style-type: none"> Review the feedback you received during the group activity and identify areas where you can improve. Write a detailed reflection on the entire course, focusing on your personal growth in medical communication. Create a new case dialogue for exam review using all of the communication strategies learned throughout the course, and practice presenting it in a clear, empathetic, and professional manner. Plan how to continue refining your communication skills in real-world clinical settings and prepare for future medical English interactions. <p>【ICT】Lesson PPT available for post-class review. Feedback provided on Line OpenChat to support reflection, understanding, and preparation for the final exam on WebClass or Google Classroom.</p>
D2	講義	5/22(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Course introduction / Structure of scientific papers (1)	1,2,3	<p>【事前学修】自由に様々な論文を検索し、その構成や頻用される語句のパターンを把握する。1,2年次で学修した医学関連の表現を復習する。(40分)</p> <p>【事後学修】講義資料を復習する。医学論文の構成について英語と日本語で説明できるようにする。(40分)</p> <p>【ICT】WebClassに資料をアップする。</p>
D2	講義	5/29(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Structure of scientific papers (2)	1,2,3	<p>【事前学修】医学論文でよく使用される英語表現や文法を確認する。(40分)</p> <p>【事後学修】講義資料を復習し、研究目的や方法、結果について英語でまとめる。(40分)</p> <p>【ICT】WebClassに資料をアップする。</p>

D2	講義	6/5(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Abstract of scientific papers	3,4	<p>【事前学修】 医学論文のアブストラクトの基本的な形式やスタイルについて調べる。(40分)</p> <p>【事後学修】 アブストラクトを辞書を使わずに読めるようにする。講義で指摘した重要表現やキーワードを確認する。(40分)</p> <p>【ICT】 WebClassに資料をアップする。</p>
D2	講義	6/12(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	Medical topic reading	1,2,3,5,6	<p>【事前学修】 指定された医療、医学、倫理に関する課題について調べる。(40分)</p> <p>【事後学修】 学修したメディカル・トピックのサマリーを英語で書く。(40分)</p> <p>【ICT】 WebClassに資料をアップする。</p>
D2	講義	6/19(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	JAMA: Abstract / Introduction	3,4	<p>【事前学修】 JAMA (配布資料) のアブストラクトに目を通し、研究背景や目的について理解する。(40分)</p> <p>【事後学修】 研究背景や目的について要点をまとめる。講義で指摘した重要表現やキーワードを確認する。(40分)</p> <p>【ICT】 WebClassに資料をアップする。</p>
D2	講義	6/26(金)	1	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	JAMA: Methods / Results	3	<p>【事前学修】 JAMA (配布資料) の方法と結果の内容を理解する。(40分)</p> <p>【事後学修】 調査方法や手順について、要点を説明できるようにする。図表が示す結果を説明できるようにする。講義で指摘した重要表現を確認する。(40分)</p> <p>【ICT】 WebClassに資料をアップする。</p>
D2	講義	6/26(金)	2	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 准教授	JAMA: Discussion / Conclusions	3	<p>【事前学修】 JAMA (配布資料) の考察と結論の内容を理解する。(40分)</p> <p>【事後学修】 考察の論理展開に沿って内容を箇条書きでまとめる。本研究論文の重要性について自分の見解をまとめる。(40分)</p> <p>【ICT】 WebClassに資料をアップする。</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	配布資料およびWebClass (レヴィン小倉担当クラス)			
教科書	配布資料およびWebClass (柳谷担当クラス)			
参考書	Medical Terminology : A Short Course, 9th ed. (レヴィン小倉担当クラス)	Davi-Ellen Chabner	Elsevier Saunders	2023
参考書	総合医学英語 テキスト Step 1 (レヴィン小倉担当クラス)	日本医学英語教育学会	Medical View	2016

・成績評価方法

【総括評価】

1. 進級試験（筆記）：70%
2. 提出物（講義内またはWebClassでの提出課題）：20%
3. 参加態度（予習状況、講義中の取り組み姿勢や発言など）：10%

1. Exam: 70%
2. Assignments: 20%
3. Class engagement: 10%

*備考（成績評価表参照）

「レポート」には、講義内課題、WebClass/ Google Classroom提出課題を含む。
「その他」は、予習状況、授業中の取り組み姿勢、発言等の参加態度を評価する。

【形成的評価】

1. 出欠、遅刻の有無により、態度評価を行う。
2. 授業内容に関する質疑応答により、理解度評価を行う。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5、7	2、4				70			70
5、6、8	4、6		20					20
6、9、10	2、6						10	10
合計			20		70		10	100

・特記事項・その他

1. 「医学英語入門」（2年次履修科目）の最終成績に基づき、受講生をD1・D2の2クラスに編成する。ただし、両クラスとも同じ講義内容および教材を取り扱う。
2. 「医学英語入門」未履修の編入生は、特段の希望がない限り、D1クラスに配属される。
3. 担当教員および講義日程：
D1: 4/3～5/15（柳谷）、5/22～6/26（レヴィン小倉）
D2: 4/3～5/15（レヴィン小倉）、5/22～6/26（柳谷）

4. シラバスの指示および講義中の追加指示に従い、各講義内容について事前・事後学修する。なお、各講義の事前・事後学修は、少なくともそれぞれ40分を要する。提出課題や小テストについては、添削・採点后に返却する。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・教育資源

配布資料、講義室、PC、コンピューターソフトウェア（MS Powerpoint）、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ビデオプロジェクター	2	PowerPoint（柳谷、レヴィン小倉）
講義	デスクトップパソコン iMac Retina 5K Z0TP Academic	1	教材作成

自由科目

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野 柳谷 千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担当教員	柳谷 千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	約 2 週間
期間	後期		

・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性の涵養の一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。
(ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9)

・到達目標（SBOs）

- (1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
- (2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
- (3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
- (4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

・成績評価方法

【総括的評価】 研修レポート: 30%、演習態度*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。

*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

到達目標	DP	中間 試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、4	1、7、9		30					30
1、2、3、4	1、2、3、7						70	70
合計			30				70	100

備考：

「その他」（70％）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・特記事項・その他

研修先：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）

期間：3月（約2週間）の予定

宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各1時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

(令和8年度) 地域医療課題解決演習

科目担当責任者	医学部総合診療医学講座 下沖 収 教授		
担当講座・学科 (分野)	(医学部) 総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 (歯学部) 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 (薬学部) 臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 (看護学部) 地域包括ケア講座		
担当教員	(医学部) 下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、前田 哲也 教授、 赤坂 博 助教 (歯学部) 小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授 (薬学部) 松浦 誠 教授、白石 博久 特任教授 (看護学部) 岩淵 光子 教授、赤井 純子 助教 ＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年 (全学部)	期 間	通期
区分・時間数	演習 16.0時間 (全8回) (1 コマ 2 時間換算)	単位数	1 単位

■ 学習方針 (演習概要等)

患者 (対象者) を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者 (住民) へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

■ 教育成果 (アウトカム)

患者 (対象者) や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種 (専門職) 連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。
(ディプロマ・ポリシー)

医学部 : 1, 2, 4, 6, 8 歯学部 : 1, 2, 3, 5, 9 薬学部 : 1, 2, 3 看護学部 : 1, 2, 3, 7, 8

■ 到達目標 (SBOs)

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

■ 成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価 (50%)、ルーブリックによるグループワーク等評価 (30%)、成果物評価 (20%) により評価する。

到達目標	DP				ルーブリック	発表参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1, 2, 3, 4	1, 2, 4, 6, 8	1, 2, 3, 5, 9	1, 2, 3	1, 2, 3, 7, 8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

■ 事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後4時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■ 特記事項・その他

開催日：別途調整のうえ指定 対 象：全学年（全学部） 会 場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等
 ＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30分以上の遅刻は欠席とする。
 当該科目に関する実務経験の有無 有
 行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。

■ 実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第1回 6月 予定	5限 予定	オリエンテーションと概要講義 1. 科目の目標と全体構成を理解し説明できる。 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。		矢巾町
第2回 6月 予定	5限 予定	グループワーク（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第3回 7月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師	矢巾町
第4回 8月 予定	5限 予定	グループワーク（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。	前田 哲也 教授 赤坂 博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 教授	矢巾キャンパス
第5回 9-10月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。	白石 博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	矢巾町
第6回 11月 予定	5限 予定	グループワーク（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第7回 11月 予定	5限 予定	グループワーク（プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見を合わせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。		矢巾キャンパス

<p>第8回 12月 予定</p>	<p>5限 予定</p>	<p>検討発表会・まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。 		<p>矢巾キャンパス</p>
---------------------------	------------------	--	--	----------------

諸 規 則

岩手医科大学学則

第1章 目的及び使命

第1条 本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

2 各学部における教育研究上の目的は別に定める。

3 本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

4 前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

第2章 組織及び修業年限

第2条 本学に次の学部学科を置く。

医学部 医学科

歯学部 歯学科

薬学部 薬学科

看護学部 看護学科

2 医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は6年とし、看護学部は4年とする。

3 各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の2倍を超えることができない。

第3章 学年・学期及び休業日

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第4条 学年は、前期、後期の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第5条 定期休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 春期休業 3月16日から4月15日まで

(4) 夏期休業 7月16日から8月31日まで

(5) 冬期休業 12月23日から1月15日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

2 臨時休業日は、その都度学長が定める。

第4章 授業科目、授業時間数及び単位

第6条 各学部の授業科目等は別表1のとおりとする。

第5章 授業科目の履修及び課程修了の認定

第1節 医学部、歯学部

第7条 医学部、歯学部においては、第6条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。

2 履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。

3 履修した科目に単位を付与する場合は、45時間の学修を必要とする内容を1単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。

第8条 所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。

2 試験に関する実施規程は別に定める。

第9条 試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

第2節 薬学部、看護学部

第10条 薬学部、看護学部においては、第6条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。

3 単位の計算は、第7条第3項を準用する。

第11条 履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。

第12条 試験の成績は、第9条を準用する。

第3節 全学部共通

第13条 特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。

第14条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを標準とする。

第14条の2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。

第15条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学

における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第16条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第17条 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30単位を超えないものとし、かつ、第15条第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）及び前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第6章 卒業及び学位

第18条 医学部、歯学部においては第2条に定める期間を在学し、かつ、第6条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

- 2 薬学部においては第2条に定める期間を在学し、かつ、第6条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習20単位以上を含む186単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

- 3 看護学部においては第2条に定める期間を在学し、かつ、第6条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

第7章 入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条 入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条 本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む）。
- (3) 外国において、学校教育 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）。
- (7) その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認められた者。

第 21 条 入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願出しなければならない。

第 22 条 本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

- 2 本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第 23 条 入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人 2 名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第 24 条 保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち 1 名は学費負担者でなければならない。

- 2 保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。
- 3 保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第 1 項の規定によって新たに設けなければならない。

第 25 条 学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第 26 条 病気、その他やむを得ない事由により 3 ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

- 2 休学の期間は、1 年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に 1 年以内の休学を許可することができる。
- 3 休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。
- 4 休学期間は、在学期間に算入しない。

第 27 条 休学期間であっても事故止みとなり復学を願出た場合は、教授会の議を経て許可することができる。

第28条 他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

2 本学の第1学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第2学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。

3 転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。

第29条 本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第8章 入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第30条 入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表2に定める。

第31条 授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。

(1) 入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。

(2) 入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。

(3) 入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年4月25日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の2回目の納入期限日は9月25日までとする。

(4) 薬学部第5学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。

第32条 授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。

第33条 納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。

2 前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

第9章 職員組織

第34条 本学に次の職員を置く。

学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。

2 職員の定員に関しては、別にこれを定める。

第10章 教授会

第 35 条 本学に教授会を置く。

- 2 教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。
- 3 教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
- 4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 5 教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第 11 章 学生収容定員

第 36 条 各学部の学生定員は次のとおりとする。

医学部医学科	入学定員	95 名	収容定員	570 名		
歯学部歯学科	入学定員	73 名	収容定員	438 名		
薬学部薬学科	入学定員	50 名	収容定員	300 名		
看護学部看護学科	入学定員	90 名	3 年次編入学定員	5 名	収容定員	370 名

第 12 章 研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第 37 条 本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。

- 2 研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。

第 38 条 本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生の規程は、別に定める。

第 38 条の 2 本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

- 2 科目等履修生の規程は、別にこれを定める。

第 38 条の 3 研究生、研修生、研究員、聴講生には、第 8 条、第 9 条、第 11 条、第 12 条、第 18 条、第 19 条、第 20 条、第 30 条及び第 40 条は、これを適用しない。

第 39 条 外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

第 13 章 賞罰

第40条 人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

第41条 学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の4種とする。

第42条 次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく欠席が多い者
- (4) 本学の秩序を乱す者

第14章 附属施設

第43条 本学に次の附属施設を置く。

- (1) 附属図書館
- (2) 附属病院
- (3) 附属薬用植物園

2 附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

第15章 学生の厚生補導等

第44条 学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

2 学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第45条 本学に学生寮を置くことができる。

第16章 学生心得

第46条 学生心得は、別に定める。

第17章 改廃

第47条 この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

この学則は、昭和22年6月18日から施行する。

附 則

この学則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和29年9月15日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 40 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 41 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、昭和 43 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 44 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 46 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 48 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 52 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 53 年 2 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和 54 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和 55 年 2 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 57 年 1 月 5 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 59 年 1 月 2 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和 61 年 1 月 6 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の () 書は昭和 63 年度以降歯学部に入学者に適用する。
- 3 この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第 3 項の規定は適用しない。

附 則

- 1 この学則は、平成 2 年 1 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第 2 項、第 3 項および第 27 条第 2 項の規定は、平成 2 年 4 月 1 日より適用する。
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条 2 項、第 3 項および第 27 条第 2 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 2 年 10 月 19 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 3 年 11 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成 3 年 5 月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附 則

- 1 この学則は、平成 5 年 11 月 1 日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成7年9月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成10年9月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第2条第3項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成13年10月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

1 この学則は、平成14年10月1日から施行する。

2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第24条第1項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年11月30日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～ 29年度
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
収容定員	490人	500人	510人	520人	530人	540人

3 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附 則

この学則は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～ 29年度
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	505人	520人	535人	550人	565人	570人

- 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 学生定員の取扱については、平成20年8月5日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成20年4月1日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成21年4月1日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～ 29年度
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
収容定員	520人	550人	580人	610人	640人	660人

附 則

- この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成37年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 ～29年度	平成30年度
入学定員	125人	125人	125人	125人	125人	125人	110人
収容定員	565人	610人	655人	700人	735人	750人	735人
	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	110人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	720人	690人	660人	630人	600人	585人	570人

- 第31条の規程にかかわらず、本附則第2項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。
- 第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～ 31年度
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75人
収容定員	475人	470人	465人	460人	455人	450人

附 則

- この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(平成 22 年 6 月 28 日一部改正)
- この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。
- この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。(平成 23 年 2 月 28 日一部改正)

附 則

この学則は、平成 23 年 6 月 1 日から施行する。(平成 23 年 5 月 30 日一部改正)

附 則

- この学則は、平成 24 年 7 月 1 日から施行する。(平成 24 年 6 月 25 日一部改正)
- この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。(平成 24 年 10 月 29 日一部改正)
- 第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員	123人	123人	123人	123人	123人	108人	108人
編入学定員	7人	7人	7人	7人	7人	7人	7人
収容定員	705人	745人	765人	770人	768人	751人	736人
	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人	
編入学定員	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
収容定員	701人	666人	631人	596人	583人	570人	

- 第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～ 31年度
入学定員	73人	73人	73人	73人	73人	73人
収容定員	458人	451人	444人	442人	440人	438人

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。(平成 27 年 3 月 23 日一部改正)

附 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 28 年 8 月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第 2 条第 3 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（平成 29 年 7 月 31 日一部改正、平成 30 年 3 月 26 日一部改正(別表 1 第 6 条関係の変更)）
- 2 第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
入学定員	123 人	123 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	7 人	7 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	661人	626人	598人
	平成37年度						
入学定員	95 人						
編入学定員	0 人						
収容定員	570人						

- 3 第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 35 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
入学定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
収容定員	920人	880人	840人	800人	760人	720人

附 則

この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。（平成 30 年 4 月 23 日一部改正（別表 1 第 6 条関係の変更）、平成 31 年 3 月 25 日一部改正（別表 1 第 6 条関係の変更））

附 則

- 1 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。（令和元年 7 月 29 日一部改正、令和 2 年 3 月 30 日一部改正（別表 1 第 6 条関係の変更））
- 2 第 36 条の規定にかかわらず、令和 2 年度から令和 9 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	126 人	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	664人	632人	601人
	令和9年度						

入学定員	95人
編入学定員	0人
収容定員	570人

附 則

- この学則は、令和3年4月1日から施行する。（令和2年6月29日一部改正、令和3年3月29日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和3年度から令和8年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
収容定員	760人	680人	600人	560人	520人	480人

附 則

- この学則は、令和4年4月1日から施行する。（令和3年4月26日一部改正（別表1第6条関係の変更）、令和3年7月26日一部改正、令和4年3月28日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和4年度から令和10年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
入学定員	126人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
編入学定員	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
収容定員	766人	731人	699人	667人	632人	601人	570人

附 則

- この学則は、令和5年4月1日から施行する。（令和4年9月6日一部改正、令和5年3月27日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和5年度から令和11年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	130人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	766人	734人	702人	667人	636人	605人	570人

附 則

- この学則は、令和6年4月1日から施行する。（令和5年10月26日一部改正、令和5年12月18日一部改正、令和6年3月25日一部改正（別表1第6条関係の変更、第7条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和6年度から令和12年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	130人	95人	95人	95人	95人	95人	95人

収容定員	769人	737人	702人	671人	640人	605人	570人
------	------	------	------	------	------	------	------

3 第36条の規定にかかわらず、令和6年度から令和11年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	50名	50名	50名	50名	50名	50名
収容定員	530名	460名	390名	360名	330名	300名

附 則

- この学則は、令和7年4月1日から施行する。（令和6年12月16日一部改正、令和7年3月24日一部改正（別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和7年度から令和13年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
入学定員	130名	95名	95名	95名	95名	95名	95名
収容定員	772名	737名	706名	675名	640名	605名	570名

附 則

- この学則は、令和7年8月1日から施行する。（令和7年6月30日一部改正（別表2第30条関係の変更））

附 則

- この学則は、令和8年4月1日から施行する。（令和7年12月15日一部改正、令和8年3月30日一部改正（第2条第3項関係の変更、別表1第6条関係の変更））
- 第36条の規定にかかわらず、令和8年度から令和14年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
入学定員	130名	95名	95名	95名	95名	95名	95名
収容定員	772名	741名	710名	675名	640名	605名	570名

別表1(第6条関係:医学部)

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
教養教育科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1	8	16.0	2	講義	必修
		1	8	16.0	2	演習	必修
	医療倫理学	1	8	16.0	1	講義	必修
	法学	1	8	16.0	1	講義	必修
	心理学	1	9	18.0	1	講義	必修
	医療面接の基礎	1	10	20.0	1	講義	必修
	データサイエンス	1	7	14.0	1	講義	必修
		1	7	14.0	1	演習	必修
	情報リテラシー	1	7	14.0	1	演習	必修
	物理学	1	14	28.0	1	講義	必修
	物理学実習	1	21	42.0	1	実験	必修
	専門課程への化学	1	14	28.0	1	講義	必修
	エッセンシャル生物	1	8	16.0	1	講義	必修
	化学実習	1	21	42.0	1	実験	必修
	生物学実習	1	21	42.0	1	実験	必修
	English Reading & Writing I	1	14	28.0	1	講義	必修
	English Reading & Writing II	1	14	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & Listening I	1	14	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & Listening II	1	14	28.0	1	講義	必修
	行動科学	1	9	18.0	1	講義	必修
	健康運動科学	1	8	16.0	1	講義	必修
		1	8	16.0	1	実技	必修
	ベーシック生物	1	14	28.0	1	講義	選択
	スタンダード生物	1	14	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト生物	1	14	28.0	1	講義	選択
	自然・文化人類学	1	14	28.0	1	講義	選択
	ベーシック化学	1	14	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト化学	1	14	28.0	1	講義	選択
	ベーシック物理	1	14	28.0	1	講義	選択
	ベーシック数学	1	14	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト数学	1	14	28.0	1	講義	選択
	解析学入門	1	14	28.0	1	講義	選択
	文学の世界	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療とコミュニケーション	1	14	28.0	1	講義	選択
	道徳のしくみ	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療とスポーツ	1	9	18.0	1	講義	選択
		1	5	10.0	1	実技	選択
	実践英語	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療と福祉	1	14	28.0	1	講義	選択
	医療と物語	1	10	20.0	1	講義	選択
	パーソナリティ心理学	1	10	20.0	1	講義	選択
	哲学の世界	1	10	20.0	1	講義	選択
	人間関係論	1	10	20.0	1	講義	選択
	医療と法律	1	10	20.0	1	講義	選択
	科学英語	1	10	20.0	1	講義	選択
データサイエンスII	2	4	8.0	-	演習	必修	
	2	4	8.0	-	演習	必修	
医学英語入門	2	22	44.0	-	講義	必修	
医学英語	3	14	28.0	-	講義	必修	
医事法学	4	10	20.0	-	講義	必修	

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
医学専門科目	医療入門	1	20	40.0	講義	必修	
	(全人的医療基礎講義含む)	1	50	100.0	実習	必修	
	分子細胞生物学I	1	12	24.0	講義	必修	
		1	2	4.0	実習	必修	
	分子細胞生物学II	1	12	24.0	講義	必修	
		1	2	4.0	演習	必修	
	基礎組織学	1	9	18.0	講義	必修	
		1	1	2.0	演習	必修	
		1	9	18.0	実習	必修	
	解剖学総論	1	4	8.0	講義	必修	
		1	10	20.0	実習	必修	
	医化学I	1	14	28.0	講義	必修	
	医科生理学	1	22	44.0	講義	必修	
	初年次ゼミナール	1	8	16.0	講義	必修	
	症例基礎・問題解決型学修(入門)	1	6	12.0	講義	必修	
	医療安全学	1	21	42.0	実習	必修	
		1	8	16.0	講義	必修	
		2	17	34.0	講義	必修	
	組織学	2	19	38.0	実習	必修	
		2	1	2.0	演習	必修	
	人体生理学	2	14	28.0	講義	必修	
	臨床解剖学	2	20	40.0	講義	必修	
		2	79	158.0	実習	必修	
	器官生理学	2	27	54.0	講義	必修	
		2	20	40.0	実習	必修	
	医化学II	2	21	42.0	講義	必修	
		2	18	36.0	実習	必修	
	神経科学	2	34	68.0	講義	必修	
		2	21	42.0	実習	必修	
		2	1	2.0	演習	必修	
	微生物学	2	35	70.0	講義	必修	
		2	8	16.0	実習	必修	
		2	2	4.0	演習	必修	
	免疫学	2	14	28.0	講義	必修	
		2	4	8.0	実習	必修	
		2	1	2.0	演習	必修	
	病理学総論	2	13	26.0	講義	必修	
		2	2	4.0	演習	必修	
	基礎医学演習	2	14	28.0	演習	必修	
	症例基礎・問題解決型学修(実践)	2	17	34.0	講義	必修	

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
医学専門科目	薬理学	2	25	50.0	講義	必修	
		2	6	12.0	実習	必修	
	医療プロフェッショナリズムII	2	4	8.0	講義	必修	
		2	4	8.0	実習	必修	
	基本的医療手技I	2	20	40.0	実習	必修	
	器官病理学	3	36	72.0	講義	必修	
		3	12	24.0	実習	必修	
	疫学・環境医学	3	22	44.0	講義	必修	
		3	32	64.0	実習	必修	
	チーム医療リテラシー	3	12	24.0	演習	必修	
	基礎病態・社会医学演習	3	12	24.0	演習	必修	
	消化器病学	3	36	72.0	講義	必修	
	内分泌・代謝病学	3	23	46.0	講義	必修	
	循環器病学	3	27	54.0	講義	必修	
	呼吸器病学	3	29	58.0	講義	必修	
	神経病学	3	36	72.0	講義	必修	
	産婦人科学	3	35	70.0	講義	必修	
	免疫病学	3	13	26.0	講義	必修	
	血液病学	3	20	40.0	講義	必修	
	小児科学	3	14	28.0	講義	必修	
	腎臓病学	3	19	38.0	講義	必修	
	臨床検査医学	3	12	24.0	講義	必修	
	臨床医学演習	3	13	26.0	演習	必修	
	症例基礎・問題解決型学修(発展)	3	8	16.0	講義	必修	
		3	6	12.0	講義	必修	
	医学研究リテラシーI	3	6	12.0	実習	必修	
		3	2	4.0	実習	必修	
	医学研究リテラシーII(研究室配属)	3	72	144.0	実習	必修	
	地域医療学II	3	20	40.0	実習	必修	
	医療プロフェッショナリズムIII	3	7	14.0	講義	必修	
		3	7	14.0	実習	必修	
	基本的医療手技II	3	20	40.0	実習	必修	
	災害医学	4	4	8.0	講義	必修	
		4	5	10.0	実習	必修	
	老年医学	4	8	16.0	講義	必修	
	整形外科	4	17	34.0	講義	必修	
	リハビリテーション医学	4	8	16.0	講義	必修	
	形成外科	4	11	22.0	講義	必修	
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	4	14	28.0	講義	必修	
	眼科学	4	10	20.0	講義	必修	
	皮膚科学	4	14	28.0	講義	必修	
	泌尿器科学	4	10	20.0	講義	必修	
	神経精神科学	4	14	28.0	講義	必修	
	放射線医学	4	14	28.0	講義	必修	
	麻酔学	4	8	16.0	講義	必修	
	救急医学	4	9	18.0	講義	必修	
	法医学	4	16	32.0	講義	必修	
		4	6	12.0	実習	必修	
	地域総合診療医学	4	8	16.0	講義	必修	
	臨床遺伝学	4	8	16.0	講義	必修	
	感染症学	4	11	22.0	講義	必修	
	臨床腫瘍学	4	8	16.0	講義	必修	
	臨床病理学	4	9	18.0	講義	必修	
	基本的臨床技能実習	4	47	47.0	実習	必修	
	統合医学演習	4	10	20.0	演習	必修	
医療プロフェッショナリズムIV	4	8	16.0	講義	必修		
症候学	4	20	40.0	実習	必修		
総合臨床医学(ベーシック臨床実習)	4・5	20	40.0	演習	必修		
	4・5	540	810.0	実習	必修		
予防医学	5	19	38.0	講義	必修		
	5	1	2.0	演習	必修		
アドバンスト臨床実習(地域医療臨床実習)	5	80	120.0	実習	必修		
アドバンスト臨床実習	5・6	740	1,110.0	実習	必修		
総合医学	6	126	126.0	講義	必修		
4学部合同セミナー	6	2	4.0	演習	必修		

科目区分	科目名	履修年次	コマ数	時間数	単位	区分	備考
自由科目	海外英語演習	1~6	40	80.0	2	演習	自由
自由科目	地域医療課題解決演習	1~6	8	16.0	1	演習	自由

別表 2 (第30条関係)

1. 入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。(転部入学含む)

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料	60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金	2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料 (年額)	2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	初年度 (年額)	500,000 円	—	125,000 円
	第2学年以降 (年額)	500,000 円	—	195,000 円
施設整備費 (年額)	1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	入学時	3,000,000 円	2,000,000 円	—
	第2学年以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

2. 再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料	60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金	500,000 円	300,000 円	175,000 円	125,000 円
授業料 (年額)	2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	第 1 学年 (年額)	500,000 円	—	125,000 円
	第 2 学年以降 (年額)	500,000 円	—	195,000 円
施設整備費 (年額)	1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	第 1 学年 (年額)	—	—	—
	第 2 学年以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—

3. 転入学 (歯学部に限る。)に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

4. 編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料	60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金	2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料 (年額)	2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費 (年額)	500,000 円	—	195,000 円	150,000 円
施設整備費 (年額)	1,500,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	編入学時	3,000,000 円	800,000 円	—
	次年度以降 (年額)	1,000,000 円	800,000 円	—

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

5. 留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1) 第1学年において留年した者

留年年度における第1学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2) 第2学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。
ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考 第1項から第5項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

(趣旨)

第1条 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第2条に則り、学則第1条第2項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

(各学部等の目的と使命)

第2条 医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

(1) 医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

(2) 歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

(3) 薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成す

(4) 看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

(5) 全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う「人としての教養」と、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

(改廃)

第3条 この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 24 年 9 月 26 日 から施行し、改正後の規定は、平成 22 年 6 月 15 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 27 年 12 月 1 日から施行する。(薬学部における目的の変更)

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。(看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更)

附 則

この規程は、令和 2 年 2 月 12 日から施行する。(教養教育センターの目的の追加)

附 則

この規程は、令和 8 年 2 月 1 日から施行する。(医学部における目的と使命の追記)

岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和6年4月1日制定

(目的)

第1条 この規程は、「障害者基本法(昭和45年法律第84号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 障害のある学生等 障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。
- (2) 合理的配慮 障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないように必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

(教職員の責務)

第3条 本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないように、合理的配慮の提供に努めなければならない。

(支援体制)

第4条 本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

- 2 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第5条及び第6条の手続きを経ることとする。
- 3 学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。
 - (1) 学生部長
 - (2) 学生副部長
 - (3) 学事課
 - (4) その他学生部長が必要と認めた者

(面談)

第5条 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口にご相談後、面談を実施することとする。

- 2 面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

- (1) 学生部長
- (2) 学生副部長
- (3) 教務委員長
- (4) クラス担任
- (5) 当該学部教務課
- (6) 健康管理センター
- (7) 学事課
- (8) その他学生部長が必要と認めた者

3 前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

(申請)

第6条 障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式1の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

- 2 新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。
- 3 更新申請は、年度ごとに行うものとする。

(合理的配慮の検討)

第7条 学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

2 前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたりと判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

- (1) 本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度(その目的、内容、機能等)
- (2) 実現可能性の程度(物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約)
- (3) 費用及び負担の程度
- (4) 本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

(合理的配慮の提供)

第8条 本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

2 合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

(情報保護)

第9条 合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報共有することができるものとする。

(事務)

第 10 条 本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

学生支援室 御中

修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、_____年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

申請日	_____年 ____月 ____日		
(ふりがな) 氏名※自筆	(_____)	入学年度	_____年度
	※自筆 _____	学籍番号	_____
学部学年等	_____学部 _____年 出席番号 _____番		
連絡先・現住所	携帯電話： _____ E-mail： _____ 現住所： _____		
緊急連絡先 (保護者等)	氏名： _____ 住所： _____ 電話番号： _____ 本人との関係： _____		
障がい等の名称	_____		
障がいの種類	※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと		
	障がいの種類(該当箇所にチェックのこと) <input type="checkbox"/> 身体障がい <input type="checkbox"/> 知的障がい <input type="checkbox"/> 精神障がい <input type="checkbox"/> その他心身の機能の障がい		
根拠書類	障害者手帳	診断書	その他
	<input type="checkbox"/> 有(_____ 手帳 種 級) <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 (内容： _____)
申し出理由 及び 希望する配慮内容	配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など) 希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)		
備 考	<input type="checkbox"/> 規程第9条 関係者間における個人情報の共有に同意します。		

岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第1条 この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第2条 欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第3条 学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第4条 次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することができる。

- (1) 近親者の死亡の場合であって、1親等にあつては連続1週間、2親等にあつては連続3日、3親等にあつては1日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）
- (2) 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）第18条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第19条に定める期間の欠席
- (3) 授業中の事故による入院又は加療のための欠席
- (4) 交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席
- (5) 大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席
- (6) 学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席
- (7) その他学部長が特に認める欠席

第5条 前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

欠席事由に対応する前条の号	添付書類	提出期限
(1)	会葬礼状等の説明書類	当該期間最終日から2週間以内
(2)	医師の診断書	登校後1週間以内
(3)		
(4)	交通機関が発行する遅延証明書	欠席日から1週間以内
(5)	事由を証明する書類	原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から1週間以内
(6)		
(7)	学部長が指定する書類	学部長が指定する期間内

第6条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第7条 この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第8条 この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

平成 20 年 8 月 18 日一部改正

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 11 月 11 日から施行する（組織名の変更等）。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する（関係法令の名称変更）。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

岩手医科大学医学部試験規程

昭和 27 年 9 月 1 日制定
昭和 33 年 5 月 27 日改正
昭和 48 年 4 月 1 日改正
昭和 48 年 6 月 1 日改正
昭和 51 年 1 月 26 日改正
昭和 56 年 9 月 22 日改正
昭和 57 年 12 月 8 日改正
昭和 58 年 2 月 16 日改正
昭和 63 年 10 月 26 日改正
平成 2 年 3 月 14 日改正
平成 5 年 11 月 24 日改正
平成 6 年 4 月 13 日改正
平成 7 年 4 月 12 日改正
平成 9 年 5 月 14 日改正
平成 11 年 3 月 10 日改正
平成 12 年 4 月 1 日改正
平成 13 年 4 月 1 日改正
平成 14 年 6 月 7 日改正
平成 14 年 12 月 11 日改正
平成 16 年 2 月 6 日改正
平成 16 年 12 月 8 日改正
平成 19 年 2 月 21 日改正
平成 27 年 2 月 25 日改正
平成 28 年 2 月 10 日改正
平成 30 年 4 月 1 日改正
令和 4 年 4 月 1 日改正
令和 7 年 4 月 1 日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、岩手医科大学学則第8条に基づき、医学部における授業科目の履修、試験、進級及び卒業に関して、必要な事項を定める。

(授業科目の履修及び試験科目)

第2条 履修すべき授業科目、試験科目及び認定する単位数については、これを学年毎に教育要項(シラバス)に定める。

2 選択科目又は自由科目を選択しようとする者は、年度始めに履修申請をしなければならない。

3 前項に定める科目以外でも、授業した科目については試験を行うことができる。

(試験の種類)

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

(1) 本試験 定期に行う進級試験及び卒業試験をいう。

(2) 追試験 病気その他やむを得ない事由で受験できなかった者に事故終了後に行う試験をいう。

(3) 再試験 所定の本試験に不合格の者に対し改めて行う試験をいう。再試験は原則として1回限りとする。

(追試験料及び再試験料)

第4条 追試験料は、1科目1,000円、再試験料は1科目3,000円とし、その都度前納するものとし、それぞれ所定の用紙に必要事項を記入のうえ医学部教務課を経て学部長に願い出なければならない。

2 共用試験の試験料については、別に定める。

(試験の方法)

第5条 試験の方法は、筆記、口述、レポート、実地等とする。

(試験日程)

第6条 本試験は、前期終了時又は後期終了時に行う。ただし、一部の科目の日程については、別に定める。

2 追試験は、本試験に係る学業成績判定までに行う。

3 再試験は、あらかじめ指定した日程に行う。

4 試験日及びその時間割は、実施2週間前までに発表するものとする。

(受験資格)

第7条 教育要項(シラバス)に定める各科目につき、所定の学習時間の2/3以上聴講し、かつ学習を完了した者でなければ本試験を受ける資格がない。

2 病気又はやむを得ない事由で受験が不可能の場合には、直ちに前者では医師の診断書、後者ではその事由書を添えて医学部教務課を経て学部長に届け出なければならない。

3 前項の手続きを経て担当教授の承認を受けた者は、本試験の追試験を受けることができる。

(評点)

第8条 各学年の成績・評価は、学年毎に別に定め、教育要項(シラバス)に記載するものとする。

2 追試験の成績・評価は、その評点より1割を減じたものをもって得点とする。但し、教授会の議を経て減じないことが承認された場合、この限りではない。

3 再試験において、合格した場合の成績・評点は合格最低点とする。

(進級・単位付与)

第9条 各科目の講義及び実習終了後、教育要項(シラバス)に定める各学年の本試験を受け、全科目に合格した者について、教授会の議を経て進級及び単位付与について判定する。

2 進級した者のうち、教養教育センター科目を受講した者については所定の単位を付与する。

3 進級不可と判定された者は、留年とし、当該学年の全科目を再履修するものとする。

4 留年した場合でカリキュラムの変更に伴い当該学年に再履修すべき授業科目がない場合は、教授会の議を経て講座等の責任において補習授業(再履修)を行い、当該年度の進級判定前までに試験を行い、60点を合格とする。

5 前項で再履修により合格した科目については、第3項の規定を適用しない。

(卒業)

第10条 卒業の可否は、別に定める卒業判定基準に基づき、教授会において判定し、学長が認定する。

2 卒業不可と判定された者は、留年とし、第6学年の全科目を再履修するものとする。

(成績評価の開示)

第11条 個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

(成績評価の異議申し立て)

第12条 成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行なう場合には、別に定める「成績評価に関する異議申し立て規則」の手続きに拠り、「成績評価に関する異議申し立書」(所定の様式による)を、医学部長へ提出するものとする。

(雑則)

第13条 この規程に定めのない事項については、教授会の議を経て学部長が定める。

(規程の改廃)

第14条 この規定の改廃は、教授会の議を経て学部長が行う。

附 則

この規程は昭和27年9月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和33年5月27日から施行する。

附 則

この規程は昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和48年6月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和51年1月26日から施行する。

附 則

この規程は昭和56年10月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和57年12月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この規程は昭和63年10月26日から施行する。

附 則

この規程は平成2年3月14日から施行する。

附 則

この規程は平成5年11月24日から施行する。

附 則

この規程は平成7年4月12日から施行する。

附 則

この規程は平成9年5月14日から施行する。

附 則

この規程は平成11年3月10日から施行する。

附 則

この規程は平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成16年4月1日から施行する。

ただし、4学年の消化器病学、免疫病学、血液病学については平成17年度から適用する。

附 則

この規程は平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

成績評価に関する異議申し立て制度について

本学には、学生が成績評価について異議申し立てすることができる「成績評価異議申立制度」があります。

この制度は、自分の成績評価に疑義がある場合に大学・教員側に申し立てすることが可能であり、医学部長がその異議に対して対応し、回答する制度となっています。

異議申立に関する手続き方法及びスケジュールは下記のとおりとなっております。期間外の申し立てや過去の学期の成績については一切受け付けませんので十分注意するようにしてください。

【手続き期間】

令和 年 月 日 () 9時00分～17時00分

※再試験結果については申し立てができません。

※本制度を利用したとしても再試験対象となっている学生は再試験手続き・再試験受験を行って下さい。

【提出書類】

「成績評価異議申立書」(申し立て期間に医学部教務課窓口に準備します。)

「学生証写し」

【提出先】

矢巾キャンパス 医学部教務課窓口

【結果通知】

口頭または文書にて本人に通知します。通知方法等は後ほど該当者に連絡いたします。

【対象科目】

医学部第 学年全科目

【成績開示】

令和 年 月 日 () 教授会終了後に Webclass で公開しますので、各自確認願います。なお、公開時間は準備状況により前後する可能性がありますので、ご了承願います(公開後に WebClass メールにて通知いたします)。

医学部第3学年進級試験・進級判定基準

(実施方法)

- 第1 進級試験・進級判定は、教育要項(シラバス)に定める試験科目毎に実施する。
- 2 複数講座担当科目の問題作成に当たっては、当該年度の教育担当責任講座(科)(コーディネーター科)が各科目を担当することとする。

(評価)

- 第2 試験は、100を満点とし、科目毎に評価を行う。

(判定)

- 第3 進級判定は、教授会の議決による。

(合否基準)

- 第4 合否基準は、次のとおりとする。
 - (1) 合格 全科目60点以上の場合
 - (2) 不合格 前号以外の場合

(再試験)

- 第5 60点未満の科目が科目全体の1/3以下の場合、当該科目について再試験を実施することができる。
- 2 60点未満の科目が科目全体の1/3を超えた場合、又は本試験若しくは追試験をやむを得ない事情無く欠席し不合格となった場合には、申請の上、当該科目について再試験を仮受験することができる。
但し、かかる仮受験の成績は、いずれの科目もその評点より1割を減じたものをもって得点とする。

(その他)

- 第6 大学が企画・実施・費用負担する施策(模擬試験・補講・アンケート回答等)については、原則として全員参加することとし、参加しなかった者は進級判定の対象としない。

追 試 験 願

岩手医科大学 医学部長 殿

年 月 日

医学部 年 番

学籍番号

氏 名

年度の（前期・後期）（定期・再）試験を下記事由により受験できませんでした。つきましては、下記科目について追試験を実施下さるようお願い致します。

記

番号	科目名	授業科目責任者	番号	科目名	授業科目責任者
1			5		
2			6		
3			7		
4			8		

合計 科目 (円)

※1科目 1,000円

事由(具体的に記載のこと)

(注) 1. 理由書(病気等の場合は医師の診断書、その他明確な理由書)を添付すること。

証紙貼付	証紙貼付
証紙貼付	証紙貼付

再 試 験 願

岩手医科大学 医学部長 殿

年 月 日

医学部 年 番

学籍番号

氏 名

年度の下記科目について合格できませんでした。
つきましては、再試験を実施下さるようお願い致します。

記

番号	科 目 名	授業科目責任者	番号	科 目 名	授業科目責任者
1			8		
2			9		
3			10		
4			11		
5			12		
6			13		
7			14		

合計 科目 (円)

※1科目 3,000円

証紙貼付	証紙貼付
証紙貼付	証紙貼付

再試験 仮受験願

岩手医科大学 医学部長 殿

年 月 日

医学部 年 番

学籍番号

氏名

年度（ 前期 ・ 後期 ）の下記科目について合格できませんでした。
つきましては、再試験（仮受験）を実施下さるようお願い致します。

記

番号	科目名	授業科目責任者	番号	科目名	授業科目責任者
1			8		
2			9		
3			10		
4			11		
5			12		
6			13		
7			14		

合計 科目 (円)

※1科目 3,000円

証紙貼付	証紙貼付
証紙貼付	証紙貼付

岩手医科大学における人体標本取扱指針

平成 29 年 4 月 1 日

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因説明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット(含、Social Network Service)に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報(姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等)を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(マイクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報の保護のために最善を尽くす。
2. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。
3. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。
4. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。
5. 医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

平成 26 年 3 月 11 日制定

G P A (Grade Point Average) 制度について

- 定 義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値であらわしたものである。
- 目 的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。
また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位数上限を 2 単位とする（CAP 制度参照）。

● 評価および GP

医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年 薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～60 点
D	0	59 点以下

歯学部 2～6 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～65 点
D	0	64 点以下

- 対 象：各年度による

- 単位算出方法：
$$\frac{1 \text{ コマ } 2 \text{ 時間 (1 時間 } 30 \text{ 分授業+事前学修時間 } 30 \text{ 分)} \times \text{回数}}{\text{講義・演習 } 15 \text{ 時間または実習 } 30 \text{ 時間}}$$

- GPA 計算方法：
$$\frac{(\text{評価「A」単位数} \times 3 \text{ 点}) + (\text{評価「B」単位数} \times 2 \text{ 点}) + (\text{評価「C」単位数} \times 1 \text{ 点})}{\text{総単位数 (不合格科目を含める)}}$$

- GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。

- 対象外科目：自由科目他（各学部で設定）

CAP 制度について

●目的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が1年間に履修する単位数（時間数）の上限を定めることを目的とする。

●対象：全学部・全学年

●制度内容について

本学医学部に於いては、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必要な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1年間に履修できる単位数（時間数）は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数（時間数）に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

学年	自由科目単位数
1～6 学年	3 単位

学生の教育成果物の利用について

学生の皆さんの在学中の教育成果物（スケッチ、レポート、ポートフォリオ等）を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

本学医学部学生の大学院授業科目の先行履修に関する取扱い内規

平成30年4月1日制定

岩手医科大学（以下「本学」という。）の医学部に在籍する学生に、岩手医科大学大学院（以下「本大学院」という。）の医学研究科（以下「研究科」という。）の授業科目を先行して履修させる場合の取扱いについて、次のとおり定める。

（先行履修）

第1条 研究科は、本学の医学部に在籍する学生であって、本大学院への入学を希望する者のうち、あらかじめ本大学院の研究科の授業科目を履修させることが教育研究上有益であると認める者については、当該研究科等の授業科目を先行して履修すること（以下「先行履修」という。）を認めることができる。

（資格）

第2条 先行履修をすることができる者は、本大学院の研究科等への入学を希望する本学の医学部3年次以上に在籍する学生のうち、先行履修をさせることが教育研究上有益であると当該研究科において認める者とする。但し、1～2次年生であっても、先行履修をさせることが教育研究上特に有益であると当該研究科において認められる場合は、当該希望者に先行履修を認めることができるものとする。

（履修範囲）

第3条 先行履修をすることができる授業科目は、本大学院研究科の、博士課程における共通教育科目（必修・選択必修）のみとする。

（単位認定）

第4条 研究科は、先行履修学生として授業科目を履修した者に対し、所定の単位を与えるものとする。この場合において、単位認定には、原則として講義全体の3分の2以上の実出席とレポートの提出を要するものとする。

（単位の取扱い）

第5条 第4条により先行履修学生が履修した授業科目について修得した単位は、当該先行履修学生が授業科目を履修した研究科に学部卒業後6年以内に入学した場合に限り、2単位を上限として当該研究科において修得した単位とみなす。

（単位認定の範囲）

第6条 学部は、先行履修学生が履修した研究科の授業科目について、これを学部の単位として認定することはできない。

（その他）

第7条 第1条から第6条までの事項のほか、先行履修に関し必要な事項については、研究科の定めるところによる。

（改廃）

第8条 この取扱いの改廃は、医学研究科委員会の議を経て行う。

附 則

- 1 この内規は、令和3年9月1日から施行する。
- 2 令和3年度に本学の医学部に在籍する学生から適用する。

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

- 1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。
 - (1) 午前6時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報(以下「暴風警報等」という。)が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前10時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。
 - (2) 登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
 - (3) 岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
 - (4) 暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。
- 2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。
 - (1) 前項第1号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。
 - (2) 前項第2号及び第3号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。
 - (3) 前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。
 - (4) 学内外からの照会には各教務課があたる。
- 3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。
- 4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。
- 5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の議を経るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】(i) 警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。
(ii) 警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。
(iii) 学外の実習等の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

附 則

この要領は令和2年1月30日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

附 圖

医学部医学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
M:医学部	1:1年次 (入門/導入レベル)	L:教養	1:必修	A:IPE	01	M1-L1-A01	多職種連携のためのアカデミックリテラシー
				C:社会医学	01	M1-L1-C01	データサイエンス
				F:医療プロフェッショナリズム	01	M1-L1-F01	行動科学
				Z:教養	01	M1-L1-Z01	医療倫理学
					02	M1-L1-Z02	法学
					03	M1-L1-Z03	心理学
					04	M1-L1-Z04	医療面接の基礎
					05	M1-L1-Z05	情報リテラシー
					06	M1-L1-Z06	物理学
					07	M1-L1-Z07	物理学実習
					08	M1-L1-Z08	専門課程への化学
					09	M1-L1-Z09	エッセンシャル生物
					10	M1-L1-Z10	化学実習
				11	M1-L1-Z11	生物学実習	
				12	M1-L1-Z12	English Reading & Writing I	
				13	M1-L1-Z13	English Reading & Writing II	
			14	M1-L1-Z14	English Speaking & Listening I		
			15	M1-L1-Z15	English Speaking & Listening II		
			2:選択必修	Z:教養	16	M1-L1-Z16	健康運動科学
					17	M1-L2-Z17	ベーシック生物
					18	M1-L2-Z18	スタンダード生物
					19	M1-L2-Z19	アドバンスト生物
					20	M1-L2-Z20	自然・文化人類学
					21	M1-L2-Z21	ベーシック化学
					22	M1-L2-Z22	ベーシック物理
					23	M1-L2-Z23	解析学入門
					24	M1-L2-Z24	医療とスポーツ
					25	M1-L2-Z25	医療とコミュニケーション
					26	M1-L2-Z26	道徳のしくみ
				27	M1-L2-Z27	ベーシック数学	
				28	M1-L2-Z28	アドバンスト数学	
				29	M1-L2-Z29	アドバンスト化学	
				30	M1-L2-Z30	文学の世界	
				31	M1-L2-Z31	実践英語	
				32	M1-L2-Z32	医療と福祉	
				33	M1-L2-Z33	科学英語	
				34	M1-L2-Z34	医療と物語	
				35	M1-L2-Z35	人間関係論	
36	M1-L2-Z36	パーソナリティ心理学					
37	M1-L2-Z37	哲学の世界					
38	M1-L2-Z38	医療と法律					
S:専門	1:必修	F:医療プロフェッショナリズム	02	M1-S1-F02	医療入門(医療プロフェッショナリズムⅠ、地域医療学Ⅰを含む)		
			B:基礎医学	01	M1-S1-B01	分子細胞生物学Ⅰ	
				02	M1-S1-B02	分子細胞生物学Ⅱ	
				03	M1-S1-B03	医化学Ⅰ	
				04	M1-S1-B04	基礎組織学	
				05	M1-S1-B05	解剖学総論	
		06		M1-S1-B06	医科生理学		
		G:リサーチマインド	01	M1-S1-G01	初年次ゼミナール		
		E:基礎臨床統合医学	01	M1-S1-E01	症例基盤・問題解決型学修(入門)		
		F:医療プロフェッショナリズム	03	M1-S1-F03	医療安全学		
M:医学部	2:2年次 (基礎レベル)	L:教養	1:必修	C:社会医学	02	M2-L1-C02	データサイエンスⅡ
				Z:教養	39	M2-L1-Z39	医学英語入門
				F:医療プロフェッショナリズム	04	M2-S1-F04	医療プロフェッショナリズムⅡ
				H:臨床実習	01	M2-S1-H01	基本的医療手技Ⅰ
				B:基礎医学	07	M2-S1-B07	組織学
					08	M2-S1-B08	人体発生学
					02	M2-S1-E02	臨床解剖学
					09	M2-S1-B09	器官生理学
		S:専門	1:必修	B:基礎医学	10	M2-S1-B10	医化学Ⅱ
					11	M2-S1-B11	神経科学
					12	M2-S1-B12	微生物学
					13	M2-S1-B13	免疫学
					14	M2-S1-B14	病理学総論
					15	M2-S1-B15	基礎医学演習
					16	M2-S1-B16	薬理学
					E:基礎臨床統合医学	03	M2-S1-E03

医学部医学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名					
M:医学部	3:3年次 (応用/発展レベル)	L:教養	1:必修	Z:教養	40	M3-L1-Z40	医学英語					
		S:専門		A:IPE	02	M3-S1-A02	チーム医療リテラシー					
				E:基礎臨床統合医学	04	M3-S1-E04	器官病理学					
				C:社会医学	03	M3-S1-C03	疫学・環境医学					
				B:基礎医学	17	M3-S1-B17	基礎病態・社会医学演習					
				D:臨床医学	01	M3-S1-D01	消化器病学					
					02	M3-S1-D02	内分泌・代謝病学					
					03	M3-S1-D03	循環器病学					
					04	M3-S1-D04	呼吸器病学					
					05	M3-S1-D05	神経病学					
					06	M3-S1-D06	産婦人科学					
					07	M3-S1-D07	免疫病学					
					08	M3-S1-D08	血液病学					
					09	M3-S1-D09	小児科学					
					10	M3-S1-D10	腎臓病学					
					11	M3-S1-D11	臨床検査医学					
					12	M3-S1-D12	臨床医学演習					
				E:基礎臨床統合医学	05	M3-S1-E05	症例基盤・問題解決型学修(発展)					
				F:医療プロフェッショナリズム	05	M3-S1-F05	医療プロフェッショナリズムⅢ					
				H:臨床実習	02	M3-S1-H02	基本的医療手技Ⅱ					
G:リサーチマインド	02	M3-S1-G02	医学研究リテラシーⅠ									
	03	M3-S1-G03	医学研究リテラシーⅡ(研究室配属)									
F:医療プロフェッショナリズム	06	M3-S1-F06	地域医療学Ⅱ									
M:医学部	4:4年次 (高度レベル)	L:教養	1:必修	C:社会医学	04	M4-L1-C04	医事法学					
		S:専門		C:社会医学	05	M4-S1-C05	法医学					
				F:医療プロフェッショナリズム	07	M4-S1-F07	医療プロフェッショナリズムⅣ					
				D:臨床医学	13	M4-S1-D13	地域総合診療医学					
					14	M4-S1-D14	災害医学					
					15	M4-S1-D15	老年医学					
					16	M4-S1-D16	整形外科学					
					17	M4-S1-D17	リハビリテーション医学					
					18	M4-S1-D18	形成外科学					
					19	M4-S1-D19	耳鼻咽喉科頭頸部外科学					
					20	M4-S1-D20	眼科学					
					21	M4-S1-D21	皮膚科学					
					22	M4-S1-D22	泌尿器科学					
					23	M4-S1-D23	神経精神科学					
					24	M4-S1-D24	放射線医学					
					25	M4-S1-D25	麻酔学					
					26	M4-S1-D26	救急医学					
					27	M4-S1-D27	臨床遺伝学					
					28	M4-S1-D28	臨床腫瘍学					
					29	M4-S1-D29	臨床病理学					
					30	M4-S1-D30	感染症学					
					31	M4-S1-D31	統合医学演習					
					H:臨床実習	03	M4-S1-H03	基本的臨床技能実習				
					D:臨床医学	32	M4-S1-D32	症候学				
					M:医学部	5:5年次 配当レベル	S:専門	1:必修	H:臨床実習	04	M5-S1-H04	ベーシック臨床実習
									C:社会医学	06	M5-S1-C06	予防医学
									I:総合医学	01	M5-S1-I01	総合臨床医学
				M:医学部	6:6年次 配当レベル	S:専門	1:必修	H:臨床実習	05	M6-S1-H05	アドバンスト臨床実習	
								I:総合医学	02	M6-S1-I02	総合医学	
								A:IPE	03	M6-S1-A03	4学部合同セミナー	
				M:医学部	1:1年次 (入門/導入レベル)	L:教養	3:自由	Z:教養	41	M1-L3-Z41	海外英語演習	
S:専門	A:IPE	04	M1-S3-A04			地域医療課題解決演習						

M1-S1-A01
①②-③④-⑤⑥

①学部	②レベル	③科目種別	④科目区分	⑤中分類	⑥小分類
M:医学部	1:1年次配当レベル(または入門/導入レベル)	L:教養	1:必修	A:IPE	通し番号(2桁)
D:歯学部	2:2年次配当レベル(または基礎レベル)	S:専門	2:選択必修	B:基礎医学	
P:薬学部	3:3年次配当レベル(または応用/発展レベル)		3:自由	C:社会医学	
N:看護学部	4:4年次配当レベル(または高度レベル)			D:臨床医学	
	5:5年次配当レベル			E:基礎臨床統合医学	
	6:6年次配当レベル			F:医療プロフェッショナリズム	
	※学年跨ぎ、自由科目については、1~4のレベルで振り分ける。			G:リサーチマインド	
				H:臨床実習	
				I:総合医学	
				Z:教養	

学生健康診断規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生(大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。)に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

(健康診断の実施)

第2条 大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年1回、健康診断を実施しなければならない。

2 健康診断は健康管理センターが実施する。

(健康診断の種類)

第3条 健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

2 定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

3 臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

(受診の義務)

第4条 学生は健康診断を受けなければならない。

2 学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

3 前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

(健康診断の総合評価及び通知)

第5条 健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

(事後措置)

第6条 学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者がいるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

2 学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

3 健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

(復学時の健康診断)

第7条 疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

(証明書の発行)

第8条 第3条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

令和8年度 学生健康診断等実施要領

1. 学生健康診断

*M：医学部、D：歯学部、P：薬学部、N：看護学部、DH：医療専門学校歯科衛生学科

健診日時		対象学生	個人票配付時間・場所		健診会場	健診項目
4月20日(月)	9:30~11:30	3M	9:20	キャンパスモール 階段下 (Yショップ前) ・詳細は掲示板で確認し、指定の時間に受診してください。	<矢巾キャンパス 1階> ■北側入口(胸部検診車) ・胸部X線撮影 ■キャンパスモール 正面入口付近 ・視力検査 ■キャンパスモール ヤマザキショップ向かい側 ・血圧測定 ■東研究棟 SGL ・身長 ・体重 ・内科診察 ・歯科健診 ■西講義実習棟 キャンパスモール側トイレ ・尿検査 ■西研究棟 ラウンジ ・血液検査	■必須項目 ・身長 ・体重 ・血圧 ・内科診察 ・視力検査 ・胸部X線撮影 ■学年別追加項目 【1年】 ・血液検査 ・尿検査 ・歯科健診 【4年】 ・血液検査 ・尿検査 ■B型肝炎接種前検査 (血液検査) ・3M ・4D ・4P ・1N ・1DH ・3N編入生
		4D	10:50			
	13:30~15:30	4P	13:20			
		4N	13:50			
		6M	14:20			
		3DH	14:50			
4月21日(火)	9:30~11:30	1M	9:20			
		1D	10:50			
	13:30~16:00	1P	13:20			
		6P	13:50			
		1N 3N編入生	14:30			
		1DH	15:20			
4月22日(水)	9:30~12:00	4M	9:20			
		2N	10:50			
	13:30~16:00	2M	13:20			
		2D	14:50			
		2P	15:10			
		2DH	15:30			
4月23日(木)	9:30~12:00	5M	9:20			
		3D	10:50			
		3P	11:20			
	13:30~15:30	5D	13:20			
		6D	13:40			
		5P	14:10			
		3N	14:40			

※ 変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

2. 心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

対象学年	日時	会場	内容
1N	4月20日(月)5限 16:20~17:50	各教室	東大式エゴグラム 学生精神的健康調査
1D	4月22日(水)4限 14:40~16:10		
1P	4月22日(水)5限 16:20~17:50		
1M	4月24日(金)1限 8:50~10:20		
2~6年(M・D・P) 2~4年(N)	4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、 健康診断時に実施	健康診断会場	メンタルヘルスチェック

3. 健康講話

対象	日時	会場	内容
1M・1D・1P・1N	5月13日(水)5限 16:20~17:50	大堀記念講堂	受動喫煙講習会 (学生部と共催)
	6月5日(金) 2限 10:30~12:00	大堀記念講堂	メンタルヘルス講習会

4. ワクチン接種日程について

(1) B型肝炎ワクチン 対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

区 分	日	時	対象学生	会 場
接種前 採血検査	4月20日(月)	9:30~11:30	3M、4D	矢巾キャンパス 西研究棟1階 ラウンジ
		13:30~15:30	4P	
	4月21日(火)	13:30~16:00	1N・1DH・3N編入生	
ワクチン接種 1回目	5月21日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	5月22日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 2回目	6月18日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	6月19日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 3回目	11月5日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	11月6日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
接種後採血	12月3日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	12月4日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
追加接種 (該当者のみ)	1月7日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	
追加接種後採血 (該当者のみ)	2月4日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	

(2) インフルエンザワクチン 対象：全員（接種料金は自己負担）

キャンパス	日	時	対象学生	会 場
内 丸	10月13日(火)	15:30	6D	内丸 創立60周年記念館 8階 研修室
		14:30	1DH	
	10月14日(水)	15:00	2DH	
		15:30	3DH	
矢 巾	10月19日(月)	13:30	1N	矢巾キャンパス 西講義実習棟2階 西2-C実習室
		15:00	4D	
		15:30	4P	
		16:10	3M	
	10月20日(火)	13:30	1P	
		14:00	5D	
		15:00	1M	
		16:10	2N	
	10月21日(水)	13:30	2M	
		14:30	6P	
		15:00	3P・3D	
		16:10	1D	
	10月22日(木)	13:30	4M	
		15:00	6M	
		16:10	4N	
		10月23日(金)	13:30	
14:00	2D			
14:30	5M			
15:00	2P			
		16:10	3N	

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

教養教育センター オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

担当教員		担当教員	曜日	時間帯	備考
人間科学科	哲学分野	林 研	月・金	16:30～17:30	266人間科学科 教授・准教授室
		三浦 康宏	水	16:30～17:30	264-1文学分野 研究室
	法学分野	廣瀬 清英	火～木	12:00～13:00	223法学分野 研究室
	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂	水・金	12:00～13:00	262人間科学科 教授・准教授室
		香川 由美	月・水・金	16:30～17:30	267心理学・行動科学分野 研究室
体育学分野	佐々木 亮平	月・水・金	12:00～13:00	103体育学分野 研究室	
情報科学科	数学分野	江尻 正一	月～金	16:30～17:30	257情報科学科 教授・准教授室
		長谷川 大	月～金	16:30～17:30	225数学分野 研究室
	医学統計 情報学分野	高橋 史朗 教養教育センター長 教養教育センター学生部長	月・木	16:30～17:30	258情報科学科 教授・准教授室
		小野 保	月・水	16:30～17:30	222医学統計情報学分野 研究室
物理学科	奥村 健一	月～金	16:30～17:30	253物理学科 教授・准教授室	
	小松 真	月～金	17:00～18:00	254物理学科 研究室2 komatsum@iwate-med.ac.jp	
	小田 泰行	月～金	16:30～17:30	254物理学科 研究室2	
化学科	中島 理 教務専門委員長	月	12:00～13:00	256化学科 教授・准教授室	
	東尾 浩典	月～金	16:30～17:30	255化学科 研究室	
	吉田 潤	月・水	16:30～17:30	255化学科 研究室	
生物学科	三枝 聖	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科 研究室	
	菅 孔太朗	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科 研究室	
	内藤 雪枝	月・水・金	12:00～13:00	261生物学科 研究室	
外国語学科	英語分野	柳谷 千枝子	月・木・金	16:30～17:30	265外国語学科 教授・准教授室
		松田 竜宙	火・木	16:30～17:30	224英語分野 研究室2
		Jonathan Levine-Ogura	月～金	16:30～17:30	221英語分野 研究室4
		Robert Ken Asano	月・水・金	16:30～17:30	226英語分野 研究室1
教養教育センター		非常勤教員		授業終了時	各講義室

医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原 邦昭	水	10:00~12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡し アポイントを取ること
副学長	仲 哲治	月~金	9:00~17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医学教育学講座 医学教育学分野	高田 亮	月・火・水・金	16:00~18:00	医学教育学講座	内線：5102 内線：71339
	相澤 純	月	月：12:00~13:00		内線：71392
医学教育学講座 地域医療学分野	伊藤 智範	月・金	12:00~13:00	医学教育学講座 循環器内科医局	内線：5102 内線：6415
医学教育学講座 教育支援システム開発分野	前沢 千早	月・水	10:00~12:00、13:00~16:00	教育支援システム開発分野（358）	内線：5661
	安平 進士	火・木	17:00~18:00	教育支援システム開発分野（462）	
	柴崎 晶彦	月・火	16:00~17:00		
解剖学講座 人体発生学分野	木村 英二	火	12:00~13:00	人体発生学分野 スタッフルーム	内線：5831
	中野 真人	月~金	17:00~18:00		
	足立 礼孝	月~金	16:00~18:00		
	勝本 恵一	月~金	16:00~18:00		
解剖学講座 細胞生物学分野	齋野 朝幸	火~金	12:00~13:00、16:00~19:00	解剖学講座研究室（405）	内線：5871
	成田 啓之	月~金	12:00~13:00、16:00~17:00		
	アブタリ サイド シャリフ	月~金	12:00~13:00、16:00~19:00		
	阿久津 仁美	月~金	12:00~13:00、16:00~17:00		
	平川 正人	月~金	12:00~13:00、16:00~17:00		
生理学講座 統合生理学分野	中階 克己	月~金	16:30~19:00	統合生理学分野 スタッフルーム	内線：5733
	木村 眞吾	月~金	16:30~19:00		
	鈴木 喜郎	月~金	16:30~18:45		
	望月 圭	月~金	18:00~20:30		
	駒切 洋	月・水・金	16:30~19:00		
	鈴木 享	月~金	16:30~19:00		
生化学講座 分子医化学分野	金子 桐子	月・火・水・木	16:00~18:00	分子医化学分野 スタッフルーム	内線：5751
	鈴木 亘	月・火・木	16:00~18:00		
	高橋 隼一郎	月・火・水・木	16:00~18:00		
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	村木 靖	月・火・水・木・金	12:00~13:00	微生物学講座 教授室（308）	内線：5792
	海部 知則	月・火・水・木・金	12:00~13:00	微生物学講座 スタッフルーム（307）	
	小田切 崇	月・火・水・木・金	12:00~13:00	微生物学講座 スタッフルーム（306）	
	石川 静麻	月・火・水・木・金	12:00~13:00		
薬理学講座 情報伝達医学分野	平 英一	火・水	16:30~17:30	薬理学講座 スタッフルーム（365）	内線：5821
	ハサン アリフ ウル	月・火・水・木・金	16:00~17:00		
	小原 真美	月・水・金	16:00~17:00		
病理学講座 機能病態学分野	片岡 竜貴	火・水	12:00~13:00	病理学講座 教授室（455）	内線：5920
	中村 啓哉	木・金	12:00~13:00	研究室	
	伊藤 謙	水・木	12:00~13:00		
	松崎 駿	月・水	12:00~13:00		
法科学講座 法医学分野	高宮 正隆	火	12:00~12:20	医局	内線：5682
	森川 剛	火	12:00~12:20		
衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三	月~金	16:15~18:00	講座 研究室	内線：5775
	赤坂 憲	月~金	16:15~18:00		
	田鎖 愛理	月~金	16:15~18:00		
	事崎 由佳	月~金	16:15~18:00		
	下田 陽樹	月~金	16:15~18:00		
	高梨 信之	月・火・水・金	16:15~18:00		

内科学講座 消化器内科分野	松本 主之	水	17:00~18:00	医局	内線：6222、6223
	黒田 英克	水	17:30~18:30		
	宮坂 昭生	水	17:30~18:30		
	梁井 俊一	水	17:00~18:00		
	柿坂 啓介	火・木	16:00~18:00		
	鳥谷 洋右	水	17:00~18:00		
	永塚 真	水	17:00~18:00		
	佐々木 裕	水	17:00~18:00		
	遠藤 啓	水	16:30~17:00		
	吉田 雄一	水	16:00~16:30		
	阿部 珠美	水	18:00~18:30		
	鈴木 彰子	水	12:30~13:30		
	星 綾乃	水	17:00~18:00		
	大友 康司	水	17:00~18:00		
	佐々木 登希夫	水	16:30~17:00		
	今成 慧祐	水	16:30~17:30		
本多 俊介	水	16:30~17:30			
藤原 裕大	水	16:30~17:00			
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣 泰	火	15:00~16:00	医局	内線：6271
	高橋 義彦	金	16:00~17:00		
	瀬川 利恵	木	12:00~13:00		
	武部 典子	月	16:00~17:00		
	長谷川 豊	金	9:30~10:30		
	小田 知靖	火	12:00~13:00		
	富樫 弘文	水	16:00~17:00		
	千田 愛	水	12:00~13:00		
	千葉 拓	月	9:00~10:00		
	川島 智美	水	12:00~13:00		
	吉田 絵里子	水	15:00~16:00		
内科学講座 腎・高血圧内科分野	旭 浩一	火	12:15~13:15	教授室	内線：6416
	吉川 和寛	火	12:15~13:15	医局	
	河嶋 英里	火	12:15~13:15		
	野田 晴也	火	12:15~13:15		
	岡本 好生	火	12:15~13:15		
内科学講座 循環器内科分野	森野 禎浩	月~金	12:00~13:30	循環器内科医局	内線：6413
	石田 大	月~金	12:00~13:30		
	大和田 真玄	月~金	12:00~13:30		
	房崎 哲也	月~金	12:00~13:30		
	肥田 頼彦	月~金	12:00~13:30		
	二宮 亮	月~金	12:00~13:30		
	芳沢 礼佑	月~金	12:00~13:30		
	芳沢 美知子	月~金	12:00~13:30		
	佐々木 航	月~金	12:00~13:30		
	二宮 開	月~金	12:00~13:30		
	澤 陽平	月~金	12:00~13:30		
	浅野 峻見	月~金	12:00~13:30		
	登坂 憲吾	月~金	12:00~13:30		
佐々木 健太	月~金	12:00~13:30			
内科学講座 呼吸器内科分野	川田 一郎	火・木・金	14:30~17:00	医局	内線：6251
	長島 広相	月・水・金	16:30~17:00		
	秋山 真親	火	16:30~17:00		
	内海 裕	月・水・金	16:30~17:00		
	堀井 洋祐	火・水・木	16:30~17:00		
	片桐 紘	月・木・金	16:30~17:00		

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本 稔	木(第4除く)	9:00~12:00	医局	内線：6471
	村田 典則	木	9:00~17:00		
	鈴木 悠地	木	9:00~17:00		
	駒ヶ嶺 正嗣	金	9:00~12:30		
	大河原 知治	水	9:00~12:00		
	舟嶋 英志	金	9:00~17:00		
	昆 康弘	水(第1.3)	14:00~17:00		
内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹	火	16:30~17:00	教授室	内線：6401
	小宅 達郎	火・木	17:00~18:00	医局・西6階血液病棟	
	古和田 周吾	月・火・木	17:00~18:00		
	岡野 良昭	火・水	17:00~18:00		
	佐藤 剛	火・水	17:00~18:00		
	西谷 真来	月・火・水	12:00~15:00		
	前田 峻大	火・水	17:00~18:00		
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	前田 哲也	木	16:00~17:00	脳神経内科・老年科 医局	内線：6431,6432
	板橋 亮	水	16:00~17:00		
	工藤 雅子	月・火	16:00~17:00		
	石塚 直樹	金	16:00~17:00		
	赤坂 博	水	16:00~17:00		
	鈴木 真紗子	木	16:00~17:00		
	岩岡 和博	水	16:00~17:00		
	高橋 真	水	16:00~17:00		
	高橋 健太	水	16:00~17:00		
	津田 圭介	水	16:00~17:00		
	大井 清貴	水	16:00~17:00		
	田口 啓太	水	16:00~17:00		
	寺内 貴廣	水	16:00~17:00		
外科学講座	佐々木 章	火	15:00~17:00	外科学講座 教授室	内線：6220
	新田 浩幸	火	14:00~17:00	外科学講座 教授室	
	鈴木 信	火	14:00~17:00	外科学講座 医局	
	梅邑 晃	火	14:00~17:00		
	井原 欣幸	火	14:00~17:00		
	藤野 順子	火	10:00~11:00		
	馬場 誠朗	水	14:00~17:00		
	石田 和茂	火	14:00~17:00		
	八重樫 瑞典	木	9:00~11:00		
	武田 大樹	火	14:00~17:00		
	二階 春香	水	14:00~17:00		
	安藤 太郎	火	14:00~17:00		
	佐々木 教之	火	14:00~17:00		
	天野 総	火	14:00~17:00		
	瀬川 武紀	火	14:00~17:00		
	天野 怜	火	14:00~17:00		
	川島 到真	火	14:00~17:00		
	熊谷 秀基	水	14:00~17:00		
	棚橋 洋太	火	14:00~17:00		
	菊地 晃司	火	14:00~17:00		
脳神経外科学講座	赤松 洋祐	月~金	17:00~18:00	脳神経外科学講座 医局	会議等の予定がありますので、事前に医局に電話をして確認をお願いします。 (9:00~16:00) 内線：6422,6421
	別府 高明	火	17:00~18:00		
	石垣 大哉	月~金	17:00~18:00		
	佐藤 雄一	月・水・木	17:00~18:00		
	佐浦 宏明	月~金	17:00~18:00		
	吉田 純	月~金	17:00~18:00		
	大志田 創太郎	月~金	17:00~18:00		
	筒井 肇太	月~金	12:00~13:00		
柳原 普	月~金	17:00~18:00			

心血管外科学講座	金 一	水・金	17:00~18:00	西5階心血管外科 医局	内線：6411
	小泉 淳一	水・木	17:00~18:00		
	枝木 大治	月~金	17:00~18:00		
	齋藤 大樹	月~金	17:00~18:00		
	塩屋 雅人	月~金	17:00~18:00		
	田林 東	月~金	17:00~18:00		
	正木 直樹	月~金	17:00~18:00		
呼吸器外科学講座	齊藤 元	月~金	8:30~17:00	呼吸器外科学講座 医局	内線：6505
	出口 博之	月~金	8:30~17:00		
	友安 信	月~金	8:30~17:00		
	重枝 弥	月~金	8:30~17:00		
	兼古 由香	月~金	8:30~17:00		
	岩井 英頌	月~金	8:30~17:00		
整形外科科学講座	田島 吾郎	水	9:00~12:00	整形外科科学講座 医局	内線：6562
	佐藤 光太郎	木	10:00~11:00		
	丸山 盛貴	木	17:00~18:00		
	大竹 伸平	木	16:00~17:00		
	三又 義訓	月	14:00~17:00		
	及川 伸也	金	9:00~10:00		
	及川 龍之介	火	16:00~17:00		
	鈴木 忠	金	9:00~10:00		
	村上 賢也	火	15:00~17:00		
	山部 大輔	水	17:00~18:00		
	楊 寛隆	金	17:00~18:00		
	千葉 佑介	金	9:00~10:00		
	和田 俊太郎	金	16:00~17:00		
	松浦 真典	水	8:30~9:30		
	高橋 裕孝	水	8:30~9:30		
月村 悦子	水	8:30~9:30			
形成外科学講座	櫻庭 実	水・金	17:00~18:00	医局	内線：6571
	本多 孝之	水・金	16:00~17:00		
	小野寺 文	水・金	16:00~17:00		
	三橋 伸行	木・金	16:00~17:00		
	阿部 桃子	月~金	15:00~16:30		
	山崎 友和	月・水	16:00~17:00		
産婦人科学講座	馬場 長	火	16:00~17:00	産婦人科学講座 医局	内線：3750
	小山 理恵	金	16:00~17:00		
	庄子 忠宏	金	16:00~17:00		
	利部 正裕	金	16:00~17:00		
	岩動 ちず子	金	16:00~16:30		
	永沢 崇幸	金	16:00~17:00		
	尾上 洋樹	火	16:00~17:00		
	羽場 巖	金	16:00~17:00		
	川村 花恵	金	16:00~17:00		
	佐々木 佳夏子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤 翔	講義終了後に受け付ける			
	高取 恵里子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤 千絵	講義終了後に受け付ける			
	海道 善隆	金	16:00~17:00		
	村上 一行	講義終了後に受け付ける			
	鈴木 南奈子	講義終了後に受け付ける			
	黒川 絵里加	講義終了後に受け付ける			
	武蔵 実久	講義終了後に受け付ける			
	岡田 有加	講義終了後に受け付ける			
高木 駿	講義終了後に受け付ける				

小児科学講座	赤坂 真奈美	月・木	17:00~18:00	医局	内線：3701
	石川 健	火	12:00~13:00		
	齋木 宏文	木	12:00~17:00		
	外館 玄一朗	火・木	13:00~17:00		
	鳥谷 由貴子	火・水・木・金	15:00~17:00		
	中野 智	火	12:00~13:00		
	松本 敦	月・水	17:00~18:00		
	三浦 翔子	水・金	14:00~16:00		
	水間 加奈子	月・火・金	12:00~13:00		
	草野 修司	月・火・金	12:00~13:00		
	朝倉 賀子	月・火・木・金	14:00~18:00		
	八畝 瑛子	火・木	11:00~12:00		
	谷藤 幸子	月・火	12:00~14:00		
	浅見 麻耶	月・火	9:00~17:00		
	佐藤 啓	水・木	12:00~14:00		
	小野寺 千夏	金	12:00~14:00		
	田金 星都	月~木	16:00~17:00		
	滝沢 友里恵	木・金	12:00~14:00		
	千田 悠太郎	火・水	16:00~17:00		
	吉田 太郎	月・木・金	14:00~16:00		
	阿部 志津香	月~金	11:00~17:00		
	齋藤 寛治	月・金	16:00~17:00		
	鈴木 幸之介	月・水・木	9:00~17:00		
	高橋 学	火・木	14:00~16:00		
千葉 智子	月・火・木・金	9:00~11:00			
豊島 浩志	月・水・木	14:00~17:00			
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓	月	17:00~19:00	医局	内線：6302
	片桐 克則	木・金	17:00~19:00		
	及川 伸一	火	10:00~17:00		
	亀井 昌代	火・木	17:00~		
	阿部 俊彦	火・木・金	17:00~		
	桂 彩	火・水	17:00~		
	土田 宏大	月	18:00~18:30		
眼科学講座	黒坂 大次郎	月	17:00~18:00	眼科学講座 医局	内線：6582
	橋爪 公平	月	16:00~17:00		
	新田 順福	月	17:30~18:30		
	及川 誠	月	17:30~18:30		
	清野 太郎	月	17:30~18:30		
	橋浦 哲哉	月	14:00~16:00		
	伊藤 愉一胤	月	17:00~18:00		
	今泉 利康	月	17:00~18:30		
	大島 広之	月	17:00~18:00		
	福田 一央	月	17:00~18:00		
皮膚科学講座	天野 博雄	水	17:00~18:00	皮膚科学講座 医局	内線：6543
	角田 加奈子	月	10:00~12:00		
	渡部 大輔	木	17:00~18:00		
	三浦 慎平	火	17:00~18:00		
	渡辺 彩乃	水	16:00~17:00		
	井上 剛	水	17:00~18:00		

泌尿器科学講座	小原 航	水	9:00~10:00	泌尿器科学講座 医局	内線：6551
	阿部 貴弥	月	9:00~10:00		
	杉村 淳	水	18:00~19:00	内丸MC控室	
	兼平 貴	火	18:00~19:00	泌尿器科学講座 医局	
	加藤 廉平	月	18:00~19:00		
	前川 滋克	火	18:00~19:00		
	五十嵐 大樹	火	18:00~19:00		
	塩見 叡	火	18:00~19:00		
	井藤 綾人	火	18:00~19:00		
	阿部 正和	火	18:00~19:00		
	田村 大地	海外留学中	海外留学中		
	久野 瑞貴	火	18:00~19:00		
神経精神科学講座	大塚 耕太郎	火	16:30~18:00		矢巾附属病院10階 神経精神科学講座 医局
	八木 淳子	金	12:00~13:00		
	三條 克巳	水	17:00~18:00		
	福本 健太郎	火	16:00~17:00		
	山家 健仁	火	16:00~17:00		
	内出 希	金	10:00~12:00		
	三田 俊成	水	16:00~17:00		
	吉岡 靖史	月	16:00~17:00		
	本多 笑奈	木	9:00~10:00		
放射線医学講座	田中 良一	月・金	16:00~16:30	放射線科 医局	内線：6322
	加藤 健一	月・水・木・金	16:00~16:30	放射線科 読影室	内線：2121
	鈴木 智大	火・木	16:00~17:00		
	田村 明生	火~金	16:00~17:00		
	鈴木 美知子	月・木・金	9:00~10:00	放射線科 読影室	内線：2121
	折居 誠	月・金	16:00~17:00		
	小原 牧子	水	12:00~13:00		
	川島 和哉	月・金	15:00~17:00		
	曾根 美都	月・金	15:00~17:00		
	向井田 瑛佑	水・木	16:00~17:00		
	藤原 純平	月・金	15:00~17:00		
麻酔学講座	熊谷 基	月~金	16:30~	麻酔科管理室	内線：2465
	大畑 光彦	月~金	16:30~		
	脇本 将寛	月~金	16:30~		
	水間 謙三	月~金	16:30~		
	久慈 昭慶	月~金	16:30~		
	中野 雄介	月~金	16:30~		
	田村 雄一郎	月~金	16:30~		
	畠山 知規	月~金	16:30~		
	富田 美智子	月~金	16:30~		
	小川 祥平	月~金	16:30~		
	高橋 裕也	月~金	16:30~		
	栗原 寛人	月~金	16:30~		
	新居 正季子	月~金	16:30~		
臨床検査医学・感染症学講座	仲村 究	火	14:00~17:00	臨床検査医学・感染症学講座 教授室	内線：6331
	藤原 亨	木	12:00~13:00	臨床検査医学・感染症学講座 医局	
	小野寺 直人	木	9:00~10:00		
	熊谷 亜希子	月	12:30~13:30		
	七崎 之利	月	13:00~14:00		
	高橋 敬太	木	11:00~12:00		
	日比谷 健司	火	9:00~12:00		

救急・災害医学講座	眞瀬 智彦	火・木	14:00~17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	高橋 学	月~金	12:00~13:00	救急センター 医局	内線：2682、2683
	藤田 友嗣	月~金	12:00~13:00		
	菅 重典	月~木	12:00~13:00		
	佐藤 寿徳	月~金	12:00~13:00		
	吉直 大佑	月~金	12:00~13:00		
	森野 豪太	月~金	12:00~13:00		
	野々口 マリア	月~金	12:00~13:00		
	横藤 壽	月~金	12:00~13:00		
	富永 綾	火・水	14:00~17:00	災害センター 研究室	内線：5565
	藤原 弘之	火・木	14:00~17:00	救急センター 医局	内線：2682、2683
	金子 拓	火・木	14:00~17:00		
	寺山 茉莉	月~金	12:00~13:00		
	星 眞太郎	月~金	12:00~13:00		
総合診療医学講座	下沖 収	月	17:00~18:00	医局	内線：#6304
	大間々 真一	月	17:00~18:00		
	高橋 智弘	木	17:00~18:00		
	米田 真也	月・火・水	16:00~17:00		
	山田 哲也	月・火	17:00~18:00		
岩手県高度救命救急センター	藤野 靖久	月~金	12:00~13:00	救急センター 医局	内線：2683
	小鹿 雅博	月~金	12:00~13:00		
	千田 光平	月~金	12:00~13:00		
	三崎 俊斉	月~金	12:00~13:00		
	丹田 実	月~金	12:00~13:00		
	石井 修平	月~金	12:00~13:00		
	佐々木 秀策	月~金	12:00~13:00		
	八鍬 一貴	月~金	12:00~13:00		
	藤本 健太郎	月~金	12:00~13:00		
	石田 馨	月~金	12:00~13:00		
	藤澤 良介	月~金	12:00~13:00		
佐藤 貴紀	月~金	12:00~13:00			
病理診断学講座	柳川 直樹	月~金	17:00~	医局	内線：2393
	刑部 光正	月~金	17:00~		
	杉本 亮	月~金	17:00~		
	伊藤 一洋	月~金	17:00~		
臨床腫瘍学講座	板持 広明	月	15:00~17:00	医局	内線：2083
	岩谷 岳	水・木	17:00~19:00		
	遠藤 史隆	金	15:00~17:00		
医療安全学講座	肥田 圭介	木	12:00~14:00	医療安全管理部	内線：6112
睡眠医療学科	西島 嗣生	火・水	17:00~19:00	睡眠医療学科 医局	内線：#3358 emailでの連絡可
	細川 敬輔	月・火・木	17:00~19:00		
	細川 里絵	水	9:00~12:00		
臨床遺伝学科	鈴森 伸宏	金	16:00~17:00	臨床遺伝学科 医局	内線：#3258
	山本 佳世乃	金	16:00~17:00		
	吉田 明子	水	16:00~17:00		
	小林 有美子	金	16:00~17:00		
	勝部 暢介	月	16:00~17:00		
緩和医療学科	木村 祐輔	月~水	17:00~18:00	緩和医療学科 医局	内線：3364
	鴻巣 正史	月・火・金	17:00~18:00		
	中村 聖華	月・火	17:00~18:00		
放射線腫瘍学科	有賀 久哲	火	17:00~18:30	医局	内線：6322
	菊池 光洋	月	17:00~18:00		
	及川 博文	火	17:00~18:00		
	家子 義朗	月	17:00~18:00		
	瀬川 昂史	月	12:00~13:00		
リハビリテーション医学講座	西村 行秀	月・火	月：14:00~17:00 火：10:00~12:00	教授室	内線：3733
	西山 一成	火・金	火：9:00~12:00 金：10:00~12:00	リハビリテーション科医室	内線：3731
災害・地域精神医学講座	赤平 美津子	火	17:00~18:00	神経精神科学講座 医局	内線：2371

いわて東北メディカル・メガバンク 機構臨床研究・疫学研究部門	永井 雅人	随時	随時	医局	内線：5464
いわて東北メディカル・メガバンク 機構生体情報解析部門	須藤 洋一	月～金	12:30～13:30	医局	内線：5472
	山崎 弥生	月～金	10:00～12:00		
	楠 詩織	月～金	10:00～12:00		
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

医歯薬総合研究所 オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原 邦昭	水	10:00~12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡し アポイントを取ること
副学長	仲 哲治	月~金	9:00~17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所長	仲 哲治	月~金	9:00~17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
	世良田 聡	月・木	13:00~17:00	107室	内線：5635
	西塚 哲	火・木	火：16:00~17:00木：12:00~13:00	教授室	内線：5685
	鈴木 悠地	木	9:00~17:00	医局	内線：6471
	阿保 亜紀子	水・木・金	10:00~17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5686
	真柳 平	月~金	16:00~17:00	神経科学研究部門	内線：5711
	開 勇人	火・木・金	10:00~17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5687
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	吉岡 芳親	水・木・金	12:00~13:00	超高磁場先端MRI研究所 データ解析室	内線5374 ※事前に連絡をすること
	和田 学	月・木	15:00~17:00	109-2	内線：5634
	寺崎 一典	随時	随時	医局	内線：3331
	山下 典生	月・水	15:00~17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	上野 育子	月・火・水	15:00~17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	佐々木 敏秋	随時	随時	医局	内線：3331
	若井 淳	水	12:00~13:00	動物研究センター	内線：5390
	森 太志	水・木・金	15:00~17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

1. 時 間 あらかじめ特定の時間帯を示す。
2. 面談方式 オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
学 長	小笠原 邦昭	水	10:00~12:00	学長室 事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ることを
解剖学講座 機能形態学分野	藤原 尚樹	月~金	16:30~17:30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） naokif@iwate-med.ac.jp
	吉岡 望	月~金	16:30~17:30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） yoshinoz@iwate-med.ac.jp
解剖学講座 発生物・再生医学分野	原田 英光	月~金	16:30~17:30	解剖学講座 発生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または hideha@iwate-med.ac.jp
	大津 圭史	月~金	16:30~17:30	解剖学講座 発生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または kotsu@iwate-med.ac.jp
	池崎 晶二郎	月~金	16:30~17:30	解剖学講座 発生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または sikezaki@iwate-med.ac.jp
生理学講座 病態生理学分野	黒瀬 雅之	月・木	16:30~17:30	病態生理学分野 211 室 内線 5692 kurose@iwate-med.ac.jp
	加藤 哲也	火・水	16:30~17:30	病態生理学分野 213 室 内線 5690 tkkatou@iwate-med.ac.jp
生化学講座 細胞情報科学分野	石崎 明	月	16:30~17:30	生化学講座細胞情報科学分野教授室 内線 5740 aishisa@iwate-med.ac.jp
	帖佐 直幸	水	16:30~17:30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 nchosa@iwate-med.ac.jp
	横田 聖司	水	16:30~17:30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 syokota@iwate-med.ac.jp
微生物学講座 分子微生物学分野	石河 太知	月~金	16:00~17:00	微生物学講座分子微生物学分野教授室 内線 5800 tishikaw@iwate-med.ac.jp
	三浦 利貴	月~金	12:00~13:00 16:00~17:00	微生物学講座分子微生物学分野 スタッフルーム 1 303 内線 5801 tosmiura@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬理学講座 病態制御学分野	中村 正帆	月	16:00~16:30	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 tadahonk@iwate-med.ac.jp
	田村 晴希	月	12:00~13:00 16:00~17:00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 htamura@iwate-med.ac.jp
	山田 ありさ	月	16:00~17:00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363 内線 5811 yamaari@iwate-med.ac.jp
病理学講座 病態解析学分野	入江 太朗	木	16:00~18:00	病理学講座病態解析学分野 教授室 内線 5900 tarou@iwate-med.ac.jp
	佐藤 泰生	木	16:00~17:30	病理学講座病態解析学分野 461 室 staisei@iwate-med.ac.jp
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子	木	18:00~19:00	法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 スタッフルーム 内線 5684 kumagaia@iwate-med.ac.jp
医療工学講座	武本 真治	木	16:30~17:30	医療工学講座教授室西 317 (内線 5760) takemoto@iwate-med.ac.jp
	佐々木 かおり	月・木	16:30~17:30	医療工学講座スタッフルーム西 316 (内線 5763) sskkaori@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 う蝕治療学分野	野田 守	木	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 nodam@iwate-med.ac.jp
	浅野 明子	月	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 akiasano@iwate-med.ac.jp
	千田 弥栄子	火	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaekon@iwate-med.ac.jp
	東 兼司	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 kenjih@iwate-med.ac.jp
	相上 雄亮	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaigami@iwate-med.ac.jp
	大塚 泰寛	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 oyasuhir@iwate-med.ac.jp
	清水 彩恵子	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 tobishi@iwate-med.ac.jp
	鈴木 大平	水	18:00~19:00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 staihei@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 歯周療法学分野	佐々木 大輔	月	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) daisukes@iwate-med.ac.jp
	村井 治	火・木	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) osamura@iwate-med.ac.jp
	鈴木 啓太	水	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) esuzuki@iwate-med.ac.jp
	相原 恵子	火	17:00~18:00	歯周療法学分野医局 (372 号室) kaihara@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野	小林 琢也	金	17:00~18:00	教授室(441号室) 内線 #4531 kobataku@iwate-med.ac.jp
	佐藤 宏明	木	17:30~18:30	義歯外来、医局、研究室 内線 4441 satohiro@iwate-med.ac.jp
	米澤 悠	木	17:00~18:00	医局、研究室 内線 4406 yyone@iwate-med.ac.jp
	米澤 紗織	木	17:00~18:00	医局、研究室 内線 71576 saki@iwate-med.ac.jp
	原 総一郎	火	17:00~18:00	医局、研究室(406号室) 内線 4406 sohara@iwate-med.ac.jp
	島田 崇史	木	17:00~18:00	医局、研究室(406号室) 内線 #71575 shimtak@iwate-med.ac.jp
	伊藤 凌	木	17:00~18:00	医局、研究室(404号室) 内線 71563 itoryo@iwate-med.ac.jp
歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野	今 一裕	火	17:00~18:00	医局、研究室 453号室 kazukon@iwate-med.ac.jp
	深澤 翔太	水	17:30~18:30	医局、研究室 447号室 sfu@iwate-med.ac.jp
	横田 潤	火	17:00~18:00	医局、研究室 445号室 jyokota@iwate-med.ac.jp
	福德 暁宏	水	17:00~18:00	医局、研究室 447号室 内線 #4418 afukuto@iwate-med.ac.jp
	齊藤 裕美子	月	16:00~17:00	医局、研究室 433号室 内線 4439 ysaito@iwate-med.ac.jp
	佐々木 溪斗	水	17:00~18:00	医局、研究室 407号室 内線 4418 sasakikeito0329@gmail.com
	八戸 勇樹	水	17:00~18:00	医局、研究室 407号室 内線 4418 yk.8nohe@gmail.com
	星 美貴	水	17:30~18:30	医局、研究室 445号室 内線 #4440 hoshmiki@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	山田 浩之	月	18 : 00~19 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野 教授室 内線 6311 yamadah@iwate-med.ac.jp
	川井 忠	木	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 6311 kawait@iwate-med.ac.jp
	大橋 祐生	月・火・ 木・金	18 : 00~20 : 00	矢巾附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科医局 内線 6302 yohashi@iwate-med.ac.jp
	古城 慎太郎	金	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 6311 kshint@iwate-med.ac.jp
	平野 大輔	月・木・金	16 : 00~17 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71535 thirano@iwate-med.ac.jp
	高橋 美香子	水	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71590 tmikako@iwate-med.ac.jp
	野宮 孝之	月・水	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71116 tnomiya@iwate-med.ac.jp
	秋本 祐基	火	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71527 akimoto@iwate-med.ac.jp
	川又 慎介	月・火・ 木・金	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71529 kawashi@iwate-med.ac.jp
	矢菅 絵里加	月・火	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局 内線 71530 erikay@iwate-med.ac.jp
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	佐藤 健一	火	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satoken@iwate-med.ac.jp
	筑田 真未	月	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 mchikuda@iwate-med.ac.jp
	佐藤 州	金	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satoshu@iwate-med.ac.jp
	坂野上 和奏	水	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 sakanoue@iwate-med.ac.jp
	柳町 晴香	木	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 yanaharu@iwate-med.ac.jp
	前澤 五月	木	17 : 00~18 : 00	矢巾附属病院 5 階 歯科麻酔学分野医局 内線 6342 satsukim@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	泉澤 充	火・木・土	12:00~13:00	歯科放射線学分野・特任教授室(134号室) 内線 #4513 mizumisa@iwate-med.ac.jp
	高橋 徳明	火・木	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 71574 tnoriaki@iwate-med.ac.jp
	佐藤 仁	木	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 satohito@iwate-med.ac.jp
	星野 正行	水・金	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 mhoshino@iwate-med.ac.jp
	星 勲	水	17:00~18:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 isaohosh@iwate-med.ac.jp
	金森 尚城	月・火・水	12:00~13:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 kanataka@iwate-med.ac.jp
	菅野 江美	火・木・金	12:00~13:00	歯科放射線学分野・第1研究室(135号室) 内線 #4513 emkanno@iwate-med.ac.jp
口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	佐藤 和朗	木	17:00~18:00	歯科矯正学分野・教授室(456号室) 内線:4533 kazsatoh@iwate-med.ac.jp
	桑島 幸紀	木	17:00~19:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 ykuwaji@iwate-med.ac.jp
	飯塚 康之	月	17:00~19:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 yiizuka@iwate-med.ac.jp
	菊池 恵美子	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 eaomatsu@iwate-med.ac.jp
	浅沼 莞奈	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 asanumak@iwate-med.ac.jp
	深澤 慶子	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 keikof@iwate-med.ac.jp
	上田 茜	木	12:00~13:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 uakane@iwate-med.ac.jp
	吉田 弘法	月	17:00~18:00	歯科矯正学分野・医局(472号室) 内線:4511 hironori@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	熊谷 美保	月～木	18:00～19:00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5階医局 (PHS 71557) mkumagai@iwate-med.ac.jp
	齊藤 桂子	月～金	18:00～19:00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5階医局 (PHS 71587) ksaitho@iwate-med.ac.jp
	磯部 可奈子	月・水・ 木・金	16:00～17:00	小児歯科学・障害者歯科学分野 5階医局 (PHS 71485) kisobe@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 関連医学分野	千葉 俊美	月～金	16:00～17:00	口腔医学講座 関連医学分野 教授室 440号室 内線 #4435 toschiba@iwate-med.ac.jp
	王 挺	月～金	16:00～17:00	口腔医学講座 関連医学分野 研究室 444号室 内線 #4228 tingwang@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 予防歯科学分野	佐藤 俊郎	火・水・木	17:00～18:00	予防歯科学分野 519号室 (内 #4516) toshiros@iwate-med.ac.jp
	衣斐 美歩	月～金	16:00～17:00	予防歯科学分野 519号室 (内 #4516) mibi@iwate-med.ac.jp
	大石 泰子	火・木・金	16:00～17:00	予防歯科学分野 519号室 (内 #4516) toishi@iwate-med.ac.jp
	佐藤 華子	月・金	17:00～18:00	予防歯科学分野 517号室 (内 #4518) satohana@iwate-med.ac.jp
	杉山 由紀子	月・水・木	17:00～18:00	予防歯科学分野 517号室 (内 #4518) yukikosu@iwate-med.ac.jp
非常勤教員	授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。			

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。有効に利用してください。

希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬科学講座	創薬有機化学分野	河野 富一	月・水・金	12:00~13:00 場所：創薬有機化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		辻原 哲也	火・木・金	17:00~18:00 場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		稲垣 祥	火・水・木	17:00~18:00 場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	天然物化学分野	田浦 太志	月～金	12:00~13:00 16:00~18:00 場所：天然物化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		浅野 孝	月～金	16:00~18:00 場所：天然物化学分野スタッフルーム
	構造生物薬学分野	野中 孝昌	金	16:20~17:00 場所：Moodleの構造生物薬学分野コース Zoomによるオンライン面談。予約不要。
		阪本 泰光	月～金	16:30~17:30 場所：構造生物薬学分野スタッフルーム 質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
分析化学分野	藤本 康之	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00 場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454) 左記以外でも在室時は対応可。	
生物薬学講座	機能生化学分野	關谷 瑞樹	月～金	12:00~13:00 16:30~19:00 場所：機能生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	生体防御学分野	大橋 綾子	月～金	12:05~12:55 場所：生体防御学分野にて(東研究棟3階 352-353) 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		錦織 健児	月～金	16:10~18:00 質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。
病態薬理学講座	分子細胞薬理学分野	奈良場 博昭	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00 場所：分子細胞薬理学分野教授室 左記以外でも在室時は可
		藤原 俊朗	月・火・木 水・金	16:10~18:00 18:00~19:00 場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム(西研究棟356) 等 左記以外でも在室時は可
		高橋 巖	月～金	12:00~13:00 16:10~17:00 場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	臨床医化学分野	野口 拓也	月～金	16:00~19:00 場所：臨床医化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
医療薬科学講座	創剤学分野	杉山 育美	月～金	16:10~17:30 場所：創剤学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬物代謝動態学分野	幅野 渉	月～金	16:00~18:00 場所：薬物代謝動態学分野(東研究棟4階 459~461) 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
		寺島 潤	月～金	9:00~17:00 場所：薬物代謝動態学分野(東研究棟4階 459~461) 在室時は随時対応
	衛生化学分野	杉山 晶規	月～金	17:00~19:00 場所：衛生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		米澤 穂波	月～金	17:00~19:00 場所：衛生化学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
臨床薬学講座	臨床薬剤学分野	工藤 賢三	月～金	17:00~19:00 場所：臨床薬剤学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		朝賀 純一	月～金	17:00~19:00 場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		高橋 宏彰	月～金	16:30~18:00 場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	情報薬科学分野	西谷 直之	月～金	16:30~18:00 場所：情報薬科学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		佐京 智子	月～金	16:30~18:00 場所：情報薬科学分野スタッフルーム
		氏家 悠貴	火～金	13:00~17:00 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
	地域医療薬学分野	松浦 誠	月～金	16:10~18:00 場所：地域医療薬学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬学教育学分野	白石 博久	月～金	12:10~12:50 場所：薬学教育学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

看護学部 オフィスアワー 一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

看護学部

所属	担当教員	曜日	時間帯	備考	
(マルチメディア教育研究棟4階) 共通基盤看護学講座	基礎	野里 同	火・水・木	16:30~17:30	研究室19 内線5403 nozato@iwate-med.ac.jp
		柏木 ゆきえ	水	16:00~17:00	研究室8 内線5401 事前アポイントがあれば随時可 kasiwagi@iwate-med.ac.jp
		小林 由美子	火・水・木	16:00~17:00	研究室15 内線5402 事前アポイントがあれば随時可 yumikoba@iwate-med.ac.jp
		松田 悠史	火・水・木	16:00~17:00	研究室9 内線5406 メールでの事前連絡があれば随時可 matsuy@iwate-med.ac.jp
	成人	佐藤 奈美枝	月	16:00~17:00	研究室6 内線5419 事前連絡があれば随時可 namies@iwate-med.ac.jp
		伊藤 奈央	火・木	16:00~17:00	研究室20 内線5358 事前アポイントがあれば随時可 naoito@iwate-med.ac.jp
		小坂 未来	火・金	15:30~16:30	研究室13 内線5404 事前連絡があれば調整可 mkosaka@iwate-med.ac.jp
		三上 邦子	月・金	16:30~17:30	研究室13 内線5303 mikamik@iwate-med.ac.jp
		畑中 るり子	木	16:00~17:00	研究室9 内線5425 hatanrur@iwate-med.ac.jp
	(マルチメディア教育研究棟4階) 地域包括ケア講座	地域	岩淵 光子	木	12:00~13:00
藤澤 純子			月・金	12:00~13:00	研究室9 内線5359 事前連絡があれば随時可 fujisawa@iwate-med.ac.jp
赤井 純子			火・木	12:00~13:00	研究室9 内線5426 メールでの事前連絡があれば随時可 jakai@iwate-med.ac.jp
五日市 瑠美子			水・木	12:00~13:00	研究室9 内線5202 事前連絡があれば随時可 rumikoi@iwate-med.ac.jp
老年		館向 真紀	火・水・木	16:00~17:00	研究室15 内線5407 事前アポイントがあれば随時可 makiy@iwate-med.ac.jp
		菊池 佑弥	火・水・木	16:00~17:00	研究室9 内線5405 事前アポイントがあれば随時可 yuyakkc@iwate-med.ac.jp
精神		遠藤 太	木	16:30~18:00	研究室3 内線5417 事前アポイントがあれば随時可 futoshie@iwate-med.ac.jp
		熊地 美枝	水・木	16:00~17:00	研究室4 内線5201 事前連絡があれば随時可 kumachi@iwate-med.ac.jp
		高崎 邦子	火・木	16:30~17:30	研究室16 内線5418 事前連絡があれば調整可 takasaki@iwate-med.ac.jp
(マルチメディア看護学講座4階) 成育看護学講座		小児	高橋 亮	水	16:30~17:00
	伊東 佐由美		月~金	16:00~17:00	研究室14 内線5409 事前連絡があれば随時可 sayumii@iwate-med.ac.jp
	母性	蛸崎 奈津子	月	15:00~17:00	研究室7 内線5353 事前連絡があれば随時可 kakizaki@iwate-med.ac.jp
		遊田 由希子	水・木	12:00~14:00	研究室11 内線5355 事前連絡があれば随時可 yuuda@iwate-med.ac.jp
		西里 真澄	月・水	15:00~17:00	研究室10 内線5354 事前連絡があれば随時可 nishima@iwate-med.ac.jp
		高橋 淳美	火・木・金	16:00~17:00	研究室14 内線5427 事前連絡があれば随時可 atsumi@iwate-med.ac.jp
看護専門基礎講座 (東研究棟2階)	遠藤 龍人	水・木	14:00~16:00	研究室2 内線5420 メールでの事前アポイントメントが望ましい ryuendo@iwate-med.ac.jp	
	塚本 恭正	月~金	15:00~17:00	研究室3 内線5421 tsukamot@iwate-med.ac.jp	
	一ノ渡 学	水・木	15:00~17:00	研究室4 内線5422 事前アポイントがあれば随時可 gakuichi@iwate-med.ac.jp	
看護学部	非常勤教員	授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。 後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。			

